

令和4年度 沖縄空手実態調査業務報告書

令和4年9月

沖縄県文化観光スポーツ部

空手振興課

目次

第1章 本調査事業について	4
1. 本調査事業について	5
第2章 県内空手道場主向け調査結果	6
1. 県内空手道場主向け調査結果	7
2. デモグラフィック	8
3. 結果サマリー	11
4. 調査結果詳細	13
(1) 道場の立ち上げ時期	14
(2) 門下生人数	15
(3) 門下生の年齢層	16
(4) 演武大会、競技大会等への参加状況	17
(5) 道場運営の課題	18
(6) 道場運営の支援について（自由回答）	19
(7) 施設使用料	22
(8) 会費	23
(9) 空手と収入の関係性①	25
(10) 空手と収入の関係性②	26
(11) 県外支部の有無	27
(12) 県外支部への指導について①（コロナ禍：2021年1月～12月）	29
(13) 県外支部への指導について②（コロナ前：2018年1月～12月）	31
(14) 県外からの受け入れ状況①（コロナ禍：2021年1月～12月）	33
(15) 県外からの受け入れ状況②（コロナ前：2018年1月～12月）	35
(16) 受け入れの際の指導単価（県外）について	37
(17) 海外支部の有無	38
(18) 海外支部への指導について①（コロナ禍：2021年1月～12月）	39
(19) 海外支部への指導について②（コロナ前：2018年1月～12月）	41
(20) 外国人受け入れ状況①（コロナ禍：2021年1月～12月）	43
(21) 外国人受け入れ状況②（コロナ前：2018年1月～12月）	45
(22) 外国人受け入れの際の配慮について	47
(23) 受け入れの際の指導単価（外国人）について	48
(24) セミナー開催有無①（コロナ禍：2021年1月～12月）	49
(25) セミナー開催有無②（コロナ前：2018年1月～12月）	51
(26) 沖縄空手の魅力	53
(27) 沖縄空手の保存・継承に最も必要な取組について	54
(28) 沖縄空手の普及・啓発に最も必要な取組について	55
(29) 沖縄空手の振興・発展に最も必要な取組について	56
(30) 沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録について①	57
(31) 沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録について②	58

(32) 段位制度①	62
(33) 段位制度②	64
(34) 段位制度③	65
(35) 段位制度④	67
(36) 段位制度⑤	69
(37) 段位制度⑥	70
(38) 沖縄空手会館の利用について	74
(39) 新型コロナウイルス感染症による影響について①	75
(40) 新型コロナウイルス感染症による影響について②	76
(41) 新型コロナウイルス感染症による影響について③	77
(42) 新型コロナウイルス感染症による影響について④	78
(43) 行政への要望①	79
(44) 行政への要望②	82
第3章 海外空手家向け調査結果	85
1. 海外空手家向け調査結果	86
2. デモグラフィック	87
3. 結果サマリー	89
4. 調査結果詳細	90
(1) 「空手発祥の地・沖縄」の認知	91
(2) 「空手」を始めたきっかけ	92
(3) 「空手」の魅力	93
(4) 今後の沖縄空手に必要な取組	94
(5) 来沖経験	99
(6) 来沖回数	100
(7) 来沖の目的	101
(8) 来沖の同行者	102
(9) 来沖の人数	103
(10) 来沖時の滞在日数	104
(11) 沖縄滞在中の消費金額	105
(12) ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組推進の認知	106
(13) ユネスコ無形文化遺産に登録された場合の来沖意欲	107
(14) ユネスコ無形文化遺産に登録された場合の期待	108
第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果	109
1. 県内・県外・海外一般向け調査結果	110
2. デモグラフィック	111
3. 結果サマリー	113
4. 調査結果詳細	114
(1) 「空手発祥の地・沖縄」の認知	115
(2) 「空手」のイメージ	117
(3) 「空手」認知内容	123
(4) 「空手」を知るきっかけ	127

(5) 「空手」への接触経験	130
(6) 「空手」の体験意向	133
(7) 「空手」を体験したい理由	135
(8) 「空手」体験したい内容	137
(9) 子ども等への推奨について	139
(10) 子ども等への推奨理由	141
(11) ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組推進の認知	142
(12) ユネスコ無形文化遺産登録後の交流意向	144
(13) ユネスコ無形文化遺産に登録された場合の期待	146
(14) 「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信する重要度	147
(15) 世界中の空手愛好家が沖縄を訪れる達成度	147
(16) 沖縄空手会館に対する認知度	148
(17) 沖縄空手会館に訪問する意向	150
第5章 参考資料	152
1. 沖縄空手会館について	153
2. 参考情報	157
3. 調査票	160

第1章 本調査事業について

1. 本調査事業について

■ 調査目的

沖縄空手振興ビジョンの実現を目指し、第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップの策定をはじめとした沖縄空手の振興に係る施策を展開していくため、沖縄空手の現状と課題を把握することを目的に実態調査を実施した。

■ 調査対象

- (ア) 県内空手道場主
- (イ) 海外空手家
- (ウ) 県内・国内一般（満15歳以上の男女）
- (エ) 海外一般（満18歳以上の男女）

■ 調査項目

- (ア) 沖縄空手の現状と課題
- (イ) 沖縄空手の振興に関する意見
- (ウ) 新型コロナウイルス感染症拡大による影響
- (エ) 海外空手家から見た沖縄空手の状況
- (オ) 空手家以外から見た沖縄空手の状況

■ 調査方法

- (ア) 県内空手道場主：郵送配布・郵送回収
- (イ) 海外空手家：インターネット調査
- (ウ) 県内・国内一般：インターネット調査
- (エ) 海外一般：インターネット調査

第2章 県内空手道場主向け調査結果

1. 県内空手道場主向け調査結果

■ 調査対象

沖縄県内空手道場（フルコンタクト系の道場を除く）

■ 調査目的

県内道場主（道場運営者）に対して、道場が抱えている現状の課題や将来の展望（希望・不安）などを調査し、沖縄空手界が目指すべき将来像を具体化するための足掛かりとする。道場の現状としては、運営課題のみならず、海外や県外からの空手愛好家の受け入れ状況や統一段位制度等についての意識調査も実施した。

■ 調査概要

沖縄空手・古武道の現状及び課題、要望等	<ul style="list-style-type: none">・道場基本情報①（流派名、道場名、住所、電話番号等）・道場基本情報②（稽古日、稽古内容、月謝等）・道場数（演武会等参加、立ち上げ時期）・門下生数（男女別、年齢層）・道場の経営状況・県外、海外支部道場の状況・県外、海外からの受け入れ状況・県外、海外での指導状況・段位制度・道場の課題・行政への要望・その他
---------------------	--

調査票配布数：379 道場（内 現在活動中と考えられる道場数=364 道場）

調査実施期間：令和4年6月21日（火）調査票発送

回答締切：令和4年7月15日（金）

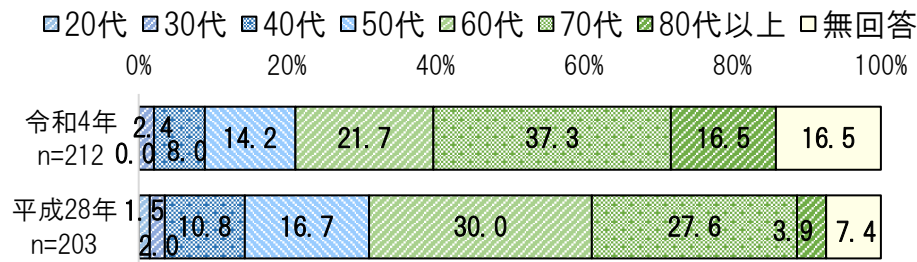
回収数：229 道場（内、分析対象数=212 道場）

全沖縄空手道連盟	34	28	82.4%
沖縄県空手道連盟	117	57	48.7%
沖縄空手・古武道連盟	37	32	86.5%
沖縄県空手道連合会	72	46	63.9%
その他 道場	104	49	47.1%
全体	364	212	58.2%

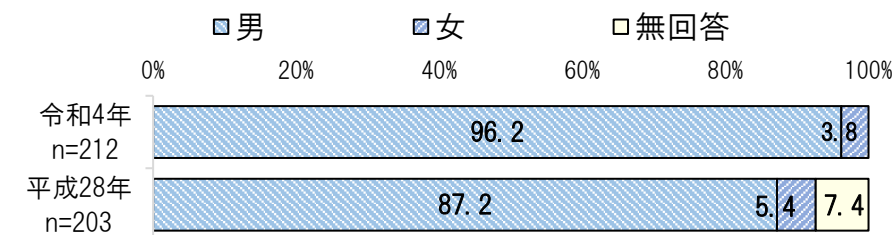
第2章 県内空手道場主向け調査結果

2. デモグラフィック

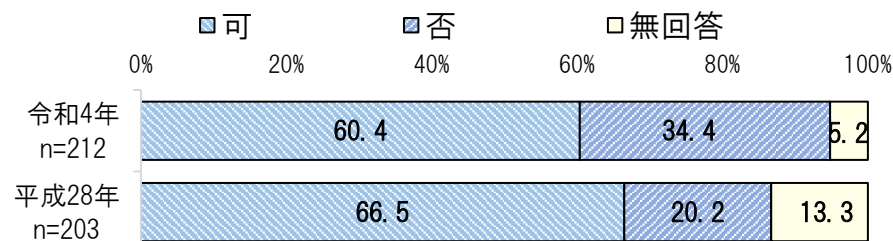
■年齢 平均 67.5歳 (R4)



■性別

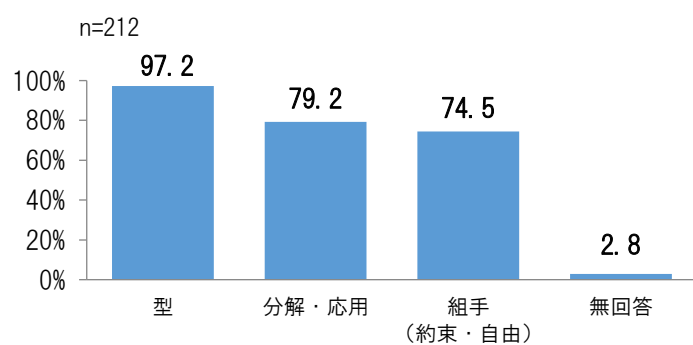


■外国人受け入れ可否

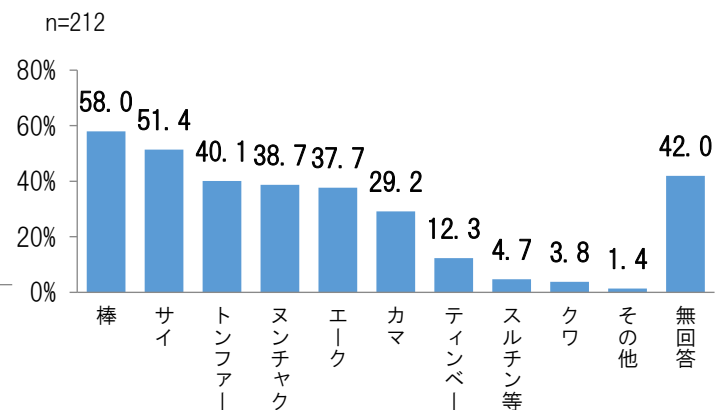


■指導内容

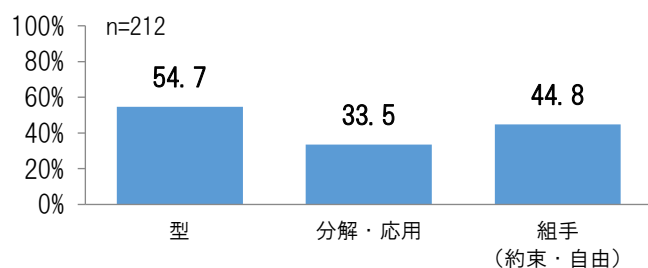
●空手



●武具の種類

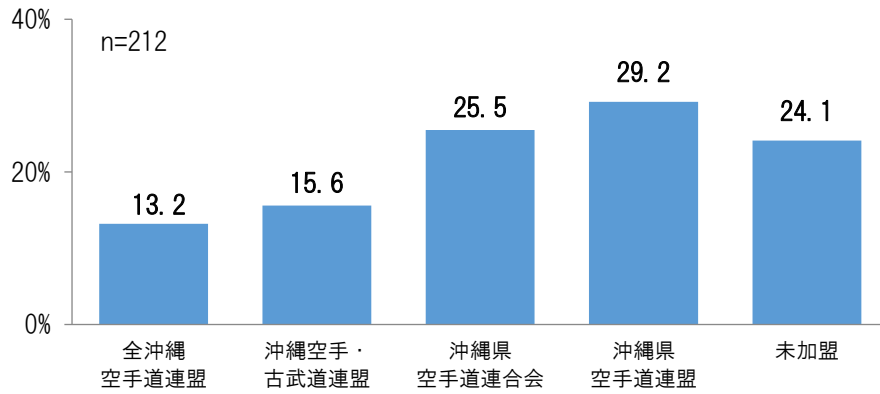


●古武道

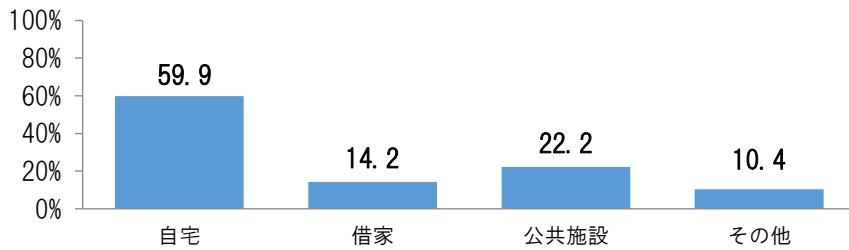


第2章 県内空手道場主向け調査結果

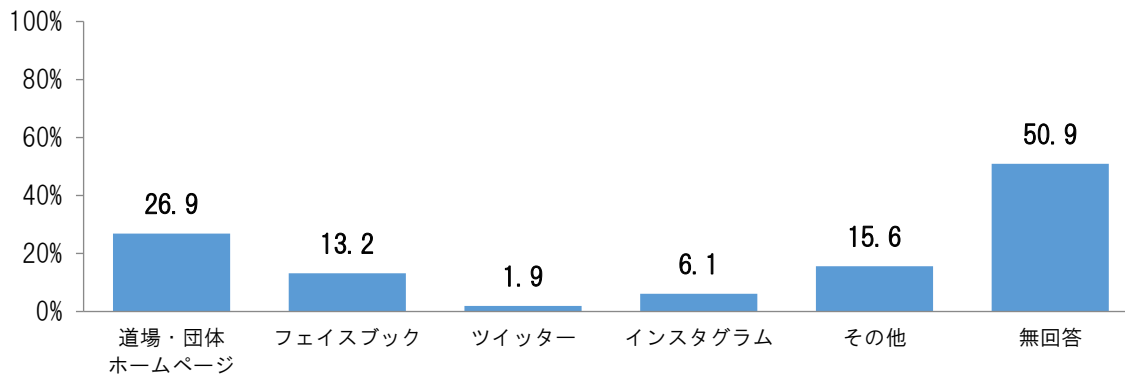
■加盟団体



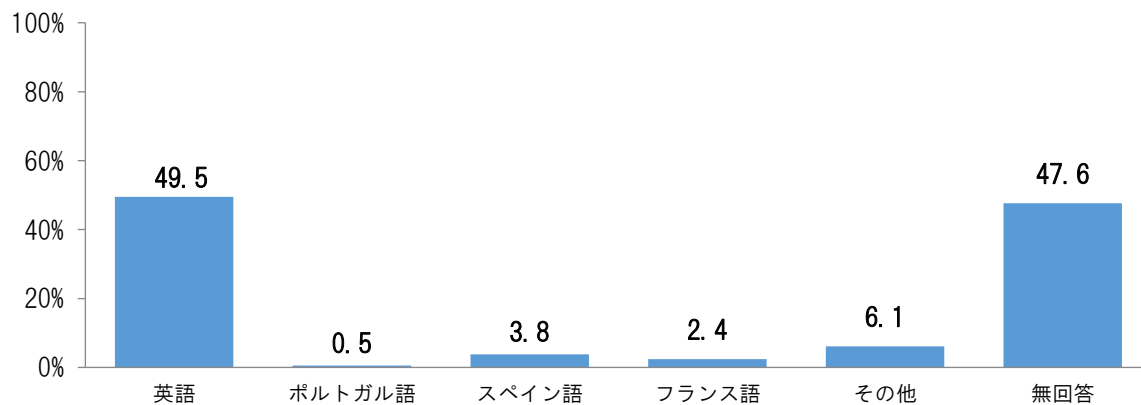
■道場の形態



■ホームページ等開設状況



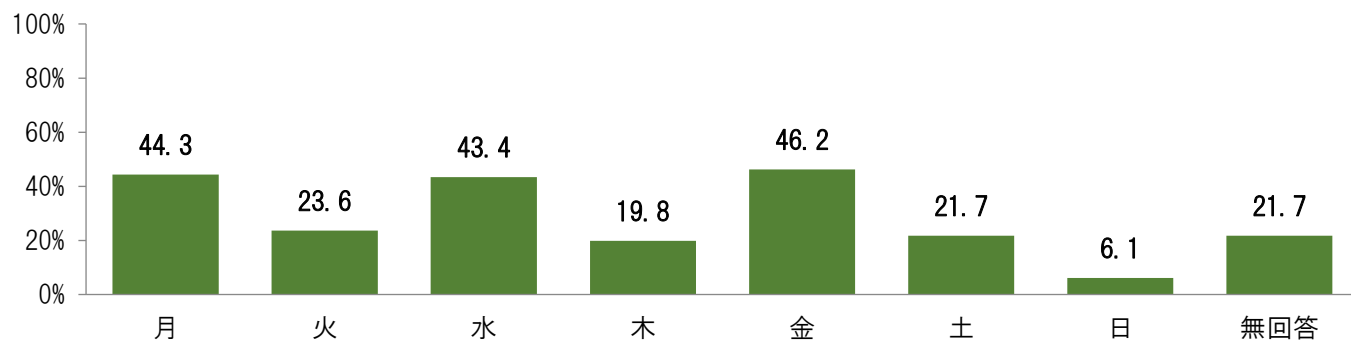
■対応言語



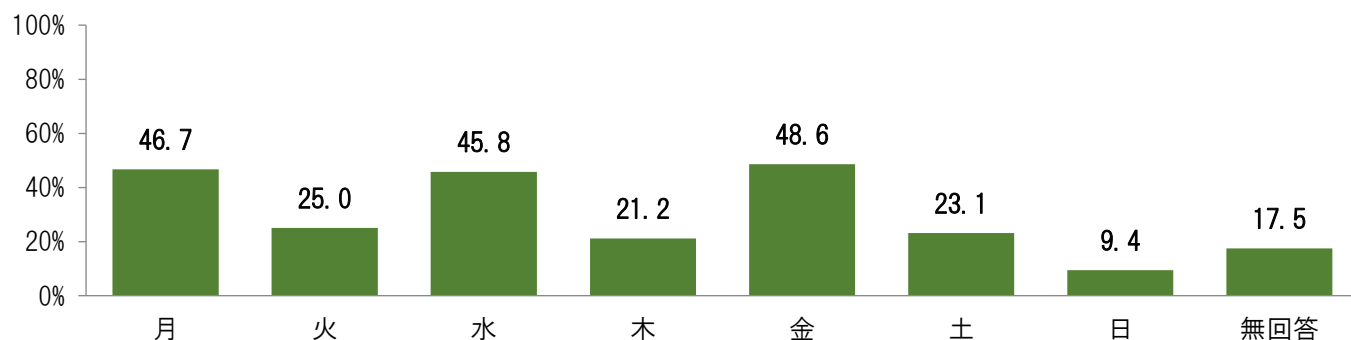
第2章 県内空手道場主向け調査結果

■稽古時間

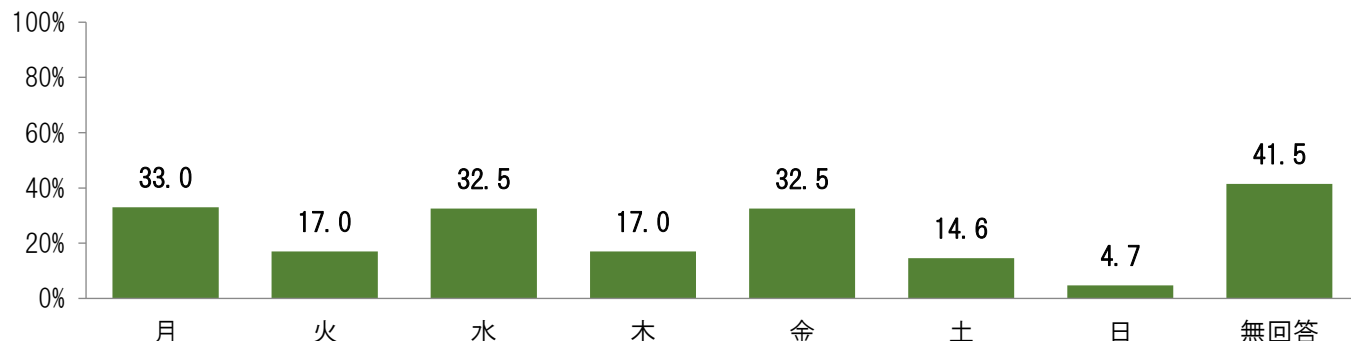
■小学生以下



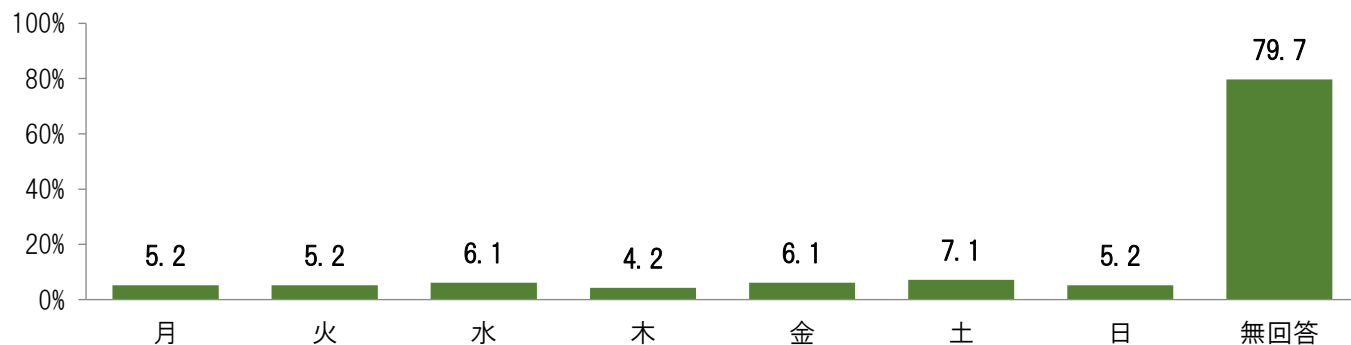
■一般



■一般（有段者）



■その他



3. 結果サマリー

○道場運営の現状

- ・県内道場の立ち上げ時期は、先代から引き継がれた道場を含め1990代までに道場全体の54.8%を占める。
- ・門下生の人数は平均21.1人（男性14.7人、女性6.4人）。前回調査（31.5人）に比べて大幅に減少。
- ・年齢層は小学生以下が最も多く、門下生の平均人数12.0人、次いで一般（59歳以下）が平均人数6.4人、中学生が平均人数3.3人、高校生が平均人数1.6人。新型コロナウイルス感染症の影響で前回調査に比べて門下生の人数が大幅に減少した。

○海外支部と外国人受け入れ状況

- ・海外支部があるのは全体の35.8%で前回調査（31.5%）に比べて増加。海外支部の道場数は平均24.6ヶ所。
- ・代表的な国名は米国（24.4%）、オーストラリア（9.8%）、インド（7.9%）、カナダ（7.9%）。
- ・コロナ禍における海外支部への指導について、県内道場の67.1%が休止したが、27.6%はオンラインで指導した。オンライン指導回数は平均8.8回。
- ・コロナ禍における外国人受け入れ率は、3.8%（前回調査37.4%）で大幅に減少した。
- ・コロナ前における海外支部へ出張回数は平均7.6回（前回調査2.6回）。出張した主な国名は、米国22.9%、カナダ11.4%、ロシア7.1%を占める。

○県外支部と県外から愛好家受け入れ状況

- ・沖縄県外の支部道場があるのは全体の25.9%で前回調査（17.2%）に比べて増加。県外支部の道場数は平均3.8ヶ所。代表的な都府県名は東京（29.5%）、大阪（12.5%）、神奈川（10.2%）、福岡（9.1%）。
- ・コロナ禍における県外支部への指導は県内道場の50.9%で休止するも、オンラインで指導（34.5%）、出張して指導（9.1%）した。オンラインによる指導は平均16.1回。
- ・コロナ禍における県外からの受け入れ率は、8.0%（前回調査16.3%）で大幅に減少した。
- ・コロナ前における県外支部へ出張指導平均滞在日数は4.8日（前回調査3.9日）。代表的な都道府県名は東京（29.0%）、大阪（12.9%）、神奈川（12.9%）。

○段位制度について

- ・空手界の地位は称号・段位で示すが、現在統一的な称号・段位の発行は行われていない。「範士」が最も多く39.2%（前回調査36.9%）、「教士」が33.0%（前回調査28.6%）、「錬士」が9.0%（前回調査9.9%）。道場主の武歴は平均48.2年（前回調査44.4年）で、道場主の段位は10段が21.7%、9段が12.7%、8段が24.5%で、8段以上高段者が道場主全体の約6割を占める。
- ・称号・段位の発行者を空手四団体で比べると全沖縄空手道連盟は14.2%、沖縄空手・古武道連盟は10.4%、沖縄県空手道連盟は9.9%、沖縄県空手道連合会は6.1%の順である。一方で、「その他」から発行された称号・段位が全体の約6割を占める。
- ・「統一称号・段位制度」については、32.1%（「賛成」及び「どちらかという賛成」を含む）が賛成し、47.7%（「反対」及び「どちらかという反対」を含む）が反対している。前回調査で「どちらでもない」と回答して態度を保留した道場主（45.8%）の意向が反映される形で、「反対」が多数となった。
- ・反対の主な理由として、「称号・段位は指導を受けた流派（師）から授与されるべき」、「経済的な負担（審査、登録料）」、「公平性や透明性の担保」、「現行制度の維持」があげられる。制度の確立には様々な意見がある。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

○「沖縄空手」ユネスコ無形文化遺産への登録

・沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録への期待について、県内道場主の回答として「空手への関心が高まる」が53.3%で最も高く、次いで「沖縄空手の正しい保存・継承につながる」が44.8%、「沖縄に関する関心が高まる」が42.9%。登録に向けた今後必要な取組みに対する意見として、国内外へのPR等広報に対する意見が最も多い。

○「沖縄空手」の優位点と課題

・県内道場主の殆ど（約9割）が沖縄空手に伝統文化としての価値を認め、礼節を重んじ精神修養に有効であることや護身術の習得、および年齢を問わず継続できる健康増進法としての価値に沖縄空手の優位点を認めている。

・最も必要な取組として、保存・継承においては、「指導方法の確立」（31.1%）、「道場の運営基盤強化の支援」（26.9%）、「沖縄伝統空手道振興会の組織強化」（11.3%）を取り上げている。

・普及・啓発においては、「学校教育での空手の普及」（34.4%）、「世界大会の定期開催」（29.7%）を取り上げている。

・振興・発展においては、「道場の運営基盤強化の支援」（37.7%）、「沖縄伝統空手道振興会の組織強化」（25.0%）を取り上げている。




・課題としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、門下生の人数が平均21.1人と前回調査（31.5人）より大幅に減少した。門下生の変化を調査したところ、コロナ前より全体で平均12人減少しており、特に小学生が平均8.3人減少している。

・道場運営を続けていく上での課題（悩み）について、「門下生の人数が少ない」が39.6%と最も高くなっており、次いで「施設（道場）の老朽化」「後継者がいない」がそれぞれ21.7%となっている。

・新型コロナウイルス感染症の流行は、門下生の人数だけでなく、県外・海外支部への出張指導、外国人受け入れ率、セミナーの開催等空手界に大きな影響を与えている。

4. 調査結果詳細

●各数表内のハッチング基準は以下の通りです。

※「全体」と比べて  + 10 pt以上  + 5 pt以上  - 10 pt以下  - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

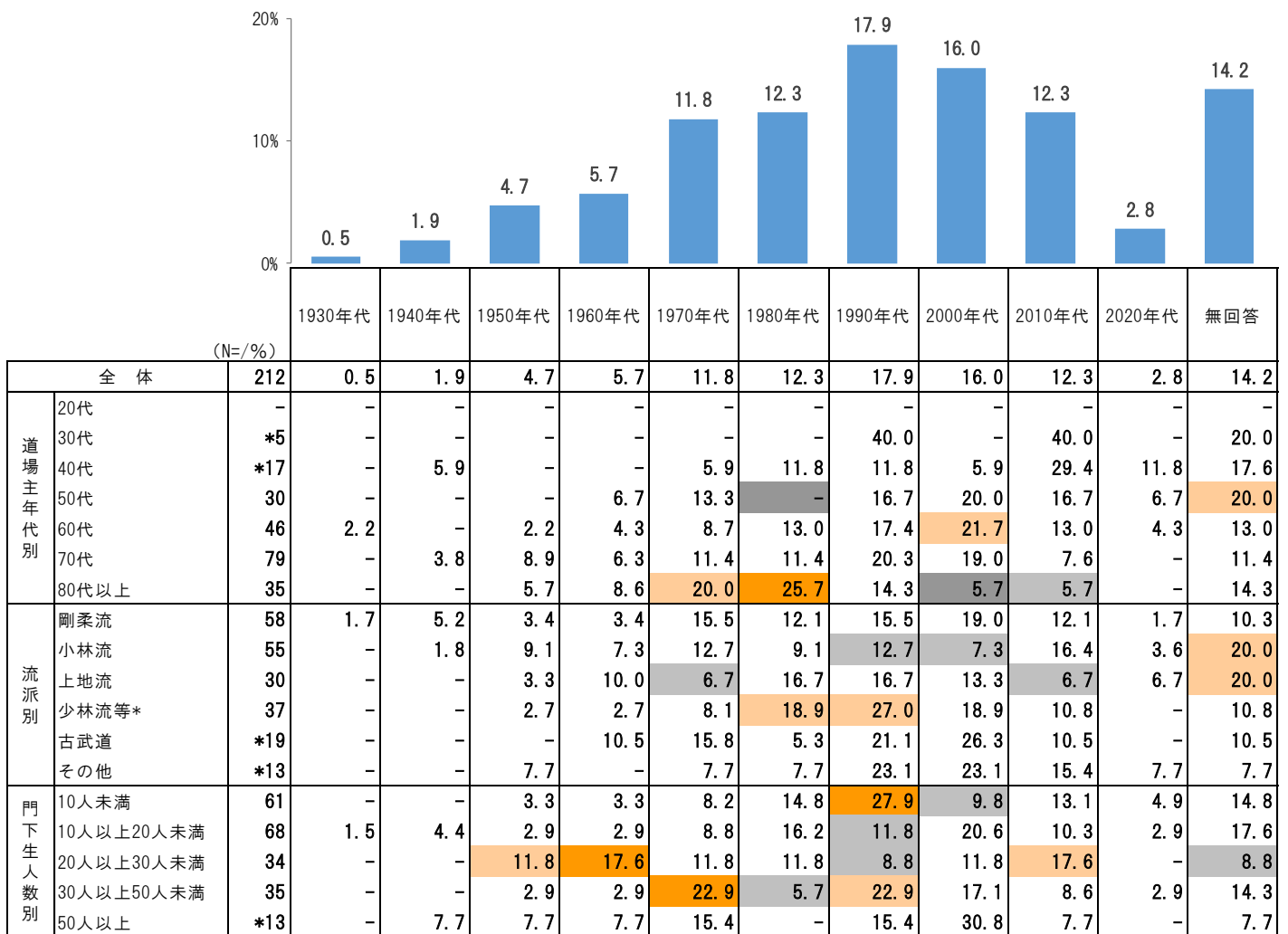
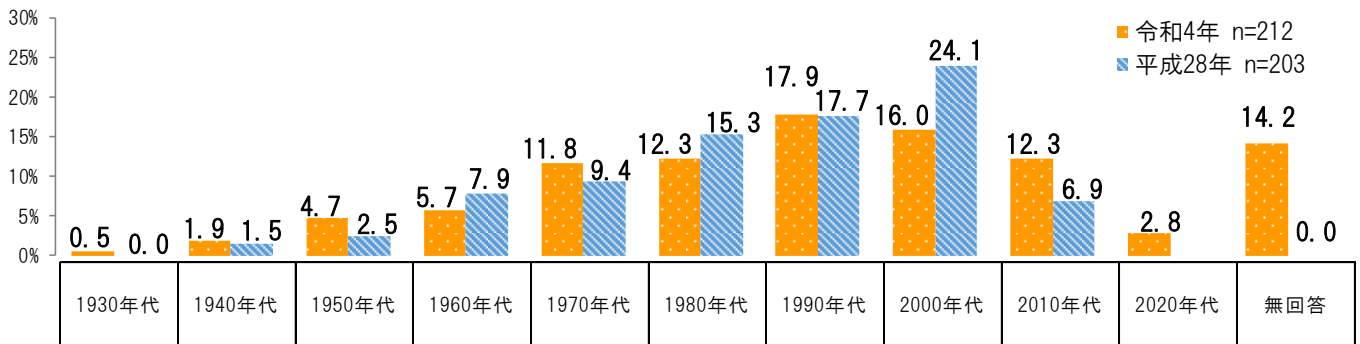
第2章 県内空手道場主向け調査結果

(1) 道場の立ち上げ時期

Q1 あなたは、いつ道場を立ち上げましたか。

・ 県内道場は、先代から受け継いだ道場や近年立ち上げた道場など、幅広く存在する。1990年代以前に開設した道場が54.8%を占め、1990年代(17.9%)をピークに2000年代(16.0%)と2010年代(12.3%)に開設した道場が多い。

・ 立ち上げ時期の年代毎のピークは80代以上の道場主が1980年代(25.7%)、70代の道場主が1990年代(20.3%)、60代の道場主が2000年代(21.7%)で年代のピークが右へシフトする。



*基数が少ないため参考値

※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

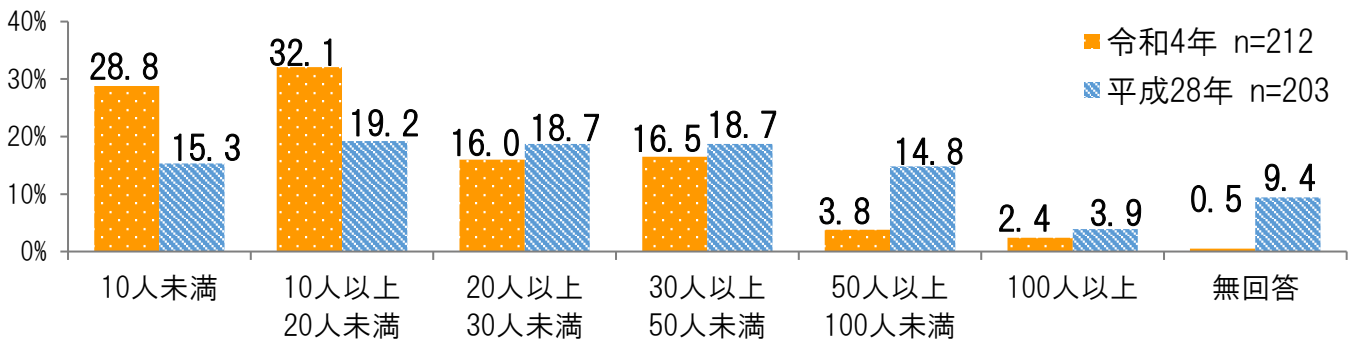
※少林流等は、少林流、松林流(松源流、松真流)、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

(2) 門下生人数

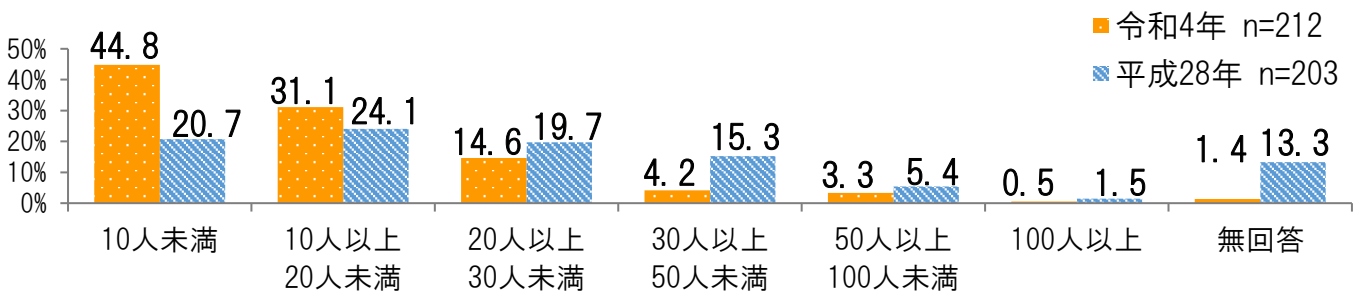
Q2 現在、あなたの道場の門下生は何名いますか。(2022年3月末時点)

- ・ 県内道場の6割が門下生数20人未満の小規模道場である。平均門下生数は21.1人(前回調査:31.5人)。50人以上~100人未満の門下生を受け入れる道場が3.8%(前回調査14.8%)と大幅に減少した。
- ・ 男女別の平均門下生数では男性が14.7人(前回調査:22.9人)、女性が6.4人(前回調査:9.9人)。

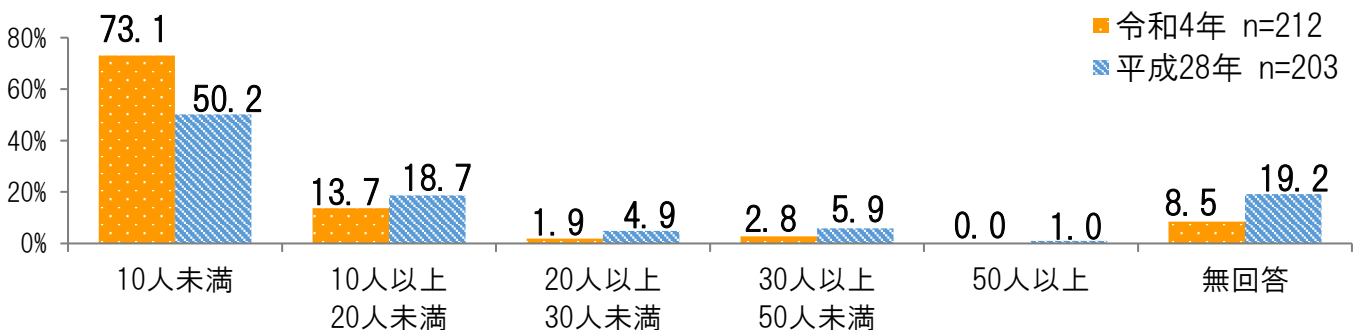
■合計 平均:21.1人 (H28 平均:31.5人)



■男性 平均:14.7人 (H28 平均:22.9人)



■女性 平均:6.4人 (H28 平均:9.9人)



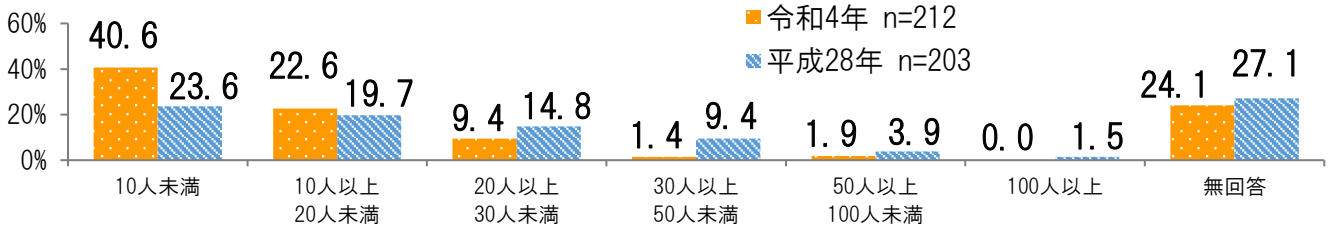
第2章 県内空手道場主向け調査結果

(3) 門下生の年齢層

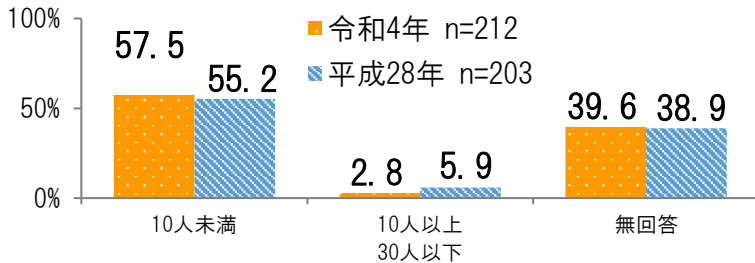
Q3 門下生の年齢層についてご回答ください。(2022年3月末時点)

・門下生の年齢層別の平均は、小学生 12.0 人、中学生 3.3 人、高校生 1.6 人、大学生・専門学校生 1.1 人、一般（59歳以下）6.4 人、一般（60歳以上）4.3 人で、前回調査より減少している。

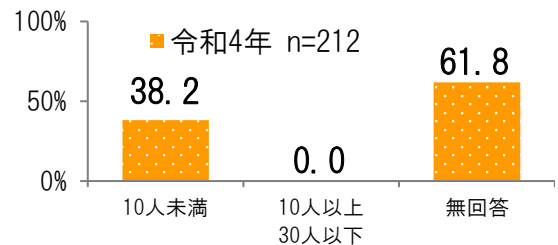
■小学生 平均：12.0 人（H28 平均：19.4 人）



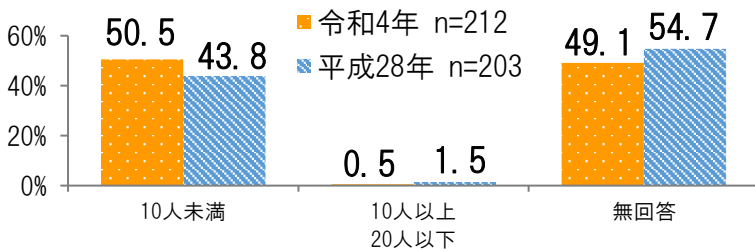
■中学生 平均：3.3 人（H28 平均：3.8 人）



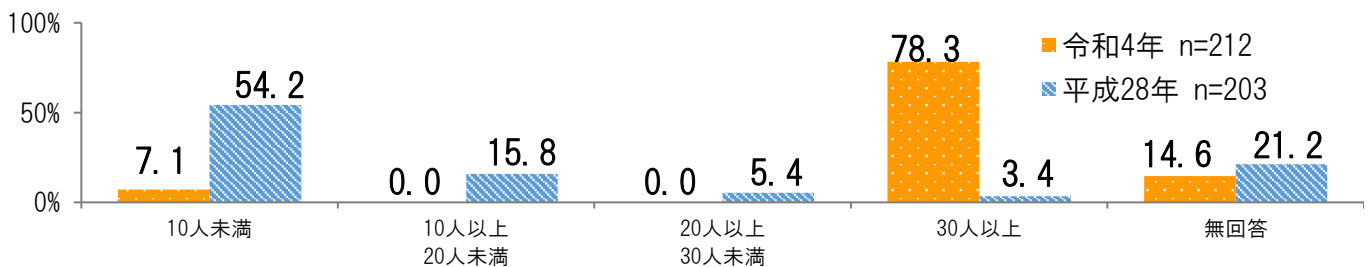
■大学生・専門学校生 平均：1.1 人（H28 調査なし）



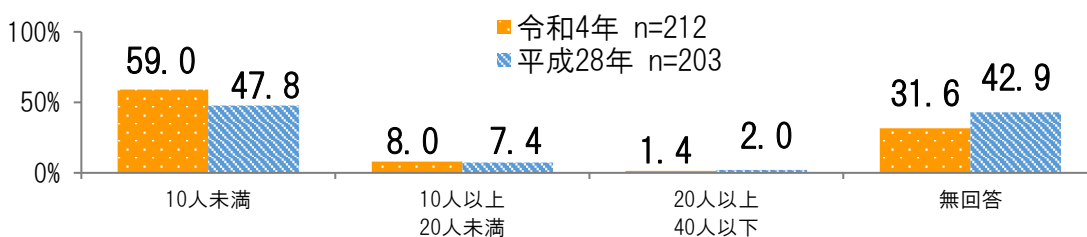
■高校生 平均：1.6 人（H28 平均：2.5 人）



■一般（59歳以下） 平均：6.4 人（H28 平均：9.0 人）



■一般（60歳以上） 平均：4.3 人（H28 平均：4.8 人）

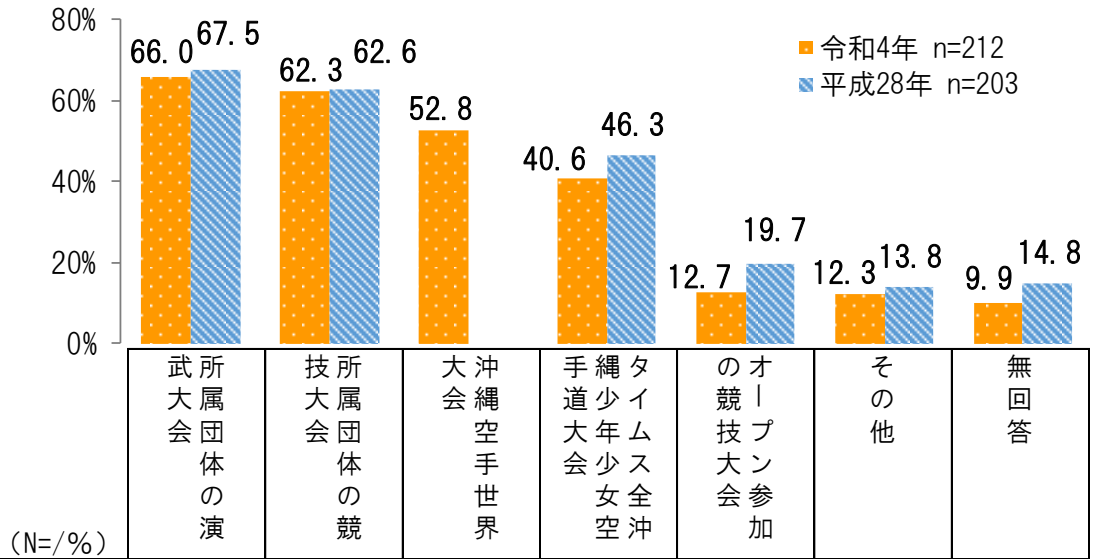


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(4) 演武大会、競技大会等への参加状況

Q4 あなたの道場が参加している演武大会や競技大会は次のどれですか。

・ 県内道場の活動は、所属する団体の演武大会が66.0%（前回調査67.5%）、競技大会が62.3%（前回調査62.6%）、それぞれ6割を占めており、前回調査時とほとんど変わらない。



		(N=/%)	所属団体の演武大会	所属団体の競技大会	沖縄空手世界大会	タイムス空手大会	オープン参加	その他	無回答
全体		212	66.0	62.3	52.8	40.6	12.7	12.3	9.9
道場主 年代別	20代	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	*5	80.0	80.0	60.0	60.0	40.0	-	-
	40代	*17	64.7	82.4	70.6	64.7	17.6	11.8	5.9
	50代	30	76.7	76.7	63.3	40.0	13.3	10.0	3.3
	60代	46	63.0	63.0	47.8	52.2	21.7	10.9	2.2
	70代	79	62.0	51.9	45.6	31.6	7.6	12.7	15.2
	80代以上	35	68.6	60.0	57.1	31.4	5.7	17.1	17.1
流派別	剛柔流	58	63.8	56.9	51.7	36.2	12.1	15.5	10.3
	小林流	55	69.1	70.9	63.6	54.5	10.9	9.1	9.1
	上地流	30	66.7	63.3	50.0	40.0	6.7	10.0	10.0
	少林流等*	37	62.2	59.5	45.9	45.9	13.5	21.6	5.4
	古武道	*19	78.9	68.4	68.4	21.1	26.3	5.3	10.5
	その他	*13	53.8	46.2	15.4	15.4	15.4	-	23.1
門下生 人数別	10人未満	61	59.0	42.6	36.1	27.9	1.6	16.4	19.7
	10人以上20人未満	68	64.7	61.8	45.6	29.4	11.8	8.8	7.4
	20人以上30人未満	34	61.8	67.6	55.9	44.1	20.6	8.8	8.8
	30人以上50人未満	35	77.1	82.9	82.9	74.3	31.4	17.1	-
	50人以上	*13	92.3	92.3	84.6	61.5	-	7.7	-

* 基数が少ないため参考値

※「全体」と比べて ■ +10 pt以上 ■ +5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ -5 pt以下 (n=30未満は除く)

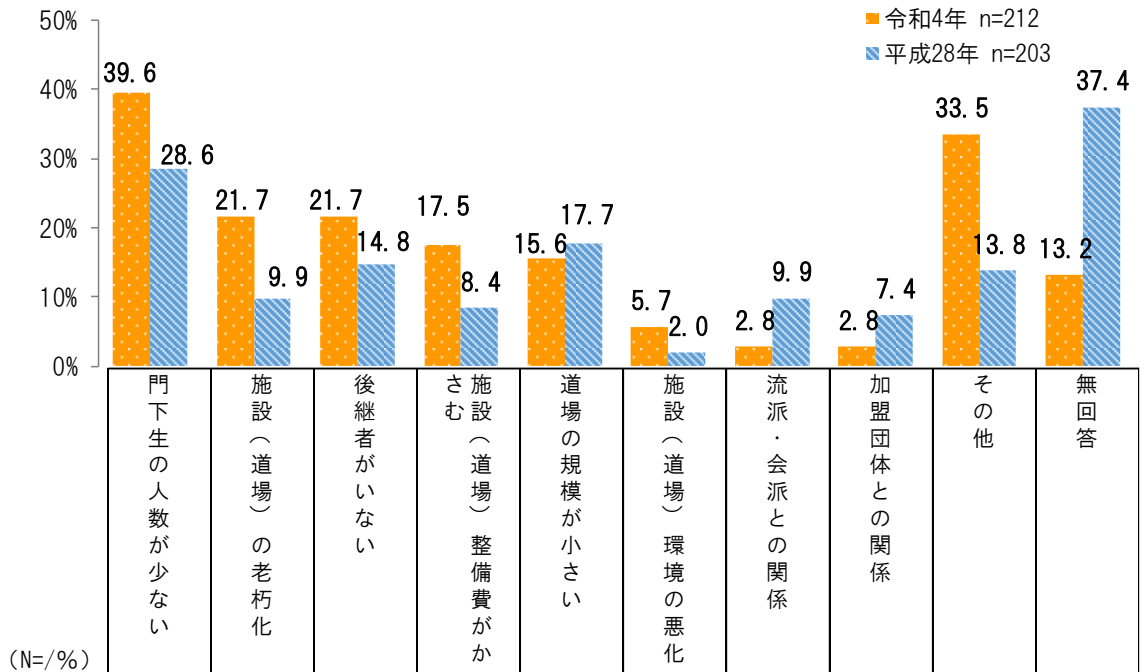
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(5) 道場運営の課題

Q5 現在、道場の運営を続けていく上で悩んでいることはありますか。

- ・ 県内道場の運営上の課題（悩み）は、「門下生の人数が少ない」が39.6%（前回調査28.6%）、「施設（道場）の老朽化」が21.7%（前回調査9.9%）、「後継者がいない」が21.7%（前回調査14.8%）であった。
- ・ 前回調査と同様、小規模で後継者不在、狭隘で老朽化した道場施設で活動する現状を示している。



		(N=%)	門下生の人数が少ない	施設(道場)の老朽化	後継者がいない	さむ施設(道場)整備費がか	道場の規模が小さい	施設(道場)環境の悪化	流派・会派との関係	加盟団体との関係	その他	無回答
全体		212	39.6	21.7	21.7	17.5	15.6	5.7	2.8	2.8	33.5	13.2
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	*5	40.0	40.0	20.0	40.0	60.0	20.0	-	-	20.0	-
	40代	*17	41.2	23.5	11.8	29.4	23.5	29.4	-	5.9	52.9	5.9
	50代	30	30.0	36.7	6.7	26.7	20.0	3.3	6.7	-	33.3	3.3
	60代	46	37.0	15.2	15.2	8.7	8.7	2.2	2.2	4.3	32.6	17.4
	70代	79	45.6	16.5	30.4	13.9	16.5	2.5	2.5	2.5	31.6	16.5
	80代以上	35	37.1	25.7	28.6	20.0	8.6	5.7	2.9	2.9	31.4	14.3
流派別	剛柔流	58	48.3	29.3	15.5	25.9	20.7	12.1	5.2	3.4	31.0	10.3
	小林流	55	30.9	23.6	25.5	18.2	14.5	5.5	1.8	1.8	34.5	12.7
	上地流	30	33.3	20.0	13.3	16.7	13.3	3.3	3.3	-	30.0	20.0
	少林流等*	37	35.1	18.9	32.4	8.1	5.4	2.7	-	5.4	32.4	13.5
	古武道	*19	47.4	15.8	26.3	21.1	31.6	-	5.3	5.3	36.8	5.3
	その他	*13	53.8	-	15.4	-	7.7	-	-	-	46.2	23.1
門下生人数別	10人未満	61	49.2	16.4	26.2	8.2	11.5	3.3	-	3.3	37.7	18.0
	10人以上20人未満	68	52.9	17.6	22.1	11.8	14.7	5.9	5.9	2.9	27.9	13.2
	20人以上30人未満	34	38.2	32.4	20.6	32.4	20.6	8.8	-	-	23.5	11.8
	30人以上50人未満	35	11.4	25.7	20.0	25.7	14.3	5.7	5.7	2.9	42.9	8.6
	50人以上	*13	7.7	30.8	7.7	30.8	30.8	7.7	-	7.7	46.2	-

* 基数が少ないため参考値

※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(6) 道場運営の支援について（自由回答）

Q6 (Q5)の質問で選択した回答について、どのような支援があると良いですか。

県内空手道場主の意見
なるべく自己努力で頑張りたいと思う
施設の老朽化について、国、県の支援協力が欲しい
貧困児童への空手のサポートがあればありがたいと思う
道場の紹介、案内の支援、施設修繕支援
セミナーみたいな内容から、門下生を取りたい。一般の方も空手にふれる祭りみたいな事してみたい
コロナが静まり子供達の練習も出来るように。資金の弱さ
道場運営は厳しく、伝統空手を継承するためには、月、年間等の支援があればと思う
床や防具等の老朽化による補修・改善費用の補助援助
県外海外から門下生及び練習生を紹介して欲しい
補助金
貸付などの補助
扇風機や換気器具など
「古く狭い公民館」を借りて運営しているが、公民館建て替えの計画中であり、予定では同規模の大きさでの建物」となる為、狭い状況である。大きくできるには建設資金の支援が欲しい
道場の設備投資に係る一部の補助金など
修繕費補助
施設の補修等への補助があると助かる
コロナ下の適切なる各道場への支援に期待する
修繕費等の補助
今後沖縄伝統を守るにあたり、各道場に支援がほしい。例、月5万円
若手指導者の育成。若手空手家の発表の場の確保等（海外の指導者派遣を若手中心）
伝承者（後継者）育成の制度の創設、空手の手技と理論を学ぶ
門下生が少ない。道場の規模が小さい。指導者・後継者不足と人材育成、道場のボランティア化など県内での道場運営は厳しい、重要な問題である。道場への運営資金や指導者育成など重要だが、沖縄の伝統空手は本来、人の道を求める精神文化、平和の武として継承され、全国へ世界へ伝播していった。この魅力ある伝統空手を磨き上げグローバルブランド化することで県観光産業、県経済の底上げとなり県内道場も活性化
施設の老朽化等を修繕する資金の補助があると助かる
コロナ禍のため、2年近く休館、閉館状態、道場経営支援(助成金)必要を感じる
アルコール消毒液とマスクが足りない
資金の援助
コロナの影響で減少した。家庭における教育費等もあり、経済的に余裕がない
学校での空手の指導の充実
古武道に興味がある学校での指導や古武道を使った舞踊等の奨励
自分自身で後継者を育てたい
小、中学校に空手を取り入れてもらい近くの道場に紹介する
ホームページの支援（作成、運用）

第2章 県内空手道場主向け調査結果

県内空手道場主の意見
道場運営用のローンが組めるなど
補助金が欲しいと思う
自分で努力する方法しかないと思う
小中学校での教育として空手道を取入れて欲しい。できれば高校でも取入れて頂き沖縄空手道の普及に努力して頂きたい
自分が動けるまで、また門下生がいるまでは頑張ります。今まで楽しくやっている
補助金
門下生が増えてくれる事
道場のPR不足
インターネットで道場をアピールしている。空手会館に来場している方にもPRしてほしい。コロナ発生より3年間、道場を閉館の影響もある
支援と言うより、早くコロナの問題が収まって、マスク無しで行動が出来るようになれば良い
門下生は多すぎてもどうかと思うが、常時20名ぐらいは欲しい所である。しかし今のところ、これといった支援の必要は感じていない
社会人への宣伝
県の補助金や子供達次世代育成・強化の取組み
サラリーマンが本業のため、現状はこれが上限と考える。小学生をもっと増やせば良いと考える
補助金や借入により、道場施設を大きくできるような支援。補助事業により、道場施設建設整備事業で、道場主1~2割負担、残り8~9割補助金。道場施設が充実することで、県外、海外より受入れしやすくなるように島民のみでは収入を安定させることが厳しい為、島外より練習者を受入れできるような環境支援
団地の集会所を借りて空手の稽古をしています。がコロナでほとんどできない ※コロナでも、施設の使用ができればいいと思う
ホームページの開設
コロナ拡大で弟子が集まらない
加盟団体の明確なビジョンがない。モチベーションがもてない。活発な活動を指導して欲しい
国や県からの事業所としての一時支援金の給付
自主努力と思うが、行政の財支援があれば心強い
施設の確保
借入金制度、支援金の援助など
鍛錬用具の購入など
家賃、維持費
中部方面に空手専用施設等があれば活動の場が広がる
道場施設の固定資産税が高い気がする 住宅兼道場の駐車スペースがあるのですが、入口がそこまで大きくなくて駐車がしづらく、子供の送迎でも県道6号線沿いで交通量も多いなかでの路肩に止めての乗り降りになってしまっている。入口間口を大きくできないか要望したい
コロナ収束が見えず3年の間に門弟が激減。道場経営が厳しい状況。コロナ感染初期の頃は支援があり大変助かったが1回限り。長期的な予測は全く考えておらず。他業種同様の補償提供があれば良いが
施設整備費の補助があると助かると思う

第2章 県内空手道場主向け調査結果

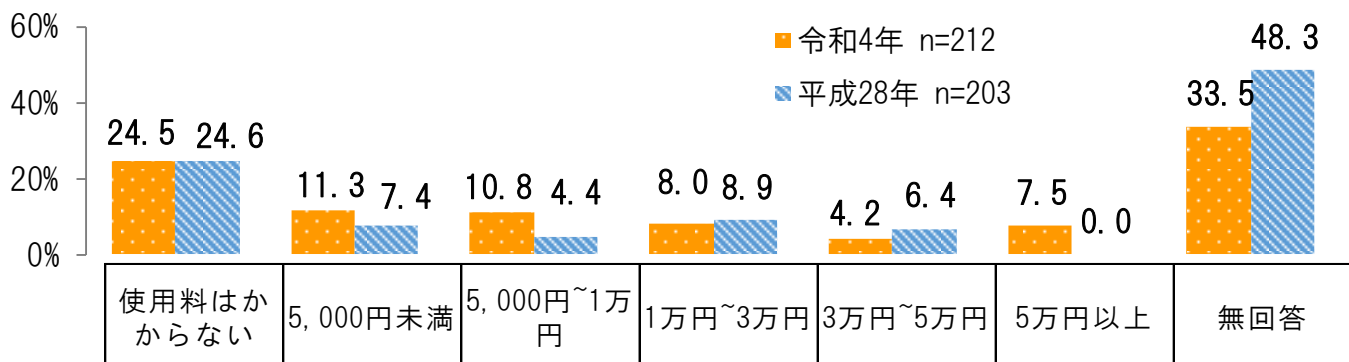
県内空手道場主の意見
やはり経済面である。ある程度の資格、条件を満たした道場には支援金など、賜われればありがたい。(フランスでは制度があると聞いた)
道場運営に対する支援を早急にして欲しいと思う
家賃保証
伝統空手の継承、必要、今後伝統空手、世界の空手家伝統空手を普及発展すること
空手の稽古は働き詰めの体を健康維持とリフレッシュするので県内企業に”空手稽古30分チケット”なるものを提供する支援があるといい
青少年健全育成の為に無料で道場を開設している
アルコール消毒液とマスクがたりない
自己管理することで支援は必要ない
公共の体育館等を低額で提供して欲しい
本島への移動、航空チケット、宿泊会場への移動タクシーなど、本島の子供達は、自宅から会場へ行くだけで済むが、八重山からだ会場に行く、参加するだけでも、上記出費が発生する。補助金、支援金があれば良いないつも思う
自宅兼道場が理想であるが、現実的に土地、建物確保は厳しい状況、施設情報(公民館)など欲しい
コロナ禍が早期に収束するように、行政も感染症対策を徹底するよう指導してもらいたい
新型コロナの2類から5類へ移行を望む
沖縄伝統空手を守り継承していくために、指導してきた門下生がスポーツ空手をやるようになったり、型のミックスや創作をした空手を教えている姿を見ると沖縄伝統空手の道場運営の課題は大きい。 伝統空手と競技空手の見分け、区別ができるような支援があると良い
沖縄県から公共施設管理者に、何らかの推薦状があれば助かる

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(7) 施設使用料

Q7 あなたの道場が公共施設や他の賃貸物件である場合の1ヶ月あたりの施設使用料をご回答ください。

- ・ 県内道場の施設使用料は、「使用料はかからない」が24.5%（前回調査24.6%）。
- ・ 年代別では、50代以上で「使用料はかからない」との回答が2割を超えている。
- ・ 門下生人数別では、20人以上30人未満の道場で「使用料はかからない」との回答が最も高く、35.3%。



		(N=%)	使用料はかからない	5,000円未満	5,000円~1万円	1万円~3万円	3万円~5万円	5万円以上	無回答
全体		212	24.5	11.3	10.8	8.0	4.2	7.5	33.5
道場主年代別	20代	-							
	30代	*5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	40代	*17	17.6	11.8	17.6	23.5	17.6	11.8	
	50代	30	26.7	6.7	16.7	16.7	3.3	13.3	16.7
	60代	46	26.1	19.6	15.2	4.3	6.5	2.2	26.1
	70代	79	25.3	10.1	6.3	5.1	3.8	3.8	45.6
	80代以上	35	22.9	5.7	5.7	5.7	11.4		42.9
流派別	剛柔流	58	22.4	5.2	12.1	6.9	5.2	6.9	41.4
	小林流	55	32.7	10.9	12.7	3.6	9.1	30.9	
	上地流	30	13.3	23.3	6.7	13.3	13.3	3.3	26.7
	少林流等*	37	24.3	16.2	8.1	2.7	5.4	13.5	29.7
	古武道	*19	31.6	10.5	15.8	5.3		36.8	
	その他	*13	15.4	15.4	15.4	23.1		30.8	
門下生人数別	10人未満	61	27.9	18.0	11.5	6.6	4.9	1.6	29.5
	10人以上20人未満	68	22.1	11.8	13.2	11.8	5.9	2.9	32.4
	20人以上30人未満	34	35.3	8.8	11.8	5.9	5.9	2.9	29.4
	30人以上50人未満	35	17.1	2.9	5.7	8.6	5.7	11.4	48.6
	50人以上	*13	15.4	7.7	7.7	46.2		23.1	

*基数が少ないため参考値

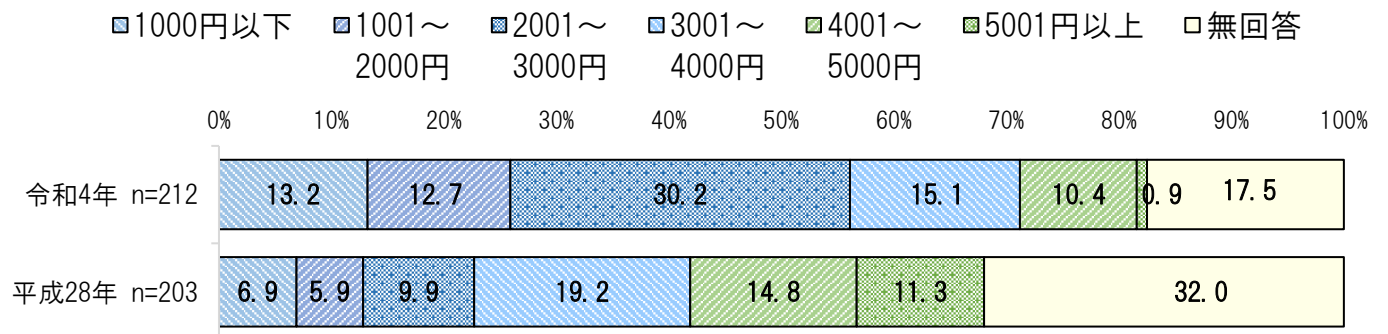
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

(8) 会費

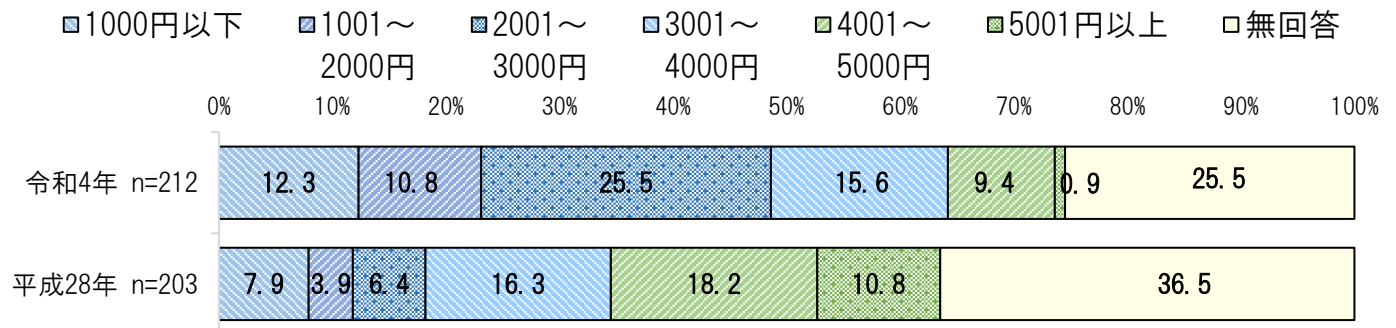
Q8 1ヶ月あたりの会費の金額をご回答ください。(小学生～高校生)

・県内道場の1ヶ月あたりの会費は、小学生以下においては「2,001～3,000円」が30.2%で、5,000円未満が81.6%を占めた。中学生においては「2,001～3,000円」が25.5%で、5,000円未満が73.6%を占めた。高校生においては「2,001～3,000円」が25.5%で、5,000円未満が70.9%を占めた。一方で「5,001円以上」は、小学生が0.9%、中学生が0.9%、高校生が1.4%と、習授者の年齢とともに会費が高いことを示す。

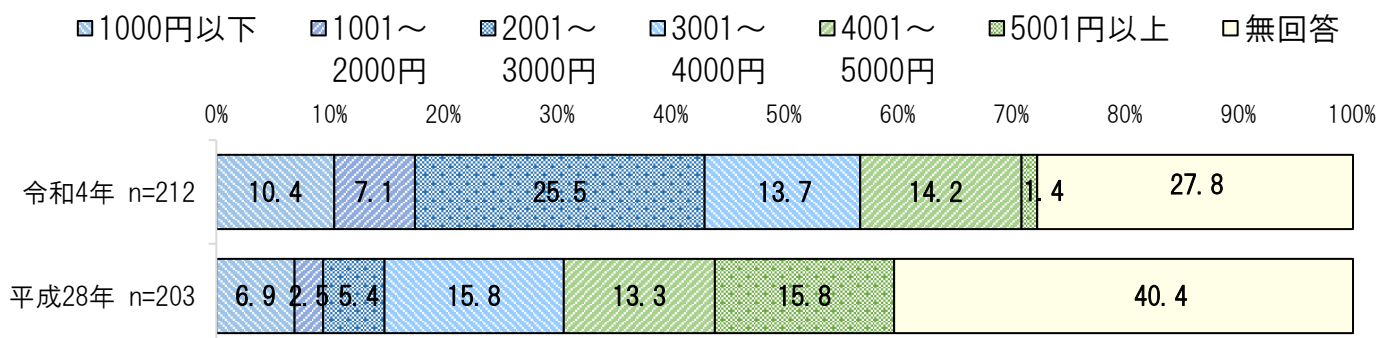
■ 小学生以下 平均：2,897円 (H28 平均：3,000円)



■ 中学生 平均：2,936円 (H28 平均：3,000円)



■ 高校生 平均：3,160円 (H28 平均：3,341円)

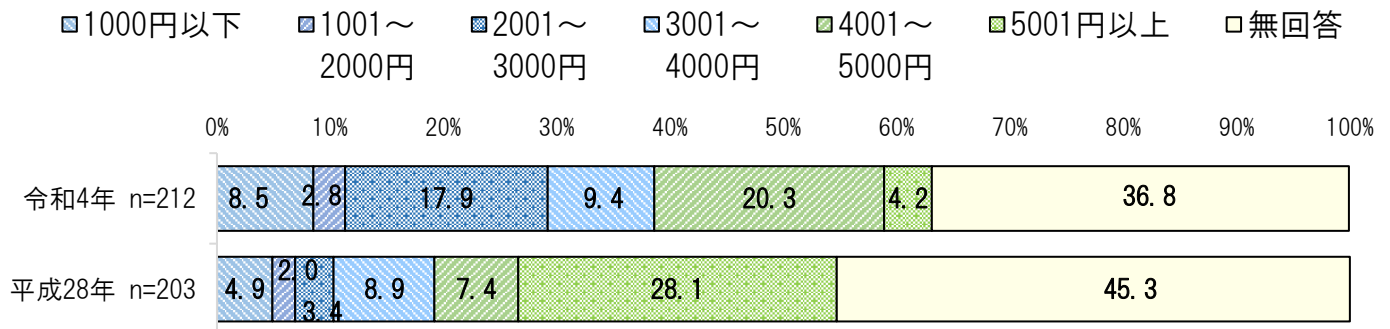


第2章 県内空手道場主向け調査結果

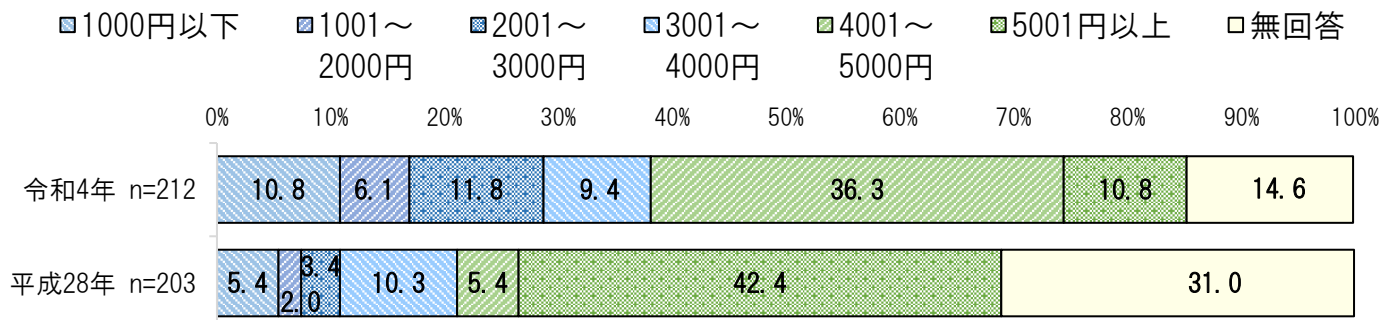
Q8 1ヶ月あたりの会費の金額をご回答ください。(大学生～一般)

・県内道場の1ヶ月あたりの会費は、大学生・専門学生においては「4,001円～5,000円」が20.3%、一般(59歳以下)が36.3%、一般(60歳以上)が28.8%であった。
 ・「5,001円以上」は、大学生が4.2%、一般(59歳以下)が10.8%、一般(60歳以上)が9.9%と現役世代の会費が高いことを示す。

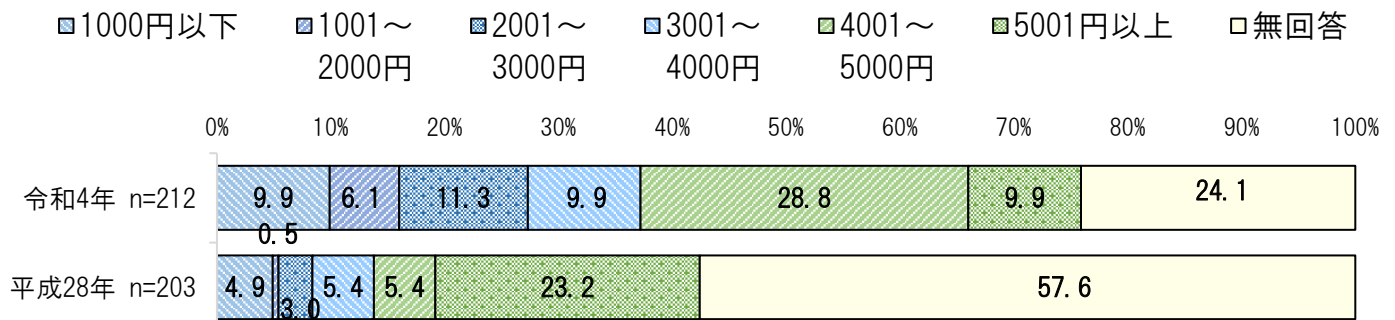
■ 大学生・専門学生 平均：3,641円 (H28 平均：3,937円)



■ 一般(59歳以下) 平均：4,074円 (H28 平均：4,268円)



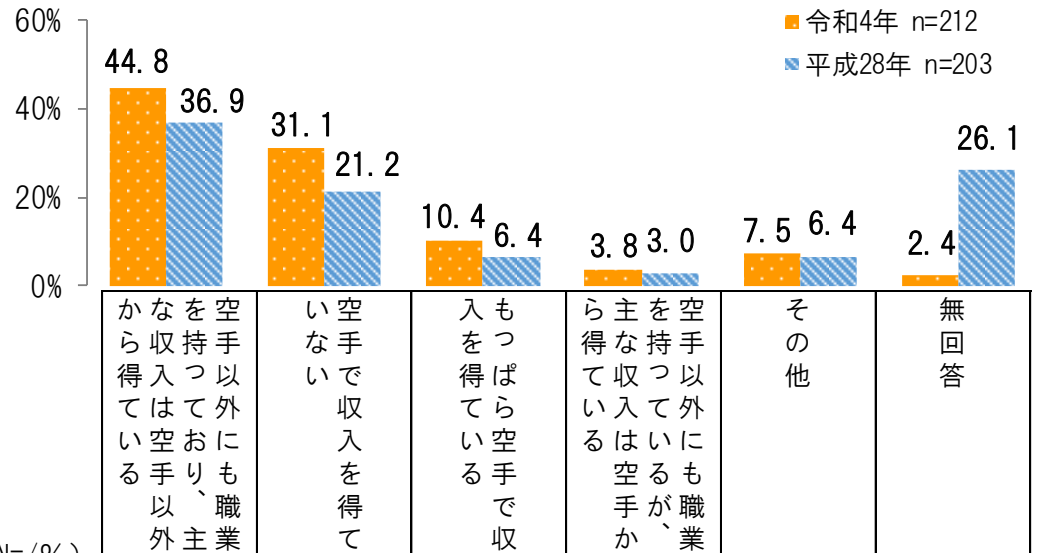
■ 一般(60歳以上) 平均4,046円 (H28 平均：3,963円)



(9) 空手と収入の関係性①

Q9 あなたの空手と収入の関係についてご回答ください。

・県内道場主の「専業空手家」は10.4%（前回調査6.4%）である。
 ・「主な収入は空手以外から得ている」が44.8%（前回調査36.9%）で最も高い。前回調査同様、県内道場主は空手に依らない生計基盤が多いことを示している。



		(N=/%)	空手以外から得ている（主な収入）	空手から得ている	他の仕事から得ている	空手以外の収入を得ていない	その他	無回答
全体		212	44.8	31.1	10.4	3.8	7.5	2.4
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-	-	-
	30代	*5	60.0	20.0	-	20.0	-	-
	40代	*17	64.7	11.8	11.8	11.8	-	-
	50代	30	56.7	26.7	6.7	6.7	3.3	-
	60代	46	58.7	32.6	6.5	-	2.2	-
	70代	79	34.2	36.7	11.4	1.3	10.1	6.3
	80代以上	35	28.6	31.4	17.1	5.7	17.1	-
	流派別	剛柔流	58	43.1	31.0	13.8	5.2	6.9
小林流		55	41.8	32.7	12.7	1.8	7.3	3.6
上地流		30	43.3	33.3	16.7	3.3	3.3	-
少林流等*		37	64.9	24.3	-	2.7	5.4	2.7
古武道		*19	26.3	26.3	10.5	10.5	21.1	5.3
その他		*13	38.5	46.2	-	-	7.7	7.7
門下生人数別	10人未満	61	36.1	49.2	4.9	1.6	3.3	4.9
	10人以上20人未満	68	47.1	33.8	8.8	-	10.3	-
	20人以上30人未満	34	55.9	23.5	-	8.8	11.8	-
	30人以上50人未満	35	60.0	8.6	20.0	2.9	5.7	2.9
	50人以上	*13	7.7	7.7	46.2	23.1	7.7	7.7

* 基数が少ないため参考値

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

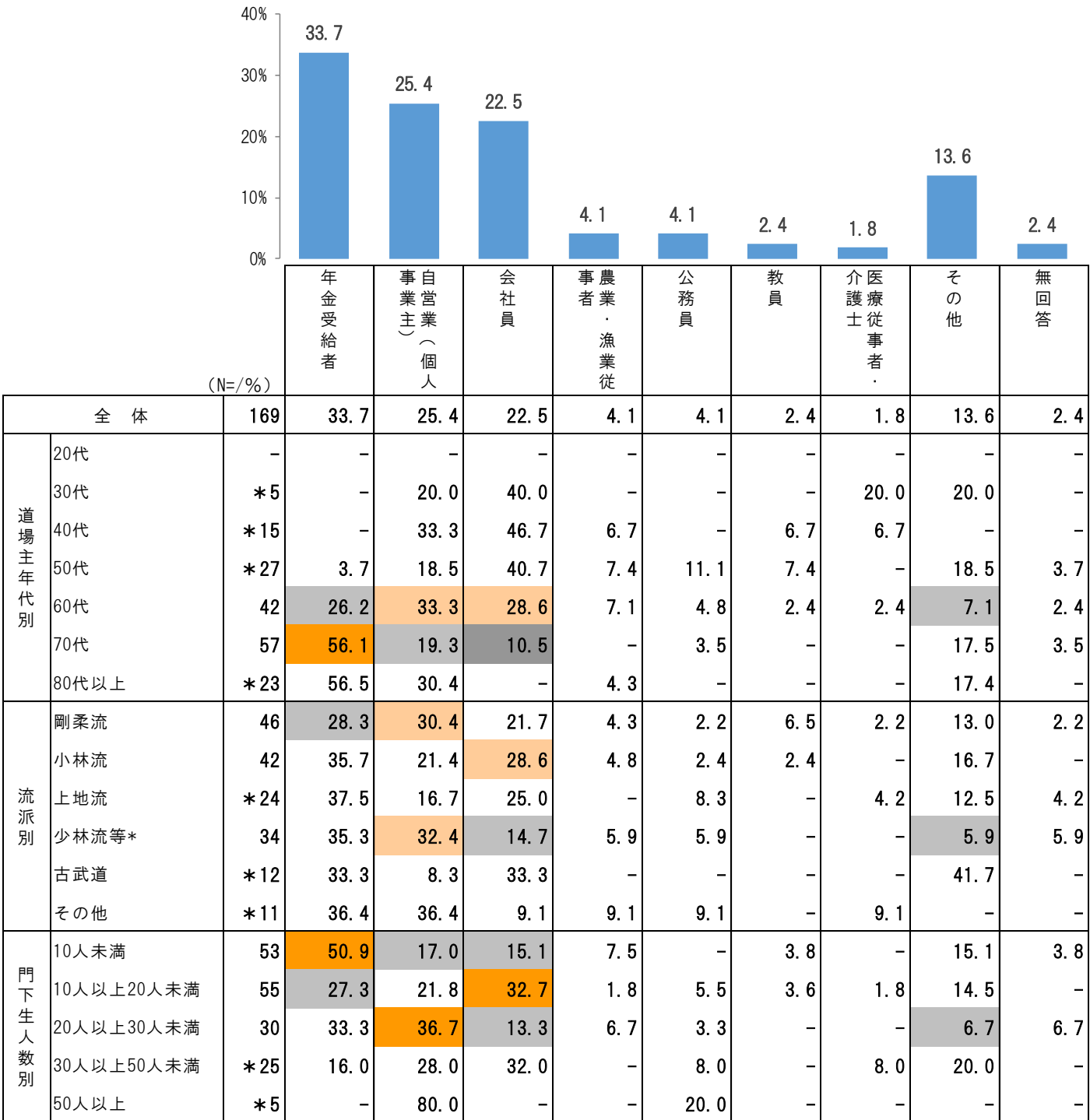
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(10) 空手と収入の関係性②

Q10 (Q9)の質問で「空手以外にも職業を持っている、又は空手で収入を得ていない」と回答した方について、どのような職業等に就いて収入を得ていますか。

- ・県内道場主の職業別分布は、「年金受給者」が33.7%、「自営業（個人事業主）」が25.4%で、「会社員」が22.5%である。
- ・年金受給者のうち、門下生20人未満の道場が78.2%を占めており、小規模道場が多いことを示している。



* 基数が少ないため参考値

※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

※少林流等は、少林流、松林流(松源流、松真流)、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

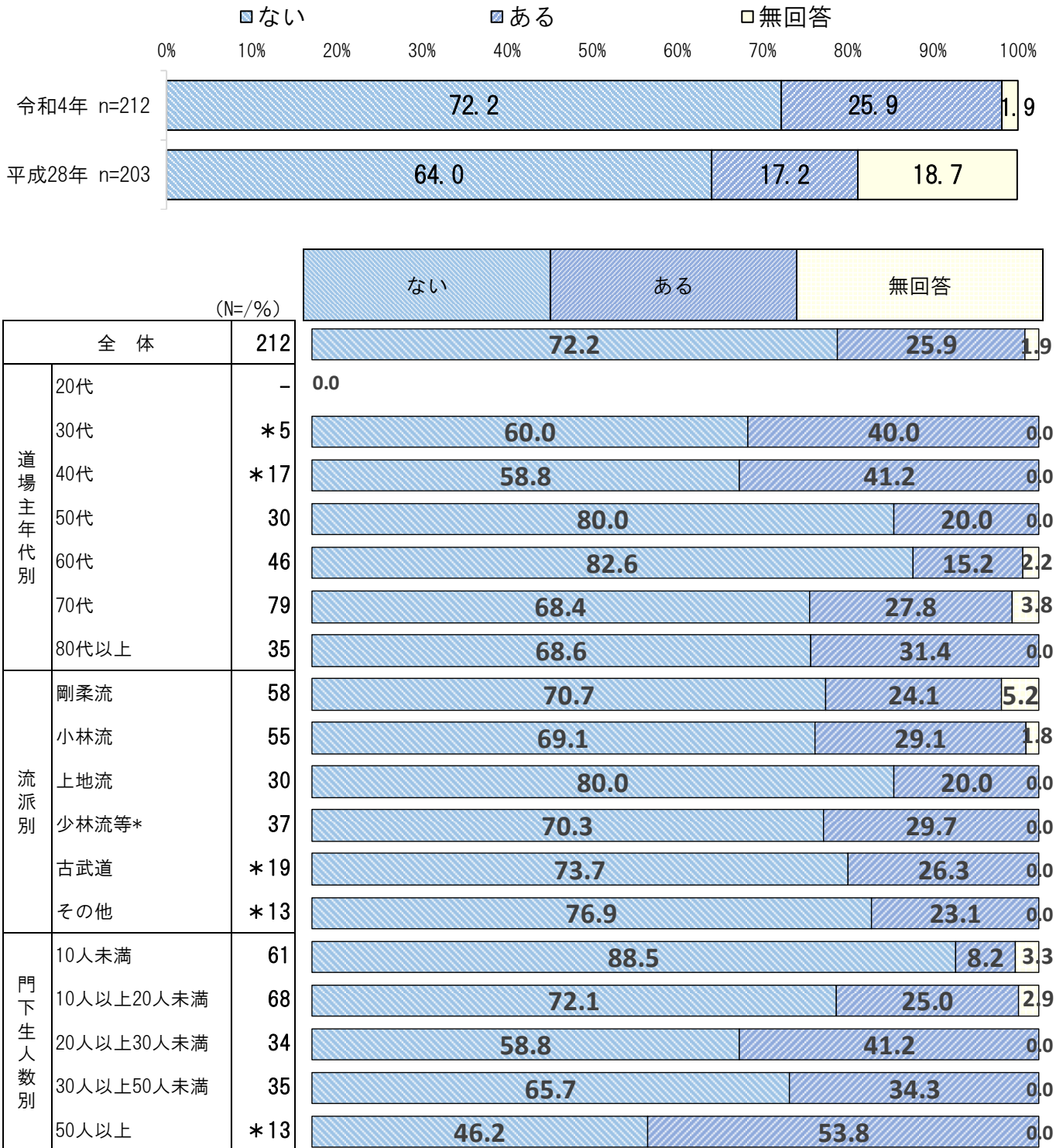
(11) 県外支部の有無

Q11 あなたの道場に県外の支部はありますか。

・ 県内道場主の県外支部の有無は、「ない」が72.2%（前回調査64.0%）、「ある」が25.9%（前回調査17.2%）であった。

・ 県外支部の道場数は平均3.8カ所。門下生人数の平均は97.3人。

・ 県外支部がある代表的な都道府県は、「東京都」（29.5%）が最も多く、次いで「大阪府」（12.5%）。

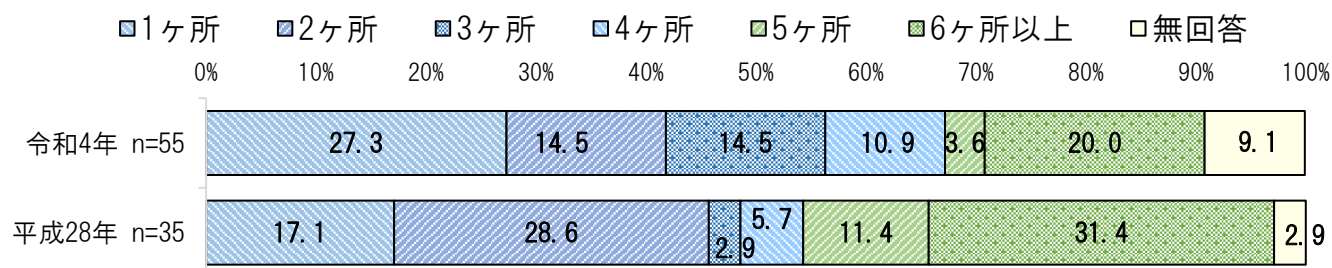


* 基数が少ないため参考値

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

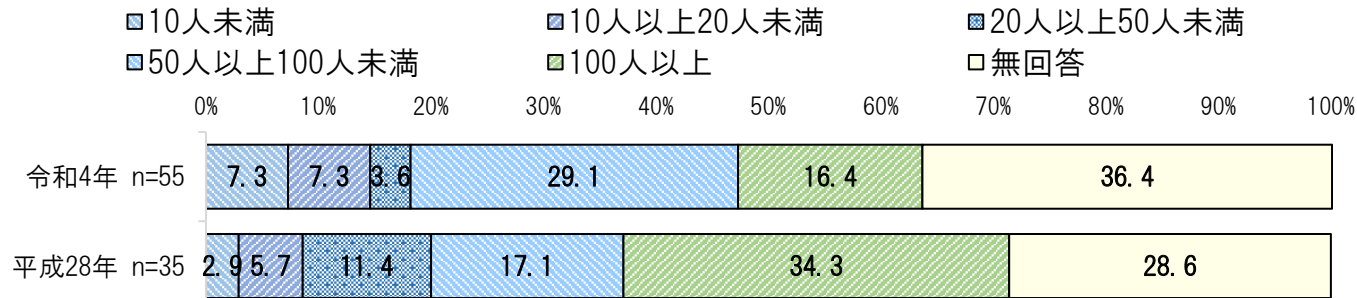
■県外支部道場数 平均：3.8ヶ所



■県外支部がある代表的な都道府県

1. 東京都	29.5	(%)
2. 大阪府	12.5	
3. 神奈川県	10.2	
4. 福岡県	9.1	
5. 千葉県	5.7	
6. 愛知県	4.5	
7. 静岡県	3.4	
8. 高知県	2.3	
9. 京都府	2.3	
10. 茨城県	2.3	

■門下生人数 平均：97.3人

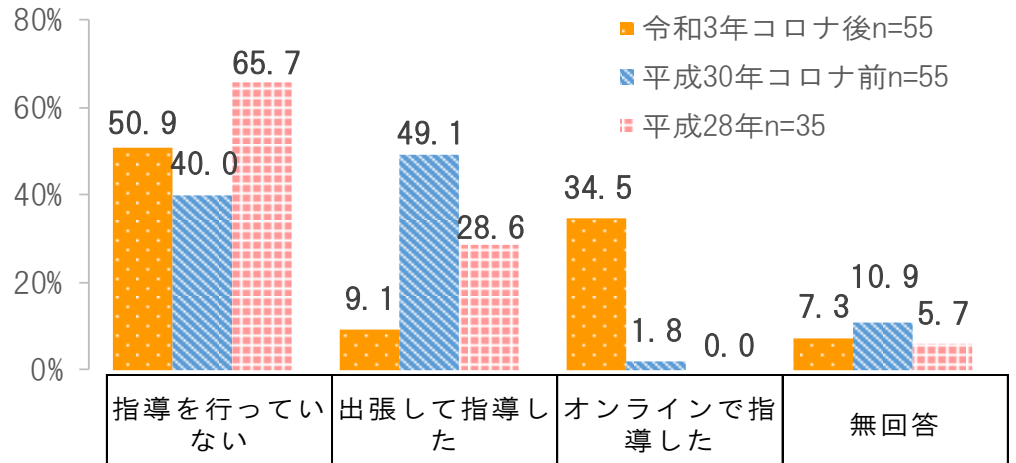


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(12) 県外支部への指導について①（コロナ禍：2021年1月～12月）

Q12 あなたは、2021年1月～2021年12月の期間に県外支部への指導を行いましたか。

- ・ 県外支部への指導におけるコロナ禍の影響について、「出張して指導した」が平成30年（コロナ前）で49.1%、令和3年（コロナ禍）で9.1%と減少し、出張指導に大きな影響を与えている。
- ・ 一方で、「オンラインで指導した」が平成30年（コロナ前）で1.8%、令和3年（コロナ禍）で34.5%と増加し、コロナ禍でオンライン指導に切り替えた道場が多いことを示している。指導を行っていない道場主（N=28）において、42.9%の道場主が「新型コロナウイルス感染症の影響」をその理由に上げている。



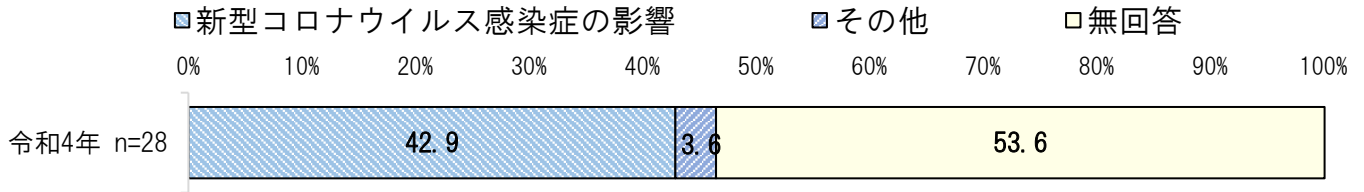
		55	50.9	9.1	34.5	7.3
全 体		55	50.9	9.1	34.5	7.3
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-
	30代	*2	-	-	100.0	-
	40代	*7	14.3	14.3	71.4	14.3
	50代	*6	50.0	16.7	33.3	-
	60代	*7	57.1	28.6	-	14.3
	70代	*22	59.1	4.5	31.8	4.5
	80代以上	*11	63.6	-	27.3	9.1
流派別	剛柔流	*14	42.9	21.4	35.7	7.1
	小林流	*16	81.3	-	18.8	-
	上地流	*6	50.0	-	33.3	16.7
	少林流等*	*11	54.5	9.1	27.3	9.1
	古武道	*5	-	-	80.0	20.0
	その他	*3	-	33.3	66.7	-
門下生人数別	10人未満	*5	60.0	-	20.0	20.0
	10人以上20人未満	*17	58.8	17.6	11.8	11.8
	20人以上30人未満	*14	42.9	14.3	50.0	-
	30人以上50人未満	*12	41.7	-	50.0	8.3
	50人以上	*7	57.1	-	42.9	-

* 基数が少ないため参考値

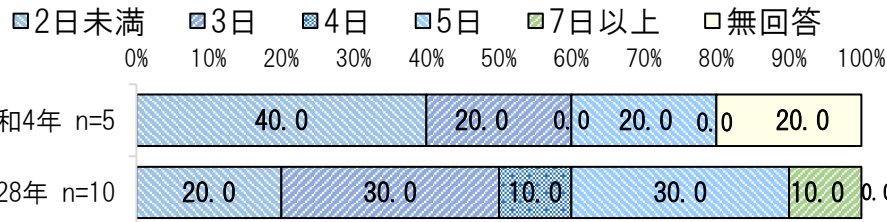
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

■指導を行っていない理由



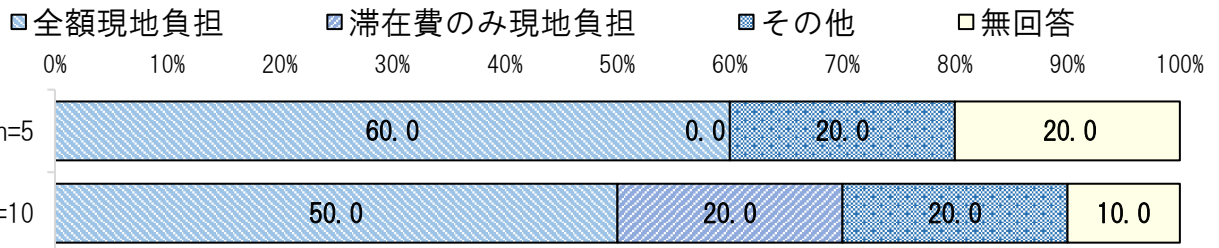
■平均滞在日数（コロナ禍） 平均：3.0日（H28 平均：3.9日）



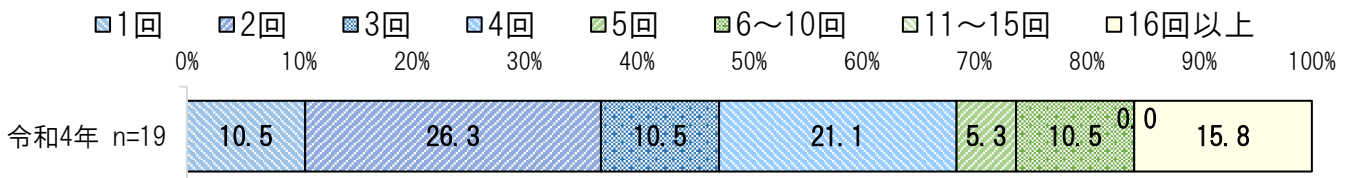
■出張した都道府県

1. 東京都	28.6	(%)
2. 大阪府	28.6	
3. 静岡県	14.3	
4. 兵庫県	14.3	
5. 宮崎県	14.3	

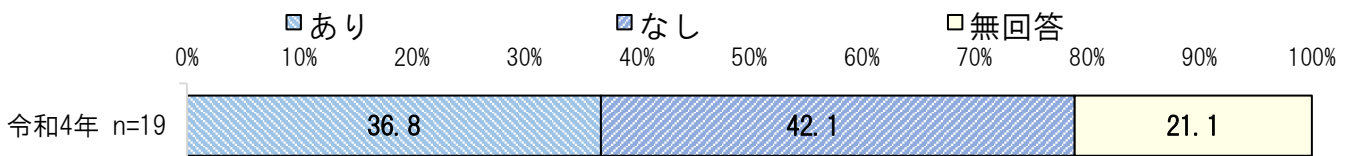
■旅費の負担は



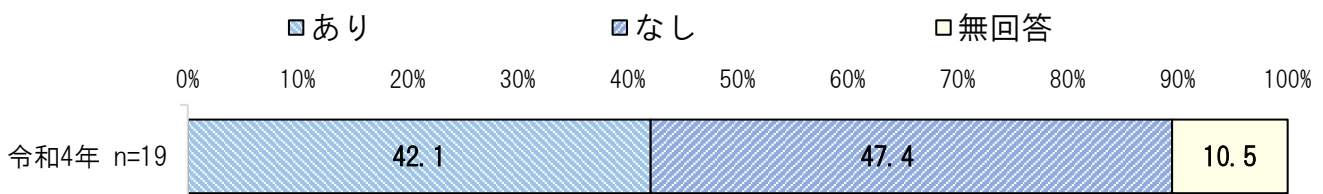
■オンライン指導回数（コロナ禍） 平均：16.1回



■オンラインで指導した開催費用（機材費、通信費等）の負担



■オンラインで指導した受講料の有無

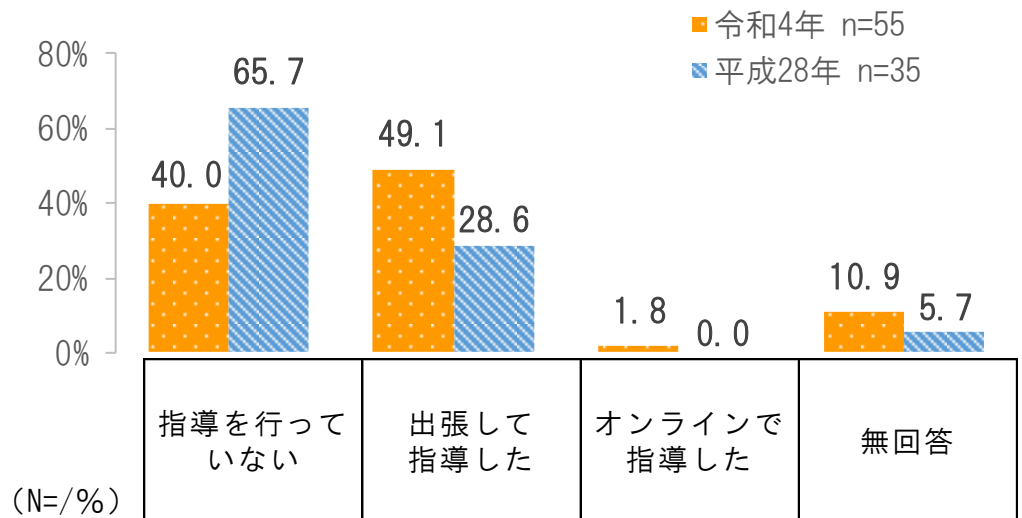


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(13) 県外支部への指導について②（コロナ前：2018年1月～12月）

Q13 あなたは、新型コロナウイルス感染症が流行する前の2018年1月～2018年12月の期間に県外支部への指導を行いましたか。

・コロナ前の県外支部への指導について、「出張して指導した」が49.1%（前回調査28.6%）となっており、出張回数の平均は3.3回。出張回数「1回」（44.4%）が最も多く、出張した都道府県は「東京都」が29%、次いで「大阪府」が12.9%となっている。



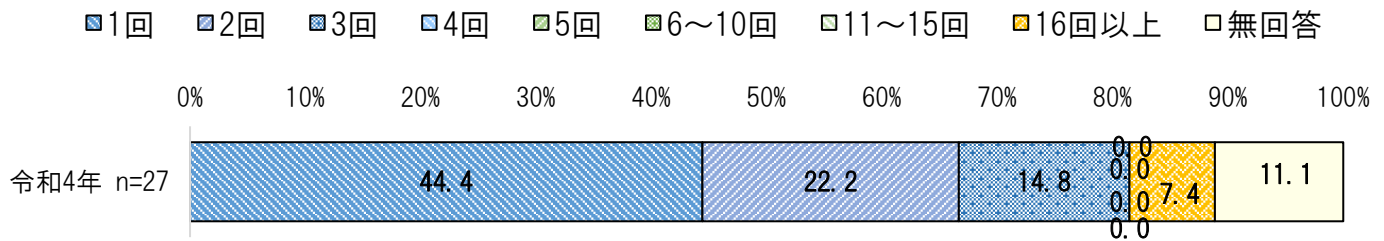
		(N=/%)	指導を行っていない	出張して指導した	オンラインで指導した	無回答
全体		55	40.0	49.1	1.8	10.9
道場主年別	20代	-	-	-	-	-
	30代	*2	100.0	-	-	-
	40代	*7	28.6	57.1	-	14.3
	50代	*6	33.3	66.7	-	-
	60代	*7	14.3	71.4	-	14.3
	70代	*22	40.9	50.0	4.5	9.1
	80代以上	*11	54.5	27.3	-	18.2
流派別	剛柔流	*14	28.6	64.3	-	7.1
	小林流	*16	50.0	43.8	-	6.3
	上地流	*6	50.0	16.7	-	33.3
	少林流等*	*11	45.5	45.5	-	9.1
	古武道	*5	40.0	40.0	20.0	20.0
	その他	*3	-	100.0	-	-
門下生人数別	10人未満	*5	80.0	-	-	20.0
	10人以上20人未満	*17	41.2	47.1	-	11.8
	20人以上30人未満	*14	21.4	64.3	-	14.3
	30人以上50人未満	*12	50.0	41.7	8.3	8.3
	50人以上	*7	28.6	71.4	-	-

*基数が少ないため参考値

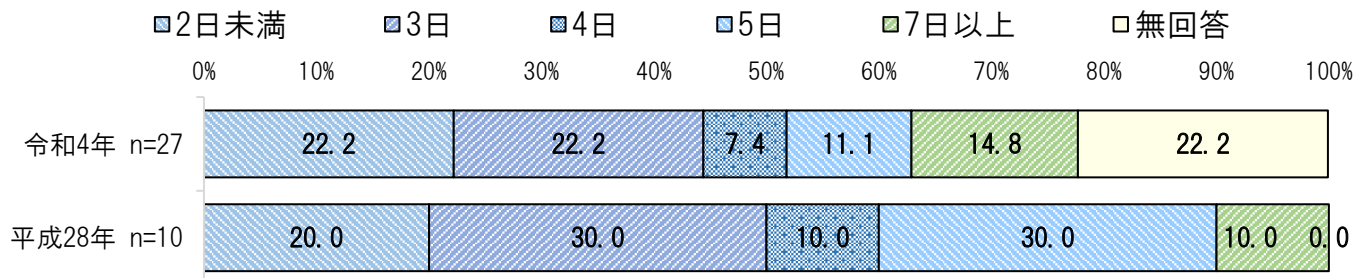
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

■県外支部へ出張回数（コロナ前）平均：3.3回



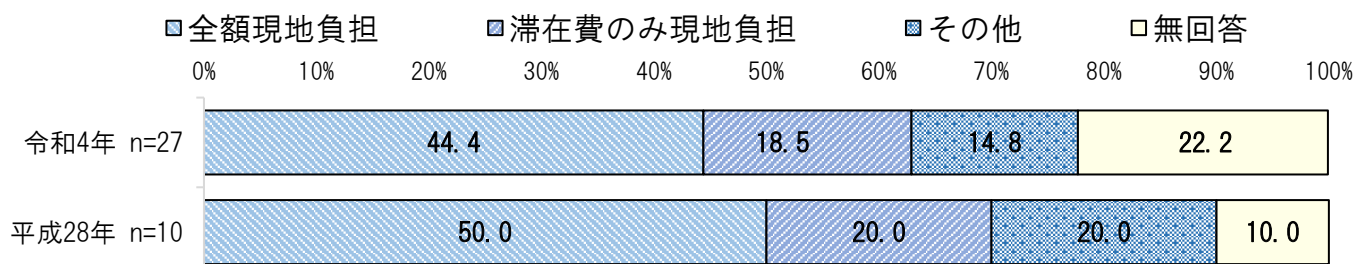
■平均滞在日数（コロナ前） 平均：4.8日 （H28 平均：3.9日）



■出張した都道府県

1. 東京都	29.0	(%)
2. 大阪府	12.9	
3. 神奈川県	12.9	
4. 宮崎県	6.5	
5. 千葉県	6.5	
6. 静岡県	6.5	
7. 福岡県	6.5	
8. 高知県	3.2	
9. 三重県	3.2	
10. 京都府	3.2	

■旅費の負担

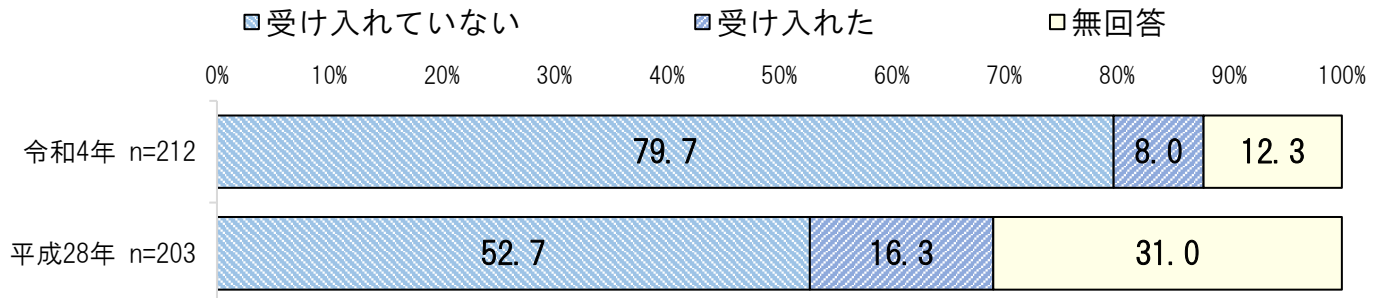


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(14) 県外からの受け入れ状況①（コロナ禍：2021年1月～12月）

Q14 あなたの道場では、2021年1月～2021年12月の期間に県外の空手愛好家をどの程度受け入れましたか。

- ・コロナ禍における県外からの受け入れ率は、「受け入れてない」と回答した道場は79.7%（前回調査52.7%）。一方で「受け入れた」との回答が8.0%で、前回調査16.3%より8.3ポイント低い。
- ・道場主年代別、流派別、門下生人数別においても、同じ傾向を示している。

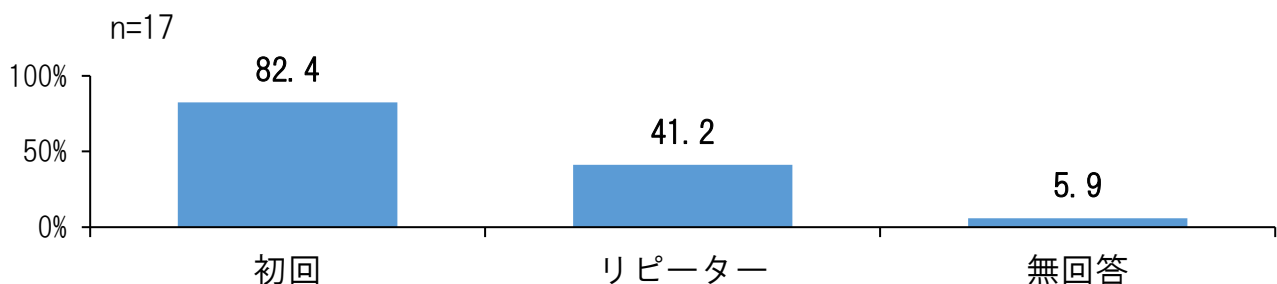


		(N=/%)	受け入れていない	受け入れた	無回答
全体		212	79.7	8.0	12.3
道場主年代別	20代	-	0.0	-	-
	30代	*5	100.0	0.0	0.0
	40代	*17	76.5	17.6	5.9
	50代	30	93.3	6.7	0.0
	60代	46	76.1	13.0	10.9
	70代	79	74.7	6.3	19.0
	80代以上	35	82.9	2.9	14.3
	流派別	剛柔流	58	75.9	8.6
小林流		55	83.6	7.3	9.1
上地流		30	80.0	3.3	16.7
少林流等*		37	75.7	16.2	8.1
古武道		*19	84.2	5.3	10.5
その他		*13	84.6	0.0	15.4
門下生人数別	10人未満	61	80.3	4.9	14.8
	10人以上20人未満	68	79.4	7.4	13.2
	20人以上30人未満	34	79.4	11.8	8.8
	30人以上50人未満	35	82.9	8.6	8.6
	50人以上	*13	69.2	15.4	15.4

*基数が少ないため参考値

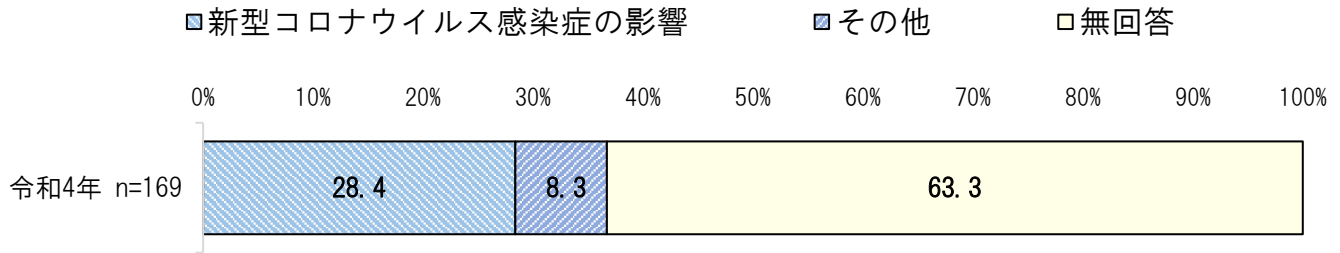
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

■県外からの受入状況（コロナ禍）

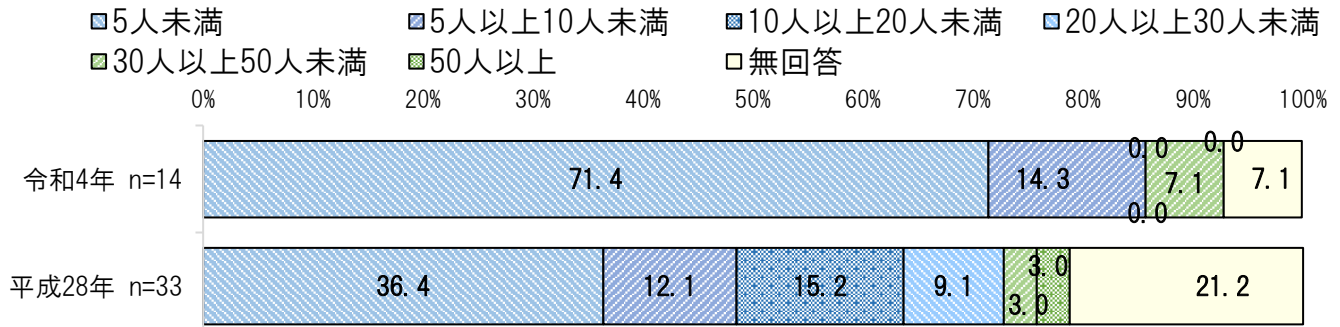


第2章 県内空手道場主向け調査結果

■受け入れていない理由



■県外初回の年間延べ人数（コロナ禍）



■最長指導日数

初回	4.4日
リピーター	3.2日

■最短指導日数

初回	2.5日
リピーター	1.2日

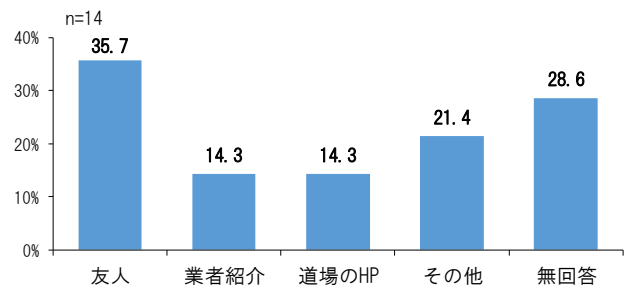
■平均指導日数

初回	2.0日
リピーター	2.0日

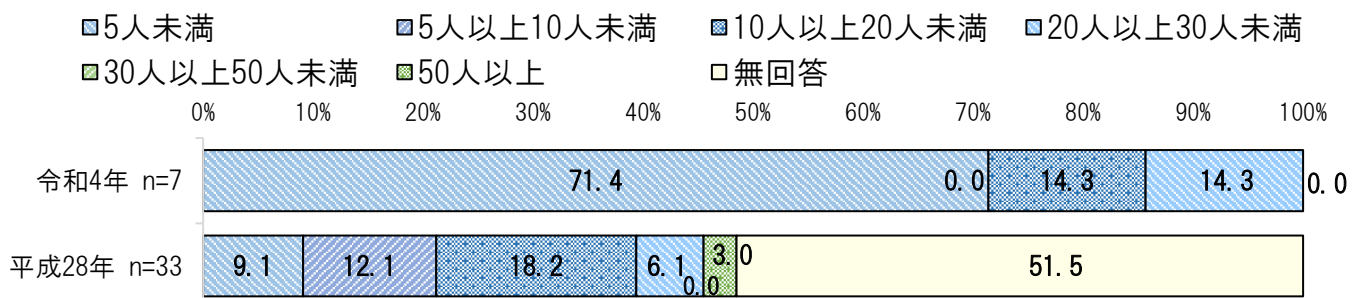
■来訪者の代表的な都道府県

初回		リピーター	
1. 東京都	44.4 (%)	1. 東京都	63.6 (%)
2. 大阪府	11.1	2. 大阪府	9.1
3. 兵庫県	11.1	3. 岐阜県	9.1
4. 京都府	5.6	4. 福岡県	9.1
5. 岐阜県	5.6	5. 兵庫県	9.1
6. 愛知県	5.6		
7. 埼玉県	5.6		
8. 静岡県	5.6		
9. 福岡県	5.6		

■来訪者が道場情報を得た手段



■リピーターの年間延べ人数（コロナ禍）



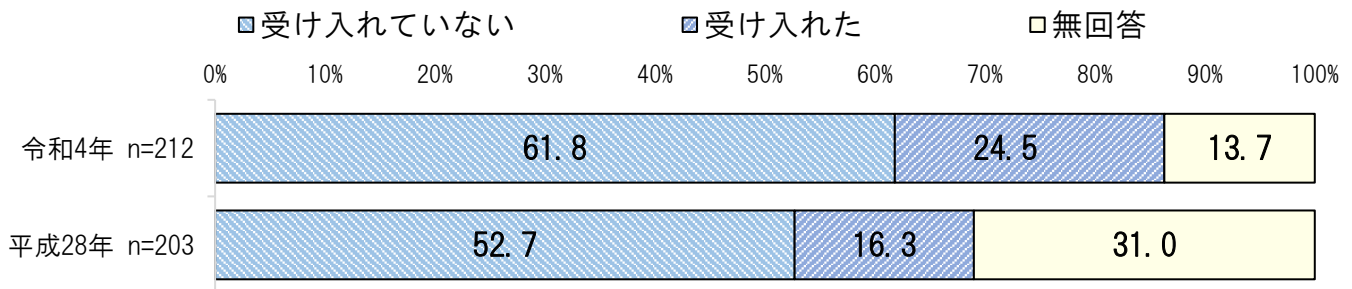
第2章 県内空手道場主向け調査結果

(15) 県外からの受け入れ状況②（コロナ前：2018年1月～12月）

Q15 あなたの道場では、新型コロナウイルス感染症が流行する前2018年1月～2018年12月の期間に県外の空手愛好家をどの程度受け入れましたか。

・コロナ前における県外からの受け入れ率について、「受け入れた」が24.5%となっており、前回調査時よりも8.2ポイント上回っている。

・門下生人数別では、門下生30人以上の道場において5割近くが県外からの受け入れを行っている。



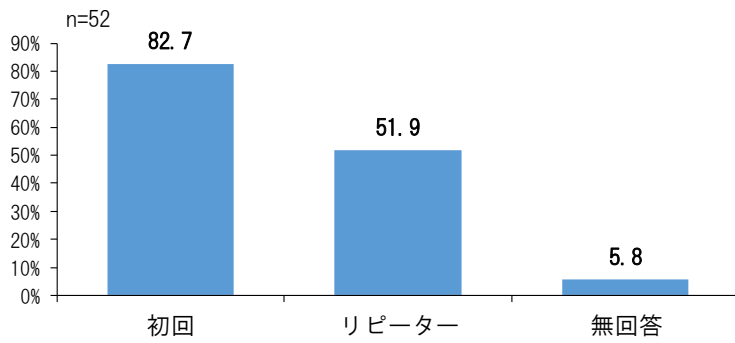
		(N=%)	受け入れていない (%)	受け入れた (%)	無回答 (%)
全体		212	61.8	24.5	13.7
道場主年代別	20代	-	0.0		
	30代	*5	60.0	40.0	0.0
	40代	*17	41.2	41.2	17.6
	50代	30	66.7	23.3	10.0
	60代	46	69.6	19.6	10.9
	70代	79	58.2	24.1	17.7
	80代以上	35	65.7	22.9	11.4
	流派別	剛柔流	58	51.7	32.8
小林流		55	63.6	27.3	9.1
上地流		30	80.0	3.3	16.7
少林流等*		37	62.2	27.0	10.8
古武道		*19	57.9	26.3	15.8
その他		*13	61.5	15.4	23.1
門下生人数別	10人未満	61	80.3	3.3	16.4
	10人以上20人未満	68	60.3	23.5	16.2
	20人以上30人未満	34	58.8	32.4	8.8
	30人以上50人未満	35	42.9	48.6	8.6
	50人以上	*13	38.5	46.2	15.4

*基数が少ないため参考値

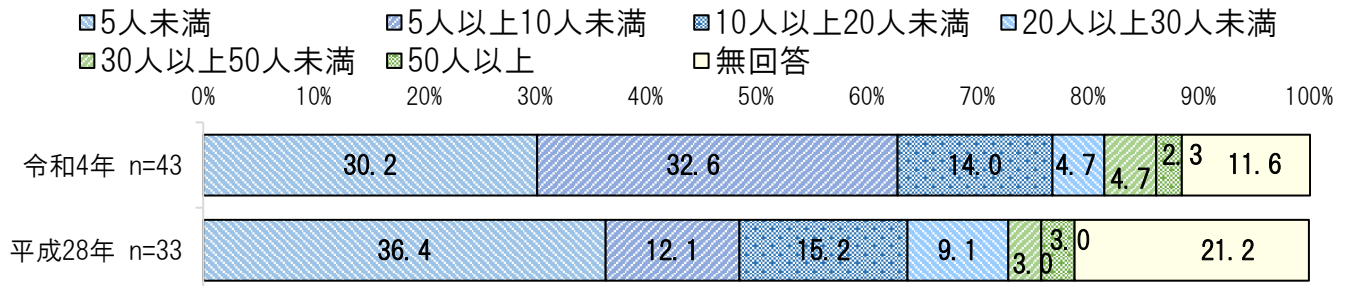
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

■県外からの受け入れ状況（コロナ前）



■県外初回の年間延べ人数（コロナ前）



■最長指導日数

初回	8.4日
リピーター	5.8日

■最短指導日数

初回	2.0日
リピーター	1.9日

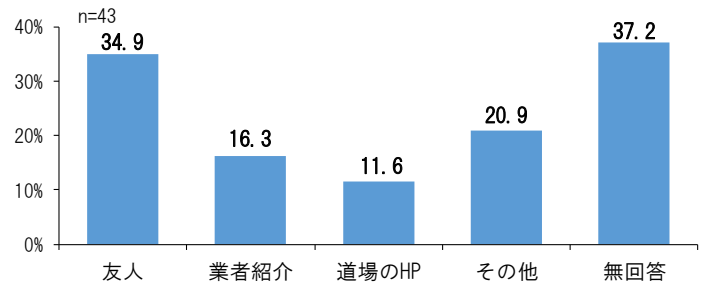
■平均指導日数

初回	3.5日
リピーター	3.3日

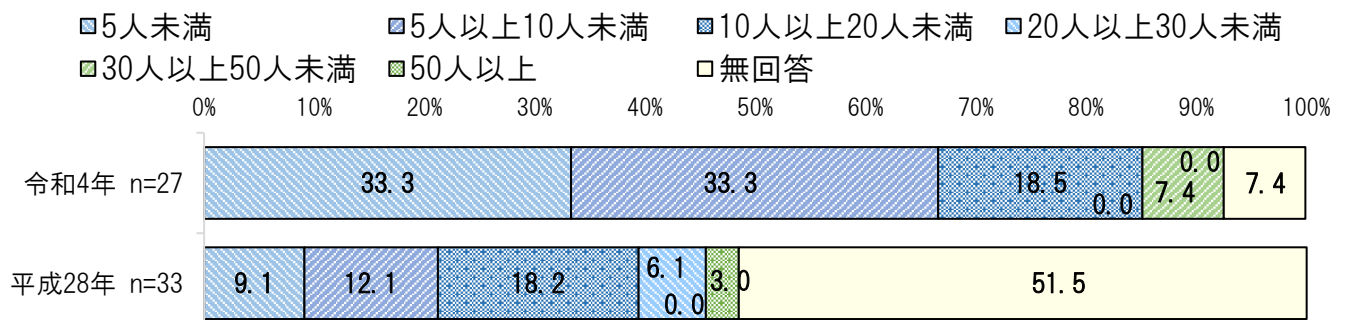
■来訪者の代表的な都道府県

初回		リピーター	
1. 東京都	22.8 (%)	1. 東京都	31.1 (%)
2. 大阪府	15.8	2. 大阪府	20.0
3. 神奈川県	12.3	3. 神奈川県	11.1
4. 愛知県	7.0	4. 兵庫県	6.7
5. 京都府	5.3	5. 福岡県	4.4
6. その他	3.5	6. 京都府	4.4
7. 宮崎県	3.5	7. 岐阜県	2.2
8. 兵庫県	3.5	8. 長野県	2.2
9. 鹿児島県	3.5	9. 三重県	2.2
10. 高知県	1.8	10. 宮崎県	2.2

■来訪者が道場情報を得た手段



■県外リピーターの年間延べ人数（コロナ前）

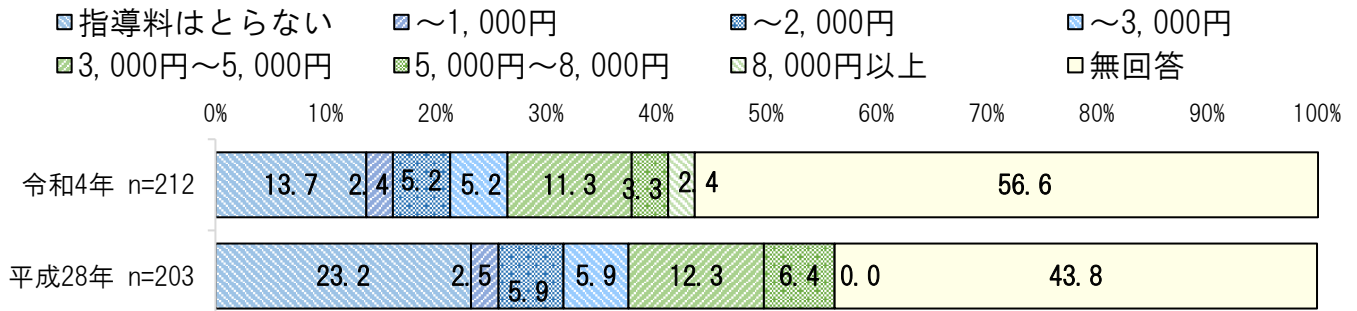


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(16) 受け入れの際の指導単価（県外）について

Q16 県外の空手愛好家を受け入れた際の指導単価は次のどれですか。（1人・1回2時間～3時間程度）

・県外から空手愛好家を受け入れた際の指導単価は、「指導料はとらない」と回答した道場が13.7%。（前回調査23.2%）



		(N=/%)	指導料はとらない	～1,000円	～2,000円	～3,000円	3,000円～5,000円	5,000円～8,000円	8,000円以上	無回答
全体		212	13.7	2.4	5.2	5.2	11.3	3.3	2.4	56.6
道場主年代別	20代	-								
	30代	*5	20.0		20.0		20.0			40.0
	40代	*17	17.6	5.9	11.8	11.8	5.9			47.1
	50代	30	20.0	6.7	6.7	13.3	3.3			50.0
	60代	46	8.7	8.7	2.2	17.4	2.2			60.9
	70代	79	10.1	1.3	6.3	5.1	8.9	2.5	3.8	62.0
	80代以上	35	22.9	5.7	2.9	2.9	5.7	5.7	2.9	51.4
流派別	剛柔流	58	5.2	1.7	5.2	5.2	13.8	3.4	3.4	62.1
	小林流	55	12.7	1.8	5.5	5.5	10.9	1.8	1.8	60.0
	上地流	30	23.3	3.3	3.3	3.3				66.7
	少林流等*	37	18.9	2.7	10.8	5.4	10.8	8.1	5.4	37.8
	古武道	*19	15.8	5.3	5.3		21.1	5.3		47.4
	その他	*13	15.4	7.7	7.7	7.7				61.5
門下生人数別	10人未満	61	9.8	4.9	8.2	1.6	4.9	3.3		67.2
	10人以上20人未満	68	16.2	1.5	2.9	1.5	14.7	2.9	4.4	55.9
	20人以上30人未満	34	14.7	5.9	11.8		11.8	2.9		52.9
	30人以上50人未満	35	14.3	2.9	5.7	8.6	11.4	5.7	5.7	45.7
	50人以上	*13	15.4		15.4		23.1			46.2

*基数が少ないため参考値

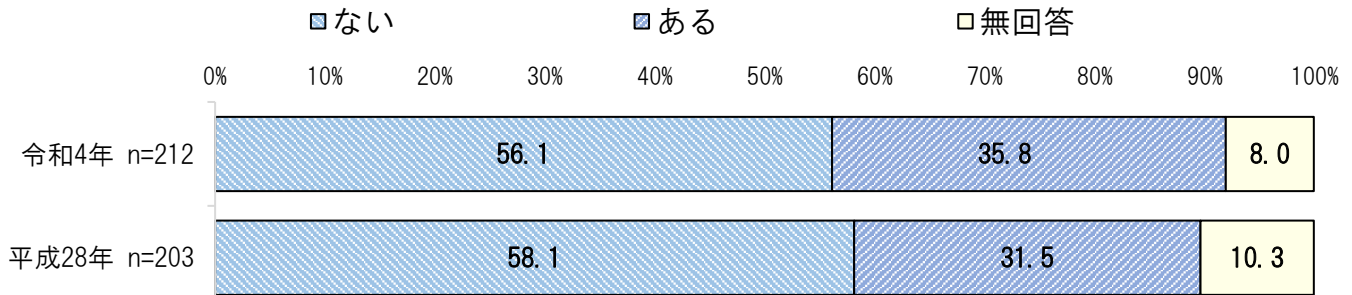
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

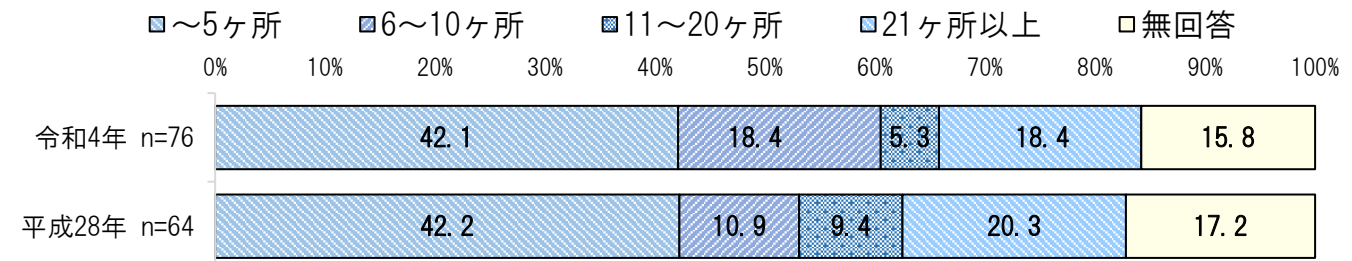
(17) 海外支部の有無

Q17 あなたの道場に海外の支部はありますか。

- ・海外支部の有無について、「ない」が56.1%（前回調査58.1%）、「ある」が35.8%（前回調査31.5%）で、「ある」と回答した道場が4.3ポイント増加している。
- ・海外支部の道場数の平均は24.6カ所。海外支部がある代表的な国として「米国」（24.4%）が最も多い。



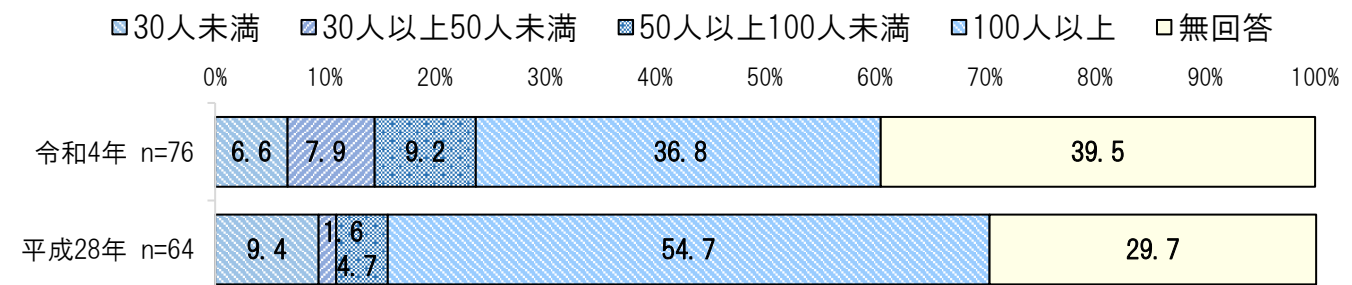
■海外支部の道場数 平均：24.6ヶ所（H28 平均：10.5カ所）



■海外支部がある代表的な国名

1. 米国	24.4 (%)
2. オーストラリア	9.8
3. インド	7.9
4. カナダ	7.9
5. フランス	6.7
6. アルゼンチン	5.5
7. ドイツ	4.3
8. イタリア	3.7
9. イギリス	3.7
10. ロシア	3.0

■海外支部の門下生人数 平均：8,550.3人

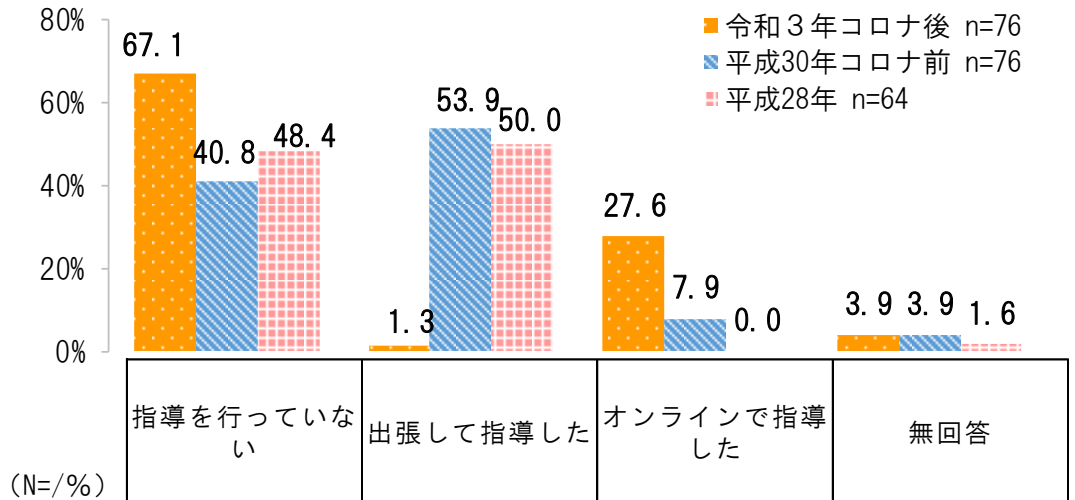


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(18) 海外支部への指導について①（コロナ禍：2021年1月～12月）

Q18 あなたは、2021年1月～2021年12月の期間に海外支部への指導を行いましたか。

・海外支部への指導におけるコロナ禍の影響について、令和3年（コロナ禍）では「指導を行っていない」が67.1%。一方、平成30年（コロナ前）は「出張して指導した」との回答が過半数（53.9%）を占める。
 ・令和3年（コロナ禍）は、「オンラインで指導を行った」が27.6%となっており、オンラインでの指導に切り替えた道場が全体の4分の1を占めている。



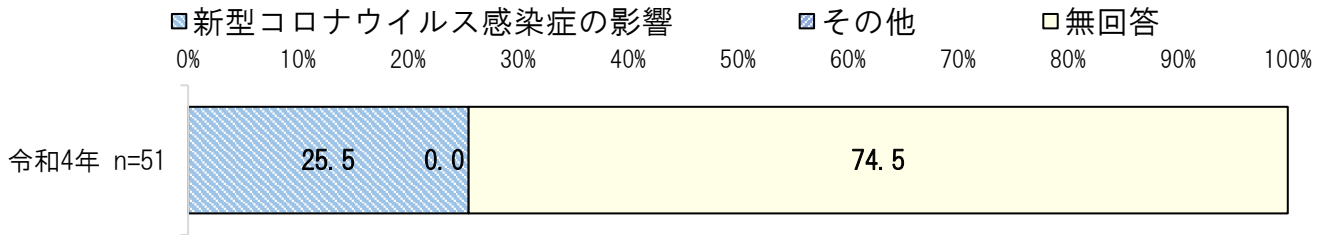
		(N=/%)	指導を行っていない	出張して指導した	オンラインで指導した	無回答
全体		76	67.1	1.3	27.6	3.9
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-
	30代	*3	66.7	-	33.3	-
	40代	*5	20.0	-	80.0	-
	50代	*11	72.7	-	18.2	9.1
	60代	*10	80.0	10.0	10.0	-
	70代	*29	62.1	-	31.0	6.9
	80代以上	*18	77.8	-	22.2	-
流派別	剛柔流	*22	63.6	4.5	27.3	4.5
	小林流	*19	57.9	-	42.1	-
	上地流	*7	57.1	-	42.9	-
	少林流等*	*17	82.4	-	11.8	5.9
	古武道	*10	70.0	-	20.0	10.0
	その他	*1	100.0	-	-	-
門下生人数別	10人未満	*11	72.7	-	18.2	9.1
	10人以上20人未満	*27	74.1	3.7	18.5	3.7
	20人以上30人未満	*16	75.0	-	25.0	-
	30人以上50人未満	*13	38.5	-	53.8	7.7
	50人以上	*9	66.7	-	33.3	-

*基数が少ないため参考値

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

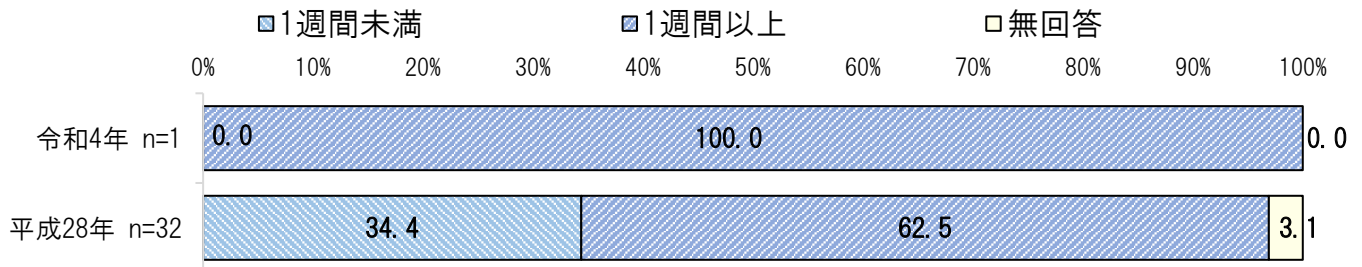
■指導を行っていない理由



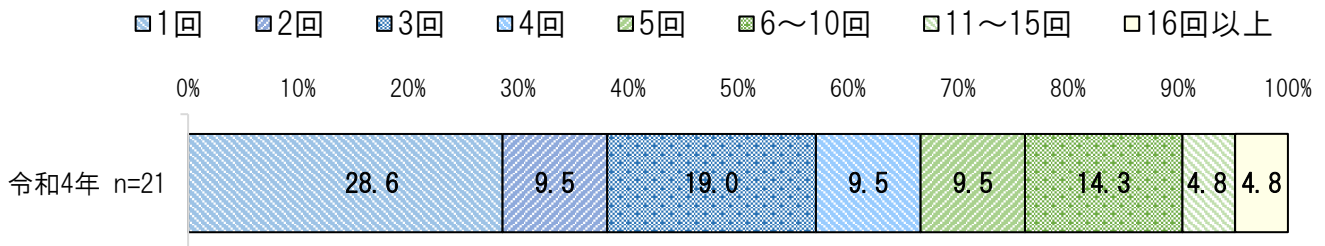
■海外支部へ出張した国名

1. ドバイ 100.0 (%)

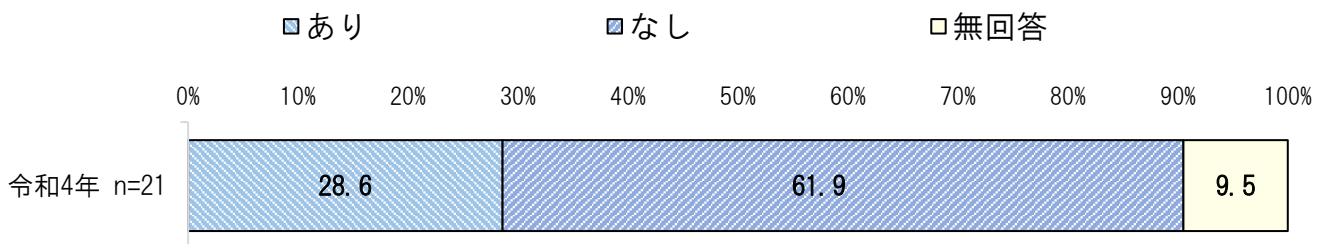
■海外支部へ平均滞在日数（コロナ禍） 平均：7.0日（H28 平均：11.2日）



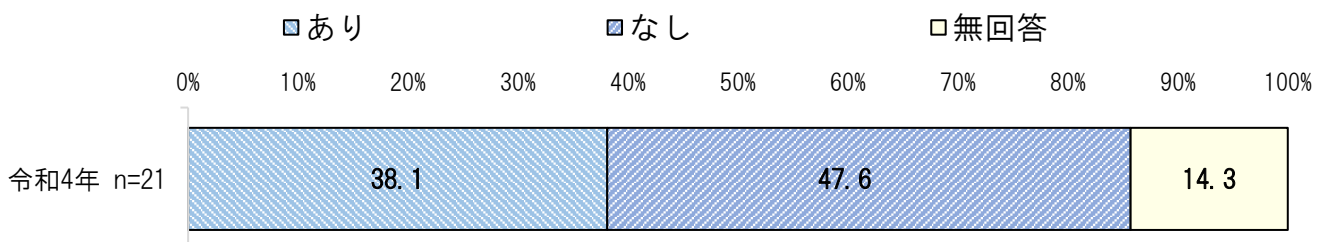
■オンライン指導回数（コロナ禍） 平均：8.8回



■オンラインで指導した開催費用（機材費、通信費等）の負担



■オンラインで指導した受講料の有無



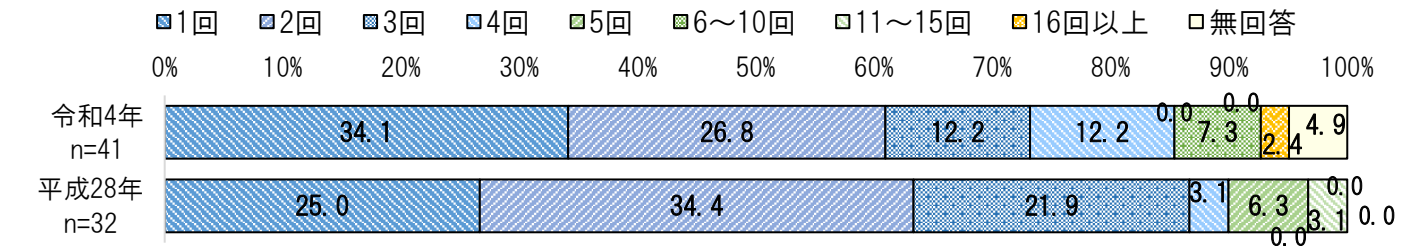
第2章 県内空手道場主向け調査結果

(19) 海外支部への指導について②(コロナ前：2018年1月～12月)

Q19 あなたの道場では、新型コロナウイルス感染症が流行する前2018年1月～2018年12月の期間に海外支部への指導を行いましたか。

- ・平成30年(コロナ前)における海外支部への指導について、出張回数の平均が7.6回。前回調査では平均2.6回であったため、海外支部への指導回数が増えている。
- ・出張指導先は、「米国」(22.9%)、「カナダ」(11.4%)で北米が3割を占める。

■海外支部へ出張回数(コロナ前) 平均：7.6回 (H28 平均：2.6回)



		(N=/%)	1回	2回	3回	4回	5回	6～10回	11～15回	16回以上	無回答	
全体		41	34.1	26.8	12.2	12.2	7.3	2.4	4.9	0.0	0.0	
道場主年代別	20代	-	-									
	30代	*1	100.0									
	40代	*4	25.0	50.0	25.0	-						
	50代	*7	28.6	42.9	14.3	14.3	-					
	60代	*4	50.0	25.0	25.0	-						
	70代	*15	33.3	26.7	6.7	26.7	6.7	-				
	80代以上	*10	40.0	40.0	10.0	10.0	-					
流派別	剛柔流	*13	23.1	15.4	15.4	23.1	7.7	15.4	-			
	小林流	*11	45.5	27.3	18.2	9.1	-					
	上地流	*4	50.0	25.0	25.0	-						
	少林流等*	*6	83.3	16.7	-							
	古武道	*7	28.6	57.1	14.3	-						
	その他	-	-									
門下生人数別	10人未満	*7	71.4	14.3	14.3	-						
	10人以上20人未満	*12	25.0	41.7	16.7	16.7	-					
	20人以上30人未満	*8	37.5	12.5	12.5	12.5	25.0	-				
	30人以上50人未満	*8	25.0	37.5	12.5	12.5	12.5	-				
	50人以上	*6	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	-				

*基数が少ないため参考値

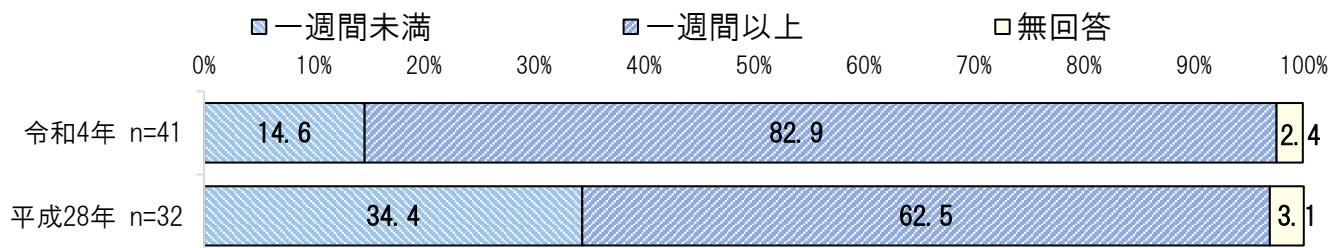
※少林流等は、少林流、松林流(松源流、松真流)、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

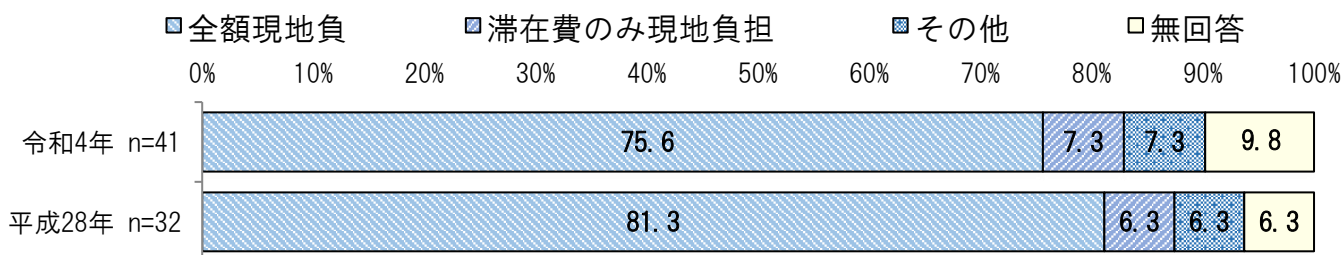
■海外支部へ出張した国名

1. 米国	22.9	(%)
2. カナダ	11.4	
3. ロシア	7.1	
4. インド	5.7	
5. フランス	5.7	
6. オーストラリア	5.7	
7. イギリス	4.3	
8. イタリア	4.3	
9. ドイツ	4.3	
10. ドバイ	1.4	

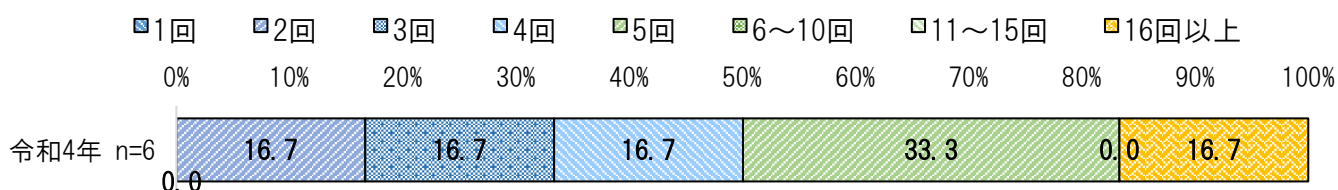
■海外支部へ平均滞在日数（コロナ前） 平均：8.8日（H28 平均：11.2日）



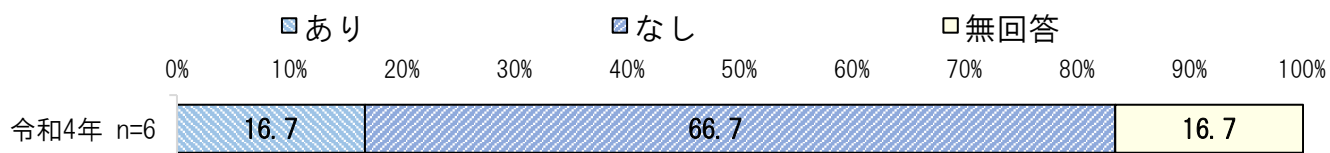
■旅費の負担



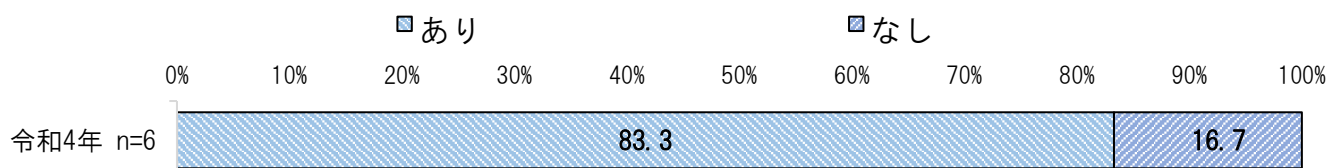
■オンライン指導回数（コロナ前） 平均：10.8回



■オンラインで指導した開催費用（機材費、通信費等）の負担



■オンラインで指導した受講料の有無

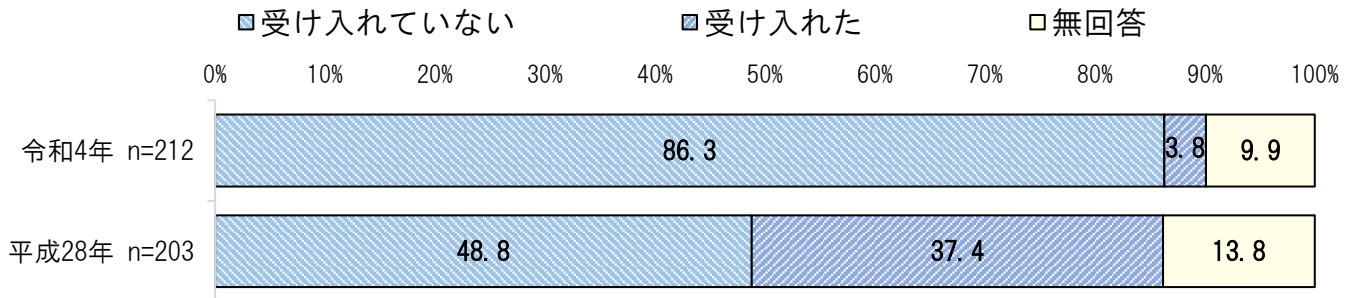


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(20) 外国人受け入れ状況①（コロナ禍：2021年1月～12月）

Q20 あなたの道場では、2021年1月～2021年12月の期間に外国人の空手愛好家をどの程度受け入れましたか。

・外国人の受け入れ率について、コロナ禍では86.3%が受け入れを行っていない。



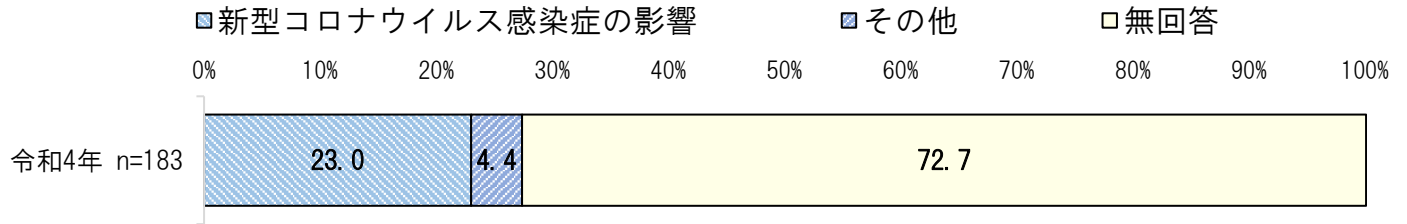
		(N=/%)	受け入れていない	受け入れた	無回答
全体		212	86.3	3.8	9.9
道場主年代別	20代	-	0.0		
	30代	*5	100.0		0.0
	40代	*17	76.5	17.6	5.9
	50代	30	93.3	3.3	3.3
	60代	46	89.1	2.2	8.7
	70代	79	82.3	3.8	13.9
	80代以上	35	88.6	0.0	11.4
	流派別	剛柔流	58	82.8	8.6
小林流		55	89.1	3.6	7.3
上地流		30	86.7	0.0	13.3
少林流等*		37	86.5	2.7	10.8
古武道		*19	84.2	0.0	15.8
その他		*13	92.3	0.0	7.7
門下生人数別	10人未満	61	82.0	3.3	14.8
	10人以上20人未満	68	91.2	1.5	7.4
	20人以上30人未満	34	82.4	8.8	8.8
	30人以上50人未満	35	91.4	2.9	5.7
	50人以上	*13	84.6	7.7	7.7

*基数が少ないため参考値

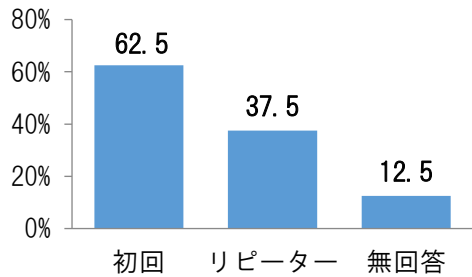
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

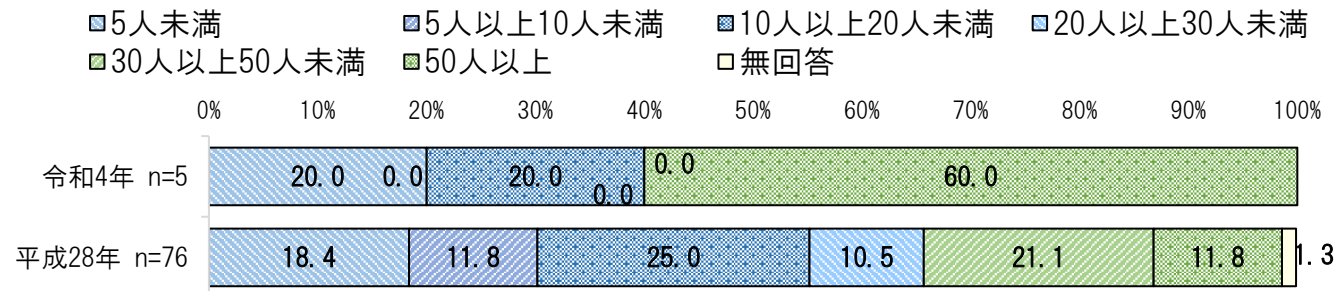
■受け入れていない理由



■外国人受け入れ状況



■外国人初回年間延べ人数（コロナ禍）



■最長指導日数

初回	77.5 日
リピーター	30.5 日

■最短指導日数

初回	6.0 日
リピーター	60.0 日

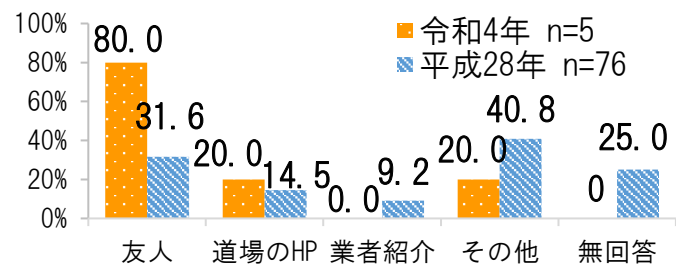
■平均指導日数

初回	51.3 日
リピーター	60.0 日

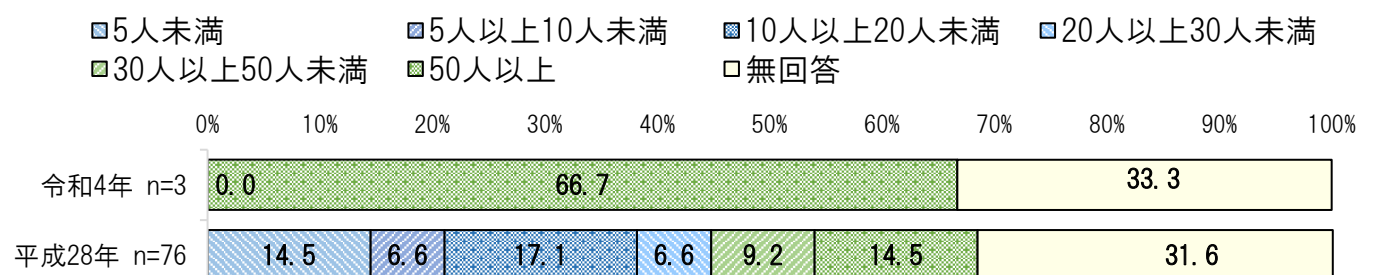
■来訪者の代表的な国名

初回		リピーター	
1. 米国	27.3 (%)	1. 米国	25.0 (%)
2. カナダ	18.2	2. パナマ	25.0
3. オーストラリア	9.1	3. 香港	25.0
4. パナマ	9.1	4. イタリア	25.0
5. ブラジル	9.1		
6. アイルランド	9.1		
7. バングラデシュ	9.1		
8. 日本	9.1		

■来訪者が道場情報を得た手段



■外国人リピーター年間延べ人数（コロナ禍）

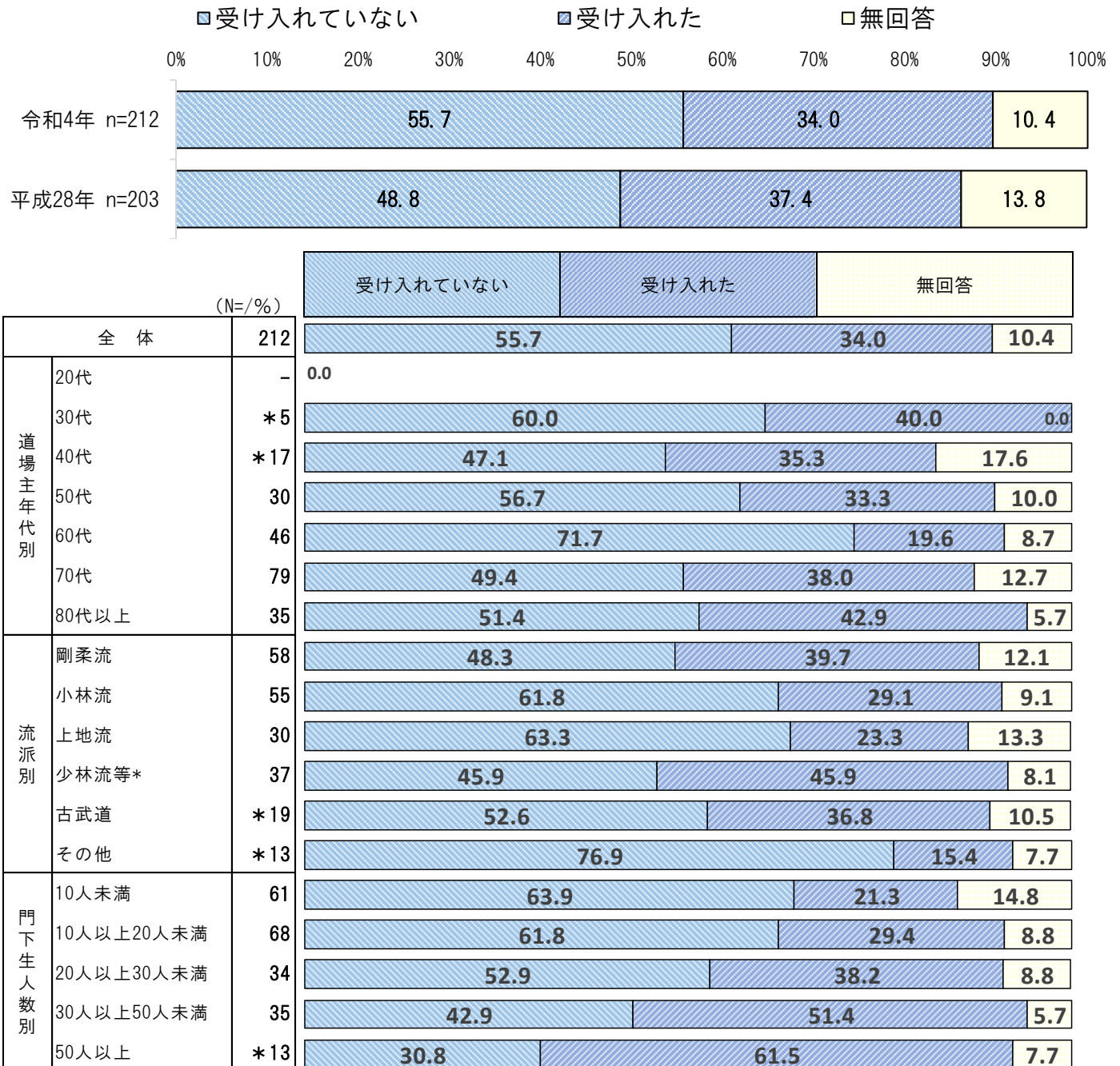


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(21) 外国人受け入れ状況②（コロナ前：2018年1月～12月）

Q21 あなたの道場では、新型コロナウイルス感染症が流行する前2018年1月～2018年12月の期間に外国人の空手愛好家をどの程度受け入れましたか。

- ・コロナ前の外国人受け入れ率は34%。（前回調査37.4%）
- ・門下生人数別で見ると、30人以上の道場では約5割以上が受け入れている。
- ・来訪者の出身国は初回・リピーターとも「米国」が多く、2割以上を占める。

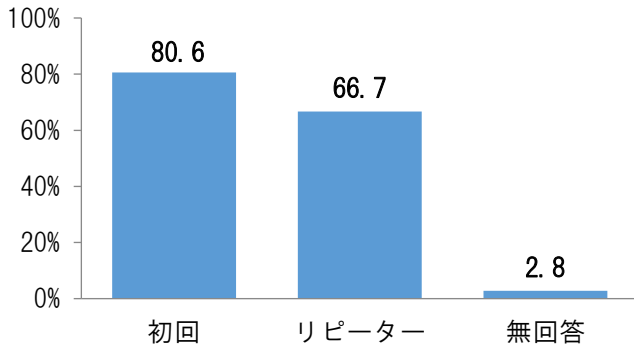


*基数が少ないため参考値

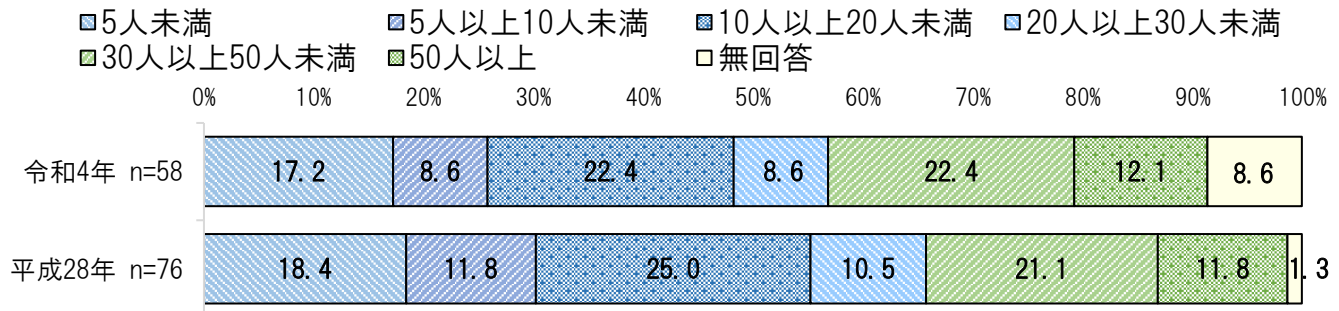
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

■外国人受け入れ状況



■外国人初回年間延べ人数（コロナ前）



■最長指導日数

初回	19.4 日
リピーター	13.9 日

■最短指導日数

初回	3.6 日
リピーター	4.2 日

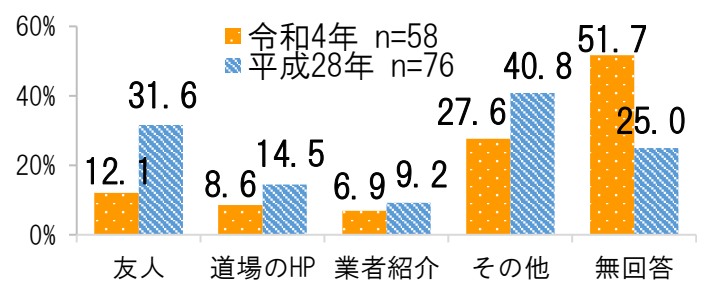
■平均指導日数

初回	4.9 日
リピーター	6.6 日

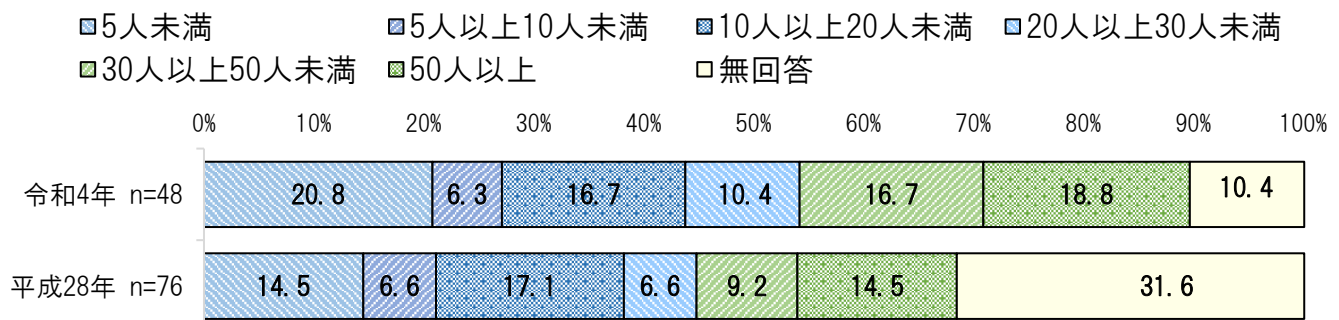
■来訪者の代表的な国名

初回		リピーター	
1. 米国	22.8 (%)	1. 米国	20.8 (%)
2. オーストラリア	10.6	2. カナダ	11.5
3. フランス	9.8	3. オーストラリア	10.4
4. ドイツ	7.3	4. フランス	7.3
5. インド	5.7	5. ドイツ	6.3
6. カナダ	5.7	6. アルゼンチン	5.2
7. イギリス	5.7	7. 日本	3.1
8. ロシア	2.4	8. ロシア	3.1
9. イタリア	2.4	9. イギリス	3.1
10. ポーランド	2.4	10. インド	3.1

■来訪者が道場情報を得た手段



■外国人リピーター年間延べ人数（コロナ前）

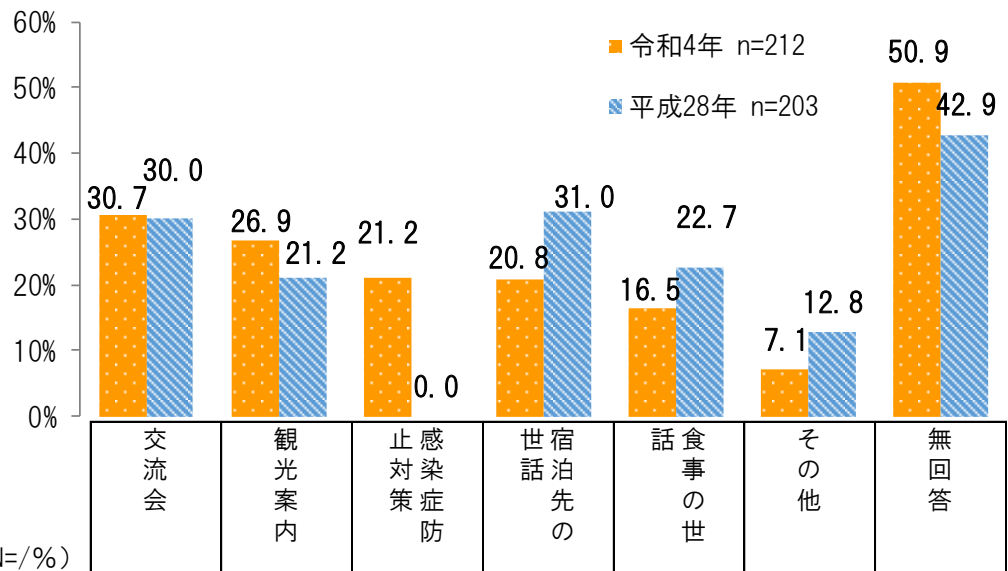


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(22) 外国人受入れの際の配慮について

Q22 外国人の空手愛好家を受け入れる際に配慮していることはどれですか。

・外国人の空手愛好家に配慮していることは、「交流会」(30.7%)が最も高く、次いで「観光案内」(26.9%)となっている。



		(N=/%)	交流会	観光案内	止対策	世宿話	話食事	その他	無回答
全体		212	30.7	26.9	21.2	20.8	16.5	7.1	50.9
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	*5	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	-	40.0
	40代	*17	29.4	29.4	29.4	23.5	29.4	11.8	52.9
	50代	30	30.0	26.7	20.0	16.7	20.0	3.3	53.3
	60代	46	19.6	17.4	15.2	13.0	8.7	2.2	60.9
	70代	79	30.4	24.1	19.0	20.3	13.9	10.1	50.6
	80代以上	35	42.9	40.0	25.7	28.6	20.0	8.6	37.1
	流派別	剛柔流	58	24.1	27.6	27.6	25.9	17.2	6.9
小林流		55	34.5	20.0	12.7	23.6	21.8	5.5	52.7
上地流		30	23.3	23.3	26.7	20.0	6.7	6.7	53.3
少林流等*		37	37.8	37.8	21.6	16.2	16.2	16.2	43.2
古武道		*19	47.4	36.8	21.1	15.8	21.1	-	47.4
その他		*13	15.4	15.4	15.4	7.7	7.7	-	76.9
門下生人数別	10人未満	61	19.7	18.0	16.4	16.4	9.8	13.1	60.7
	10人以上20人未満	68	22.1	20.6	22.1	17.6	11.8	4.4	57.4
	20人以上30人未満	34	41.2	41.2	29.4	32.4	29.4	8.8	38.2
	30人以上50人未満	35	45.7	34.3	25.7	22.9	22.9	-	37.1
	50人以上	*13	61.5	46.2	7.7	23.1	23.1	7.7	38.5

*基数が少ないため参考値

※「全体」に比べて ■ +10 pt以上 ■ +5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ -5 pt以下 (n=30未満は除く)

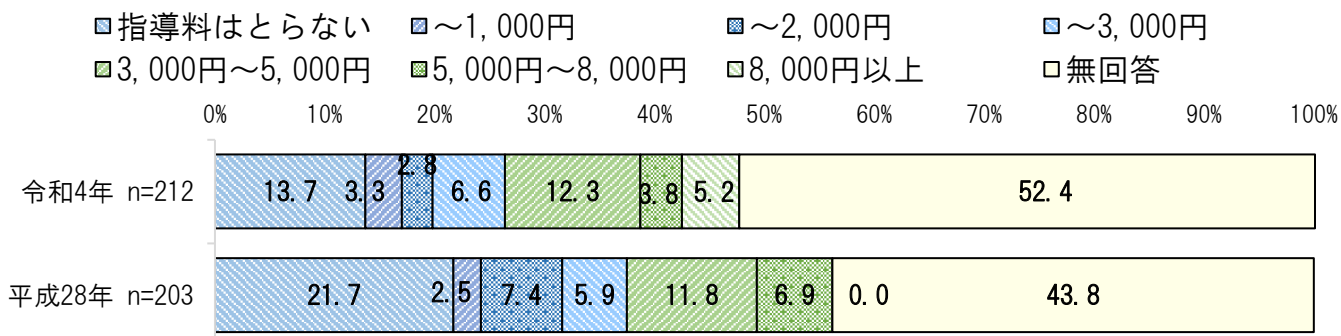
※少林流等は、少林流、松林流(松源流、松真流)、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(23) 受け入れの際の指導単価（外国人）について

Q23 外国人の空手愛好家を受け入れた際の指導単価は次のどれですか。（1人・1回2時間～3時間程度）

- ・空手愛好家を受け入れた際の指導単価について、「指導料はとらない」が13.7%となっており、前回調査（21.7%）と比較して8ポイント減少している。
- ・年代別では、50代、80代以上で2割が指導料をとっていない。



		(N=/%)	指導料はとらない	～1,000円	～2,000円	～3,000円	3,000円～5,000円	5,000円～8,000円	8,000円以上	無回答	
全体		212	13.7	3.3	2.8	6.6	12.3	3.8	5.2	52.4	
道場主年代別	20代	-									
	30代	*5				20.0				40.0	
	40代	*17	5.9	11.8	11.8	5.9	5.9			58.8	
	50代	30	20.0	3.3	6.7	13.3	6.7	3.3		46.7	
	60代	46	10.9	2.2	4.3	15.2	2.2	2.2		63.0	
	70代	79	12.7	3.8	6.3	7.6	7.6	2.5	5.1	54.4	
	80代以上	35	20.0		5.7	2.9	5.7	17.1	5.7	5.7	37.1
	流派別	剛柔流	58	10.3	3.4	3.4	8.6	10.3	6.9		56.9
小林流		55	9.1	1.8	1.8	7.3	14.5	1.8		63.6	
上地流		30	20.0	3.3	6.7	6.7	10.0	6.7		46.7	
少林流等*		37	24.3	2.7	5.4	10.8	8.1	2.7	10.8	35.1	
古武道		*19	10.5	5.3	5.3		31.6	5.3		42.1	
その他		*13	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7			61.5	
門下生人数別	10人未満	61	11.5	3.3	3.3	6.6	9.8	1.6		63.9	
	10人以上20人未満	68	14.7	2.9	4.4	5.9	13.2	4.4	5.9	48.5	
	20人以上30人未満	34	11.8	2.9	11.8	8.8	8.8	8.8		47.1	
	30人以上50人未満	35	14.3	5.7	2.9	2.9	11.4	5.7	8.6	48.6	
	50人以上	*13	23.1		7.7		30.8			38.5	

*基数が少ないため参考値

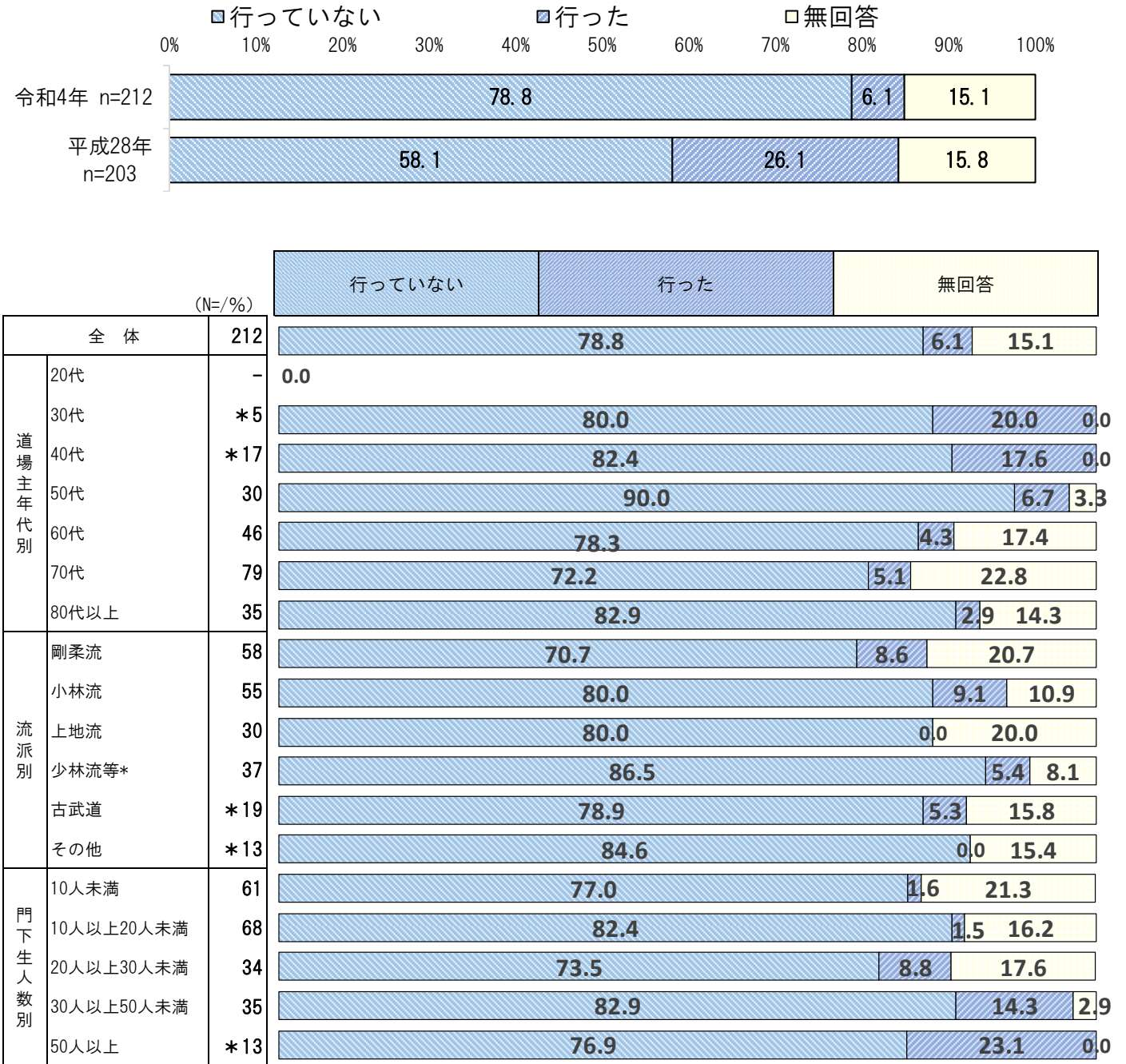
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(24) セミナー開催有無①（コロナ禍：2021年1月～12月）

Q24 あなたの道場では、2021年1月～2021年12月の期間にセミナーや講習会等をどの程度行いましたか。

・コロナ禍におけるセミナー開催の有無について、「行っていない」と回答した道場が78.8%となっている。（前回調査58.1%）

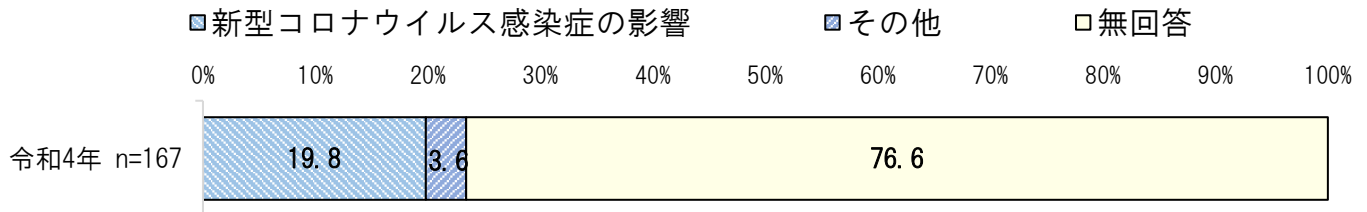


*基数が少ないため参考値

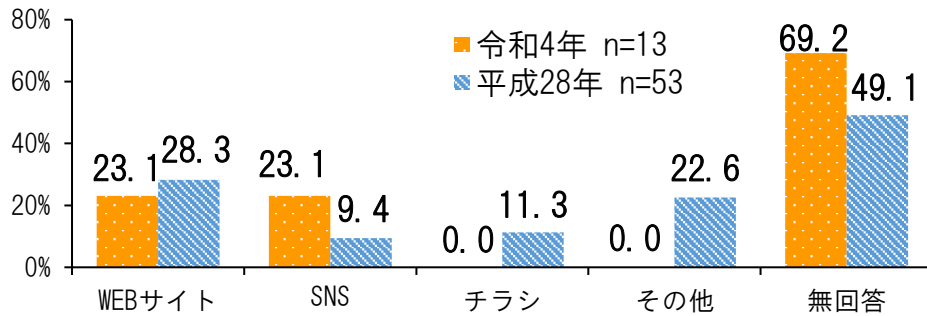
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

■行っていない理由



■告知方法



■セミナー開催平均数

県内	4.0回
県外	2.0回
海外	4.3回

■県内開催場所【コロナ禍】

1. 空手会館	25.0 (%)
2. 道場	25.0
3. 自宅の道場	12.5
4. 公民館	12.5
5. 那覇市	12.5
6. 本部道場	12.5

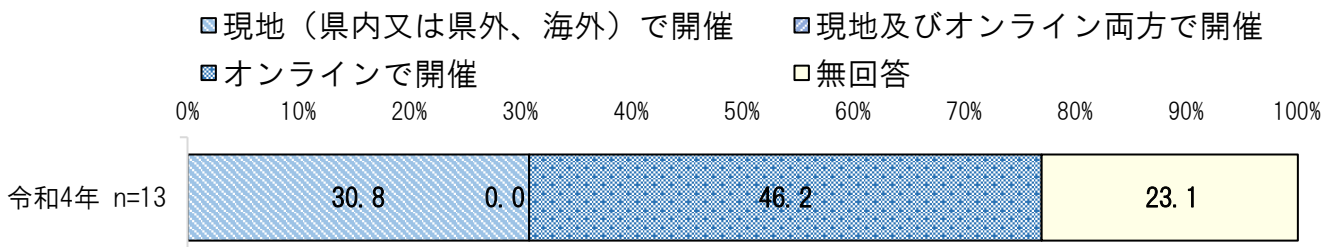
■県外開催都道府県名【コロナ禍】

1. 兵庫県	50.0 (%)
2. 熊本県	50.0

■海外開催国名【コロナ禍】

1. 米国	20.0 (%)
2. ヨーロッパ	20.0
3. アルゼンチン	20.0
4. ブラジル	20.0
5. イギリス	20.0

■開催方法

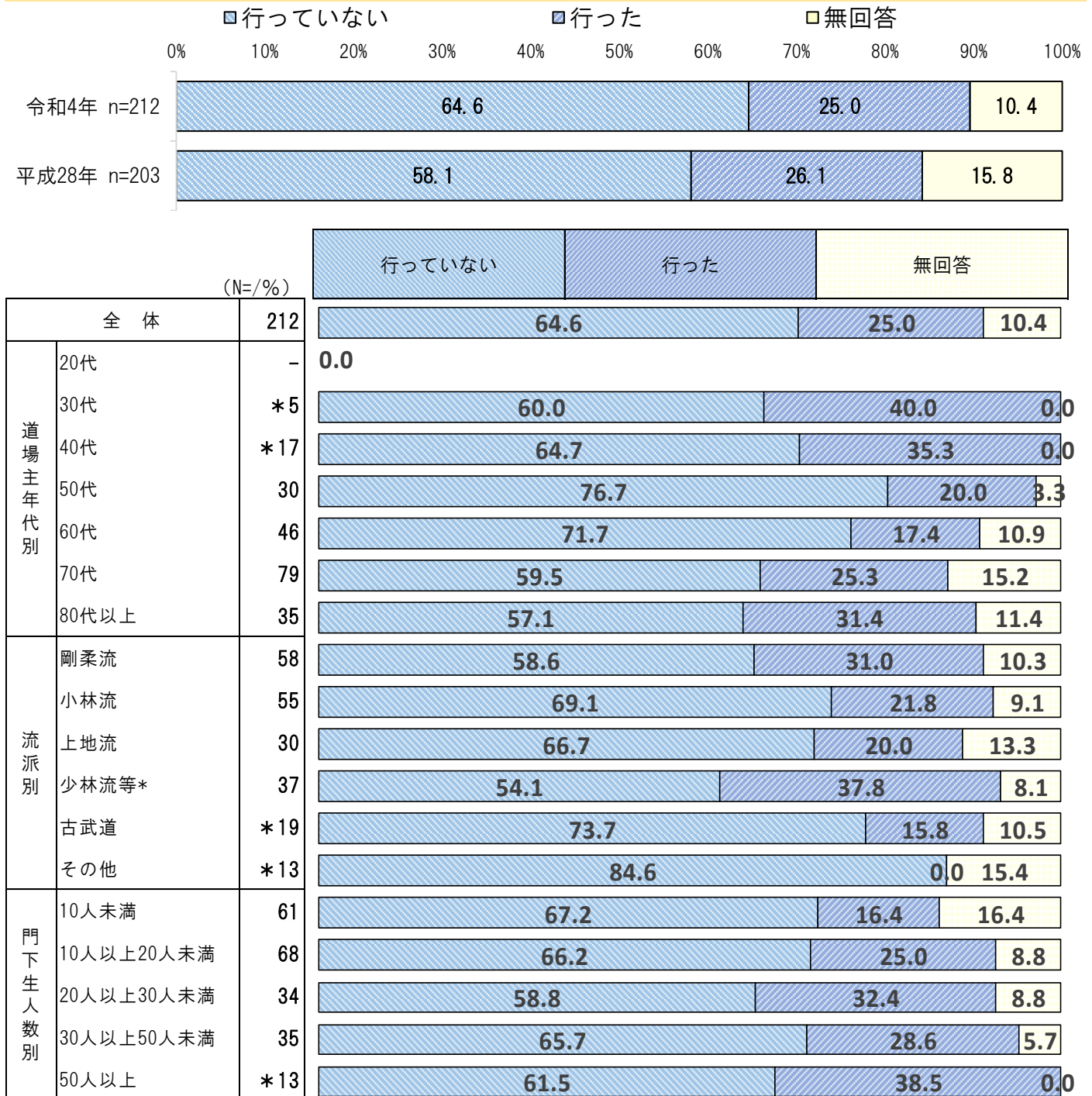


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(25) セミナー開催有無②（コロナ前：2018年1月～12月）

Q25 あなたの道場では、新型コロナウイルス感染症が流行する前2018年1月～2018年12月の期間にセミナーや講習会等をどの程度行いましたか。

- ・コロナ前におけるセミナー開催について、セミナーを「行った」と回答した道場は25%（前回調査26.1%）。
- ・セミナー開催数の平均は、県内が2.8回、県外が1.5回、海外が2.4回で県外より海外の平均開催回数が多い。

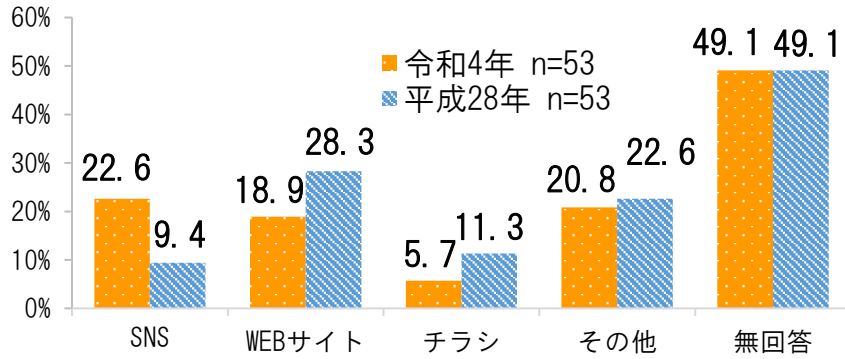


*基数が少ないため参考値

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

■告知方法



■セミナー開催数平均

県内	2.8回
県外	1.5回
海外	2.4回

■県内開催場所【コロナ前】

1. 空手会館	33.3 (%)
2. 道場	26.2
3. 那覇市	4.8
4. 嘉手納町	2.4
5. 読谷村	2.4
6. 沖縄市	2.4
7. 那覇市民体育館	2.4
8. 石川青少年の家	2.4
9. 沖縄市武道館	2.4
10. 県立武道館	2.4

■県外開催都道府県名【コロナ前】

1. 東京都	31.6 (%)
2. 大阪府	21.1
3. 宮崎県	10.5
4. 静岡県	10.5
5. 三重県	5.3
6. 千葉県	5.3
7. 北海道	5.3
8. 神奈川県	5.3
9. 兵庫県	5.3

■海外開催国名【コロナ前】

1. 米国	26.0 (%)
2. オーストラリア	10.0
3. インド	8.0
4. ドイツ	8.0
5. カナダ	6.0
6. イギリス	6.0
7. ロシア	4.0
8. アイルランド	4.0
9. 中国	4.0
10. フランス	4.0

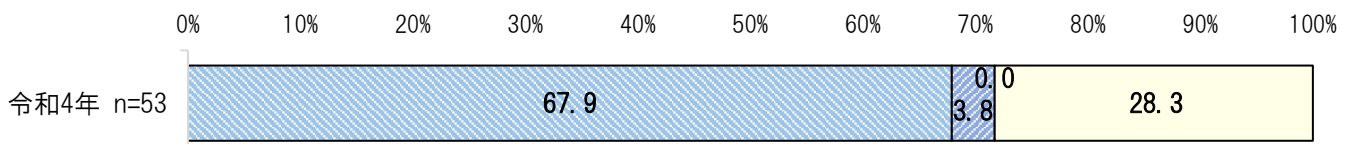
■開催方法

■ 現地（県内又は県外、海外）で開催

■ オンラインで開催

■ 現地及びオンライン両方で開催

□ 無回答

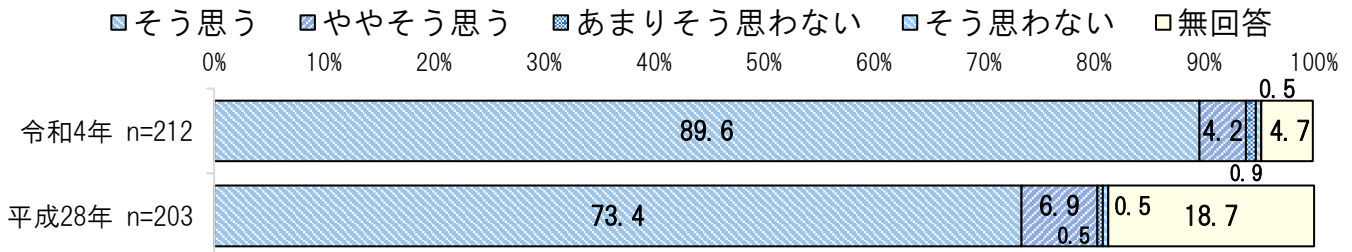


(26) 沖縄空手の魅力

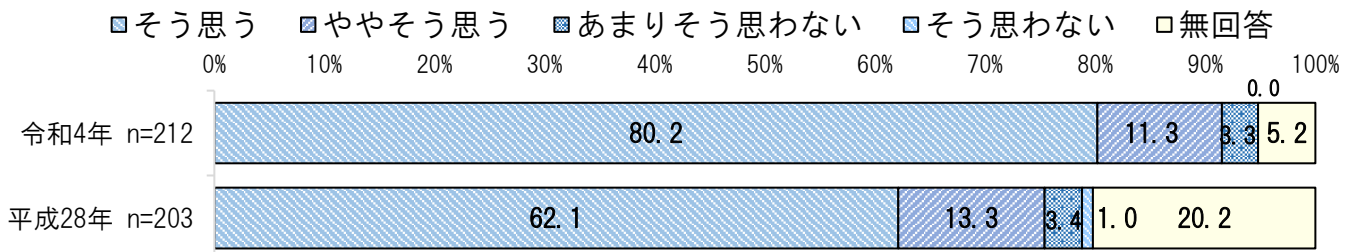
Q26 あなたが感じる沖縄空手の魅力とは何でしょうか。

・沖縄空手の魅力について、「健康増進として長く続けられる」(90.6%)が最も高く、次いで「伝統文化としての価値」(89.6%)、「精神を鍛えることができる」(80.2%)が続く。

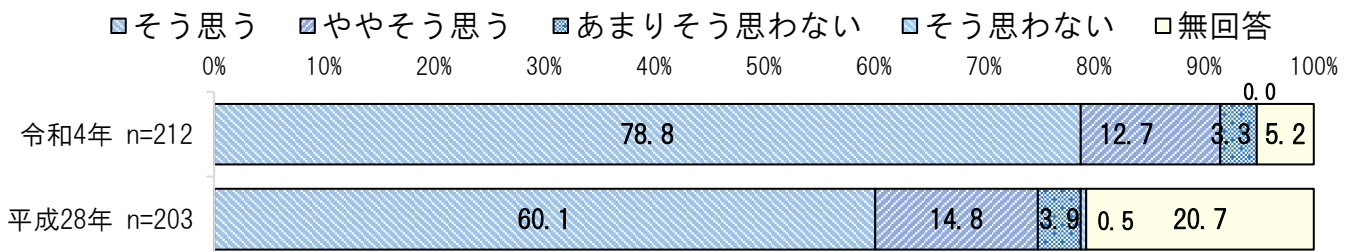
■1 伝統文化としての価値



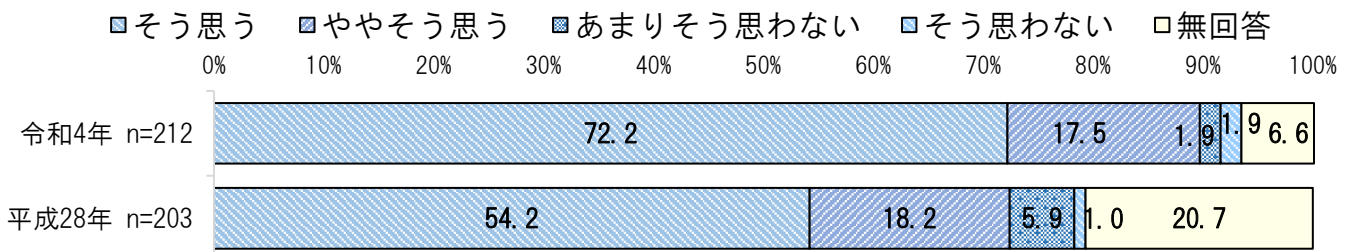
■2 精神を鍛えることができる



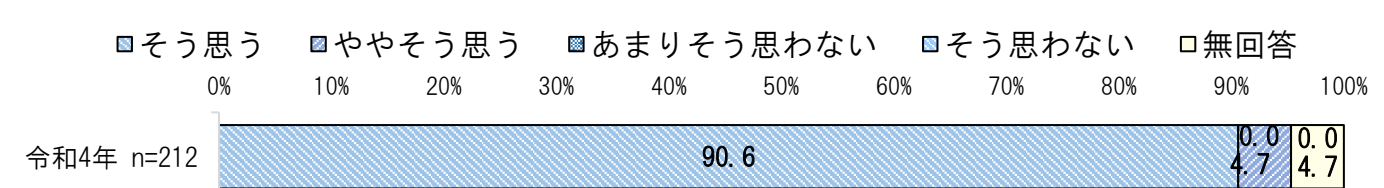
■3 礼儀を身につけることができる



■4 護身術が身につく



■5 健康増進として年齢を問わず続けられる

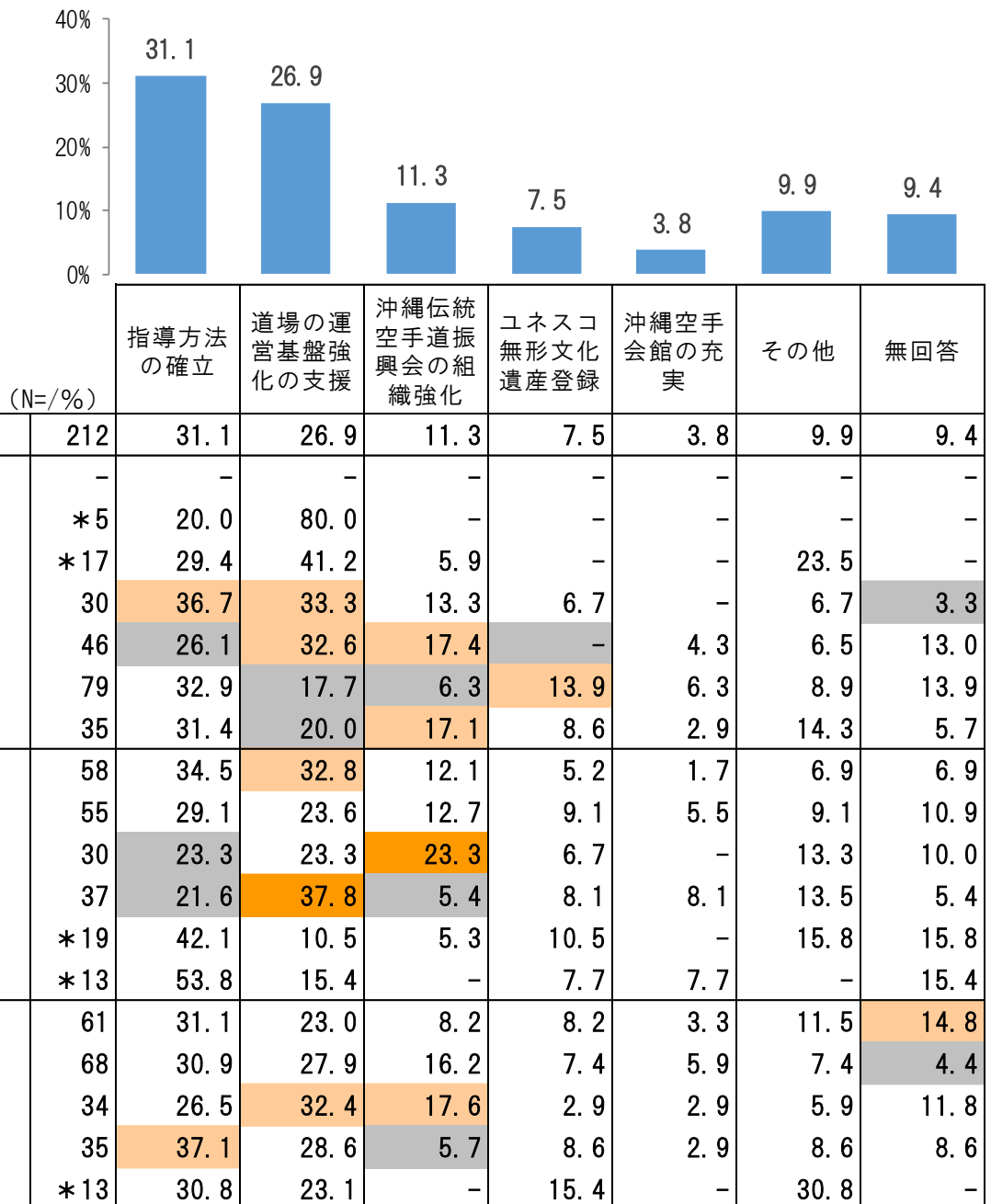


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(27) 沖縄空手の保存・継承に最も必要な取組について

Q27 沖縄空手を将来にわたって保存・継承していく上で、最も必要な取組は何でしょうか。

- ・「指導方法の確立」(31.1%)が最も高く、次いで「道場の運営基盤強化の支援」(26.9%)が続く。
- ・年代別では、30代、40代、60代で「道場の運営基盤強化の支援」と回答した割合が高く、50代、70代、80代以上では「指導方法の確立」と回答した割合が高い。



* 基数が少ないため参考値

※「全体」に比べて ■ +10 pt以上 ■ +5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ -5 pt以下 (n=30未満は除く)

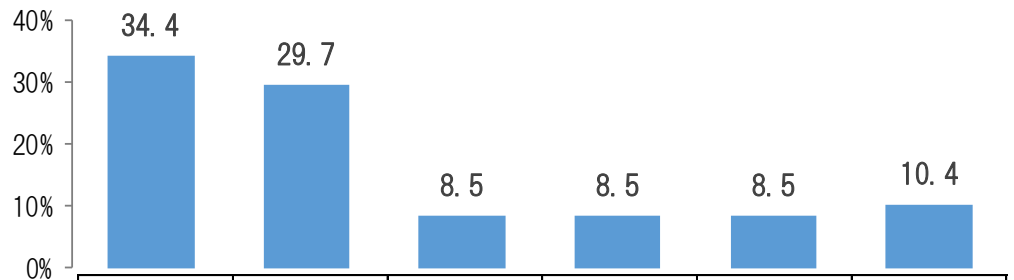
※少林流等は、少林流、松林流(松源流、松真流)、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(28) 沖縄空手の普及・啓発に最も必要な取組について

Q28 沖縄空手を国内外へ普及・啓発していく上で、最も必要な取組は何でしょうか。

- ・「学校教育での普及」(34.4%)が最も高く、次いで「世界大会の定期開催」(29.7%)が続く。
- ・門下生人数別で見ると、10人以上20人未満の道場で「学校教育での普及」(42.6%)と回答した割合が高く、10人未満の道場では「世界大会の定期開催」(36.1%)と回答した割合が高い。



		(N=/%)	学校教育での空手の普及	世界大会の定期開催	「空手の日」記念演武祭などイベント開催	各地(県内外、海外)への指導者派遣	その他	無回答
全体		212	34.4	29.7	8.5	8.5	8.5	10.4
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-	-	-
	30代	*5	40.0	60.0	-	-	-	-
	40代	*17	35.3	17.6	11.8	23.5	11.8	-
	50代	30	50.0	10.0	13.3	10.0	16.7	-
	60代	46	28.3	23.9	6.5	13.0	8.7	19.6
	70代	79	27.8	41.8	8.9	5.1	5.1	11.4
	80代以上	35	42.9	28.6	5.7	2.9	8.6	11.4
流派別	剛柔流	58	29.3	29.3	8.6	10.3	10.3	12.1
	小林流	55	30.9	30.9	7.3	10.9	10.9	9.1
	上地流	30	40.0	26.7	6.7	13.3	3.3	10.0
	少林流等*	37	35.1	32.4	10.8	5.4	8.1	8.1
	古武道	*19	36.8	42.1	5.3	-	5.3	10.5
	その他	*13	53.8	7.7	15.4	-	7.7	15.4
門下生人数別	10人未満	61	27.9	36.1	11.5	4.9	6.6	13.1
	10人以上20人未満	68	42.6	29.4	8.8	8.8	2.9	7.4
	20人以上30人未満	34	26.5	32.4	-	11.8	14.7	14.7
	30人以上50人未満	35	37.1	22.9	8.6	8.6	14.3	8.6
	50人以上	*13	38.5	15.4	15.4	15.4	15.4	-

*基数が少ないため参考値

※「全体」に比べて ■ +10 pt以上 ■ +5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ -5 pt以下 (n=30未満は除く)

※少林流等は、少林流、松林流(松源流、松真流)、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

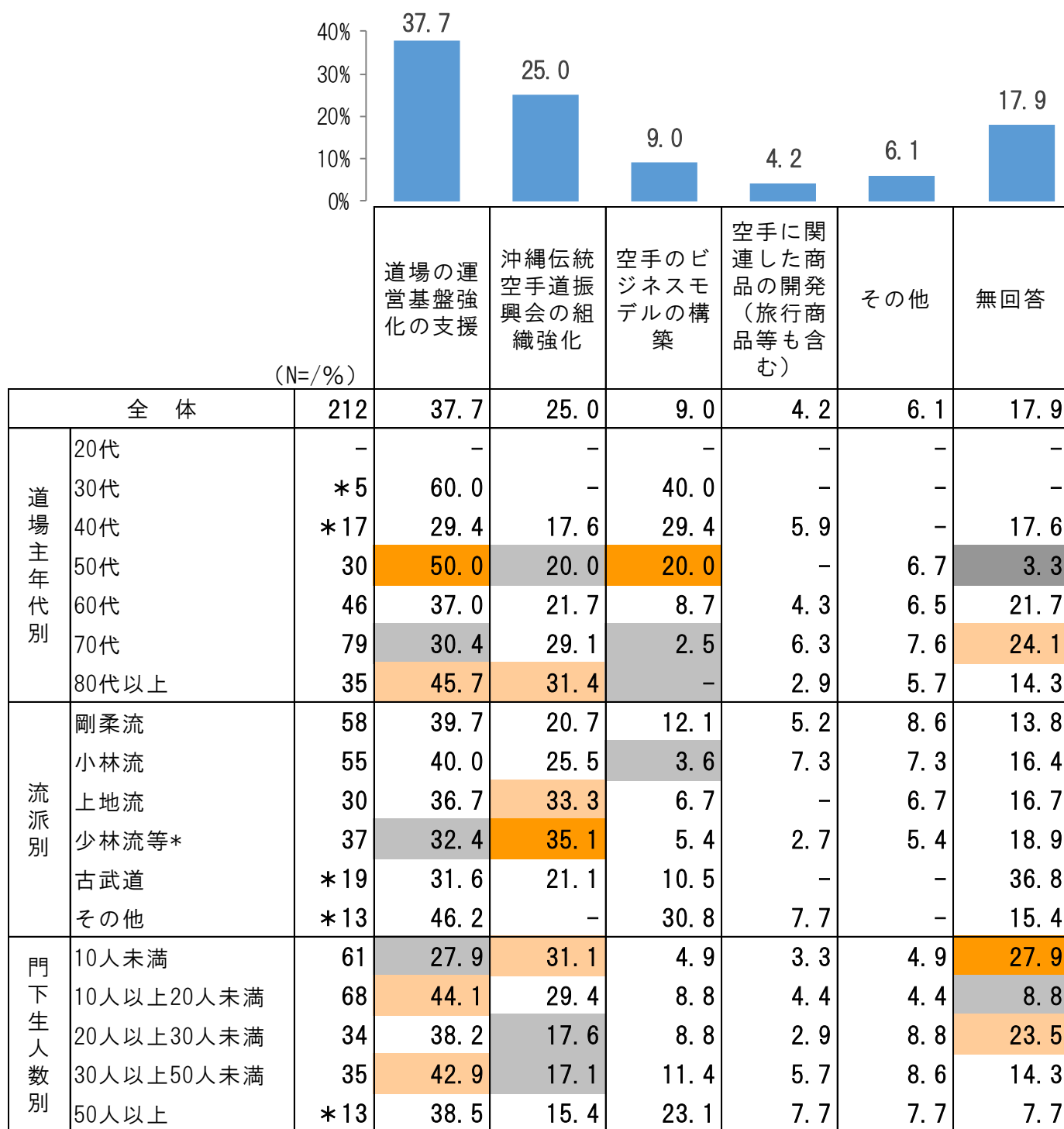
第2章 県内空手道場主向け調査結果

(29) 沖縄空手の振興・発展に最も必要な取組について

Q29 沖縄空手の振興・発展をしていく上で、最も必要な取組は何でしょうか。

・「道場の運営基盤強化の支援」(37.7%)が最も高く、次いで「沖縄伝統空手道振興会の組織強化」(25.0%)が続く。

・門下生人数別で見ると、10人以上の道場において「道場の運営基盤強化の支援」と回答した割合が高い。



*基数が少ないため参考値

※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

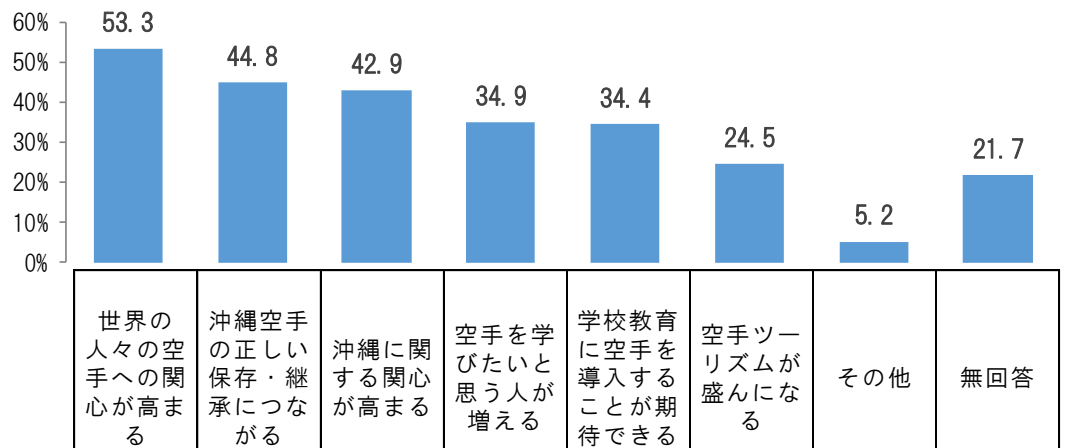
※少林流等は、少林流、松林流(松源流、松真流)、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(30) 沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録について①

Q30 沖縄空手がユネスコ無形文化遺産に登録された場合、どういったことが期待できますか。

・「世界の人々の空手への関心が高まる」(53.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「沖縄空手の正しい保存・継承につながる」(44.8%)、「沖縄に関する関心が高まる」(42.9%)と回答した割合が高い。



		(N=/%)	世界の人々の空手への関心が高まる	沖縄空手の正しい保存・継承につながる	沖縄に関する関心が高まる	空手を学びたいと思う人が増える	学校教育に空手を導入することが期待できる	空手ツーリズムが盛んになる	その他	無回答
全体		212	53.3	44.8	42.9	34.9	34.4	24.5	5.2	21.7
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	*5	20.0	60.0	60.0	20.0	60.0	40.0	20.0	-
	40代	*17	58.8	17.6	29.4	23.5	35.3	17.6	11.8	17.6
	50代	30	63.3	50.0	60.0	46.7	53.3	46.7	-	13.3
	60代	46	50.0	43.5	41.3	30.4	26.1	28.3	4.3	21.7
	70代	79	53.2	46.8	41.8	39.2	32.9	19.0	5.1	25.3
	80代以上	35	51.4	48.6	37.1	28.6	28.6	14.3	5.7	25.7
流派別	剛柔流	58	44.8	46.6	41.4	34.5	27.6	31.0	6.9	19.0
	小林流	55	56.4	38.2	43.6	32.7	34.5	20.0	5.5	23.6
	上地流	30	60.0	60.0	43.3	36.7	43.3	23.3	3.3	16.7
	少林流等*	37	64.9	45.9	48.6	43.2	40.5	32.4	8.1	16.2
	古武道	*19	47.4	42.1	36.8	36.8	31.6	21.1	-	31.6
	その他	*13	38.5	30.8	38.5	15.4	30.8	-	-	38.5
門下生人数別	10人未満	61	49.2	37.7	34.4	31.1	29.5	9.8	3.3	27.9
	10人以上20人未満	68	45.6	47.1	36.8	30.9	36.8	27.9	2.9	22.1
	20人以上30人未満	34	50.0	41.2	47.1	32.4	26.5	32.4	8.8	23.5
	30人以上50人未満	35	65.7	51.4	57.1	42.9	40.0	25.7	8.6	11.4
	50人以上	*13	92.3	61.5	69.2	61.5	53.8	53.8	7.7	7.7

*基数が少ないため参考値

※「全体」と比べて ■ +10 pt以上 ■ +5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ -5 pt以下 (n=30未満は除く)

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(31) 沖縄空手のユネスコ無形文化遺産への登録について②

Q31 沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録に向けて、今後どのような取組が必要だと思いますか。

PR等広報(24件)
世界大会や空手の日などイベントを地道にアピールして行くことが大事
あらゆるマスコミを活用し県内外・海外へアピールすることが必要である。更に定期的なキャラバンを組み各地での演武の実施
SNSでの宣伝の強化
文化、伝統、精神性を発信
関係機関への広報活動(実技も含めて)の拡大とすべし。沖縄空手、全日本空手、空手の名称については沖縄独自では解決するには難しい。手(ティー)は独自制があって正に沖縄的
沖縄らしさ、うちなんちゅらしさを全面にアピール出来たら空手の共感が得られる
沖縄空手の価値の発信、周知
県として、県民全体へのアピール、中央政府への強力なアピール(登録することにより、メリットの具体的な説明)
振興会を中心に4団体一致協力して啓蒙活動をする
歴史と継承の可視化と、文化的シーンでの様子をPR
世界に広がった空手は、沖縄を発祥としているという記名と世界の空手家から沖縄が本場という理解を得られる取組が必要と考える
広く県民や国民へ理解と感心が広がるように、メディアや広報を通じて沖縄空手を紹介する取組みや、演武や試合のTV放送等で認知してもらう
文化遺産として、国内外へのPRが必要ではないか
県民に対して広くPR活動
地域の町道場の様子を集約し、文化として地域にも根付いていることをアピール
沖縄県民の理解と熱意を世界にアピール
テレビやラジオ、ポスター等、子供からお年寄りまで分かりやすい、CMなど活用する
県民の大きな声です
これまでのユネスコ登録を継続、沖縄空手のアピール
上記の事が確立し、他の空手とは違うことを表す事が必要であると思います
沖縄伝統空手が世界に広がり普及、発展している実績及び実態を強くアピールする必要がある
登録のメリットを各道場、県民にアピール
素晴らしいことですので、アピール等がありましたら、喜んで協力したいと思う
戦う手であるが、平和を追求する武道だという事をアピールする
一体的な活動(4件)
ねばり強く活動する(県民一体となって)
活動と継続
各市町村との連携強化、啓蒙活動の一環としての演武大会を開くなど地域ぐるみの取組が必要
沖縄の伝統文化である伝統空手が後世にしっかりと受け継がれるように空手愛好家、県民、行政、企業等が協力しあって、小回りが利く小規模イベントを開催するのもありかな
一般認識の向上(13件)
一般の人の認識、向上

第2章 県内空手道場主向け調査結果

沖縄県民への理解
県民の理解と価値観
空手関係中心に進められているので、広く県民もまきこんだ取組が必要（特に文化遺産としての認識）
県民全体の意識向上が必要
沖縄の空手としての認知度が出来るかどうか
平素から全県民的な空手発祥の地を定着させる
県民の意識の高揚を図る為の取組み
県外の空手関係者への理解をもすすめるべき
県民に空手が是非保護すべき重要な文化遺産であるという気運を醸成してもらうこと
空手を身体文化と合わせて風土の精神文化であるとの認知度を高める
啓蒙活動
沖縄空手が伝統文化として認められてもらいたい
イベントの実施等(10件)
「空手の日」イベント等の県あげでの取り組みで質を上げて実演。(子供たちから見てカッコイイ演武演出)
今、全県民を上げて取り組んでいると思うが、もっとこまかく取り組みが必要だと思う。例えば郷友会、老人会、お祭り、に空手演武を企画打診する
沖縄空手は、沖縄角力、綱引きなどと合同でユネスコ登録を目指す
郷土の文化（たとえば、ハーリーとか綱引き）とかと一体化して登録した方が良いと思う
県内各市町村との連携強化すなわち啓蒙活動の一環としての各市町村において演武会等を開くなど
空手の日に国際通りでイベントを他の地域でも30分程度を何千名でやるといったイベントがもっとあるとよい
30分～1時間 空手の突きを 数千名でやり
大会やイベント、セミナー等の企画が必要と考える
郷土の誇る沖縄の空手の原点をはっきり理解させる。書物、イベント、演武披露の機会を増やす
沖縄県無形文化財「空手、古武術」、「空手の日」記念演武祭など
沖縄空手の向上(8件)
空手を同様な身体で表現する、琉舞、バレエ、ダンス、他の名人クラスの先生方（全世界の）から見てなにが優れているのか評価をしてもらう
指導者、門下生を増やし、外国人が来ても対応出来るようにする。海外への指導
伝統空手、意識について、空手の有識者も含めた検討会の開催
空手課の皆さんが言う通り、各流派の共通する部分をまとめて、そして各会派の型をまとめることによって、「守礼の心」になれば、ユネスコ登録も自然とうまくいく
空手の精神的な事をおしえること
各流各派 型の統一は難しいと思うが、各流の長老の先生方で型を確認してもらいたい
空手発祥の地で継承されてきた沖縄空手の普及発展
沖縄空手の歴史と根源をしっかりと探求し、流派ごとの違いを明確にし、自信を持って説明解釈できるようにならないといけない
行政や空手界への期待(17件)
担当者自身はもっとユネスコへのかかわり方を、勉強すべし
行政が主導して頑張ってもらいたい

第2章 県内空手道場主向け調査結果

政治的活動
空手道振興会を中心に取組んで欲しい
県が主導し、空手界が一団となって後押しすること
沖縄空手を通して、政治家を動かしていく取組が必要と思う
組織力の強化
振興会の活動
沖縄、日本が義務教育の中に空手道を取入れて頂くことが一番の方策
県庁（行政）と空手界が一体となり情報収集に努め実績作りに励む
伝統空手を小学校から教育課程に取り入れる
沖縄の伝統空手は県指定無形文化財であり国の重要無形文化財に相当する。空手発祥の地としてユネスコ文化遺産として登録されるべき高い文化価値がある。県が発行したロードマップに県空手関係団体、経済界など”力”連携し、イベントや広報を積極的に展開していく」と記しているが、まだ何も見えてこない。県民及び空手界気運の醸成に向けて積極的に、強力に取り組みを推進していく必要がある。県内の道場運営基盤強化に期待できる
沖縄の空手家は沖縄空手をユネスコ無形文化遺産にするのはなぜなのか、そして登録できたらどうなるのかも含め、沖縄空手を考える良い機会にして欲しい
ユネスコ登録の目的、意義について振興会はシンポジウムを開催しマスコミの支援を受け、啓発してきましたが、今後「空手物語」をつくる環境整備が必要となる。県指導、県主導強化ではなく、官民一体となる組織体制を重視する
ユネスコ登録により双肩に自覚と責任が意識せざるを得ないであろう。その道を目指すのは世界遺産として大きく輝いて欲しい
県が主体となって取組んで欲しい
県内の高段位の先生方や高齢の空手家の方々の映像記録保存し、未来に残さなければならない。そのために有名な先生方以外にも埋もれている流派の形も記録保存し、沖縄空手の貴重も伝えていく
現状活動の継続(5件)
何もかざらず、ありのままの現状を伝え、あとはユネスコが判断すること
従来通りで良い
これまでの様に保存、継承を続けていけば良い
ユネスコ登録については文化庁に資料提出をしているので、継続して活動を行うこと
今、現在なされている取組をしっかりとっていく
反対(5件)
ユネスコ登録のメリットがあまり見えてこない
ユネスコ登録した後のビジョンが分からない
必要なし
現状ではユネスコ登録は必要ないと考える
ユネスコ登録は本当に沖縄空手にメリットしかないのか デメリットもあるのではないか
その他(5件)
600年以上続く、又吉古武道に注目する
以前ユネスコ登録について、県のハードルが高いので、各地でアイデアを募っていたので、「ニュートンの法則」との一致を説明した

第2章 県内空手道場主向け調査結果

沖縄空手の愛好者、技術者の実状を反映させて取組を進めていく必要があると考える

沖縄空手は宝です。自分はどのようにして登録するかわかりませんが！空手は一日にしてならず

関心がない

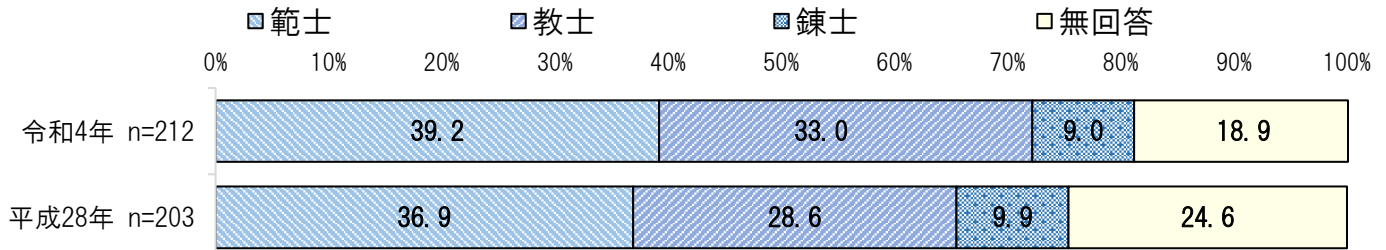
第2章 県内空手道場主向け調査結果

(32) 段位制度①

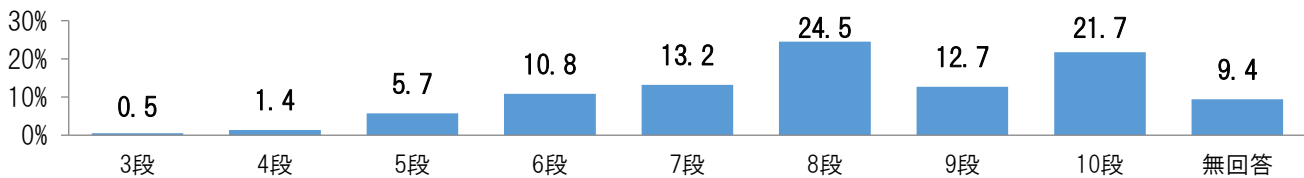
Q32 あなたの現在の段位称号と武歴（修行歴）をご回答ください。

- ・現在の称号は、「範士」が39.2%、「教士」が33%、「錬士」が9%となっており、「範士」の割合が高い。
- ・段位は、平均8段、武歴は平均48.2年。入門年代は平均1973年で、1970年代に入門した道場主が2割を占める。

■称号



■段位 平均：8.0段



■段位・称号

分類	N(%)	範士計					教士計					錬士計						
		6段	8段	9段	10段	無回答	4段	6段	7段	8段	5段	6段	7段	8段				
全体	212	39.2	2.4	6.0	32.5	54.2	4.8	33.0	1.4	5.7	32.9	60.0	9.0	15.8	68.4	10.5	5.3	
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30代	*5	-	-	-	-	-	20.0	-	100.0	-	-	20.0	-	100.0	-	-	
	40代	*17	-	-	-	-	-	47.1	-	12.5	75.0	12.5	11.8	-	100.0	-	-	
	50代	30	6.7	-	-	50.0	50.0	-	46.7	7.1	7.1	35.7	50.0	26.7	25.0	50.0	25.0	-
	60代	46	23.9	9.1	18.2	63.6	-	9.1	50.0	-	4.3	30.4	65.2	10.9	-	100.0	-	-
	70代	79	54.4	2.3	7.0	27.9	58.1	4.7	27.8	-	-	22.7	77.3	3.8	33.3	33.3	-	33.3
	80代以上	35	77.1	-	-	25.9	70.4	3.7	5.7	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
流派別	剛柔流	58	37.9	-	4.5	40.9	50.0	4.5	39.7	4.3	-	43.5	52.2	10.3	33.3	66.7	-	-
	小林流	55	36.4	-	10.0	25.0	65.0	-	38.2	-	4.8	28.6	66.7	5.5	-	66.7	-	33.3
	上地流	30	46.7	-	-	42.9	57.1	-	36.7	-	18.2	45.5	36.4	6.7	-	50.0	50.0	-
	少林流等*	37	51.4	10.5	5.3	21.1	52.6	10.5	16.2	-	16.7	16.7	66.7	13.5	20.0	80.0	-	-
	古武道	*19	26.3	-	-	20.0	60.0	20.0	36.8	-	-	-	100.0	10.5	-	50.0	50.0	-
	その他	*13	23.1	-	33.3	66.7	-	-	15.4	-	-	50.0	50.0	7.7	-	100.0	-	-
門下生人数別	10人未満	61	42.6	3.8	3.8	46.2	42.3	3.8	32.8	-	-	35.0	65.0	6.6	50.0	25.0	-	25.0
	10人以上20人未満	68	39.7	3.7	11.1	29.6	51.9	3.7	30.9	4.8	9.5	28.6	57.1	11.8	12.5	75.0	12.5	-
	20人以上30人未満	34	41.2	-	7.1	35.7	50.0	7.1	29.4	-	-	50.0	50.0	5.9	-	100.0	-	-
	30人以上50人未満	35	31.4	-	-	18.2	72.7	9.1	34.3	-	8.3	25.0	66.7	14.3	-	80.0	20.0	-
	50人以上	*13	38.5	-	-	-	100.0	-	53.8	-	14.3	28.6	57.1	-	-	-	-	-

*基数が少ないため参考値

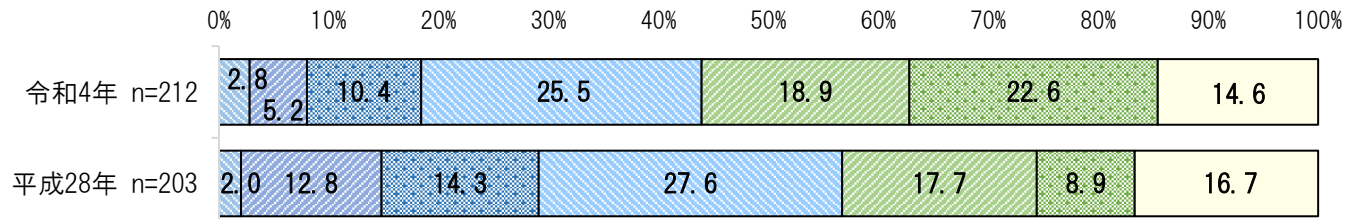
※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

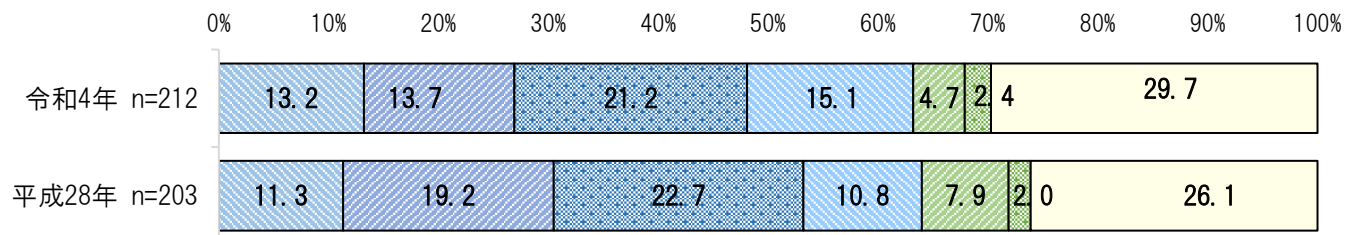
■武歴 平均：48.2年 (H28 平均：44.4年)

■ 20年未満 ■ 20年以上30年未満 ■ 30年以上40年未満 ■ 40年以上50年未満
■ 50年以上60年未満 ■ 60年以上 □ 無回答



■入門年代 平均：1973年

■ 1960年以前 ■ 1960年代 ■ 1970年代 ■ 1980年代 ■ 1990年代 ■ 2000年代 □ 無回答



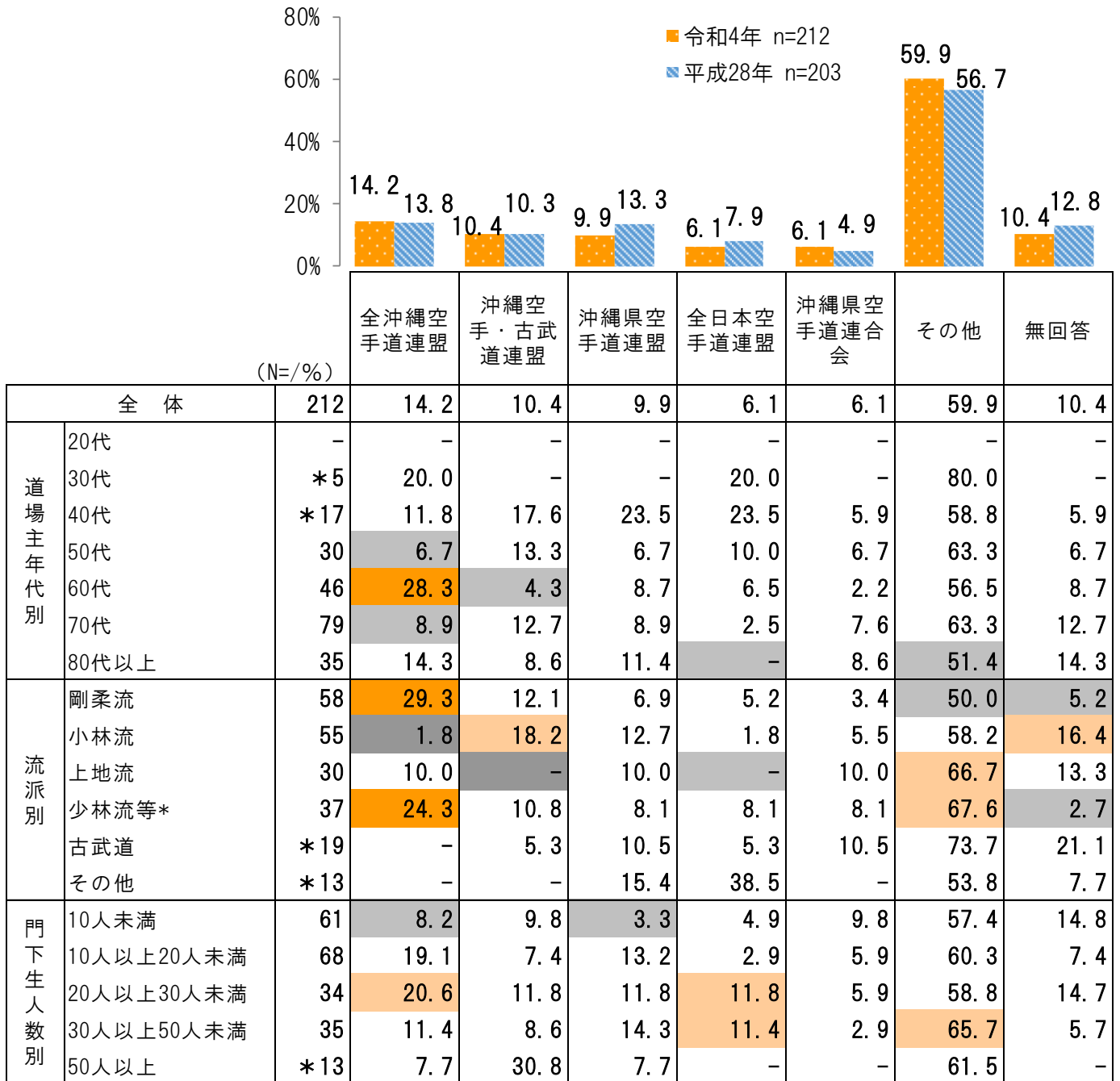
第2章 県内空手道場主向け調査結果

(33) 段位制度②

Q33 あなたの現在の段位称号発行者は次のどれですか。

・ 段位称号発行者は「その他」が59.9%（前回調査56.7%）、次いで「全沖縄空手道連盟」が14.2%。（前回調査13.8%）

・ 年代別では、全年代において段位称号発行者が「その他」と回答した割合は5割以上となっている。



* 基数が少ないため参考値

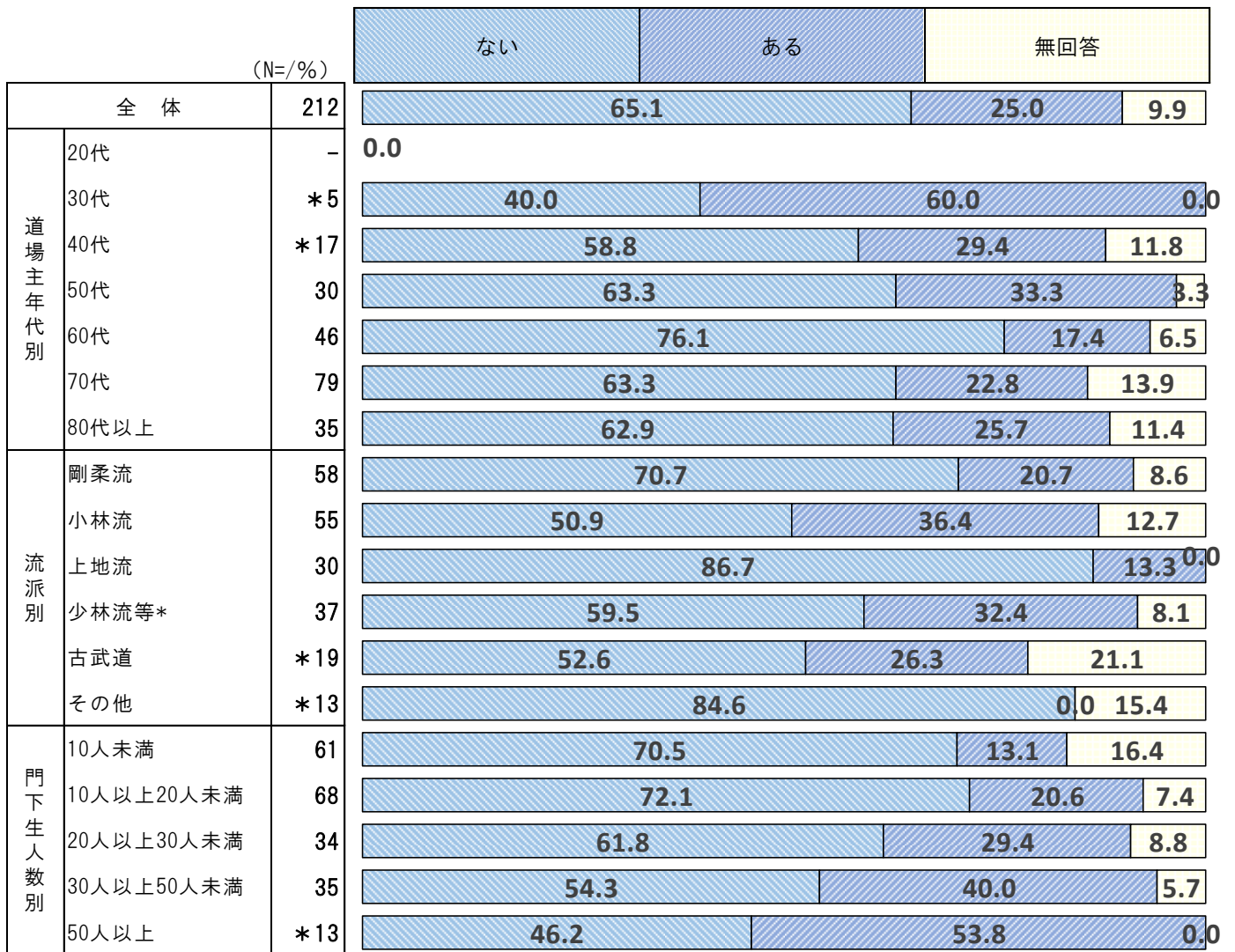
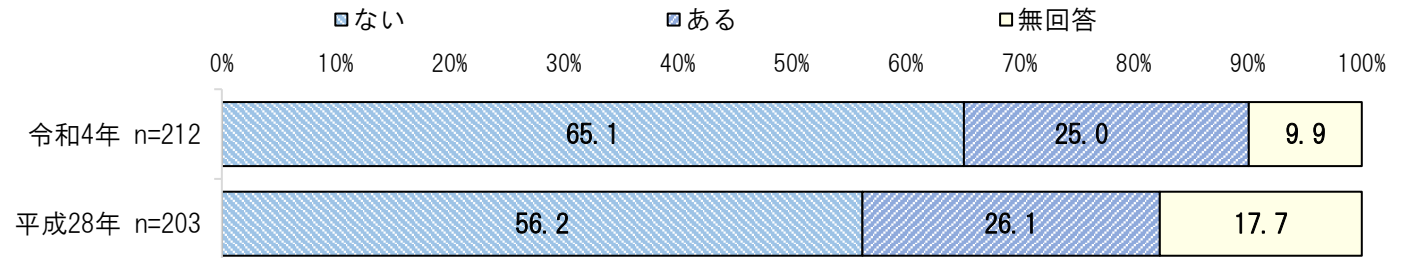
※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

(34) 段位制度③

Q34 あなたの道場に県内の支部がありますか。

・ 県内支部がある道場は全体の25%で、県内支部道場数の平均は3.4カ所。門下生の人数は平均で62.6人となっており、門下生30人以上の道場では県内支部を有する道場が4割以上を占める。

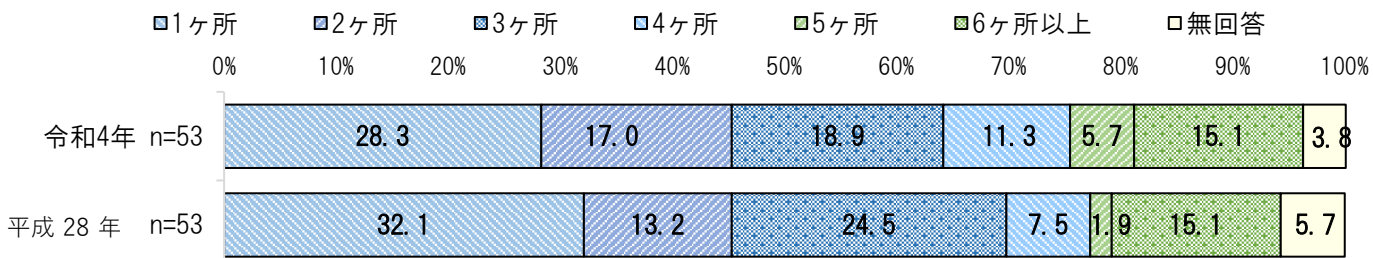


* 基数が少ないため参考値

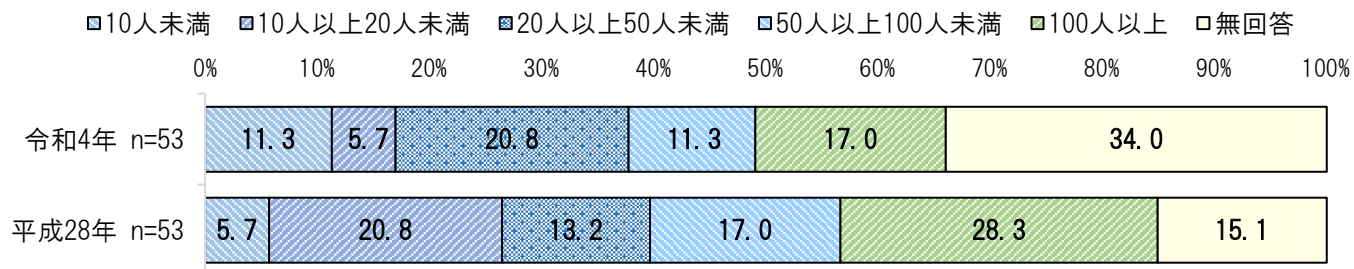
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

■県内支部道場数 平均：3.4ヶ所（H28 平均：3.1ヶ所）



■県内支部門下生人数 平均：62.6人（H28 平均：82.8人）

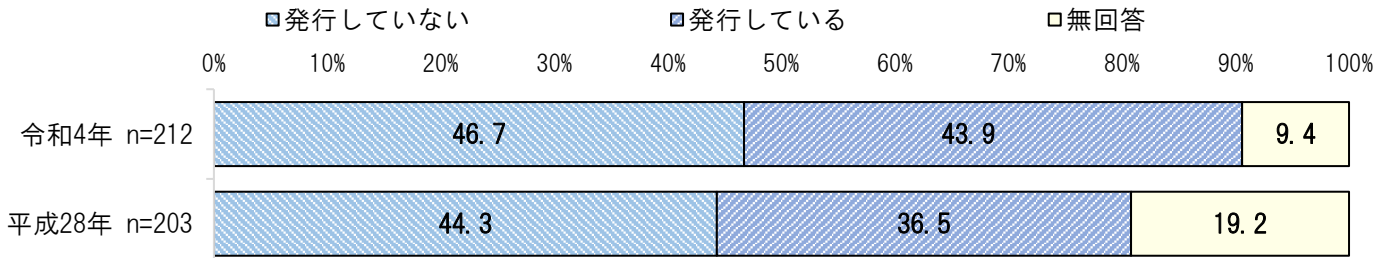


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(35) 段位制度④

Q35 あなたは段位称号の認定書を発行していますか。

- ・ 段位称号の認定書を発行している道場は全体の43.9%。(前回調査36.5%)
- ・ 年間での発行実績は、平均14件となっており、段位称号審査規定や審査料・登録料を「あり」と回答した割合は、前回調査と変わらず8割以上となっている。



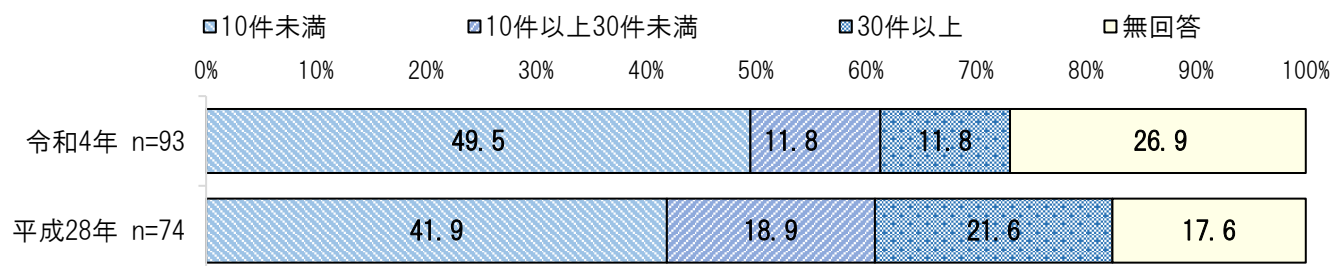
		(N=/%)	発行していない (%)	発行している (%)	無回答 (%)
全体		212	46.7	43.9	9.4
道場主年代別	20代	-	0.0		
	30代	*5	40.0	60.0	0.0
	40代	*17	70.6	23.5	5.9
	50代	30	63.3	33.3	3.3
	60代	46	58.7	32.6	8.7
	70代	79	35.4	51.9	12.7
	80代以上	35	31.4	57.1	11.4
	流派別	剛柔流	58	46.6	44.8
小林流		55	58.2	29.1	12.7
上地流		30	46.7	53.3	0.0
少林流等*		37	29.7	62.2	8.1
古武道		*19	42.1	36.8	21.1
その他		*13	53.8	38.5	7.7
門下生人数別	10人未満	61	42.6	42.6	14.8
	10人以上20人未満	68	47.1	45.6	7.4
	20人以上30人未満	34	47.1	44.1	8.8
	30人以上50人未満	35	57.1	37.1	5.7
	50人以上	*13	38.5	61.5	0.0

* 基数が少ないため参考値

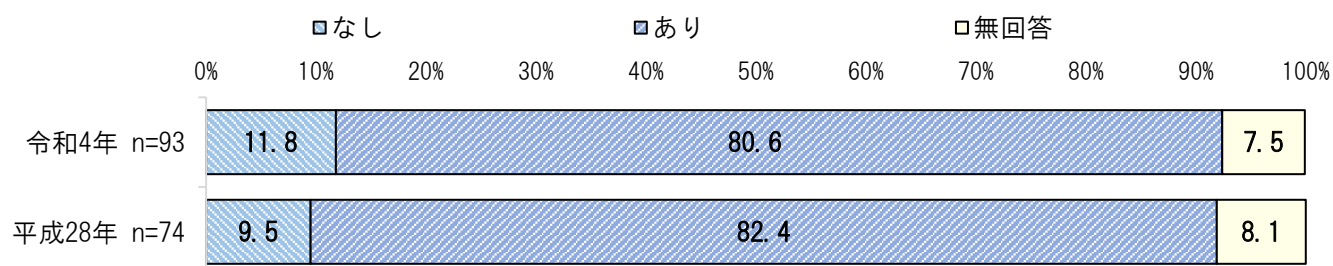
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

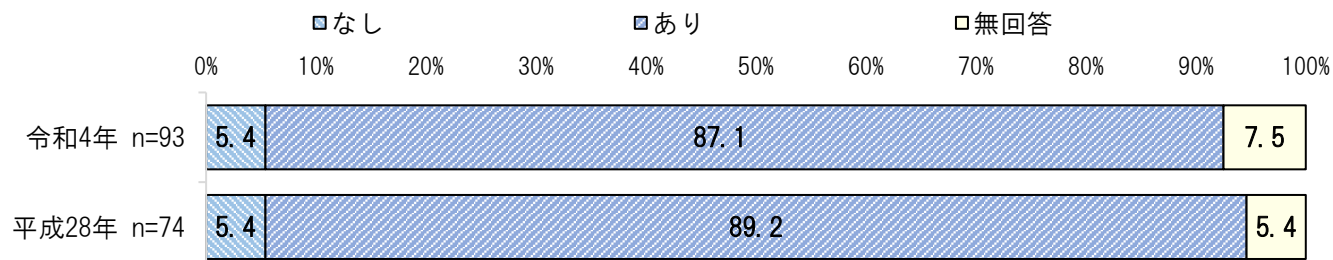
■年間発行実績 平均：14.0件（H28 平均：20.1件）



■段位称号審査規定の有無（明文）



■審査料・登録料の有無

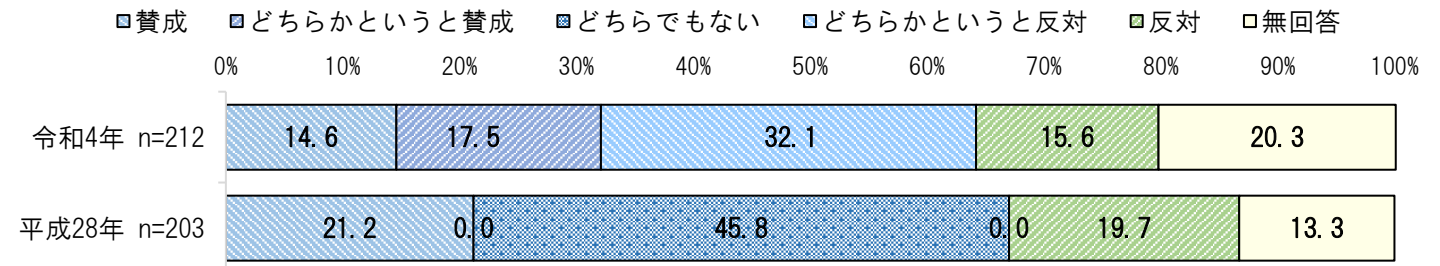


第2章 県内空手道場主向け調査結果

(36) 段位制度⑤

Q36 あなたは沖縄伝統空手道振興会による「統一称号段位制度」についてどのように思いますか。

- ・「統一称号段位制度」について、「反対」(15.6%)、「どちらかという反対」(32.1%)との回答が「賛成」(14.6%)、「どちらかという賛成」(17.5%)の割合を上回っている。
- ・流派別でみると、上地流で「賛成」(16.7%)「どちらかという賛成」(23.3%)の割合が40%を占めており、流派別では最も高い。



		(N=)	賛成	どちらかという賛成	どちらかという反対	反対	無回答
全体		212	14.6	17.5	32.1	15.6	20.3
道場主年代別	20代	-	0.0				
	30代	*5	20.0	40.0		40.0	0.0
	40代	*17	5.9	11.8	29.4	23.5	29.4
	50代	30	13.3	26.7	40.0	20.0	0.0
	60代	46	10.9	23.9	21.7	19.6	23.9
	70代	79	16.5	11.4	35.4	10.1	26.6
	80代以上	35	20.0	14.3	31.4	17.1	17.1
	流派別	剛柔流	58	13.8	12.1	27.6	25.9
小林流		55	7.3	27.3	30.9	10.9	23.6
上地流		30	16.7	23.3	33.3	16.7	10.0
少林流等*		37	18.9	13.5	37.8	13.5	16.2
古武道		*19	26.3	10.5	36.8	5.3	21.1
その他		*13	15.4	7.7	30.8	7.7	38.5
門下生人数別	10人未満	61	18.0	16.4	29.5	9.8	26.2
	10人以上20人未満	68	16.2	17.6	33.8	20.6	11.8
	20人以上30人未満	34	8.8	17.6	32.4	14.7	26.5
	30人以上50人未満	35	11.4	20.0	34.3	17.1	17.1
	50人以上	*13	15.4	15.4	30.8	15.4	23.1

*基数が少ないため参考値

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(37) 段位制度⑥

Q37 統一称号段位制度へのご意見

段位制度 1. 賛成(14件)
今後は県が統一（振興会）し、威厳とステータスを高める必要がある。流会派が細分化し称号の意味が無いのが現状
競技との段位では区別すべき。厳格にすべき。（審査は空手の熟練者が必要）
公認段位制の導入は必要。但し強制的な取得義務は不要。県主催の大会、行事等々には県公認資格有無の条件整備で参加可能な条件を付ける
組手の力を身につけて欲しい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査員の先生方が資格免許を持っていること ・ 統一した型で審査すること ・ 段位の修得の年齢を決めること
段位取得の審査規定を統一する（現在はバラバラだと思う）
流派、団体等で発行しておりますが、空手発祥の地として統一制度が望まれる（高段位）沖縄空手の神髄を世界に発信し、沖縄県知事名発行の称号段位は威風堂々と世界に誇れる権威ある証書としたい
空手有識者会議等で、議論し実現を期待している
各無形文化財保持者の先生方の審査を受け、県知事名と流派長の名前で称号段位を発行する
早めに各団体や個人道場主からの段位を統一段位制度にする為には長老や範士等の意見を取り入れてまとめて欲しい
世界的にも恥しくない為 ※ 5段以上からは年齢制限を設ける、高段位は80才以上とか
段位認定書発行については、一本化が望ましい
現段位の移行ができれば良いと思う。できないのであれば、全員初段から受けるようにする
空手、古武術の保存・育成の為
段位制度 2. どちらかという賛成(10件)
4会派のパワーバランス
どのような条件で与えるかをしっかり明確化する必要がある。無形文化財保持者の認定条件の不明確さ、基準のあいまいさのようになってはいけない。
各流派の統一した型の整備
沖縄県知事名で称号を発行することは、大変光栄なことと思う。沖縄空手・古武道連盟様のようにある程度（四段以下）は登録制（振興会の審査はなし。無審査）だといいたいと思う
段位称号を発行するまでの審査のやり方によれば賛成か反対かはっきりする
加盟すると、又段位審査ということになり、連盟をいくつも加盟すると困る
各流派、会派による格差がありすぎる。沖縄空手の基本を更に重視し統一し、更に制度（試験）の難易度を上げるべきである。現在は力量に比較して、高段者が多すぎる
制度の詳細不知のため意見なし
他に段位制度（登録料の発生）が多く出費が大変なので、負担のない程度なら良い
アティファ、チンクチ、ムチミのある型のこなし方。更に居着がない流れのある型がこなせるかの審査はむつかしいと思います

第2章 県内空手道場主向け調査結果

段位制度 3. どちらかという反対(28件)
他流派の先生が審査できないから
一番は公平性であると思う 世界大会などを通して審査技術に差があり所属会派以外に対する許容性が乏しいと感じている
振興会の段位がどのような意味を持つのか。所属する団体がすでにある
審査内容の明確化
今、現在は反対。すでに複数の段位(団体)設定があるのでこれ以上は経済的に厳しいのが本音
審査基準が統一できない
何をもちて認定するのか、基準設定が難しいと思う
統一出来るとは思わない
会の称号発行は、私の沖縄空手古武道の保存、継承であり、会の資金源であり、上部組織からの称号制度は会員の負担になる。今、会費だけでは成り立たない
沖縄は空手の本場であるが、段位の乱発をする道場主がいるのが残念。段位はあつてないようなもので、実力があれば良いと思うが、対外的に必要なのであるので、乱発する指導者がいるので困る
自分の先生から認定を受けるべき
流派によって型がちがう。組手(自由攻防)は、危険を伴う
この制度の中身がよくわからない。他を廃して統一するのか残して制度をつくるのであれば負担が増えることになるかと思う
振興会会員の資格。現四つの組織に同流派が混在している、又、振興会の会長は県知事でありながら振興会加盟が不透明であり疑問である
沖縄空手の各流派には伝統的に継承されて来た型があり段位制度に関してもそれぞれの在り方は沖縄伝統空手の特性であると思う。段位制度を統一することは、沖縄伝統空手のそれぞれの特性がそこなう事になりかねず現時点においては困難であるとする
しっかり議論の上、受け継いだ技が継続出来る様に普及用、継承用をしっかりと区別する。全空連の真似なら反対
沖縄空手の各流派には伝統的に継承されて来た型があり段位制度を統一することは沖縄空手のそれぞれの特性がそこなう事になりかねず現時点においては困難であるとする
各流会派の自主的な背景を重視することが必要で歴史観が異なる
首里手、泊手、那覇手にはそれぞれに特異な技がある
各道場の型を統一するのは難しい
組織が混在してよく解らない
同じ流派の尊敬する方から受賞すべき
称号段位有るにこした事がないが、各々の会派流派だけの称号だけで良いと思う
伝統空手は各流派によって型、古武道等も違う(特徴等)昇級授与は各流派の長から授与されるべきである
称号段位は、指導を受けた師から授与されるべきものである。それは、技術のみならず人間性や所属団体への貢献など、種々の事項を検討しての結果である。また除名などされた人が他団体へ移り、そこで昇段することは、組織の離合集散にも繋がる
どう言う方が審査するのか疑問
流派、型の違いをどう統一するのか

第2章 県内空手道場主向け調査結果

高段位保持の県内外、海外の空手家に出会う機会が多々あるが、沖縄伝統空手の奥義を極めることより「高段位の取得が目的」と感じるがよくある。統一称号段位制度の導入については流派毎の実態調査、現状分析などを踏まえ慎重に進めて欲しい
段位制度 4. 反対(19件)
所属団体のみで良い
統一称号段位制度は、必要ない。会長が代わるため
統一称号は段位制度なるものには興味ないが、もし振興会がする場合審査事項は身内だけでなく、琉舞界、バレエ界、演劇界の先生方も委員に入れて審査した方が良いのでは
所属道場から受けており、必要性を感じない
統一称号必要なし
段位称号の統一については、沖縄伝統空手道振興会を組織している四団体それぞれの理念がありなかなか難しい問題である。課題などを出し合って議論することは大いに賛成である
沖縄伝統空手道振興会は、主要4団体でのみ構成されており、他団体は排除されている、それでもって統一称号段位制度を発行するというのは難しいのでは
流会派の違いがある空手道の統一称号段位は難しく、全空連のように日本スポーツ協会資格と連携しメリットのある資格であれば(沖縄県内で指導するにあたってのメリット)可能性はあると思う
各流会派道場で行われており「二重」「三重」の段位制度となり、個人負担費用が増える
誰に審査してもらうかによる。師匠以外の者に審査してもらいたくない
組織的に段位制度が異なるので一部の組織では全日本空手道連盟に加入しているので問題がある
各団体での認定書の発行内容が違いすぎる。例として段位取得期間が半年～3年の間がある
全沖縄空手道連盟の発行で充分
各支部道場、運営するための資金が必要。(組織の段位制度が)
師と仰ぐ先生からの段位が私にとっては光栄。「統一称号段位」となると金銭面もあり、またその場の先生方の評価で受けた方の継続してきた稽古が見られるのが疑問である
統一称号段位制度の審査内容に同意しかねる
伝統空手を受継ぐ私の師が振興会委員に無い。振興会メンバーを再度見直し、正しい伝統空手を継承できるよう望む
各流派で発行すればいいと思う
現在取得している段位が無駄にならないように移行措置として現在の段をそのまま統一称号そして欲しい
段位制度 賛否無回答 (5件)
国家資格でもなく任意認定、規約制度のもとでの私的団体であり各連盟も基盤が弱く条件整備制度など統一は大変困難ではある
どちらが良いのか、判断が厳しい(メリット、デメリットの整理が必要)
まだ内容がわからないので何とも言えない
県内の流派、会派、道場が独自で級位、段位を発行している現状からして、統一称号段位制度の実施は極めて難しい。振興会会長の県知事名(空手関係者外)で認定書を発行すれば価値は高く段位授与制度は確立できる。但し、県内の連合団体の認定料は高過ぎる。現行の半額ほどが望ましい

第2章 県内空手道場主向け調査結果

要望、高段者(八段、九段、十段)の演武会を実施する。高齢者演武会(年代別 例60代、65、70、75、80、85、90代)実施、空手修業の証、実証。

自己の流派の高度の型を演武し、伝統空手を実証、互いに激励、響き合う事で統一段位の必要性、保持者の資格の有無を感じとる機会とする

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(38) 沖縄空手会館の利用について

Q38 あなたは沖縄空手会館を利用したことはありますか。

- ・沖縄空手会館を「利用したことがある」と回答した割合は全体で70.3%となっており、年代別で見ると若い世代ほど沖縄空手会館を利用している割合が高い。
- ・流派別で見ると、上地流では8割以上が利用しており、門下生人数別では30人以上の道場で8割以上が沖縄空手会館を利用している。

		(N=%)	利用したことがある	利用したことはない	無回答
全体		212	70.3	15.6	14.2
道場主年代別	20代	-	0.0		
	30代	*5	100.0	0.0	
	40代	*17	94.1	0.0	5.9
	50代	30	80.0	20.0	0.0
	60代	46	67.4	19.6	13.0
	70代	79	63.3	17.7	19.0
	80代以上	35	65.7	11.4	22.9
	流派別	剛柔流	58	67.2	22.4
小林流		55	76.4	9.1	14.5
上地流		30	83.3	13.3	3.3
少林流等*		37	62.2	18.9	18.9
古武道		*19	68.4	10.5	21.1
その他		*13	53.8	15.4	30.8
門下生人数別	10人未満	61	59.0	21.3	19.7
	10人以上20人未満	68	72.1	19.1	8.8
	20人以上30人未満	34	64.7	11.8	23.5
	30人以上50人未満	35	85.7	5.7	8.6
	50人以上	*13	92.3	7.7	0.0

*基数が少ないため参考値

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(39) 新型コロナウイルス感染症による影響について①

Q39 門下生の人数について、2019年12月末時点（コロナ前）と2022年3月末時点（コロナ禍）を比較して人数に変化がありましたか。

・コロナ禍で「門下生が減少した」道場は、51.9%。減少した門下生の人数は全体平均が12人となっており、特に小学生が平均8.3人減少している。

■減少した門下生の人数

■全体 平均：12.0人	■小学生 平均：8.3人	■中学生 平均：2.8人
■高校生 平均：1.4人	■大学生・専門学生 平均：1.0人	■一般（59歳以下）平均 3.0人
■一般（60歳以上）平均：2.6人		

		(N=/%)	変化なし	門下生が減少した	無回答
全 体		212	37.3	51.9	10.8
道場主年代別	20代	-0.0			
	30代	*5	20.0	80.0	0.0
	40代	*17	52.9	35.3	11.8
	50代	30	26.7	70.0	3.3
	60代	46	54.3	39.1	6.5
	70代	79	26.6	59.5	13.9
	80代以上	35	42.9	40.0	17.1
	流派別	剛柔流	58	34.5	53.4
小林流		55	36.4	50.9	12.7
上地流		30	36.7	63.3	0.0
少林流等*		37	35.1	54.1	10.8
古武道		*19	42.1	31.6	26.3
その他		*13	53.8	46.2	0.0
門下生人数別		10人未満	61	34.4	50.8
	10人以上20人未満	68	41.2	52.9	5.9
	20人以上30人未満	34	35.3	52.9	11.8
	30人以上50人未満	35	31.4	54.3	14.3
	50人以上	*13	53.8	46.2	0.0

*基数が少ないため参考値

※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(40) 新型コロナウイルス感染症による影響について②

Q40 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、道場収入に変化はありましたか。

・コロナ禍で「収入が減少した」道場が51.9%となっており、門下生人数別で見ると、10人以上の道場で5割以上が「収入が減少した」と回答している。

		(N=/%)	もともと収入はない	収入が増加した	収入が減少した	変化はない	無回答
全 体		212	21.7	0.9	51.9	13.7	11.8
道場主年代別	20代	-	0.0				
	30代	*5	0.0		80.0	20.0	0.0
	40代	*17	11.8	0.0	76.5	5.9	5.9
	50代	30	20.0	3.3	56.7	16.7	3.3
	60代	46	32.6	0.0	41.3	17.4	8.7
	70代	79	16.5	1.3	54.4	10.1	17.7
	80代以上	35	28.6	0.0	40.0	17.1	14.3
	流派別	剛柔流	58	15.5	0.0	56.9	15.5
小林流		55	21.8	1.8	52.7	7.3	16.4
上地流		30	26.7	0.0	60.0	10.0	3.3
少林流等*		37	24.3	0.0	56.8	13.5	5.4
古武道		*19	15.8	5.3	31.6	21.1	26.3
その他		*13	38.5	0.0	23.1	30.8	7.7
門下生人数別	10人未満	61	24.6	0.0	41.0	14.8	19.7
	10人以上20人未満	68	29.4	0.0	52.9	13.2	4.4
	20人以上30人未満	34	23.5	0.0	50.0	11.8	14.7
	30人以上50人未満	35	5.7	2.9	62.9	17.1	11.4
	50人以上	*13	7.7	7.7	76.9		7.7

*基数が少ないため参考値

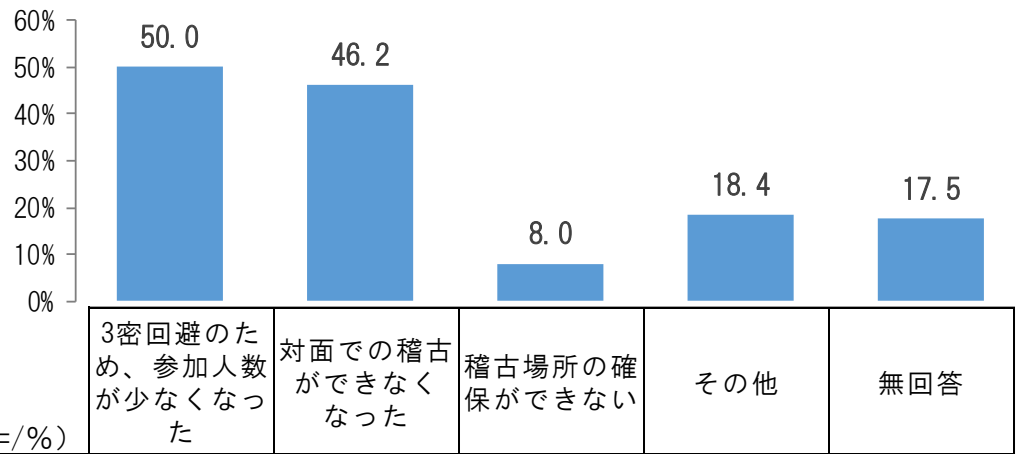
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(41) 新型コロナウイルス感染症による影響について③

Q41 新型コロナウイルス感染症流行の影響から、稽古の継続にどのような支障が生じましたか。

- ・稽古の継続への支障について、「3密回避のため、参加人数が少なくなった」(50%)が最も高く、次いで「対面での稽古ができなくなった」(46.2%)が続く。
- ・門下生人数別でみると、10名以上の道場において、「3密回避のため、参加人数が少なくなった」との回答が5割以上を占めている。



		(N=/%)	3密回避のため、参加人数が少なくなった	対面での稽古ができなくなった	稽古場所の確保ができない	その他	無回答
全体		212	50.0	46.2	8.0	18.4	17.5
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-	-
	30代	*5	60.0	60.0	40.0	20.0	20.0
	40代	*17	58.8	58.8	11.8	23.5	5.9
	50代	30	63.3	46.7	16.7	20.0	6.7
	60代	46	45.7	39.1	6.5	17.4	19.6
	70代	79	48.1	44.3	3.8	16.5	21.5
	80代以上	35	42.9	51.4	5.7	20.0	20.0
流派別	剛柔流	58	53.4	41.4	3.4	24.1	15.5
	小林流	55	56.4	52.7	5.5	20.0	18.2
	上地流	30	50.0	43.3	13.3	23.3	6.7
	少林流等*	37	48.6	54.1	13.5	8.1	13.5
	古武道	*19	31.6	31.6	5.3	15.8	36.8
	その他	*13	38.5	46.2	15.4	7.7	30.8
門下生人数別	10人未満	61	32.8	34.4	6.6	23.0	29.5
	10人以上20人未満	68	51.5	47.1	7.4	11.8	13.2
	20人以上30人未満	34	58.8	61.8	8.8	23.5	14.7
	30人以上50人未満	35	65.7	45.7	8.6	17.1	11.4
	50人以上	*13	61.5	61.5	15.4	23.1	-

*基数が少ないため参考値

※「全体」に比べて ■ +10 pt以上 ■ +5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ -5 pt以下 (n=30未満は除く)

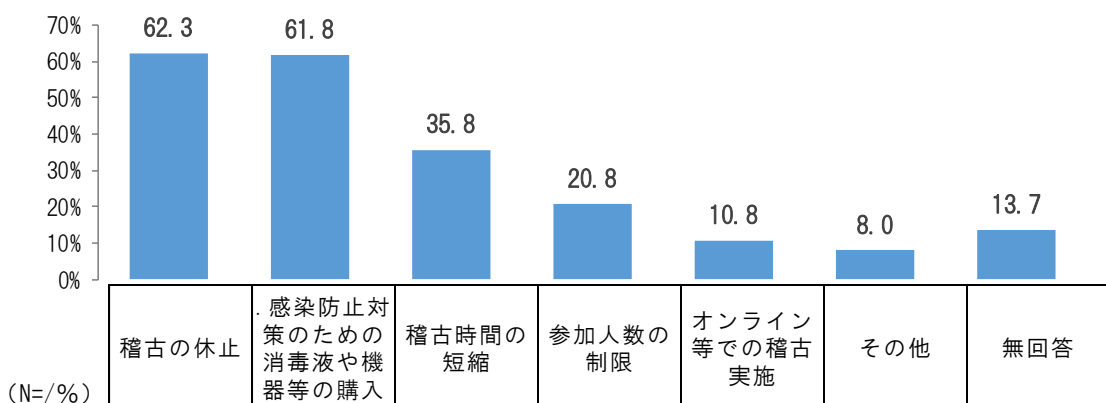
※少林流等は、少林流、松林流（松源流、松真流）、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(42) 新型コロナウイルス感染症による影響について④

Q42 新型コロナウイルス感染症流行に対して、どのような対策を講じましたか。

・新型コロナウイルス感染防止対策として、「稽古の休止」(62.3%)、「感染防止対策のための消毒液や機器等の購入」(61.8)が高い。



		(N=/%)	稽古の休止	感染防止対策のための消毒液や機器等の購入	稽古時間の短縮	参加人数の制限	オンライン等での稽古実施	その他	無回答
全体		212	62.3	61.8	35.8	20.8	10.8	8.0	13.7
道場主年代別	20代	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	*5	80.0	80.0	40.0	20.0	40.0	20.0	-
	40代	*17	88.2	76.5	58.8	47.1	35.3	11.8	11.8
	50代	30	70.0	76.7	30.0	20.0	10.0	10.0	3.3
	60代	46	65.2	60.9	37.0	19.6	10.9	8.7	8.7
	70代	79	59.5	50.6	32.9	19.0	5.1	2.5	19.0
	80代以上	35	42.9	65.7	34.3	14.3	8.6	14.3	20.0
流派別	剛柔流	58	58.6	62.1	41.4	17.2	10.3	10.3	13.8
	小林流	55	63.6	69.1	30.9	23.6	14.5	7.3	12.7
	上地流	30	66.7	76.7	40.0	16.7	6.7	10.0	6.7
	少林流等*	37	73.0	59.5	29.7	24.3	8.1	5.4	8.1
	古武道	*19	47.4	42.1	42.1	15.8	15.8	10.5	26.3
	その他	*13	53.8	30.8	30.8	30.8	7.7	-	30.8
門下生人数別	10人未満	61	55.7	41.0	21.3	11.5	4.9	13.1	24.6
	10人以上20人未満	68	67.6	61.8	35.3	20.6	5.9	5.9	5.9
	20人以上30人未満	34	55.9	73.5	41.2	32.4	17.6	8.8	14.7
	30人以上50人未満	35	65.7	74.3	48.6	22.9	17.1	2.9	11.4
	50人以上	*13	76.9	100.0	61.5	30.8	30.8	7.7	-

*基数が少ないため参考値

※「全体」に比べて +10 pt以上 (オレンジ) +5 pt以上 (黄色) -10 pt以下 (灰色) -5 pt以下 (薄い灰色) (n=30未満は除く)

※少林流等は、少林流、松林流(松源流、松真流)、少林寺流、一心流、松村少林流、沖縄拳法、首里流、金城親雲上流を含む。

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(43) 行政への要望①

Q43 沖縄空手の振興のため、要望やご意見等がありますか

道場経営支援(22件)
道場経営が安定してできるように収入増になる仕組みを検討してもらいたい
行政は小さい組織や道場へも個々に目を向けるべきである。(振興会窓口で簡略化してはいけない)
一定条件満たした道場へは経済的支援を期待する
県内は町道場が多いので、補助金等の活用をして欲しい
運営資金の補助の拡充
空手道場に少しでも予算を応援して欲しい
運営資金の援助
振興会に下駄を預けず、伝統空手継承に力を入れて欲しい。それは町道場を支援すること
町道場への財政支援をお願いする
各道場主に支援金を出して欲しい
<ul style="list-style-type: none"> ・町道場経営のサポート(沖縄空手の存立基盤) ・学校教育との連携を強化する ・現在進めている振興策の実現
補助金の援助
運営費の補助
町道場の継承の補助金の創設
様々な道場へ平等に対応して頂きたい
道場の運営基盤強化の支援が必要
正しい沖縄空手の理解と支援、町道場は今の時代では存続は難しいと感じる。自分の子供に継がすかは考えてしまう。道場で生活できるのは難しい。空手を継続できる環境を作って欲しい
練習場所の確保が出来れば、道場は増えていく
離島ハンディの改善。沖縄本島在住の選手は、大会参加費だけ納めれば良いが、八重山や県内離島のメンバーはそれ以外の出費が重なるので、補助金、助成金の支給など期待する。同様に、今度は県外へ大会時も、本島在住の選手もからんでくる。補助金助成金の支給など
離島での活動への助成やサポート
道場運営は厳しく何らかの支援があればと思う
補助金。道場整備事業。借入できるように補助事業での負担
沖縄伝統空手価値の周知(12件)
宣伝強化
県民へ空手価値の周知
一般の人々への宣伝
伝統と競技のすみ分けを理解してPRしてもらいたい。差別化やブランディングとして重要。オリンピックは伝統空手ではないことは、現場では周知している
伝統の型を動画に残し、大きく逸脱したものは伝統として認めない、と線引きして欲しい
沖縄伝統空手の文化的価値の認識を高めて欲しい
「空手」は実行する人、個人の継続性、忍耐力故に80才でも可能を熟知させることを望む。畳一枚でもOK

第2章 県内空手道場主向け調査結果

空手道に情熱があるなら沖縄全島の空手道場の紹介取材を来年4月1日～1年間かけて新聞などに紹介
県内2社の新聞社にもっと、沖縄空手の記事(大会などを含む)を増やすことを望む
新聞社にもっと沖縄空手の記事を増やしてもらったらいいと希望する
ユネスコ無形文化遺産登録の実現
沖縄伝統空手の認知性を上げて欲しい
振興活動のための予算等確保(10件)
体験入門に対する補助金と斡旋
人材の育成と財源の支援、空手振興課の充実に期待する
予算の拡大をお願いする。平和産業であるため
毎年予算を取って運用する
空手主管課の充実強化を図る
海外派遣予算増やした方がよい
行政の要望として予算の更なる予算の確保が必要である
各流派の根源資料作成のための助成もいただきたい(文化継続保存の資料、動画、作成など)
研究サポートに大幅な資金援助を振興会に行って欲しい
県外、海外への普及に対して、指導員への補助金を出して欲しい
大会・催し・イベント(8件)
セミナーや合同練習会(勉強会)などが振興会や行政で開催して欲しい
沖縄空手世界大会(少年少女含む)の試合形式をとりやめ、演武会にした方がよい
県主催の大会60代、70代、80代を実施して欲しい。空手・古武道形の大会
世界大会の定期開催
世界大会など継続し海外に発信する
世界大会は成人の大会だけでよいのではないか。今回わかったことは多忙すぎるということである
セミナーよりも演武会を期待する
国際通りとか首里城とか、平和祈念公園での子供達も参加できる演武会を期待する
教育機関との連携(7件)
保育園～高校まで空手体育取組、普及型Ⅰ～Ⅱ～Ⅲを覚えてもらおう、社会歴史授業
特に、門下生が少なくなっているので、学校の中でももっと取入れて欲しい
学校の授業に伝統空手を導入して欲しい
沖縄伝統の空手を学校教育に導入すべき
教育行政(学校教育への導入)
空手を学校教育に取り入れて欲しい
学校教育への正科導入
振興のための調査(6件)
現在の沖縄空手古武道道場などでの継承経路などを明確化していく調査などすると良いと思う
明らかに先生から学ばずに、どうしようと古武道を教えている道場などもある
偽物を学ばせられる人たちを今後つくられないようにしたい。難しいが
町道場の現況などの十分な把握、及び視察

第2章 県内空手道場主向け調査結果

<p>沖縄の課題は「貧困」です。学校現場で部活の指導もしていますが、貧困が原因で高校まで空手を続ける人が少なくなっている。高校へ入るとアルバイトという流れになっている。恵まれた家庭で育った人だけが高校、大学でも空手を続けられている現状がある</p>
<p>沖縄空手のまとめ、文書化、動画など。指導する上で役立つため</p>
<p>沖縄本来の伝統空手を守ってほしいと思う。他の古武術も調査して欲しい</p>
<p>大会に参加している子ども達の演武を見ていると、高得点を取るための稽古が行われているのか、流派（道場）の型が変化していると感じる。県内道場の競技空手と伝統空手に関する実態調査を実施して欲しい</p>
<p>沖縄空手保存発展(5件)</p>
<p>県知事を会長とした意義は完全な統一を計ることがその趣旨。行政主導で公明正大な将来像を作り上げて頂きたい。空手振興ビジョンの推進</p>
<p>振興会を中心に伝統空手を発展させて欲しい</p>
<p>沖縄空手振興ビジョンロードマップ（第1期・2018～2022年度）のとおり強力に推進し、実施していくべき。コロナの影響もあり、かなり遅れているように思う。ロードマップの推進は県をはじめ空手関係、地方自治体、経済界、観光業、が支援、推進体制の構築が必要である</p>
<p>特に伝統空手の普及継承発展の為支援</p>
<p>伝統型を中心とした世界大会の開催、人間国宝の実現に向けての取り組み、県指定無形文化財保持者認定の門戸の拡大及び空手道大学の設立など</p>
<p>行政と空手界等との関わり(5件)</p>
<p>4団体の最々上に県知事がポストにある空手団体は世界で沖縄県のみ。その程度空手団体の振興は果たして振興行政との分離で公平な立場にあるべき</p>
<p>行政は空手界に介入しない事を望む。現在は行政が空手界の意見を聞かず政治介入で行われているので空手界の不満がある</p>
<p>天下り先機関、スポンサー企業との利権問題、補助金などの不正支出問題が起こらないよう様に監視と指導。沖縄の子供達に沖縄文化を学ぶ機会と継承発展を促す</p>
<p>官主導、官指導の強化ではなく、官民一体(県と振興会は対等の立場)振興会規約第3条を順守し、行政の立場から法人化の意義について理解を深め振興会を支援して欲しい</p>
<p>行政は空手の技があつての文化遺産であることは忘れてはならないと思う。耳が痛くとも膝を交えて対話を繰り返す必要があると実感する</p>
<p>その他(10件)</p>
<p>空手会館、武道館など飛び込みで来た人への対応がない</p>
<p>今後とも継続した空手組織のへのご支援をよろしく願います</p>
<p>海外の人に空手を説明する際ネックとなっているのは“言葉”。空手界の中には言葉（英語）を教える場を探している人が多い。よってそのような場所を提供してくれるとありがたい。検討方よろしく願います</p>
<p>空手道ばかりの振興ではなく、もっと古武道の事も考えて欲しい</p>
<p>沖縄伝統空手道振興会への参加を、主要4団体以外にも窓口を広げて欲しい</p>
<p>古典音楽や琉舞に対する県の無形文化財保持者に比べ空手界は少ないので、もっと門戸を広げてもらいたい</p>
<p>道場での少年、少女の育成に伴う指導、支援</p>
<p>空手、古武術の観光資源としての活用</p>
<p>沖縄空手 古武道 各市町村支部設置を検討して欲しい</p>
<p>学校行事や行政の各種イベントにも参加要請して欲しい</p>

第2章 県内空手道場主向け調査結果

(44) 行政への要望②

Q44 県内の空手関係者の海外進出への支援について、ご意見や要望等がありますか

資金援助(16件)
支援があったらうれしい
支援金の援助
一定条件満たした道場へは経済的支援を期待する
県内は町道場が多いので、補助金などの活用をして欲しい
海外進出する道場があれば応援して欲しい
助成する制度
自費で行くとき、お金の支援
旅費などの補助
金銭面の補助や広告など
海外でのセミナーのときは金銭的な支援が必要
派遣費の補助
海外指導者を支援するため、宿泊や運賃を支給する
各会派の県内派遣に対する助成の充実
離島ハンディの改善。沖縄本島在住の選手は、大会参加費だけ納めれば良いが、八重山や県内離島のメンバーはそれ以外の出費が重なるので、補助金、助成金の支給など期待する。同様に、今度は県外へ大会時も、本島在住の選手もからんでくる。補助金助成金の支給など。また同様に、遠征費の支給を期待する
助成やサポート
海外進出の時は補助金を出して欲しい
運用検討(13件)
キャラバン等を組み、定期的な海外演武や指導を継続して頂ければ活性化が図られると思う
行政が分担要望する
先生方を海外へ送るのではなく、海外の希望者を呼んで体験させることが今後につながる。(沖縄を体験することで空手も人も好きになれると考える)
海外からの受入れ強化
海外進出への支援よりは県内空手の充実(例・公立学校への導入などにもっと力を入れるべきである)
空手、古武術をやっていない国へ普及して欲しい
空手文化(沖縄の)への理解を深めて頂き、派遣支援などをお願いしたい
世界の空手愛好家1億3000万人、約193ヶ国に普及発展した空手を本場沖縄の行政機関が更に世界進出に目を向けるのは如何なのか。世界進出を目指すのではなく、世界が本場沖縄に注目を喚起するよう努力することが行政の責務である。振興会や町道場の支援に力を入れて欲しい
海外だけではなく、国内への進出も支援して欲しい
沖縄空手の海外進出は、道場は沖縄県政あげて積極的に支援強化すべきと考える
観光大使や空手古武道普及大使などを新設してより深く海外の人に信頼させて欲しい
商業ベースではなく、10年・20年スパンで地道に「沖縄空手」の質の向上を図ってもらいたい

第2章 県内空手道場主向け調査結果

型を覚えたら「できた」と思っている空手家は多い。型から分解、応用くずし、うらでいーと鍛錬は生涯続くものとする。海外進出については、継続した支援と長期（3年、5年、10年）の見守りと成果の確認（実績報告等）が必要と思う。海外の空手家には、複数の流派の型をミックスして教えている道場も多いので、その可否、統一した対応方法等も検討して欲しい
準備する事(8件)
行政は予算不足でありもっと深く他の団体・無所属道場からの意見も聞くべきである
海外派遣事業、海外セミナー等を実施してもらいたい
現在は役員のみが派遣されているが、同じ人達ではなくいろいろな道場主を派遣して経験させてほうが良いと思う
海外進出にあたる、行政上の手続きやビジョンを分かりやすく示して欲しい
海外進出を行うことと同時に、指導者の力量・指導力を向上させるべきである。本来であれば、それが備わっている上で海外進出を行うべきである
多くの流派の先生方が、海外進出できるようフォローは大切だが、「空手発祥の地沖縄」として恥ずかしくないようなスキルアップも図ってほしい
海外空手愛好者は何を沖縄から学ぶのかその要望があるが、行政は文化面で空手の本質を把握することが急務である
団体加盟以外でも県内外でのセミナー、指導できるよう要望する
海外進出の選考(4件)
選考基準を明確にすべし。地域・国によって、派遣される先生の評価を大いに期待する。派遣する先生によって参加者が多数集まる事も大事な要件
毎回同じ様な先生達ではなく、中堅の若手登用
今迄の海外セミナーは振興会の役員が主で不公平すぎた。公平(流会派)にして欲しい
海外には武歴50~60年の指導者がいるので、海外に派遣する講師は熟練した武歴のある者を派遣してもらいたい
海外進出の効果(4件)
コロナ収束後における海外からの空手マンとの再会を楽しみにしており、空手を通じて世界が平和になるよう、引き続き頑張ってもらいたい
町道場の努力により海外支部道場がかなり増えた。海外でのセミナー等、町道場は難儀をいとわず出向き伝統空手の指導にウナーヌチムグクルを傾注し、平和の武として世界の恒久平和を願い汗を流している。行政の経費支援があれば活動がさらに増す
海外、ある国では、「空手」を軍の特殊部隊員に教えているのは、悲しいものがある
県が実施している海外進出事業の報告書を作成して配布してほしい。とても参考になるものとする
海外とのコミュニケーション等のサポート(3件)
通訳補助、海外の人とやり取り支援など
海外進出し、沖縄空手を伝えられるのであればぜひやってみたい。支援して欲しい。一番の課題は言語だが、話せなくても通訳をつけるなどの支援があれば、よりもっと魅力のある沖縄空手を紹介できると思う
ビザが必要な国については、県が申請へのサポート(大使館との折衝等)をやってほしい
その他(5件)
なるべく自助努力にて頑張ろうと思う

第2章 県内空手道場主向け調査結果

海外進出については全く考えてない。来訪した外国人の指導については歓迎する
アンケート協力はするが、設問の簡素化を希望する
海外派遣予算増やした方がよい
海外進出がどのようなものか分からない(大会、講習会、永住、指導派遣など)

第3章 海外空手家向け調査結果

1. 海外空手家向け調査結果

■ 調査対象

- ・海外に居住している海外空手家

■ 調査目的

海外の空手家を対象に、居住国、流派、修行歴等を把握し、空手の発祥の地・沖縄に対する認知度、沖縄空手の保存・継承・発展の要望を聴取し、海外空手家の沖縄空手に対する意向の把握を行い、沖縄への来訪回数、滞在日数、県内での消費額を聴取し県内での海外空手家の滞在日数・消費額の全体像の把握を行った。またユネスコ無形文化遺産登録に関する取組について意向を聴取することで、今後の沖縄空手の施策のデータ収集を目的として実施した。

■ 調査概要

海外空手家から見た沖縄空手の状況	<ul style="list-style-type: none">・回答者基本情報（性別、地域、年代）・「空手発祥の地・沖縄」の認知度・空手を始めたきっかけ・空手の魅力・沖縄空手の保存・継承・発展に向けた取組・訪沖経験、訪沖回数、訪沖日数・人数、滞在中の消費額・沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録への取組推進の認知・沖縄空手がユネスコ無形文化遺産に登録した場合、沖縄で空手に触れたり、関わりたい意向・沖縄空手がユネスコ無形文化遺産に登録され場合の期待
------------------	--

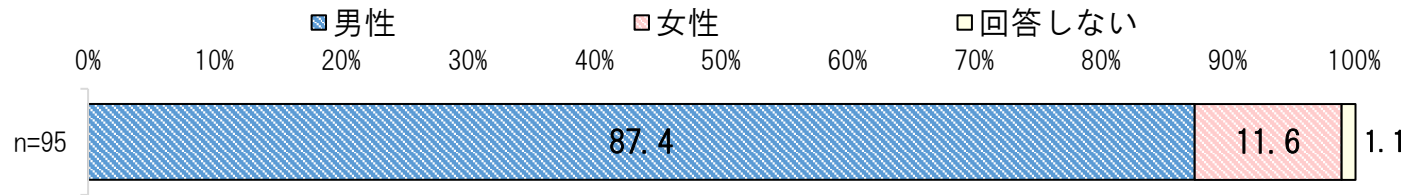
調査方法	インターネット WEB 調査 ※県内空手道場主及び県外空手関係団体の機縁経由でメールにて海外空手家に回答を依頼
調査期間	海外空手家：令和4年7月14日
調査対象数	海外空手家 95件（北米37、南米11、欧州32、ロシア4、豪州7、アジア3、アフリカ1）

■ 留意事項

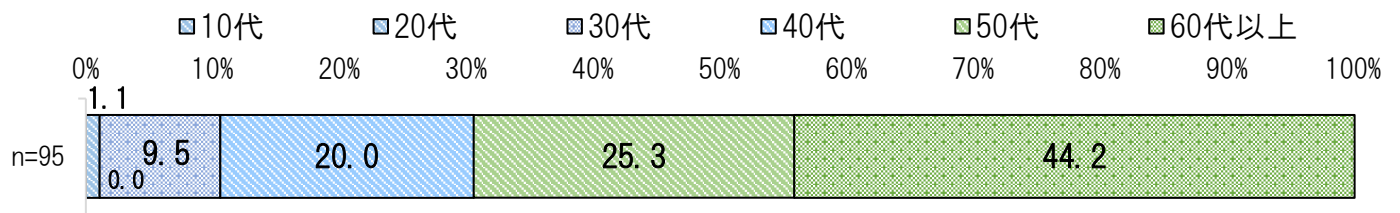
回答数が20以下など少ない場合は、参考値としてデータを参照し、コメントの記載は参考値のため記載はしていない点に留意して、海外空手家の調査結果を参考とする。

2. デモグラフィック

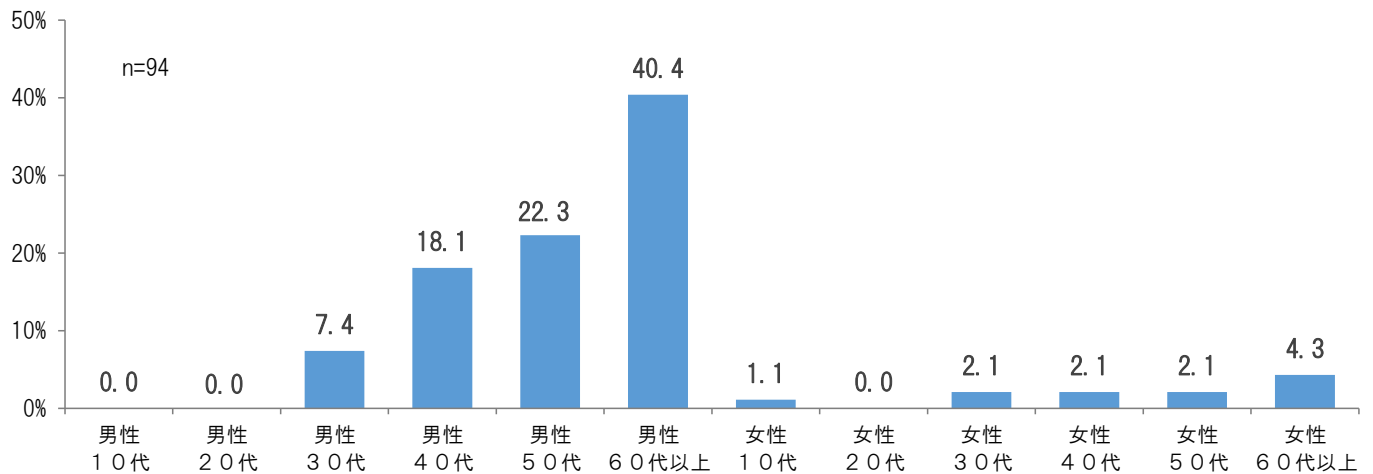
■性別



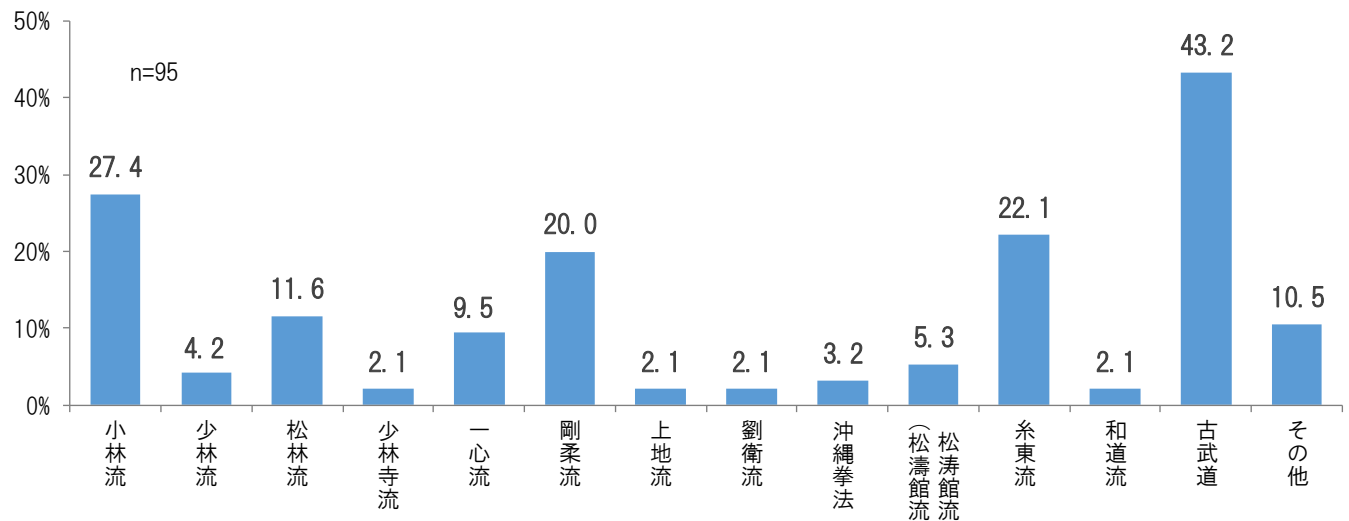
■年代別



■性×年代別

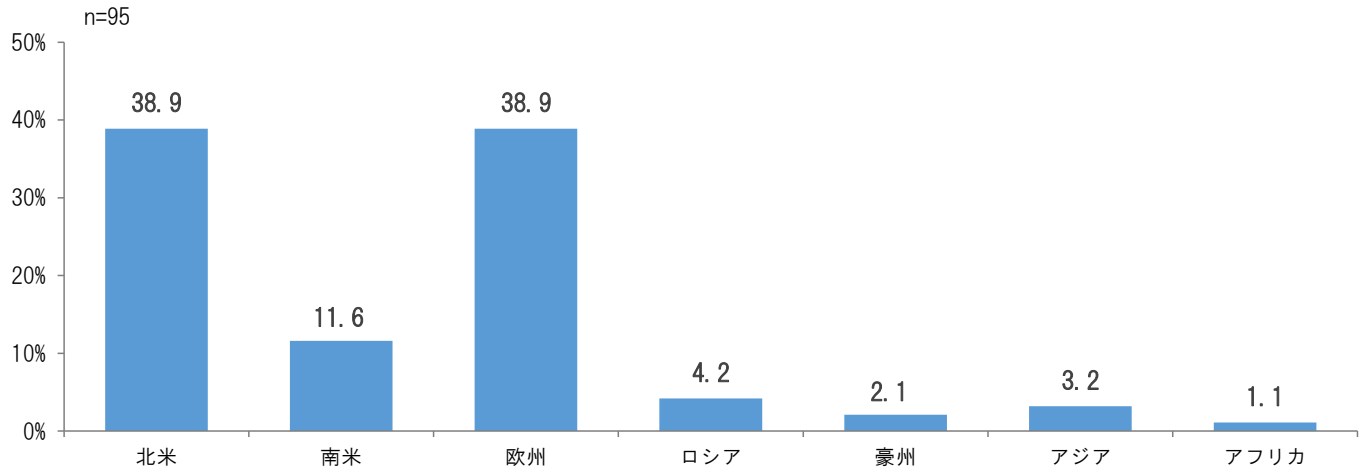


■流派別

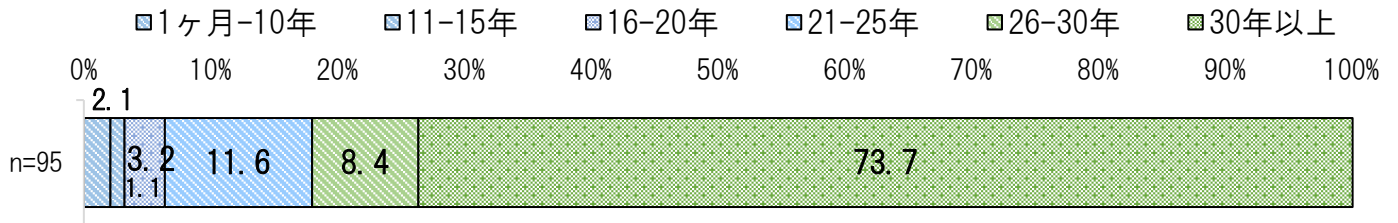


第3章 海外空手家向け調査結果

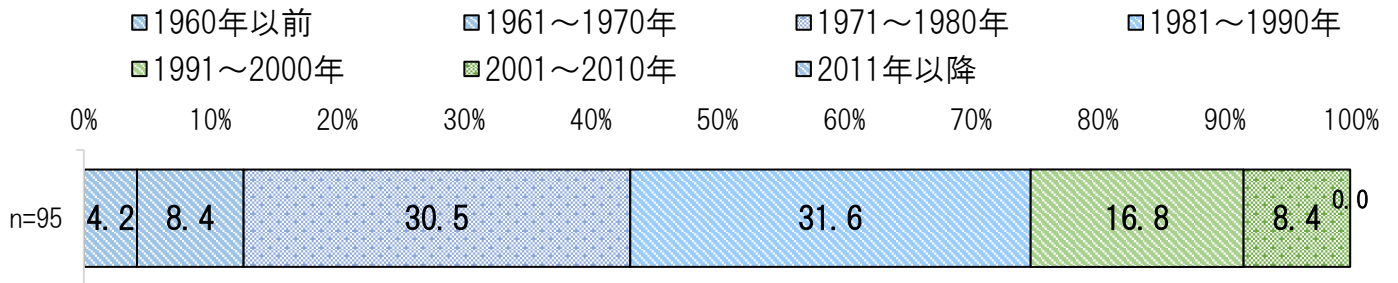
■国別



■修行歴



■入門年



3. 結果サマリー

○デモグラフィック

- ・調査対象 95 件中、性別は男性が 87.4%、女性が 11.6%の構成比率。年齢は 60 代以上が 44.2%、50 代が 25.3%で、50 代以上が約 7 割を占めた。流派別は古武道が 43.2%、小林流が 27.4%、剛柔流が 20.0%を占める。
- ・修行歴は 21 年以上が全体の 9 割を超える。内 30 年以上の修行歴がある空手家 73.7%を占める。

○海外空手家の現状と意識

- ・「空手発祥の地・沖縄」の認知計が 98.9%で、海外空手家の殆どが「空手発祥の地・沖縄」を認知している。
- ・「身体を鍛えるため」、「護身術を身につけたいと思った」、「精神を鍛えるため」がそれぞれ半数以上を超え、海外空手家が空手を学ぶ動機にしている。更に、海外空手家は健康増進法、伝統文化、精神修養、護身術などを空手の魅力に感じている。
- ・海外空手家の約 8 割が訪沖の経験があり、初来沖から再来まで、まんべんなく分布し、海外空手家の 2 割が 11 回以上来沖している。滞在日数は「2 週間」が最も多く、約 5 割を占め、来沖したグループでの滞在中の消費金額は「50 万円以上」が約 4 分の 1 で最も多かった。

○ユネスコ無形文化遺産登録に対する海外空手家の意識

- ・ユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取組みは、海外空手家の 7 割が認知している。登録されたのちに、沖縄を訪問し、空手に触れたい意向が 8 割を占める。
- ・さらに、空手がユネスコ無形文化遺産に登録された場合、「沖縄への関心」、「空手への関心」、「空手ツーリズム」への期待度がそれぞれ半数を占め、沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録への関心が高い。

4. 調査結果詳細

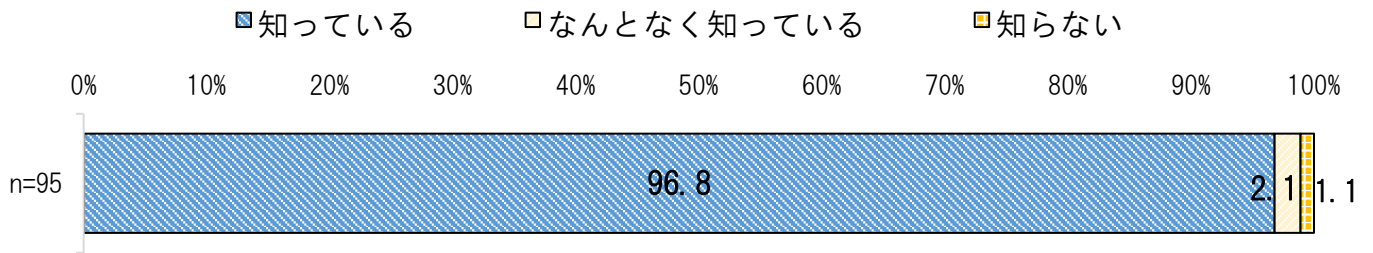
●各数表内のハッチング基準は以下の通りです。

※「全体」と比べて  + 10 pt以上  + 5 pt以上  - 10 pt以下  - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

(1) 「空手発祥の地・沖縄」の認知

Q1 あなたは、空手発祥の地が沖縄であることを知っていますか。

- ・全体での認知度は、「知っている」と「なんとなく知っている」を合わせると 98.9%となる。海外空手家は沖縄を「空手発祥の地」として認知している。
- ・性別では、男性が 98.8%と認知度が高い。
- ・居住国別では、欧州においては「知っている」と回答した割合が 100%と高く、北米では 97.3%となっている。



		(N=/%)	知っている	なんとなく知っている	知らない	認知計 (%)
全体		95	96.8	2.1	1.1	98.9
性別	男性	83	96.4	2.4	1.2	98.8
	女性	11	100.0	-	-	100.0
	回答しない	1	100.0	-	-	100.0
年代別	10代	1	100.0	-	-	100.0
	20代	-	-	-	-	0.0
	30代	9	100.0	-	-	100.0
	40代	19	94.7	-	5.3	94.7
	50代	24	100.0	-	-	100.0
	60代以上	42	95.2	4.8	-	100.0
居住国別	北米	37	97.3	2.7	-	100.0
	南米	11	90.9	9.1	-	100.0
	欧州	32	100.0	-	-	100.0
	ロシア	4	75.0	-	25.0	75.0
	豪州	7	100.0	-	-	100.0
	アジア	3	100.0	-	-	100.0
	アフリカ	1	100.0	-	-	100.0

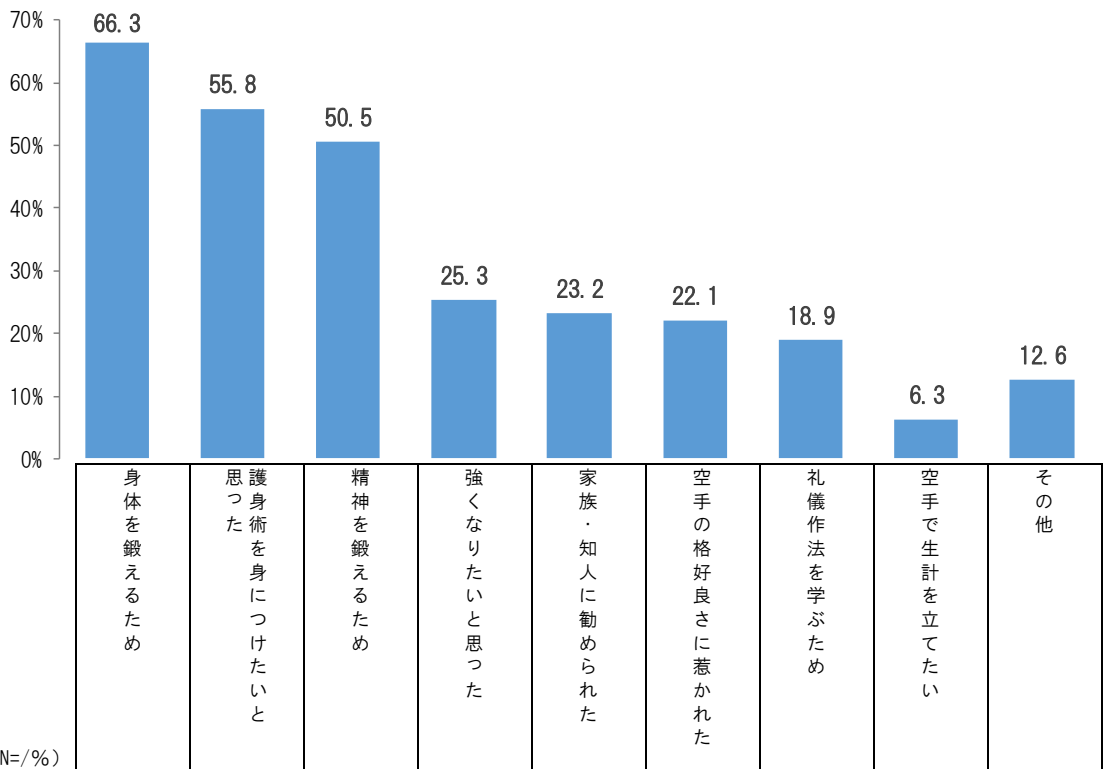
※「全体」比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

第3章 海外空手家向け調査結果

(2) 「空手」を始めたきっかけ

Q2 あなたが空手を始めたきっかけを教えてください。

- ・全体では、「身体を鍛えるため」が66.3%と最も高く、次いで「護身術を身につけたいと思った」が55.8%、「精神を鍛えるため」が50.5%となっている。
- ・性別では、男性で「身体を鍛えるため」が67.5%と最も高く、次いで「護身術を身につけたいと思った」が57.8%、「精神を鍛えるため」が50.6%と続く。
- ・全年代においては「身体を鍛えるため」が5割以上と最も高くなっている。また、60代以上においては「身体を鍛えるため」が69.0%と最も高く、次いで「護身術を身につけたいと思った」66.7%、「精神を鍛えるため」59.5%と続く。
- ・居住国別では、欧州においては「身体を鍛えるため」が78.4%と高くなっている。また、北米では「身体を鍛えるため」(67.6%)、「護身術を身につけたいと思った」(64.9%)がともに、6割以上となっている。



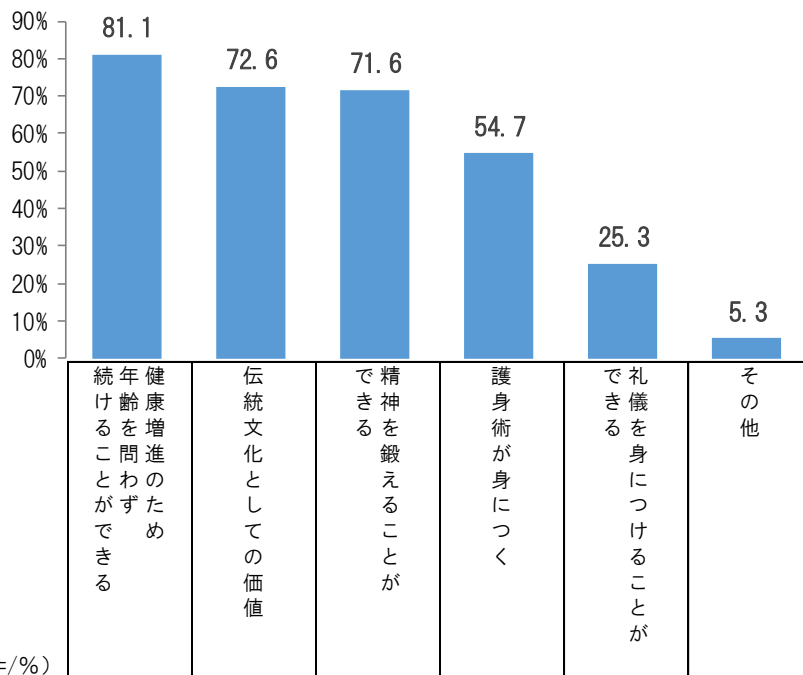
		(N=/%)									
全体		95	66.3	55.8	50.5	25.3	23.2	22.1	18.9	6.3	12.6
性別	男性	83	67.5	57.8	50.6	25.3	22.9	22.9	19.3	7.2	8.4
	女性	11	54.5	45.5	54.5	27.3	27.3	18.2	18.2	-	45.5
	回答しない	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	10代	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	9	55.6	33.3	33.3	11.1	33.3	44.4	-	-	11.1
	40代	19	68.4	63.2	52.6	42.1	42.1	15.8	21.1	21.1	10.5
	50代	24	66.7	41.7	41.7	16.7	16.7	20.8	12.5	-	16.7
	60代以上	42	69.0	66.7	59.5	26.2	16.7	19.0	26.2	4.8	11.9
居住国別	北米	37	67.6	64.9	59.5	35.1	13.5	24.3	21.6	2.7	16.2
	南米	11	27.3	18.2	27.3	9.1	54.5	9.1	-	9.1	-
	欧州	37	78.4	59.5	54.1	21.6	24.3	24.3	27.0	8.1	10.8
	ロシア	4	25.0	25.0	25.0	50.0	-	25.0	-	25.0	25.0
	豪州	2	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-
	アジア	3	100.0	66.7	66.7	-	33.3	33.3	-	-	33.3
	アフリカ	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(3) 「空手」の魅力

Q3 あなたが感じる空手の魅力は何ですか。

- ・全体では、「健康増進のため年齢を問わず続けることができる」が81.1%と最も高く、次いで「伝統文化としての価値」が72.6%、「精神を鍛えることができる」が71.6%となっている。
- ・性別においては、男性で「健康増進のため年齢を問わず続けることができる」が79.5%と最も高く、次いで「伝統文化としての価値」と「精神を鍛えることができる」が71.1%となっている。女性では、「健康増進のため年齢を問わず続けることができる」(90.9%)、「伝統文化としての価値」(90.9%)がともに9割を超えている。
- ・年代別では、50代、60代以上においては「健康増進のため年齢を問わず続けることができる」が83.3%で最も高くなっている。
- ・居住国別では、北米においては「健康増進のため年齢を問わず続けることができる」が89.2%と最も高く、欧州では83.8%となっている。



		(N=/%)	健康増進のため年齢を問わず続けることができる	伝統文化としての価値	精神を鍛えることができる	護身術が身につく	礼儀を身につけることができる	その他
全体	95	81.1	72.6	71.6	54.7	25.3	5.3	
性別	男性	83	79.5	71.1	71.1	53.0	24.1	3.6
	女性	11	90.9	90.9	72.7	72.7	36.4	18.2
	回答しない	1	100.0	-	100.0	-	-	-
年代別	10代	1	-	100.0	-	-	-	-
	20代	-	-	-	-	-	-	-
	30代	9	66.7	77.8	66.7	44.4	11.1	11.1
	40代	19	84.2	73.7	94.7	63.2	47.4	-
	50代	24	83.3	66.7	58.3	45.8	20.8	4.2
	60代以上	42	83.3	73.8	71.4	59.5	21.4	7.1
居住国別	北米	37	89.2	78.4	83.8	70.3	32.4	8.1
	南米	11	54.5	63.6	45.5	27.3	18.2	-
	欧州	37	83.8	73.0	67.6	56.8	24.3	2.7
	ロシア	4	75.0	50.0	75.0	25.0	25.0	-
	豪州	2	50.0	50.0	100.0	-	-	-
	アジア	3	66.7	66.7	66.7	33.3	-	33.3
	アフリカ	1	100.0	100.0	-	-	-	-

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

第3章 海外空手家向け調査結果

(4) 今後の沖縄空手に必要な取組

Q4 沖縄空手の保存・継承・発展に向けて今後どういった取組が必要だと思いますか。(自由回答)

海外空手家の意見	
次世代の指導者を支援し、世界の空手界における評価と地位を高めること。そうすることで、所属する流派の新しい指導者になるとき、よりスムーズな移行が可能になる。	アイルランド
例えば「ヨガ」のように、健康を維持するための心身の鍛錬との関連で、空手の良さを広めていくことが必要である。欧米では、長い間、空手は戦うだけのものというイメージが強かった。また、空手から生まれた他の武道が、空手の持つ歴史、伝統、知恵はないものの、世界に位置づけられ、多くの人々に普及しているように、スポーツ空手の支援も重要な手段であることを忘れてはならない。	アルゼンチン
ユニバーサル化する、シニアマスターのリストに、OKINAWA シニアマスターに認められた十段範士を持つ外国人を加えること。	アルゼンチン
生活のあらゆる場面で適用される伝統、価値観、習慣を守ることが重要である。	アルゼンチン
誠実で正直で謙虚な芸術の発信であり続け、世代を越えて受け継がれ、より良い世界に貢献できるよう期待する。	アルゼンチン
空手の歴史や発展に関するセミナーや発信を行う。	アルゼンチン
フィジカルな面を強調することで、若い新規修練者を惹きつける。	イギリス
多くの組織で偽の空手マスターが作られており、それが世界の空手普及の真の問題点である。本物の師匠を育成すれば、世界の空手界で通用するのだ！	イタリア
沖縄の空手を伝統文化として守り、次の世代に正しく継承していかなければならないと強く思い、この道に進むことを誇りに思っている。私の目標は、イタリアの伊波光太郎・光忠師匠の流派の空手・沖縄古武道を、可能な限り最も純粹且つ伝統的な方法で発展させていくことである。	イタリア
片手には知性、もう片方に精神性を用いる。本物の武術を広めることができるのは、その権利を持つ者だけである。	イタリア
沖縄空手・古武道の正しい伝承の仕方を学ぶ。量より質を重視する。	イタリア
WKFのような「空手スポーツ」ではなく、「空手系東流」の文化的・歴史的哲学を発展させ、維持すること。オリンピックの競技は終了したが、私たちは、老師の真の知識とすべての文化を失うリスクをしっかりと認識しているのか。20年後の次世代の空手家はどうなっているのか。スポーツだけなのか？我々は空手と流派の文化的、歴史的な側面を守る方法を見つけなければならない。そこで、具体的な提案として、各国から1-2名のマスター（中年、50から66歳、空手歴30年以上）を選び、沖縄で「大学マスター資格」を作成し、この文化を世界に維持し、各国のローカルコースで展開し、次世代トレーナーに教えてはどうか。私は、イタリアでこのイニシアチブをサポートができる。	イタリア
沖縄県はまず、間違っている師匠の系統を正し、まだ世に知られていない真の師匠を公開すべきである。	インド

海外空手家の意見	
より包含的であるべきと思う。日本の剛柔流と沖縄の剛柔流はほとんど同じだが、私の認識では、両者は自分たちを違うものとして見ているようだ。	オーストラリア
沖縄の空手とは何かを若い世代に伝えるための努力。スポーツ武道としてではなく、より厳格な自己防衛システムとして扱うこと。沖縄がなぜ空手発祥の地であるのか、その文化や歴史を学ぶために、先達の教えをより多く伝えること。	オーストラリア
型を正しく学び、次の世代に伝える。	オーストラリア
沖縄の空手の普及と実践。これこそが、世界中の人々が空手に求めているものである。	オーストラリア
特に、MMA や UFC のような野蛮な格闘技の世界では、沖縄の伝統やマナー、考え方を忠実に守っていくことが必要だと思う。空手家として、本当の意味での護身術とスポーツの世界の違いを世界に示さなければならないと私は考える。	オランダ
流派を正しく一貫して勉強し、武道哲学を学び、私の先生や流派の先輩に忠実であり続けることである。	オランダ
空手の流派や系統の統一を図る。異なる団体の良好な調整。空手道を示した者、教えている者を承認すること。	カナダ
道場の生徒との沖縄訪問や、沖縄の講師による我々の道場訪問。	カナダ
教育 1. 沖縄空手の歴史と物語。 2. 長寿を支える心と体の健康法。 3. 分解や組手からの応用の演武。 私自身は、師匠たちの生い立ち、空手の目的や価値、そして流派のハイライトを紹介している沖縄の師匠たちのビデオインタビューを楽しんでいる。	カナダ
流派の知識を次の世代に伝えることができるようになること。	カナダ
伝統の振興と有資格者による指導の促進。	カナダ
空手は伝統的なものを守らなければならない。商業主義に陥りやすく、芸術が水泡に帰してしまうからである。	カナダ
良い質問である。もっと多くの空手修練者が、沖縄の空手がどのように、なぜ生まれたかを理解する必要がある。多くの人がある起源を理解していない。	カナダ
伝統的な武道としての空手・古武道を、その核となる価値観を損なうことなく、継続的に実践していくこと。	カナダ
知識の共有とオリジナルな実践の維持。	カナダ
よりオープンなイベントの開催や SNS などのメディア活用。	ギリシア
世界における沖縄の伝統に関するより多くの教育と認識。国際機関による文化遺産の保護。	クロアチア
ワールドワイドな接点がある。インターネットでの最新の情報発信。型の形状に変更はない。	スイス
若者にアピールする空手の指導をすること。	スイス
互いの交流、政治的な動きを減らす。	スイス
沖縄空手の指導者は、国籍に関係なく心を開いて、沖縄空手の伝統を変えることなく、正しい知識を普及させる努力をすることが大切である。	スウェーデン
沖縄の空手の深い価値観を主張すること。	スペイン

第3章 海外空手家向け調査結果

海外空手家の意見	
空手道の普及と日本文化の啓発を目的とする。	スペイン
世界文化遺産に登録される。	チリ
沖縄空手をスポーツにしない。	チリ
沖縄の空手をもっと宣伝する。有資格者を増やす。	デンマーク
地元（沖縄）の指導者の合理的な登用、沖縄伝統空手・古武道の大衆教育、各道場・流派の振興。	ドイツ
師匠との活発なやりとり。	ドイツ
より経験豊富な沖縄の先生を世界へ向けて発信。	ドイツ
沖縄と国内連盟の良好な協力関係。	ドイツ
次世代が現世代の価値観を受け継ぎ、空手道・道場をリードしていこうという気持ちを持っていること。	ドイツ
武道-哲学、伝統の遵守（作法）、師と道場への敬意 忠誠心、名誉心、師匠への忠誠心。	ドイツ
ヨーロッパ人として、部外者として、それを評価するのはそう簡単なことではない。沖縄の精神文化は、沖縄の武道（Ti）の中に息づいていることを知った。このような伝統を培い、守り、伝えていくこと、それが空手家としてのあるべき姿である。	ドイツ
道場で空手道と古武道の伝統的な価値を守り、ビジネスモデルとしての沖縄武術の商業化を制限すること。	ドイツ
修練者の鍛錬。	ニュージーランド
定期的な国際セミナーとアフターイベントの実施。 より多くの国際審判員による沖縄世界大会の開催。	ニュージーランド
<p>空手家をもっとデジタルメディアで活躍することは、沖縄の空手にとってプラスになると思う。例えば、今回のパンデミックでは、沖縄の空手家がオンラインでセミナーやトレーニングセッションを行ったことがある。これは非常にポジティブなことである。しかし、オンラインイベントは、もっと広範囲で行うことができたはずである。オンラインメディアを利用して、沖縄の空手に関する知識を広め、普及させることが重要だと思う。そうすることで、沖縄への観光客も増え、沖縄や世界各地でのセミナーへの参加も増えるかもしれない。</p> <p>沖縄空手界の師範たちが、積極的に会員をサポートすることも重要だと思う。道場を運営するのは孤独で大変なことである。特に、組織のトップとほとんど連絡を取らない場合はなおさらである。だから、流派によっては、組織や運営を改善することで、会員を維持し、また新しい会員を道場に呼び込むことができると思う。「一つの大きな家族」であることは素晴らしいことだが、会員を大切にするためには、組織的な能力も必要な場合がある。</p> <p>政治的な問題もある。例えば、同じ流派の道場が「一番」を競い合う。これは、道場内や道場間の対立を生む可能性がある。これも、沖縄の組織が強くなれば、緩和されるかもしれない。稽古の質を高く保ち、生徒の技量に関しても高い基準を持つことが重要だと思う。生徒が早く黒帯を取りたいと思うことがあるのは、課題である。しかし、道場の指導者が、ある段位には明らかに不適格な生徒を昇格させるようなことはしないで欲しい。</p>	ノルウェー
伝統を受け継ぐために、すべての指導者に適切なツールを提供する。	ペルトリコ
伝統的な慣習を守り続けること。	フランス

海外空手家の意見	
常に伝統的な空手道を推進する	フランス
創作空手・空手道は“文化”である。	フランス
昔のやり方を忘れてはいけない、それが根幹である。	米国
(1) 心身の鍛錬、(2) 実践的な護身術という観点から、沖縄空手の良さを世界に発信していくことが重要だと考える。現在、総合格闘技(MMA)が盛んになっているが、MMAの時代には伝統武道(沖縄空手など)はあまり価値がないと思っている人も多い。しかし、沖縄空手の稽古に不可欠な人格形成は、MMAの稽古固有のものではない。また、沖縄の空手の型を学ぶことで、MMAのような他のトレーニングでは生まれない護身術のアイデアが生まれることもある。	米国
沖縄空手の学習と指導の継続。	米国
沖縄で様々な沖縄の師匠の元での修行。	米国
沖縄の様々なマスターがそれぞれのスタイルについて情報を共有するセミナーや合宿をもっと活動的にする。	米国
沖縄の文化を伝えること。これまで十分に強調されてこなかった。2005年の私の講演では、空手の保存のために沖縄の文化が重要であることを強調した。	米国
空手・古武道のイベントや沖縄の情報を通じて、沖縄の人々や文化とのつながりを継続する。	米国
沖縄の文化的な側面を教える。	米国
1. 型を後世に正しく継承する。2. 沖縄の文化や歴史は、沖縄の空手を正しく理解する上で非常に重要であるため、それを教えること。	米国
老若男女を問わず、沖縄の空手の普及と稽古の機会を増やすこと。その利点を強調する。人格の向上、身体・精神・魂の鍛錬、自己防衛・自立・自己鍛錬、自信、自分自身と他人に対する忍耐と深い尊敬、互いに学び助け合うこと。	米国
沖縄で開催されるイベントのデジタルクリップを世界に発信しているのは良いことだ。文書資料のために作成されたマニュアルも良いが、一般の人がアクセスできるようにする必要がある。	米国
空手道・古武道に関する知識と高い能力を持ち、次世代に伝統を継承する指導者を育成すること。	米国
沖縄の伝統的な空手道場への働きかけを強化・継続すること。今現在、私たちは沖縄の空手師範の直属であるにもかかわらず、沖縄の空手イベントの情報は乏しく(小さく)、偶然にしか知ることができないことが多い。例えば、今開催されている沖縄空手選手権大会。私は大会の1週間前に、大会出場者がFacebookに投稿した動画で初めて知った。	米国
伊波先生の教えである友情と協力の言葉を広め、空手の持つ価値と健康への恩恵を示し続けること。	米国
すべての沖縄武術のスタイルの統一を継続し、すべてのメンバー間の文化的なつながりを維持する。	米国
空手の伝統的な考え方や価値観を知るために、年配の伝承者のインタビューやオーラルヒストリー(口述歴史資料)を収集し、共有すること。(特に80代、90代の先生方)これらの活動を資金面でサポートし、国際的な空手界で共有する。	米国

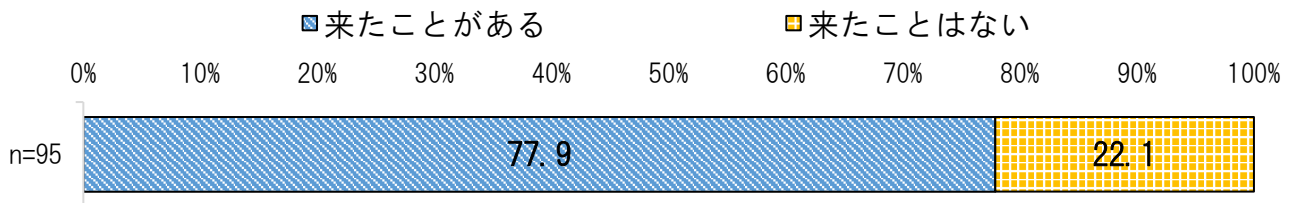
第3章 海外空手家向け調査結果

海外空手家の意見	
友情、協力、学習。	米国
芸術への献身。他人を向上させるために、常に自分の中で改善すること。	米国
歴史的な目的のための国際的な会合や、沖縄の師匠主導のセミナーを継続的に開催する。	米国
伝統的な空手とそうでない（偽物の）空手の違いを知ってもらうために、伝統的な空手（沖縄と日本の両方）とは何かを教え、共有することを続けていく。	米国
本質的な価値を次世代に伝える。	米国
指導者として、伝統的な空手のスタイルを教え続けることが必要である。私は沖縄一心流を通してそれを行っている。師範から現在の師範に至るまで、私たちが受け継いできたものを、生徒自身の流派のルーツや指導者のルーツとして、時系列で教えることが重要である。指導者は、たとえ師匠の墓参りを含めても、沖縄の流派のルーツを訪ねるよう生徒たちに勧めるべきである。また、伝統を守り、固有の型とその護身術を分析することも不可欠である。自分の流派の創始者に頭を下げることは、武術家として常に行わなければならない尊敬の念を示すものである。先生は、私たちが他人に期待する敬意を示すことが重要である。	米国
ソーシャルメディアと専用ウェブサイトでの露出の強化。	米国
政治的なやり方を減らす。	ベルギー
空手発祥の地である沖縄を集中的にPRする。	ポーランド
空手発祥の地・沖縄を集中的にアピール。	ポーランド
セルフディフェンスにおける空手の真の意味の開発。	ポルトガル
セミナーや技術研修の開催を推進。	ポルトガル
空手道の理念に立ち返ると、世界中で実践されている空手道は、近代化、スポーツ化によって、その本質が失われることがある。	メキシコ
空手の普及と、日本の師範に直接師事していない人たちが世界的に活躍できるようにする。	メキシコ
伝統的な方法で教える。	メキシコ
敬意と一貫と忠誠。	ロシア
沖縄の道場における伝統的な教えを守ること。	ロシア
絶えず斬新的に継続すること。	ロシア
学び、次世代に継承する。	ロシア
最新のツール（オンラインツール、ビデオ、ソーシャルメディアなど）を使って、新しい視聴者にアピールするとともに、世界中の空手家とコミュニケーションを取り続けること。より多くの空手団体や流派、系統に対して、より良い働きかけをすること。	中国
自分から始めること：空手の稽古を続けること、良い特長である謙虚、親切、誠実、時間を守る、親切、寛大、温和など。	香港
広報活動。	マカオ
沖縄の先生の直系である県外の先生に対して、宿泊や旅費などの間接的な経済的支援を行うこと。	南アフリカ

(5) 来沖経験

Q5 あなたは、沖縄に来たことがありますか。

- ・全体では、「来たことがある」が77.9%と高い割合である。
- ・性別では、男性（78.3%）女性（72.7%）ともに7割以上が「来たことがある」と回答している。
- ・年代別では、40代、50代、60代以上で「来たことがある」と回答した割合が7割以上となっている。
- ・居住国別では、北米においては91.9%、欧州では70.3%が「来たことがある」と回答している。



		(N=/%)	来たことがある	来たことはない
全 体		95	77.9	22.1
性別	男性	83	78.3	21.7
	女性	11	72.7	27.3
	回答しない	1	100.0	-
年代別	10代	1	-	100.0
	20代	-	-	-
	30代	9	55.6	44.4
	40代	19	78.9	21.1
	50代	24	75.0	25.0
	60代以上	42	85.7	14.3
居住国別	北米	37	91.9	8.1
	南米	11	63.6	36.4
	欧州	37	70.3	29.7
	ロシア	4	75.0	25.0
	豪州	2	50.0	50.0
	アジア	3	66.7	33.3
	アフリカ	1	100.0	-

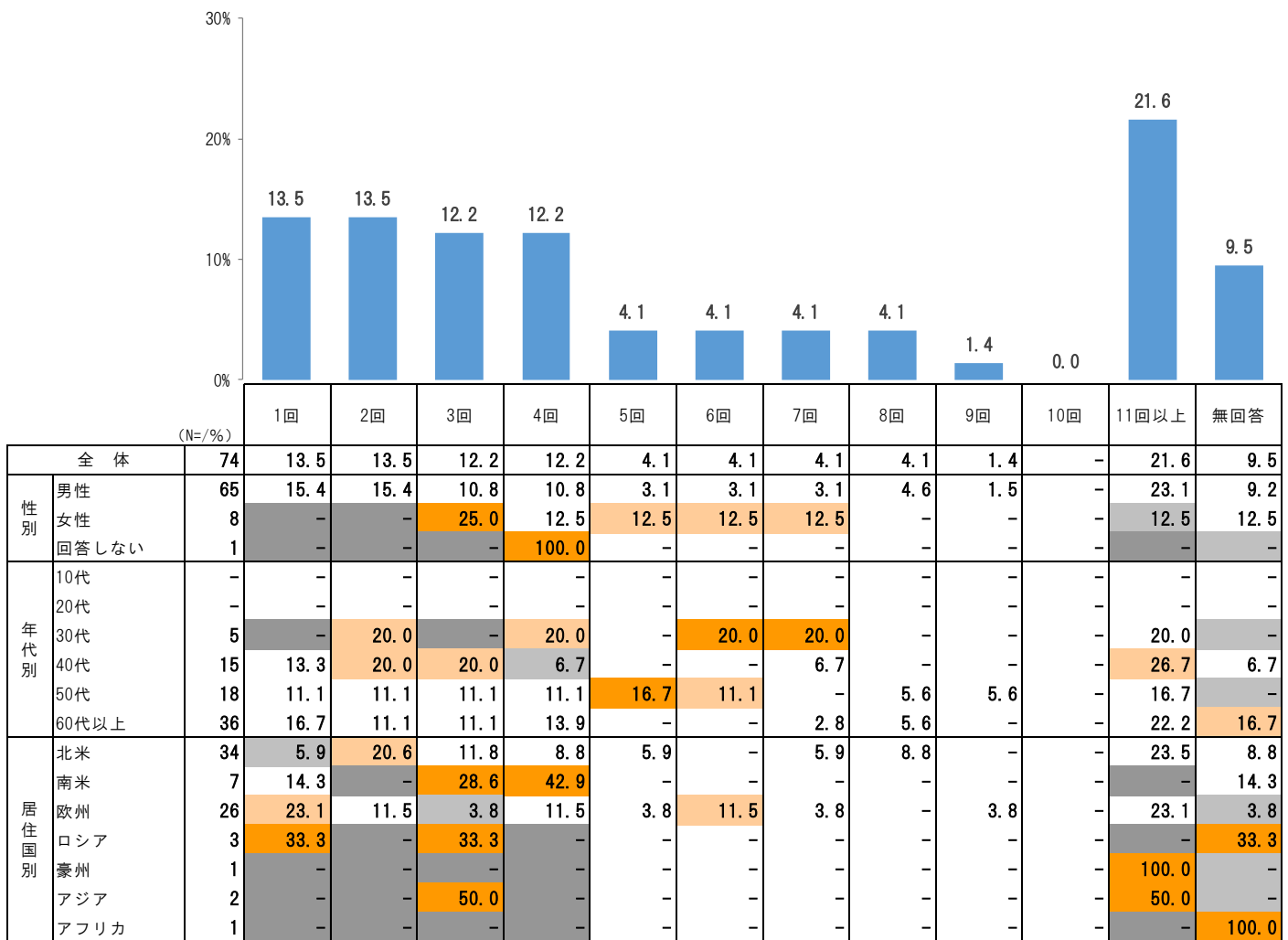
※「全体」に比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

第3章 海外空手家向け調査結果

(6) 来沖回数

Q6 あなたは沖縄に何回訪問したことがありますか。

- ・全体では、「11回以上」が21.6%と最も高く、次いで「1回」と「2回」が13.5%となっている。
- ・性別では、男性で「11回以上」が23.1%と最も高く、次いで「1回」と「2回」が15.4%となっている。
- ・年代別では、60代以上で「11回以上」が22.2%と最も高く、「1回」が16.7%となっている。
- ・居住国別では、北米においては「11回以上」が23.5%と最も高く、次いで「2回」が20.6%となっている。
- ・北米においては、「11回以上」が23.5%で高く、欧州では「11回以上」と「1回」が23.1%で同じ割合となっている。

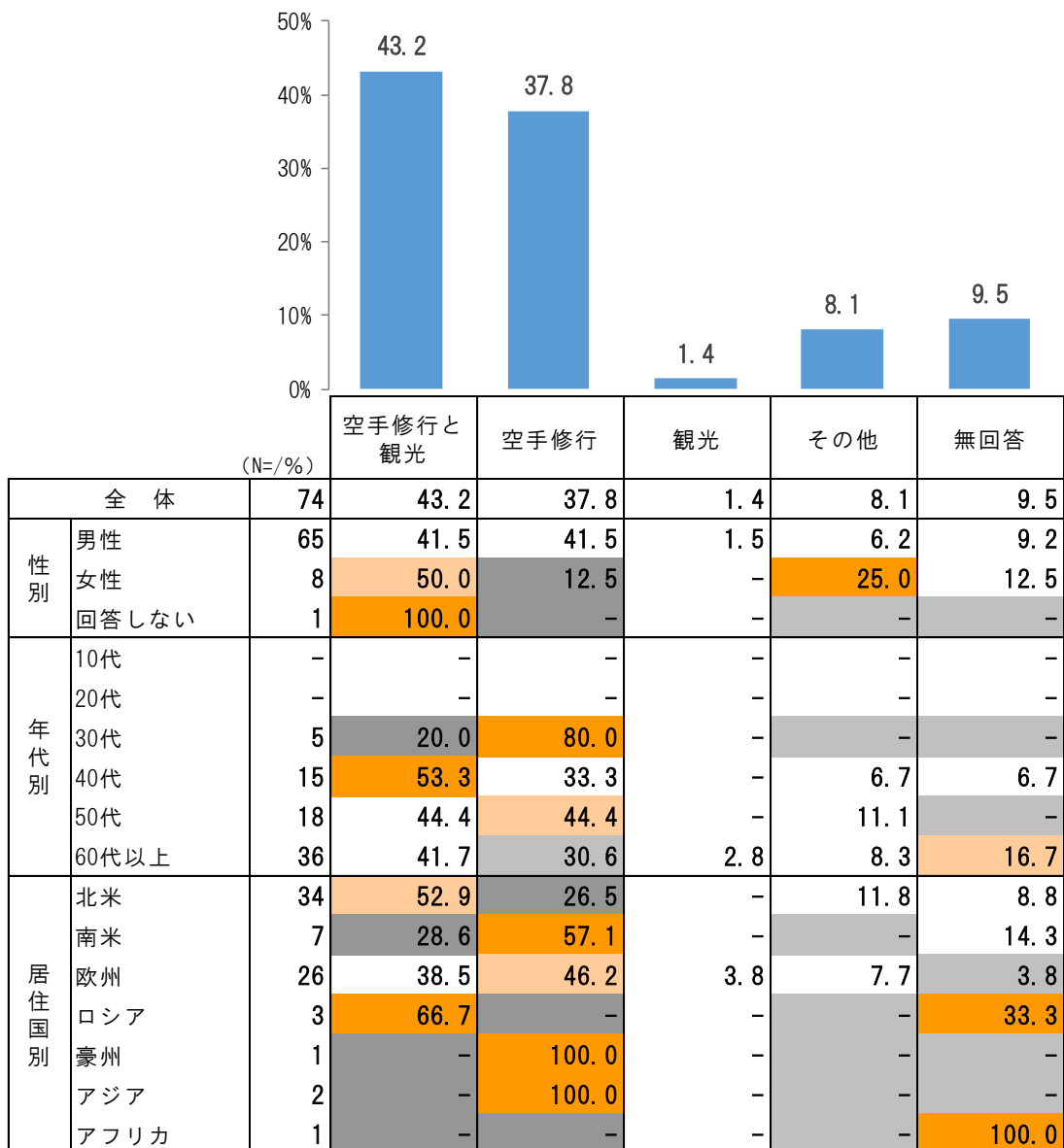


※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(7) 来沖の目的

Q7 沖縄を訪問した目的は何ですか。

- ・全体では、「空手修行と観光」が43.2%と最も高く、次いで「空手修行」が37.8%である。
- ・性別では、男性で「空手修行と観光」と「空手修行」が41.5%と最も高い。
- ・年代別では、60代以上においては「空手修行と観光」が41.7%と最も高く、次いで「空手修行」が30.6%となっている。
- ・居住国別では、北米においては「空手修行と観光」が52.9%と最も高く、次いで「空手修行」が26.5%となっている。欧州では、北米とは対照的に「空手修行」が46.2%と最も高く、「空手修行と観光」が38.5%となっている。



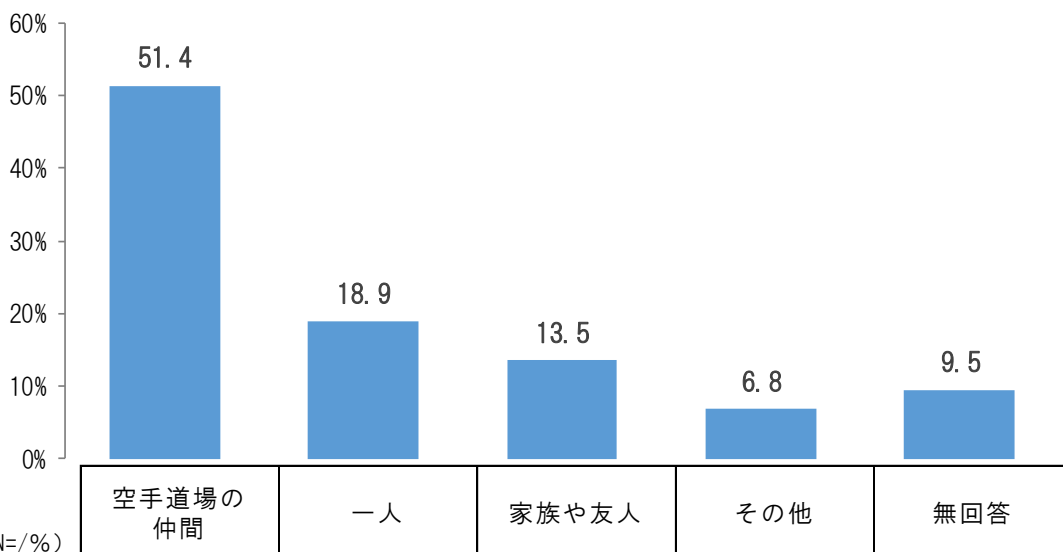
※「全体」に比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

第3章 海外空手家向け調査結果

(8) 来沖の同行者

Q8 来沖した際は誰と来ましたか。

- ・全体では、「空手道場の仲間」が51.4%と最も高く、次いで「一人」が18.9%、「家族や友人」が13.5%と続く。
- ・性別では、男性で「空手道場の仲間」が47.7%と最も高くなっている。
- ・年代別では、60代以上においては「空手道場の仲間」が41.7%と最も高くなっている。
- ・居住国別では、北米においては「空手道場の仲間」が55.9%で最も高く、欧州では46.2%となっている。



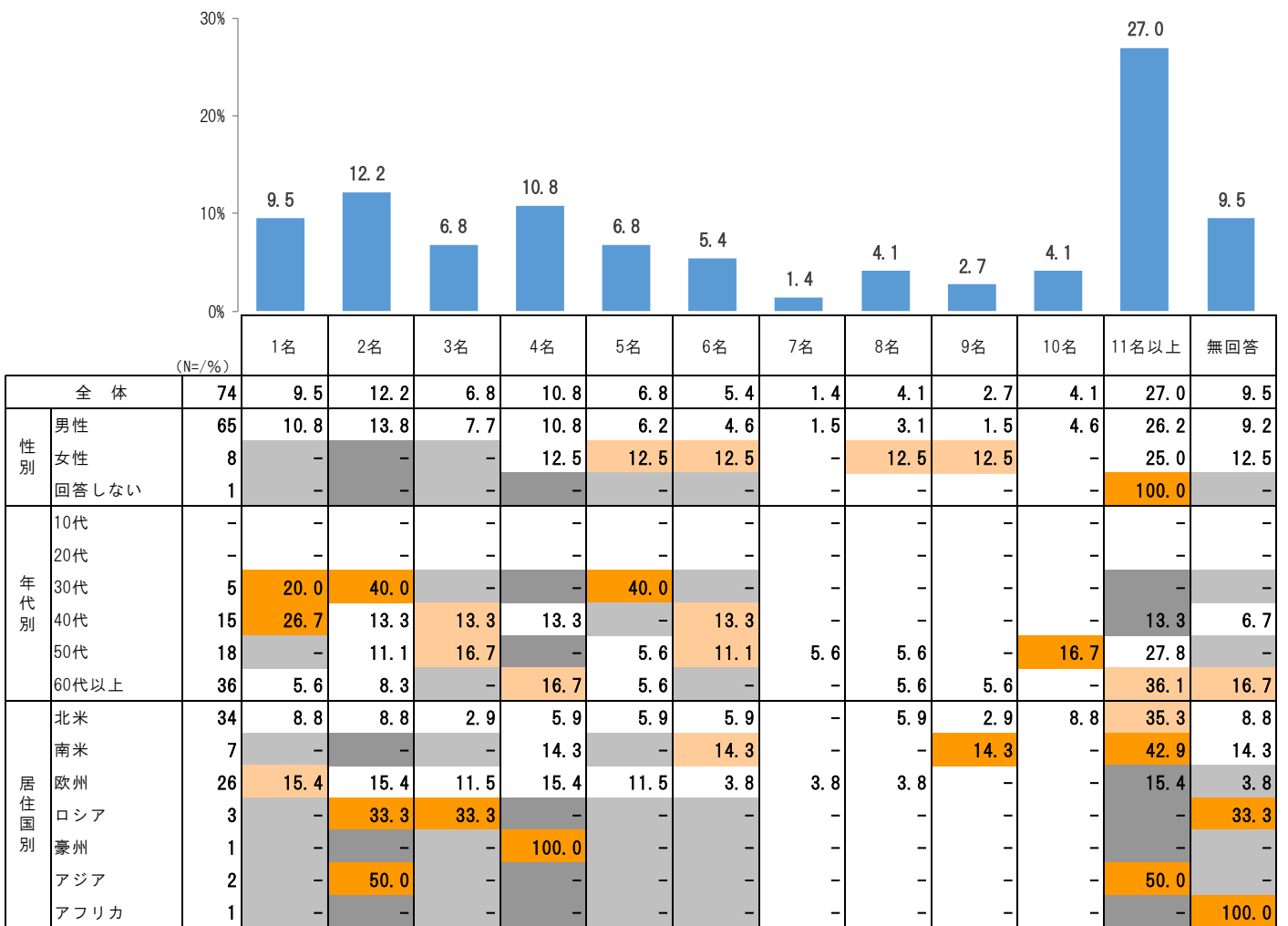
		(N=/%)	空手道場の仲間	一人	家族や友人	その他	無回答
全体		74	51.4	18.9	13.5	6.8	9.5
性別	男性	65	47.7	21.5	13.8	7.7	9.2
	女性	8	75.0	-	12.5	-	12.5
	回答しない	1	100.0	-	-	-	-
年代別	10代	-	-	-	-	-	-
	20代	-	-	-	-	-	-
	30代	5	60.0	40.0	-	-	-
	40代	15	46.7	26.7	13.3	6.7	6.7
	50代	18	72.2	11.1	5.6	11.1	-
	60代以上	36	41.7	16.7	19.4	5.6	16.7
居住国別	北米	34	55.9	11.8	14.7	8.8	8.8
	南米	7	57.1	14.3	14.3	-	14.3
	欧州	26	46.2	26.9	15.4	7.7	3.8
	ロシア	3	66.7	-	-	-	33.3
	豪州	1	100.0	-	-	-	-
	アジア	2	-	100.0	-	-	-
	アフリカ	1	-	-	-	-	100.0

※「全体」比比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

(9) 来沖の人数

Q9 来沖した際は何名で来ましたか。

- ・全体では、「11名以上」が27.0%と最も高く、次いで「2名」が12.2%、「4名」が10.8%と続く。
- ・性別では、男性で「11名以上」が26.2%と最も高く、次いで「2名」が13.8%、「1名」と「4名」が10.8%と続く。
- ・年代別では、60代以上で「11名以上」が36.1%と最も高く、次いで「4名」が16.7%となっている。
- ・居住国別では、北米で「11名以上」が35.3%と最も高くなっている。欧州では「11名以上」、「1名」、「2名」、「4名」がそれぞれ15.4%で同じ割合を占める。



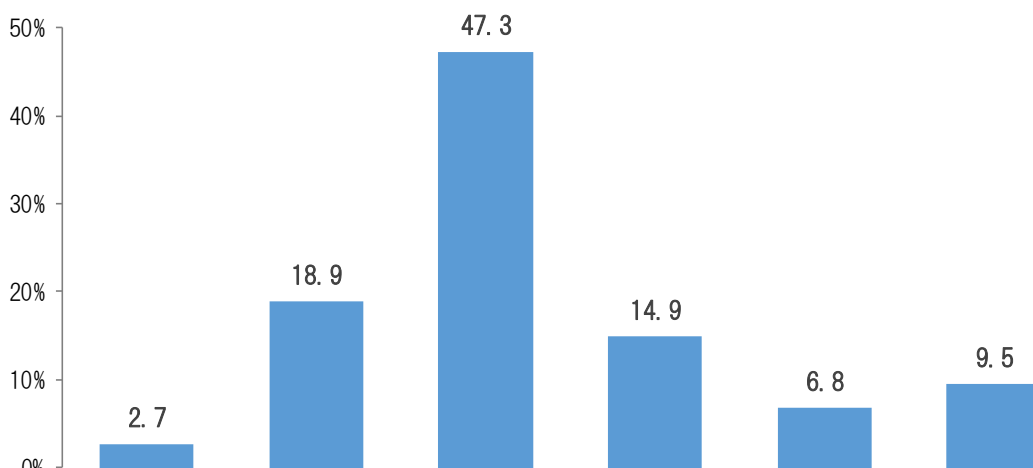
※「全体」に比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

第3章 海外空手家向け調査結果

(10) 来沖時の滞在日数

Q10 来沖した際の滞在日数は何日ですか。

- ・全体では、「2週間」が47.3%と最も高くなっている。
- ・性別では、男性、女性ともに「2週間」が最も高くなっている。
- ・年代別では、全世代で「2週間」が最も高い。
- ・居住国別では、北米においては「2週間」が67.6%で最も高く、欧州でも38.5%で最も高い。



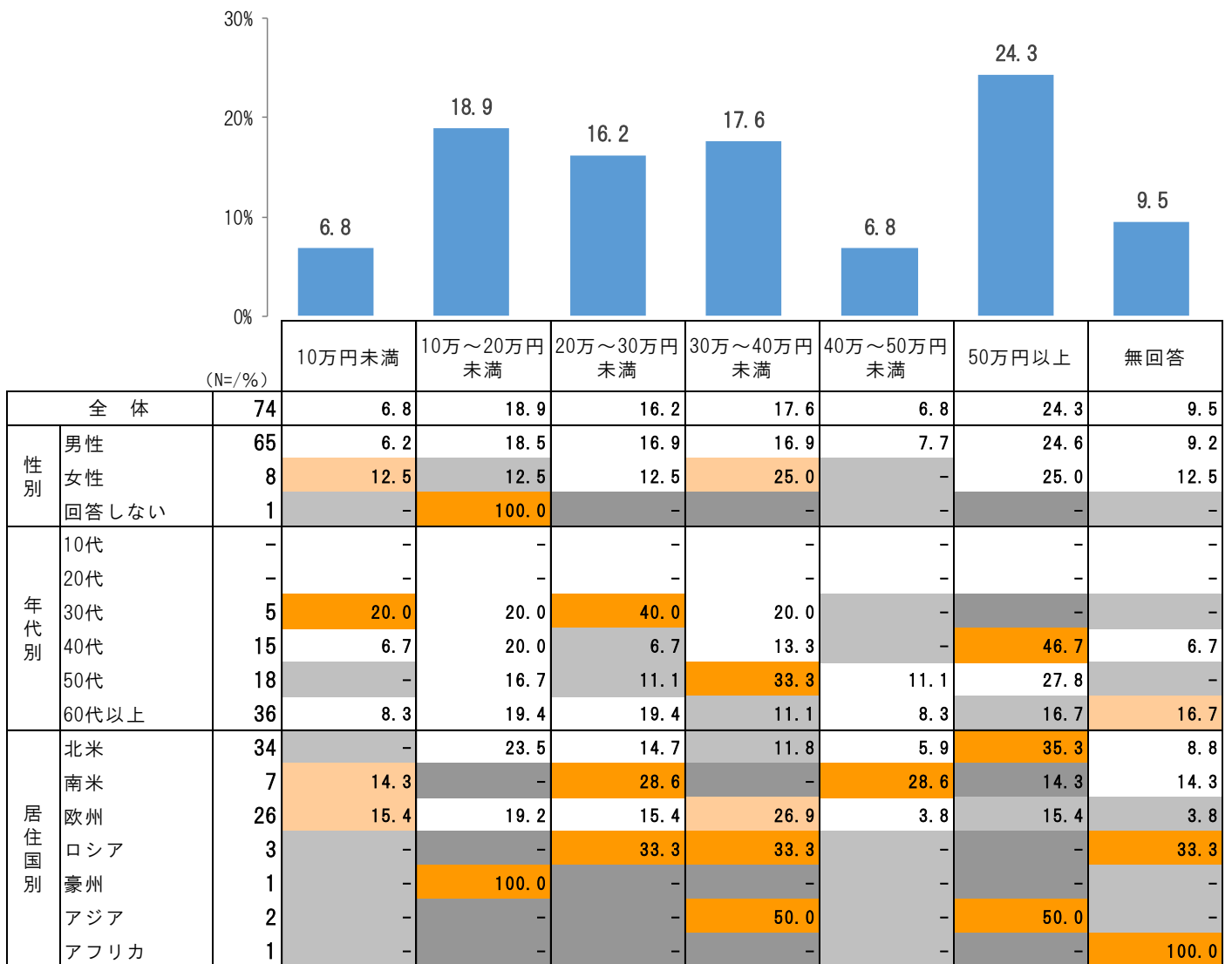
		(N=/%)	3泊4日	1週間	2週間	1ヶ月未満	1ヶ月以上	無回答
全体		74	2.7	18.9	47.3	14.9	6.8	9.5
性別	男性	65	3.1	16.9	46.2	16.9	7.7	9.2
	女性	8	-	25.0	62.5	-	-	12.5
	回答しない	1	-	100.0	-	-	-	-
年代別	10代	-	-	-	-	-	-	-
	20代	-	-	-	-	-	-	-
	30代	5	-	20.0	80.0	-	-	-
	40代	15	-	26.7	40.0	6.7	20.0	6.7
	50代	18	-	27.8	50.0	22.2	-	-
	60代以上	36	5.6	11.1	44.4	16.7	5.6	16.7
居住国別	北米	34	-	14.7	67.6	8.8	-	8.8
	南米	7	-	-	-	57.1	28.6	14.3
	欧州	26	7.7	26.9	38.5	15.4	7.7	3.8
	ロシア	3	-	33.3	33.3	-	-	33.3
	豪州	1	-	-	100.0	-	-	-
	アジア	2	-	50.0	-	-	50.0	-
	アフリカ	1	-	-	-	-	-	100.0

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(11) 沖縄滞在中の消費金額

Q11 沖縄滞在中の消費額はいくらですか。(来沖したグループの総消費額(円))

- ・全体では、「50万以上」が24.3%と最も高く、次いで「10万～20万円未満」が18.9%、「30万～40万円未満」が17.6%となっている。
- ・性別では、男性で「50万以上」が24.6%と最も高く、次いで「10万～20万円未満」が18.5%と続く。
- ・年代別では、60代以上で「10万～20万円未満」と「20万～30万円未満」が19.4%と最も高く、次いで「50万以上」が16.7%となっている。
- ・居住国別では、北米で「50万以上」が35.3%で最も高く、次いで「10万～20万円未満」が23.5%と続く。欧州では「30万～40万円未満」が26.9%と最も高く、次いで「10万～20万円未満」が19.2%となっている。



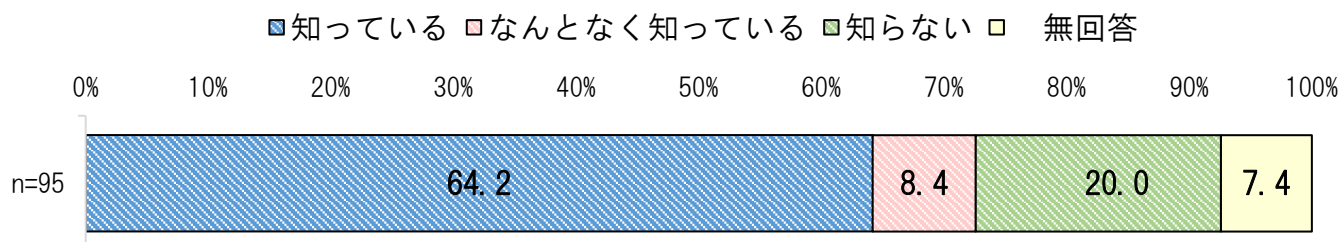
※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

第3章 海外空手家向け調査結果

(12) ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組推進の認知

Q12 沖縄空手のユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取組を推進していることを知っていますか。

- ・全体では、「知っている」と「なんとなく知っている」を合わせると72.6%と認知度が高い
- ・性別では、男性で「知っている」が75.9%と最も高くなっている。
- ・年代別では、全世代で6割以上が認知している。
- ・居住国別では、「知っている」「なんとなく知っている」の認知度について、北米においては75.7%が認知しており、欧州では81.3%が認知している。



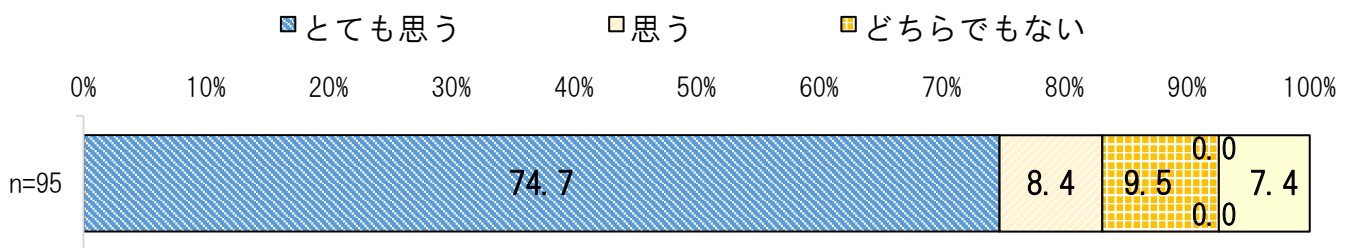
		(N=/%)	知っている	なんとなく知っている	知らない	無回答	認知計 (%)
全	体	95	64.2	8.4	20.0	7.4	72.6
性別	男性	83	67.5	8.4	16.9	7.2	75.9
	女性	11	45.5	9.1	36.4	9.1	54.6
	回答しない	1	-	-	100.0	-	0.0
年代別	10代	1	-	-	100.0	-	0.0
	20代	-	-	-	-	-	0.0
	30代	9	55.6	22.2	22.2	-	77.8
	40代	19	68.4	-	26.3	5.3	68.4
	50代	24	66.7	16.7	16.7	-	83.4
	60代以上	42	64.3	4.8	16.7	14.3	69.1
居住国別	北米	37	64.9	10.8	16.2	8.1	75.7
	南米	11	63.6	-	27.3	9.1	63.6
	欧州	32	75.0	6.3	15.6	3.1	81.3
	ロシア	4	50.0	-	25.0	25.0	50.0
	豪州	7	28.6	28.6	42.9	-	57.2
	アジア	3	66.7	-	33.3	-	66.7
	アフリカ	1	-	-	-	100.0	0.0

※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(13) ユネスコ無形文化遺産に登録された場合の来沖意欲

Q13 あなたは、沖縄空手がユネスコ無形文化遺産に登録されたら、沖縄へ来て空手に触れたり、関わりたいと思いますか。

- ・全体では、「とても思う」が74.7%で来沖意欲が高い。
- ・性別では、男性で「とても思う」が75.9%と最も高い。
- ・年代別では、60代以上で「とても思う」が66.7%、50代では「とても思う」が83.3%で来沖意欲が高い。
- ・居住国別では、「とても思う」が欧州で83.8%と高く、北米では62.2%となっている。



		(N=/%)	とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	あまり思わない	無回答
全 体		95	74.7	8.4	9.5	-	-	7.4
性別	男性	83	75.9	6.0	10.8	-	-	7.2
	女性	11	72.7	18.2	-	-	-	9.1
	回答しない	1	-	100.0	-	-	-	-
年代別	10代	1	100.0	-	-	-	-	-
	20代	-	-	-	-	-	-	-
	30代	9	66.7	22.2	11.1	-	-	-
	40代	19	84.2	-	10.5	-	-	5.3
	50代	24	83.3	12.5	4.2	-	-	-
	60代以上	42	66.7	7.1	11.9	-	-	14.3
居住国別	北米	37	62.2	13.5	16.2	-	-	8.1
	南米	11	90.9	-	-	-	-	9.1
	欧州	37	83.8	8.1	5.4	-	-	2.7
	ロシア	4	75.0	-	-	-	-	25.0
	豪州	2	100.0	-	-	-	-	-
	アジア	3	66.7	-	33.3	-	-	-
	アフリカ	1	-	-	-	-	-	100.0

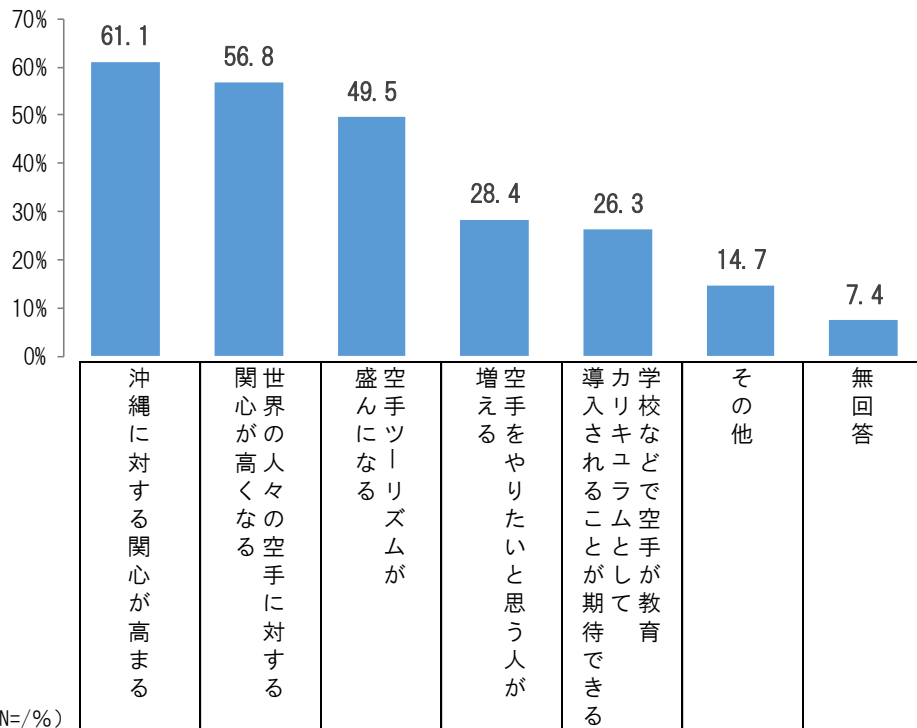
※「全体」に比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

第3章 海外空手家向け調査結果

(14) ユネスコ無形文化遺産に登録された場合の期待

Q14 沖縄空手がユネスコ無形文化遺産に登録された場合、期待することは何ですか。

- ・全体では、「沖縄に対する関心が高まる」が61.1%と最も高く、次いで「世界の人々の空手に対する関心が高くなる」が56.8%となっている。
- ・性別では、男性で「沖縄に対する関心が高まる」が60.2%と最も高く、次いで「世界の人々の空手に対する関心が高くなる」が57.8%となっている。
- ・年代別では、60代以上で「沖縄に対する関心が高まる」が61.9%と最も高く、「世界の人々の空手に対する関心が高くなる」が52.4%となっている。
- ・居住国別では、北米においては「沖縄に対する関心が高まる」が56.8%、次いで「空手ツーリズムが盛んになる」が54.1%で、空手ツーリズムに対する関心も高い。欧州では「沖縄に対する関心が高まる」が78.4%と最も高くなっている。



		(N=)	61.1	56.8	49.5	28.4	26.3	14.7	7.4
		(%)							
全体		95	61.1	56.8	49.5	28.4	26.3	14.7	7.4
性別	男性	83	60.2	57.8	49.4	28.9	26.5	13.3	7.2
	女性	11	72.7	54.5	54.5	27.3	27.3	18.2	9.1
	回答しない	1	-	-	-	-	-	100.0	-
年代別	10代	1	-	100.0	-	-	-	-	-
	20代	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	9	55.6	66.7	55.6	22.2	22.2	11.1	-
	40代	19	57.9	57.9	68.4	42.1	26.3	10.5	5.3
	50代	24	66.7	58.3	54.2	25.0	25.0	12.5	-
	60代以上	42	61.9	52.4	38.1	26.2	28.6	19.0	14.3
居住国別	北米	37	56.8	48.6	54.1	27.0	10.8	16.2	8.1
	南米	11	27.3	72.7	18.2	18.2	27.3	18.2	9.1
	欧州	37	78.4	67.6	54.1	37.8	40.5	13.5	2.7
	ロシア	4	25.0	25.0	50.0	-	25.0	-	25.0
	豪州	2	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	-	-
	アジア	3	66.7	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-
	アフリカ	1	-	-	-	-	-	-	100.0

※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

1. 県内・県外・海外一般向け調査結果

調査対象

- ・空手家、空手関係者以外の一般県民及び県外居住者
- ・海外の空手家、空手関係者以外の海外居住者

調査目的

県内・県外・海外の一般層（空手関係者や現在空手を稽古している方をのぞく）を対象に、空手のイメージや空手発祥の地・沖縄に対する認知度や接触機会、体験意向などを調査することで、沖縄空手のイメージを把握している。また、ユネスコ無形文化遺産登録に関する取組及び沖縄空手会館の認知を把握し、今後の沖縄空手の施策のデータ収集を目的として実施した。

調査概要

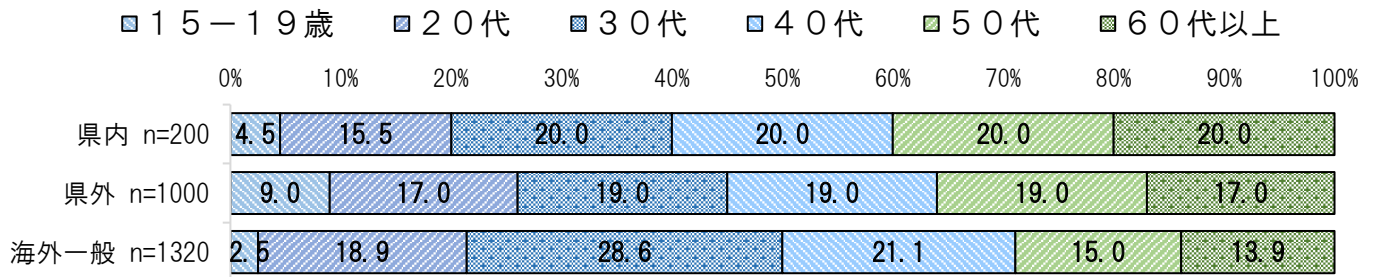
空手家以外から見た沖縄空手の状況	<ul style="list-style-type: none">・回答者基本情報（性別、地域、年代）・「空手発祥の地・沖縄」の認知度・空手へのイメージ・空手の認知内容・空手の認知経路・空手との接触機会・空手の体験意向・子どもへの空手の推奨意向・沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録への取組・沖縄空手会館の認知状況と訪問意向
------------------	---

調査方法	インターネット WEB モニター調査
調査期間	県内・県外：令和4年6月17日 海外一般：令和4年7月14日
調査対象数	沖縄県内 200件 沖縄県外 1,000件 海外一般 1,320件 (米国 220、オーストラリア 220、フランス 220、ドイツ 220、インド 220、アルゼンチン 220)

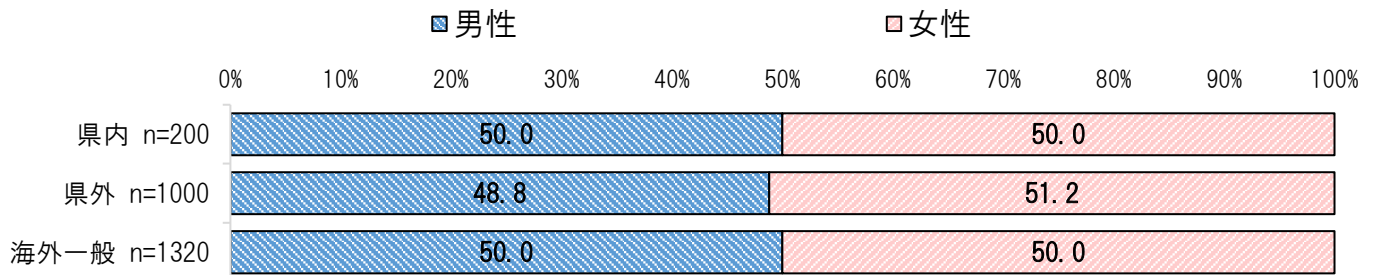
第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

2. デモグラフィック

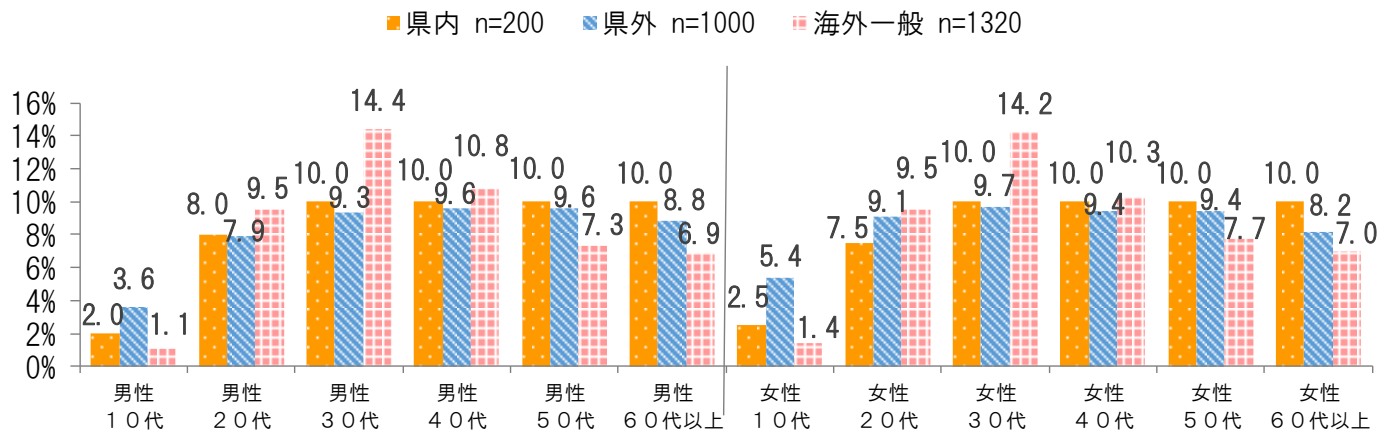
■年代



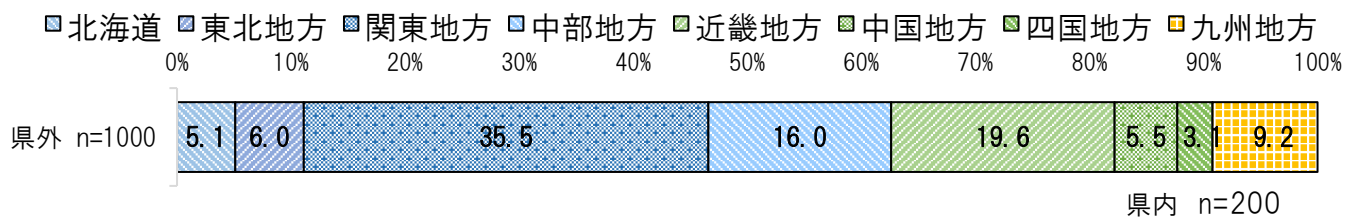
■性別



■性×年代別



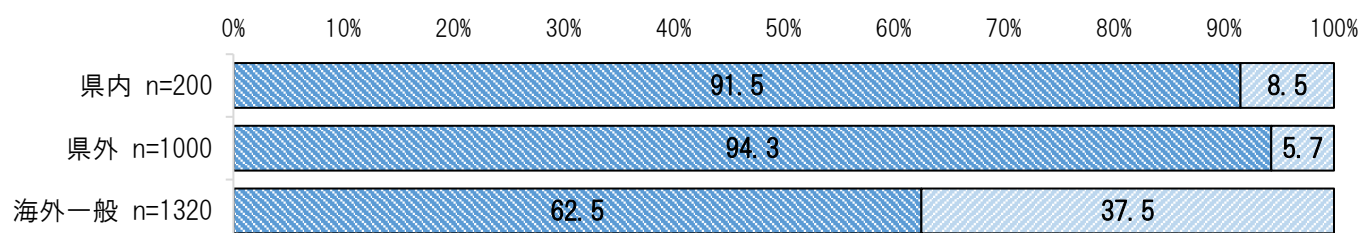
■エリア



第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

■空手経験

■全くない □以前は道場（部活動）に通っていた（所属していた）が、現在はやめてしまった



3. 結果サマリー

○「空手」に関する意識

【空手発祥の地・沖縄の認知】

・「空手発祥の地・沖縄」の認知度は、沖縄県内では88.5%（前回調査96%）、県外では30.8%（前回調査34.6%）となっており、大きな差がある。一方で海外においては49.1%（前回調査未実施）で約半数が「空手発祥の地・沖縄」を認知し、県外より認知度が高い。

【空手のイメージ】

・空手のイメージは、沖縄県内では「伝統的」「男性的」「精神性が高い」、「格がいい」などのイメージを持ち、ほぼ前回調査と同じである。県外では「伝統的」、「男性的」「日本を代表する」、「精神性の高い」、「格がいい」など県内と同じようなイメージを持っている。一方で海外においては、「伝統的」、「日本を代表する」、「日本が強い」、「健康に良い」などのイメージを持っている。

【空手の認知内容と接触経験】

・認知する「空手」の内容は、沖縄県内では「空手発祥の地・沖縄」や、「東京2020オリンピックでの競技種目採用と日本人の活躍」、「空手の精神性」などが多いが、県外では「東京2020オリンピックでの競技種目採用と日本人の活躍」、「空手発祥の地・沖縄」などが多かった。一方海外においては、「空手発祥の地・沖縄」、「空手の世界的広がり」、「空手の精神性」などが多数を占める。

・空手を知るきっかけは、沖縄県内ではテレビCM・番組、友人・家族からの情報提供、東京オリンピックでの観戦などが多く、県外においてもほぼ同じ傾向を示す。一方で海外においては、それに加えてYouTube動画やSNSが空手を知るきっかけとなっている。

・空手への接触機会は、沖縄県内や県外において「体験したことがない」が最も高く、空手を体験したい意向も低かった。一方で海外においては、空手を体験したい意向が高く、「心身の鍛錬」、「護身術の習得」などをその理由にあげている。

・空手の体験の方法は、沖縄県内・県外・海外ともに「道場などへ訪問して稽古の体験」が最も高い。一方で、自分の子どもへの空手の習授にどう思うかにおいては、県内は賛否が3割台で拮抗し、県外は反対が賛成の5倍近く上回った。

○沖縄空手のユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取り組みの現状と課題

・沖縄県が沖縄空手のユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取組を進めていることについて、県内における認知が3割程度と低い。県外における認知は1割と更に低い。また、海外における認知はほぼ県内における認知と同数である。

・沖縄空手のユネスコ無形文化遺産への登録後において、「空手へ関りたい」が県内で25.5%、県外で10.1%、海外では6割を占める。

・沖縄空手がユネスコ無形文化遺産へ登録された場合の期待として、沖縄県内・県外ともに「空手のブランド化」、「国際交流の活発化」が高い割合となっている。

・「空手発祥の地・沖縄」を世界へ発信し、世界中の空手愛好家が来沖することに対する重要度は、県内で6割が重要と認識するが、その来訪が十分に達成されたと認識するのは、3分の1程度であった。

・供用開始から5年を経た沖縄空手会館の認知度は、県内において約6割、県外において1割、海外において3割程度である。沖縄空手会館の公式HPを閲覧し、海外では約7割が「訪問したい」の意向を示したが、県内が3割、県外が1割に留まる。

4. 調査結果詳細


- 本報告書については、「沖縄県内一般向け調査」、「沖縄県外一般向け調査」と「海外一般向け調査」のデータを併記する形で作成しております。そのため、各ページごとに以下アイコンを付けてます。

県内/県外/海外一般共通

県内/県外共通

県内のみ

- 各数表内のハッチング基準は以下の通りです。

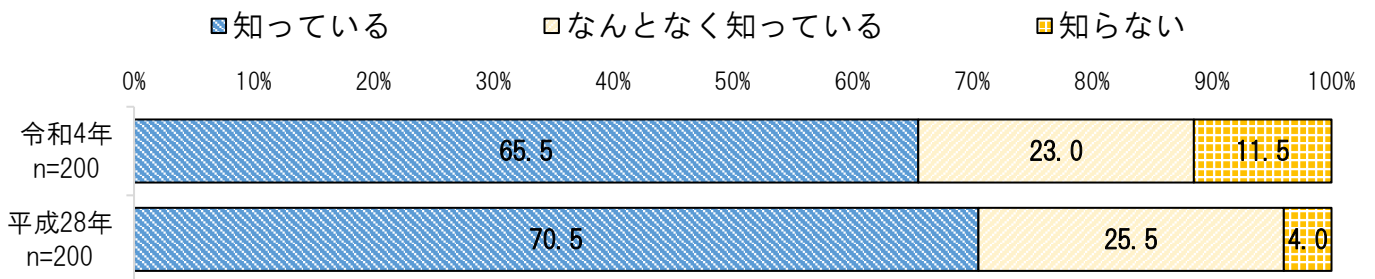
※「全体」と比べて  + 10 pt以上  + 5 pt以上  - 10 pt以下  - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

(1) 「空手発祥の地・沖縄」の認知

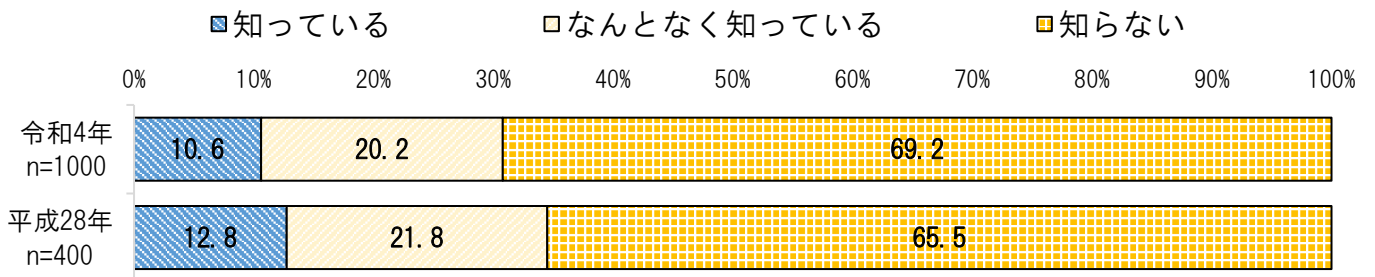
Q1. あなたは、空手発祥の地が沖縄であることをご存じでしたか。(県内・県外年度別比較等)

- ・ 県内・県外別の経年比較では、県内の「知っている」の割合は令和4年度が65.5%で、平成28年度の70.5%より5ポイント低くなっている。県外でも「知っている」の割合が令和4年度10.6%に対し、平成28年度は12.8%と2.2ポイント低くなっている。
- ・ 県内の年代別で見ると、20代から60代以上においては「知っている」の割合が50代で77.5%と最も高く、次いで60代以上が70.0%、40代が60.0%、20代が67.7%、30代が50.0%と続く。

県内年度別比較



県外年度別比較



			N=			(%)			
			知っている	なんとなく知っている	知らない	認知計			
県内一般	全体		200	65.5	23.0	11.5	88.5		
	性別	男性	100	65.0	24.0	11.0	89.0		
		女性	100	66.0	22.0	12.0	88.0		
	年代別	10代	9	77.8	11.1	11.1	88.9		
		20代	31	67.7	16.1	16.1	83.9		
		30代	40	50.0	32.5	17.5	82.5		
		40代	40	60.0	30.0	10.0	90.0		
		50代	40	77.5	10.0	12.5	87.5		
60代以上		40	70.0	27.5	2.5	97.5			

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q1. あなたは、空手発祥の地が沖縄であることをご存じでしたか。(県外一般、海外一般)

- ・ 県外の年代別では、60代以上で「知っている」の割合が13.5%で最も高く、「知らない」の割合は10代で82.2%と最も高い。
- ・ 海外では、「知っている」の割合が21.1%となっており、県外の10.6%より認知度が高い。
- ・ 海外の国別では、アルゼンチンやインドが約3割で高く、年代別で40代が27.3%で最も高い。

			N=			(%)				
			知っている	なんとなく知っている	知らない				認知計	
県外一般	全体		1000	10.6	20.2	69.2				30.8
	性別	男性	488	13.7	23.6	62.7				37.3
		女性	512	7.6	17.0	75.4				24.6
	年代別	10代	90	6.7	11.1	82.2				17.8
		20代	170	7.1	15.9	77.1				22.9
		30代	190	12.6	16.8	70.5				29.5
		40代	190	8.4	22.6	68.9				31.1
		50代	190	13.2	23.2	63.7				36.3
		60代以上	170	13.5	27.1	59.4				40.6
	地域別	北海道	51	5.9	27.5	66.7				33.3
		東北地方	60	8.3	15.0	76.7				23.3
		関東地方	355	10.4	16.3	73.2				26.8
		中部地方	160	10.6	21.9	67.5				32.5
		近畿地方	196	9.7	20.9	69.4				30.6
中国地方		55	10.9	23.6	65.5				34.5	
四国地方		31	9.7	38.7	51.6				48.4	
九州地方		92	17.4	21.7	60.9				39.1	

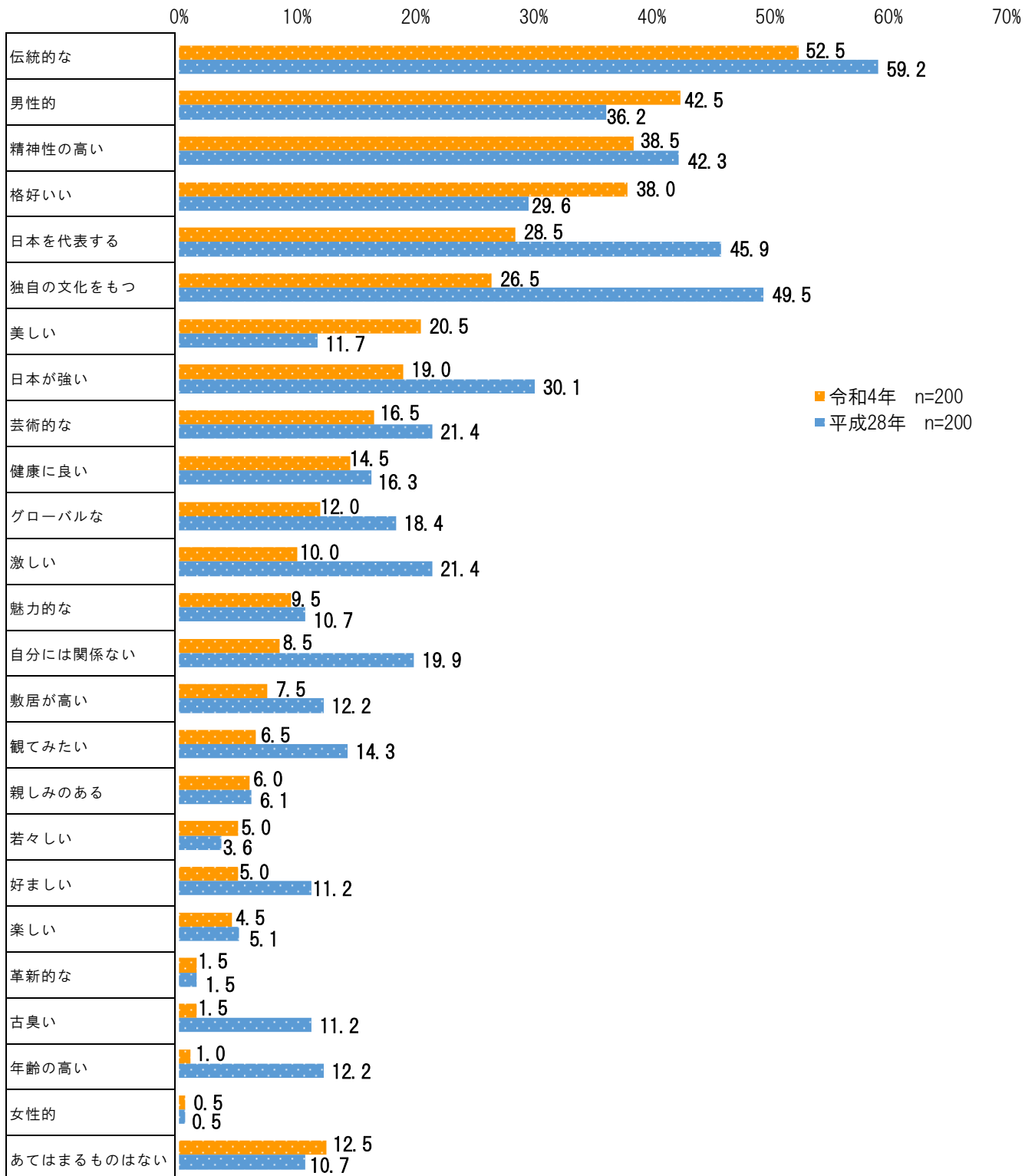
			N=			(%)				
			知っている	なんとなく知っている	知らない				認知計	
海外一般	全体		1320	21.1	28.0	50.9				49.1
	性別	男性	660	23.8	29.8	46.4				53.6
		女性	660	18.3	26.2	55.5				44.5
	年代別	10代	33	21.2	30.3	48.5				51.5
		20代	250	20.0	31.2	48.8				51.2
		30代	377	20.4	30.8	48.8				51.2
		40代	278	27.3	28.1	44.6				55.4
		50代	198	20.2	25.8	54.0				46.0
		60代以上	184	15.2	20.1	64.7				35.3
	国別	米国	220	20.9	20.5	58.6				41.4
		オーストラリア	220	13.2	18.2	68.6				31.4
		フランス	220	14.5	37.3	48.2				51.8
		ドイツ	220	18.6	23.2	58.2				41.8
		インド	220	29.1	36.8	34.1				65.9
アルゼンチン		220	30.0	32.3	37.7				62.3	

(2) 「空手」のイメージ

Q2. 「空手」のイメージについて、当てはまるものを複数ご回答ください。(県内年度別比較)

・県内では「伝統的な」の割合が最も高く、令和4年度が52.5%で、平成28年度の59.2%より6.7ポイント低くなっている。「格好いい」の割合が令和4年度38.0%に対して、平成28年度は29.6%と8.4ポイント高くなっている。

| 県内年度別比較

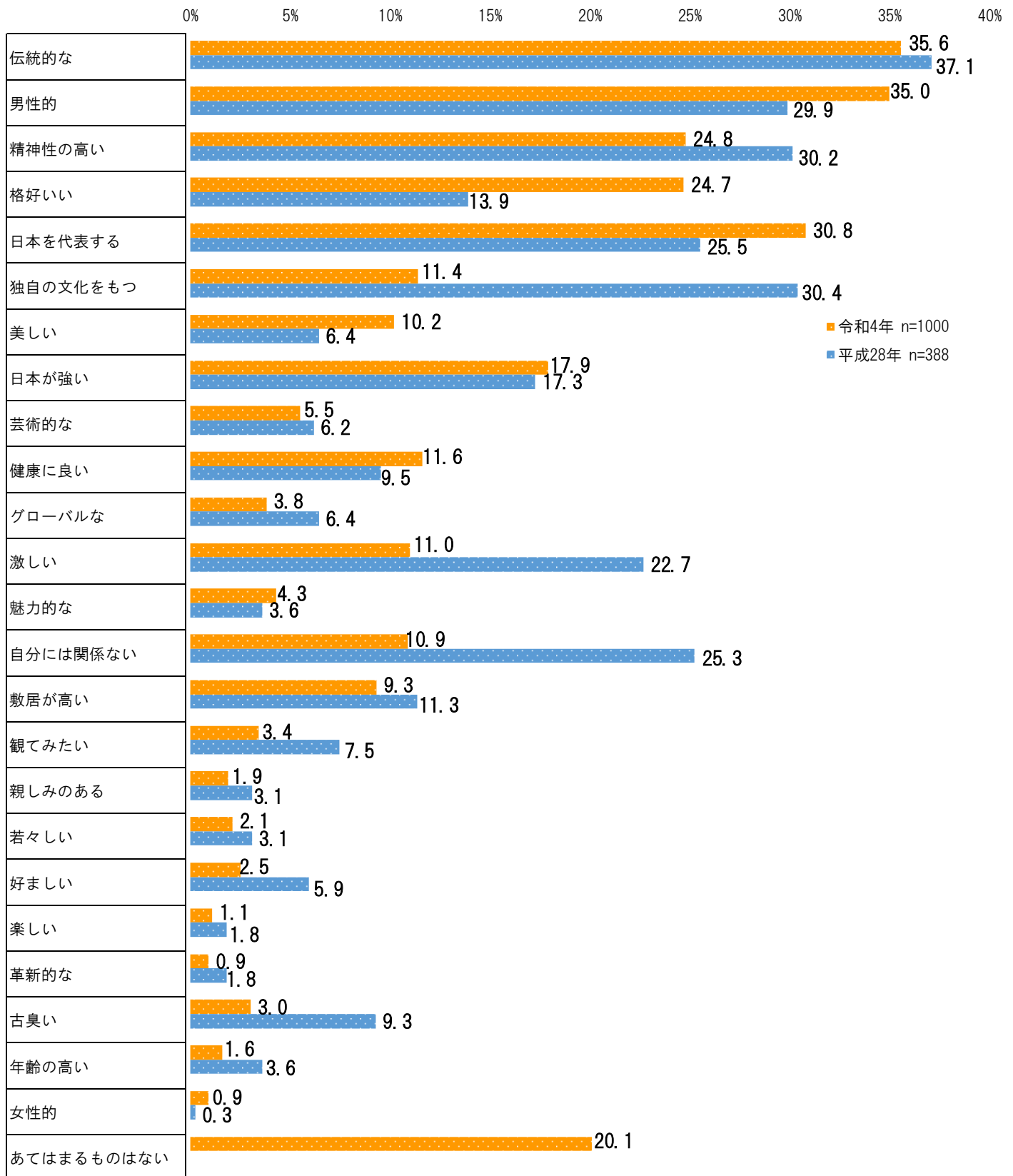


第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q2. 「空手」のイメージについて、当てはまるものを複数ご回答ください。（県外年度別比較）

・県外の経年比較では、令和4年度、平成28年度ともに「伝統的な」「男性的」「精神性の高い」の割合が高い。また、「格好いい」の割合が令和4年度24.7%に対して平成28年度は13.9%と10.8ポイント高くなっている。

県外年度別比較

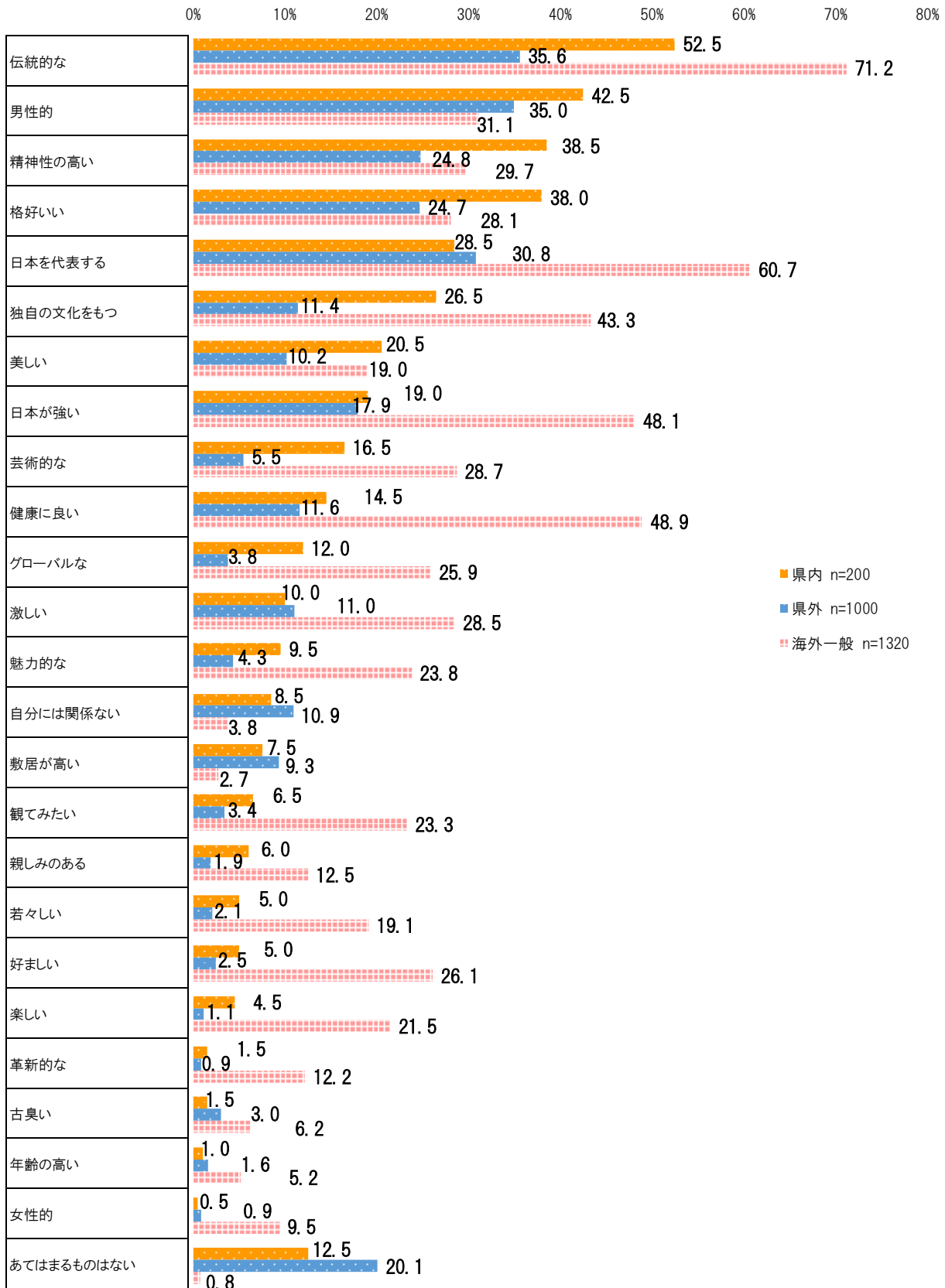


第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q2. 「空手」のイメージについて、当てはまるものを複数ご回答ください。(県内・県外・海外別比較)

・県内・県外・海外別では、海外が「伝統的な」(71.2%)、「日本を代表する」(60.7%)、「健康に良い」(48.9%)と日本の国内より高い結果となる。

| 県内・県外・海外別比較



第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q2. 「空手」のイメージについて、当てはまるものを複数ご回答ください。

(県内一般・県外一般・海外一般)

- ・県内・県外・海外別では、県内の性別で見ると女性は「伝統的な」の割合が62.0%で最も高く、次いで「格好いい」が53.0%、「精神性の高い」が50.0%である。男性は「男性的」の割合が51.0%で最も高く、「伝統的な」が43.0%と続く。
- ・県外の性別で見ると、男性は「男性的」の割合が37.1%、「伝統的な」が32.0%、女性は「伝統的な」が39.1%、「格好いい」が29.9%と続く。
- ・海外では、男女ともに「伝統的な」の割合が約7割と最も高く、次いで「日本を代表する」の割合が男性で64.2%、女性で57.1%となる。国別では、「伝統的な」の割合が全ての国で高い割合となり、米国は「健康に良い」が65.0%、アルゼンチンが56.8%と高い。

		(N=/%)	男性的	女性的	日本を代表する	日本が強い	格好いい	美しい	伝統的な	革新的な
県内一般	全体	200	42.5	0.5	28.5	19.0	38.0	20.5	52.5	1.5
	性別									
	男性	100	51.0	1.0	22.0	18.0	23.0	13.0	43.0	1.0
	女性	100	34.0	-	35.0	20.0	53.0	28.0	62.0	2.0
	年代別									
	10代	9	44.4	-	22.2	44.4	66.7	33.3	66.7	-
	20代	31	38.7	3.2	25.8	19.4	41.9	19.4	48.4	3.2
30代	40	52.5	-	27.5	17.5	40.0	15.0	35.0	-	
40代	40	45.0	-	35.0	20.0	40.0	22.5	55.0	2.5	
50代	40	45.0	-	22.5	15.0	40.0	22.5	55.0	-	
60代以上	40	30.0	-	32.5	17.5	22.5	20.0	65.0	2.5	
県外一般	全体	1000	35.0	0.9	30.8	17.9	24.7	10.2	35.6	0.9
	性別									
	男性	488	37.1	0.8	27.5	16.6	19.3	7.8	32.0	0.6
	女性	512	33.0	1.0	34.0	19.1	29.9	12.5	39.1	1.2
	年代別									
	10代	90	31.1	1.1	32.2	27.8	43.3	11.1	41.1	2.2
	20代	170	31.2	1.8	26.5	19.4	20.6	9.4	26.5	1.2
	30代	190	28.4	0.5	31.6	16.3	23.2	9.5	34.2	1.1
	40代	190	38.4	0.5	31.6	13.7	25.3	10.0	32.6	1.1
	50代	190	42.1	1.6	31.1	19.5	25.3	12.1	41.1	-
	60代以上	170	36.5	-	32.4	15.9	19.4	9.4	40.6	0.6
	地域別									
	北海道	51	31.4	-	35.3	21.6	27.5	11.8	35.3	-
東北地方	60	31.7	1.7	28.3	15.0	28.3	6.7	33.3	-	
関東地方	355	33.2	0.8	30.4	20.3	21.1	11.3	35.8	0.8	
中部地方	160	38.8	1.9	30.0	13.8	27.5	7.5	34.4	1.9	
近畿地方	196	34.7	1.0	29.6	18.4	23.0	11.7	35.2	0.5	
中国地方	55	34.5	-	25.5	18.2	36.4	5.5	40.0	1.8	
四国地方	31	41.9	-	45.2	9.7	32.3	19.4	35.5	-	
九州地方	92	38.0	-	33.7	17.4	23.9	8.7	37.0	1.1	
海外一般	全体	1320	31.1	9.5	60.7	48.1	28.1	19.0	71.2	12.2
	性別									
	男性	660	36.2	6.2	64.2	48.6	28.3	19.4	72.0	11.7
	女性	660	26.1	12.7	57.1	47.6	27.9	18.6	70.5	12.7
	年代別									
	10代	33	33.3	12.1	63.6	33.3	45.5	21.2	72.7	9.1
	20代	250	32.0	13.2	59.6	44.8	39.6	21.6	65.6	10.4
	30代	377	28.1	6.4	59.7	49.6	27.3	17.5	70.6	13.8
	40代	278	27.7	8.3	59.7	47.5	28.8	23.4	72.7	15.8
	50代	198	39.9	12.1	63.6	46.0	20.7	17.7	75.3	10.6
	60代以上	184	31.5	9.2	62.0	55.4	17.9	13.0	73.4	8.2
	国別									
	米国	220	42.7	12.7	65.5	39.1	41.8	34.5	75.5	18.2
オーストラリア	220	30.0	6.4	57.3	45.9	23.2	17.3	75.0	9.1	
フランス	220	19.5	3.2	62.3	40.9	12.7	17.7	66.8	4.5	
ドイツ	220	35.5	15.5	60.0	56.8	27.7	6.8	80.0	7.3	
インド	220	38.6	14.5	51.4	57.7	31.4	25.5	55.0	28.6	
アルゼンチン	220	20.5	4.5	67.7	48.2	31.8	12.3	75.0	5.5	

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

			(N=/%)	グロー バルな	激しい	芸術的な	精神性の 高い	独自の 文化を もつ	楽しい	健康に 良い	若々しい
県内一般	全 体		200	12.0	10.0	16.5	38.5	26.5	4.5	14.5	5.0
	性別	男性	100	6.0	10.0	10.0	27.0	20.0	3.0	11.0	5.0
		女性	100	18.0	10.0	23.0	50.0	33.0	6.0	18.0	5.0
	年代別	10代	9	22.2	22.2	11.1	33.3	22.2	-	11.1	11.1
		20代	31	16.1	12.9	12.9	22.6	16.1	6.5	25.8	9.7
		30代	40	20.0	12.5	15.0	32.5	25.0	2.5	10.0	5.0
		40代	40	10.0	12.5	17.5	40.0	27.5	-	7.5	5.0
50代		40	5.0	7.5	20.0	55.0	27.5	7.5	12.5	2.5	
60代以上		40	7.5	2.5	17.5	40.0	35.0	7.5	20.0	2.5	
県外一般	全 体		1000	3.8	11.0	5.5	24.8	11.4	1.1	11.6	2.1
	性別	男性	488	3.1	11.1	5.9	23.6	11.1	1.2	9.0	1.6
		女性	512	4.5	10.9	5.1	26.0	11.7	1.0	14.1	2.5
	年代別	10代	90	6.7	15.6	7.8	17.8	13.3	3.3	13.3	8.9
		20代	170	2.9	8.2	5.3	15.9	10.0	0.6	10.0	2.4
		30代	190	7.4	7.4	4.2	23.2	11.6	1.6	13.7	2.6
		40代	190	1.6	6.3	3.2	23.2	9.5	0.5	11.1	0.5
		50代	190	2.1	12.1	6.3	27.4	11.6	0.5	6.8	0.5
		60代以上	170	3.5	19.4	7.6	38.2	13.5	1.2	15.9	1.2
	地域別	北海道	51	2.0	2.0	5.9	21.6	9.8	-	13.7	2.0
		東北地方	60	3.3	8.3	6.7	31.7	10.0	-	13.3	1.7
		関東地方	355	3.9	10.1	4.5	23.1	10.4	0.8	11.5	2.3
		中部地方	160	5.6	11.9	8.1	26.9	12.5	1.9	13.8	2.5
近畿地方		196	2.6	12.8	3.6	24.5	11.7	1.5	10.7	2.0	
中国地方		55	5.5	18.2	3.6	23.6	14.5	1.8	12.7	3.6	
四国地方 九州地方		31 92	3.2 3.3	6.5 13.0	9.7 7.6	29.0 25.0	9.7 13.0	- 1.1	3.2 9.8	- 1.1	
海外一般	全 体		1320	25.9	28.5	28.7	29.7	43.3	21.5	48.9	19.1
	性別	男性	660	27.3	27.7	29.1	31.4	41.1	22.0	48.3	20.5
		女性	660	24.5	29.2	28.3	28.0	45.5	21.1	49.5	17.7
	年代別	10代	33	24.2	30.3	39.4	30.3	39.4	27.3	42.4	21.2
		20代	250	26.4	25.6	36.0	24.8	41.6	29.2	49.6	27.2
		30代	377	24.7	24.1	29.4	27.1	38.7	22.3	47.5	17.2
		40代	278	27.0	26.6	23.4	34.9	45.7	20.1	47.1	20.5
		50代	198	24.7	34.8	26.3	33.3	42.9	18.2	53.0	18.2
		60代以上	184	27.7	37.0	26.1	29.9	52.2	14.1	50.5	10.3
	国別	米国	220	32.3	26.4	46.4	40.9	45.9	33.2	65.0	17.7
オーストラリア		220	17.7	22.7	28.6	24.5	35.9	19.1	49.5	14.1	
フランス		220	35.5	34.5	27.7	20.5	39.1	8.6	37.3	12.3	
ドイツ		220	16.8	35.0	16.8	25.0	45.0	23.2	35.0	10.5	
インド		220	31.4	17.7	34.5	27.7	38.2	35.5	50.0	52.3	
アルゼンチン		220	21.8	34.5	18.2	39.5	55.5	9.5	56.8	7.7	

※「全体」に比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

			(N=/%)	年齢の 高い	魅力的な	古臭い	親しみの ある	好ましい	観て みたい	自分には 関係ない	敷居が 高い	あてはま るものは ない
県内 一般	全 体		200	1.0	9.5	1.5	6.0	5.0	6.5	8.5	7.5	12.5
	性 別	男性	100	2.0	4.0	1.0	5.0	2.0	4.0	8.0	7.0	15.0
		女性	100	-	15.0	2.0	7.0	8.0	9.0	9.0	8.0	10.0
	年 代 別	10代	9	-	11.1	-	11.1	-	-	-	22.2	11.1
		20代	31	-	3.2	3.2	6.5	6.5	3.2	12.9	6.5	12.9
		30代	40	2.5	5.0	-	2.5	2.5	7.5	17.5	10.0	12.5
		40代	40	-	10.0	2.5	7.5	2.5	10.0	15.0	12.5	12.5
50代		40	-	20.0	-	7.5	7.5	5.0	-	2.5	12.5	
60代以上		40	2.5	7.5	2.5	5.0	7.5	7.5	-	2.5	12.5	
県外 一般	全 体		1000	1.6	4.3	3.0	1.9	2.5	3.4	10.9	9.3	20.1
	性 別	男性	488	1.8	4.5	3.5	1.8	1.2	2.3	12.7	10.0	23.0
		女性	512	1.4	4.1	2.5	2.0	3.7	4.5	9.2	8.6	17.4
	年 代 別	10代	90	4.4	6.7	4.4	6.7	4.4	7.8	5.6	10.0	16.7
		20代	170	2.9	5.3	2.9	2.9	2.9	2.9	8.2	10.6	28.2
		30代	190	0.5	5.3	4.7	1.1	1.6	2.1	10.5	11.1	24.2
		40代	190	1.6	0.5	3.7	1.1	1.1	2.6	10.0	6.8	17.4
		50代	190	1.6	4.2	2.1	1.1	2.6	2.6	16.3	10.5	18.9
		60代以上	170	-	5.3	0.6	1.2	3.5	4.7	11.8	7.1	13.5
	地 域 別	北海道	51	2.0	3.9	2.0	-	-	3.9	11.8	11.8	19.6
		東北地方	60	-	6.7	3.3	3.3	1.7	6.7	13.3	6.7	26.7
		関東地方	355	1.4	3.1	3.4	1.1	2.0	2.8	7.0	9.9	23.9
		中部地方	160	1.9	5.0	1.9	1.9	3.1	1.9	12.5	8.1	14.4
		近畿地方	196	1.5	5.6	2.6	2.0	3.6	5.6	11.2	8.2	19.4
中国地方		55	-	1.8	5.5	5.5	1.8	1.8	12.7	9.1	16.4	
四国地方		31	3.2	-	9.7	-	3.2	-	19.4	19.4	9.7	
九州地方		92	3.3	6.5	1.1	3.3	3.3	3.3	16.3	8.7	18.5	
海外 一般	全 体		1320	5.2	23.8	6.2	12.5	26.1	23.3	3.8	2.7	0.8
	性 別	男性	660	5.5	25.9	7.3	14.4	28.3	22.6	3.2	2.7	0.9
		女性	660	4.8	21.7	5.2	10.6	23.9	24.1	4.4	2.6	0.6
	年 代 別	10代	33	3.0	33.3	6.1	6.1	21.2	24.2	-	3.0	-
		20代	250	8.4	24.4	6.0	14.4	28.0	27.6	3.2	2.4	0.8
		30代	377	4.2	21.2	5.0	11.1	28.6	18.0	2.4	2.4	1.1
		40代	278	4.7	24.1	6.5	14.7	26.6	25.9	2.5	1.8	0.4
		50代	198	5.1	26.3	9.6	16.2	24.7	21.2	4.5	3.0	1.5
		60代以上	184	3.8	23.4	4.9	6.5	20.1	26.6	9.2	4.3	-
	国 別	米国	220	5.5	13.2	14.1	12.3	25.9	35.5	4.1	0.5	0.5
		オーストラリア	220	0.9	7.3	10.9	7.7	20.5	17.7	8.2	0.9	2.7
フランス		220	8.2	25.9	1.4	7.3	15.5	16.4	2.7	10.0	-	
ドイツ		220	6.8	43.6	2.7	10.5	18.6	16.8	4.5	1.4	-	
インド		220	5.9	31.8	7.3	26.8	32.7	25.9	1.8	0.9	0.9	
アルゼンチン		220	3.6	20.9	0.9	10.5	43.6	27.7	1.4	2.3	0.5	

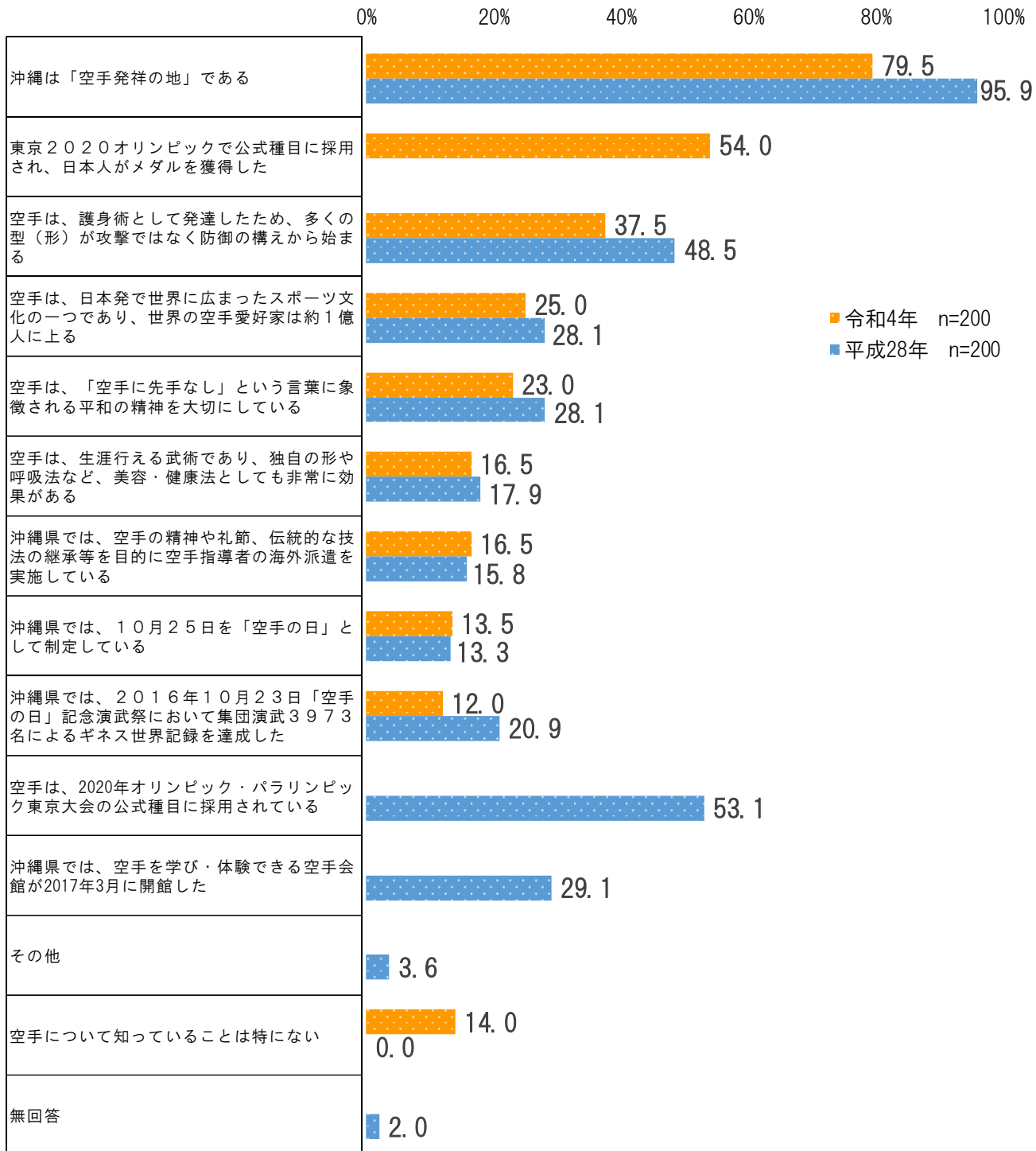
※「全体」に比べて ■ +10 pt以上 ■ + 5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

(3) 「空手」認知内容

Q3. あなたが「空手」についてご存じのものを全てご回答ください。(県内年度別比較)

・県内の経年比較では、令和4年度の「沖縄は『空手の発祥の地』である」の割合が79.5%で、平成28年度の95.9%より16.4ポイント低くなっている。

| 県内年度別比較

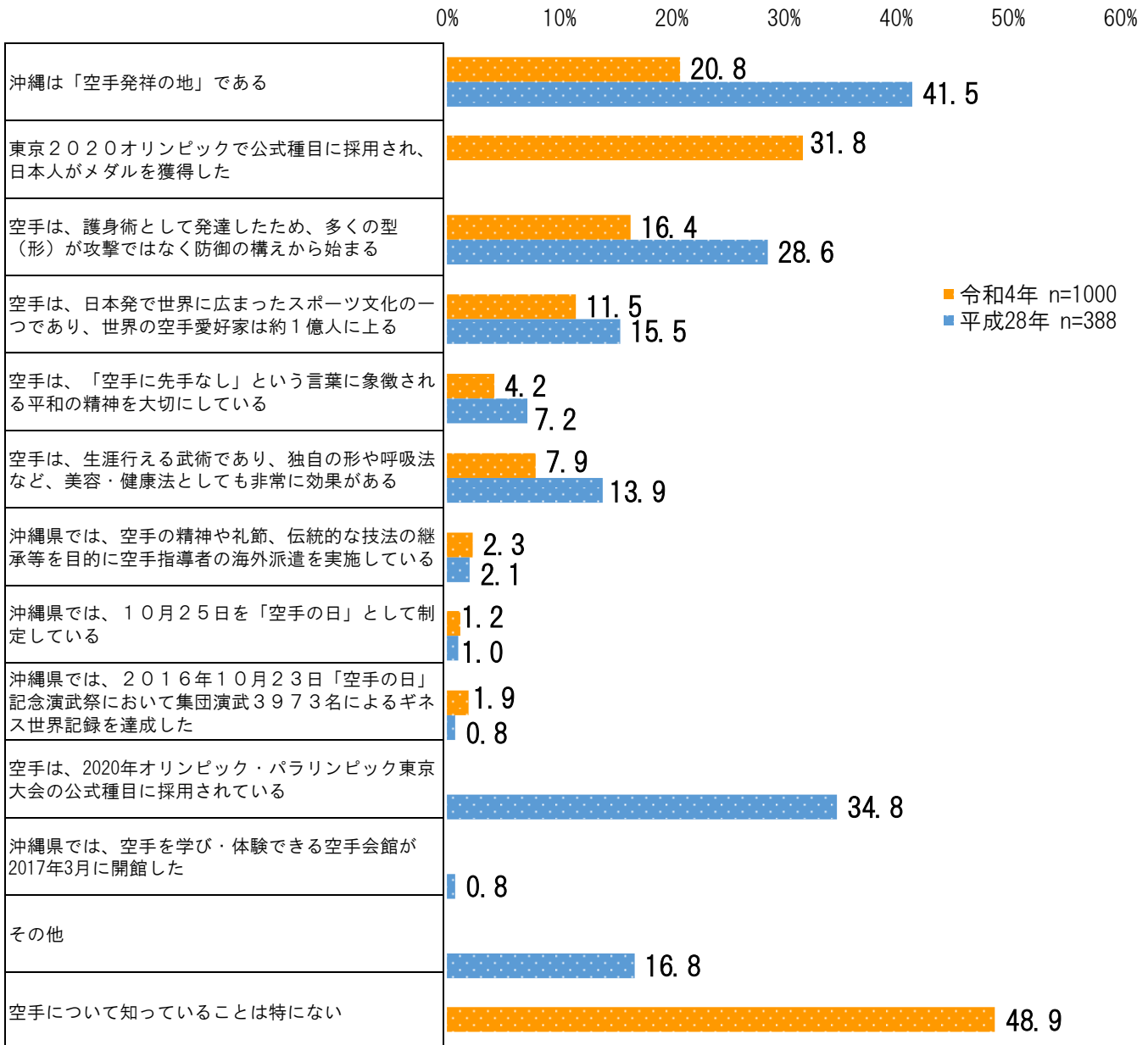


第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q3. あなたが「空手」についてご存じのものを全てご回答ください。(県外年度別比較)

・県外では、令和4年度の「沖縄は『空手の発祥の地』である」の割合が20.8%で、平成28年度の41.5%より認知の割合が半分にまで減っている。

| 県外年度別比較

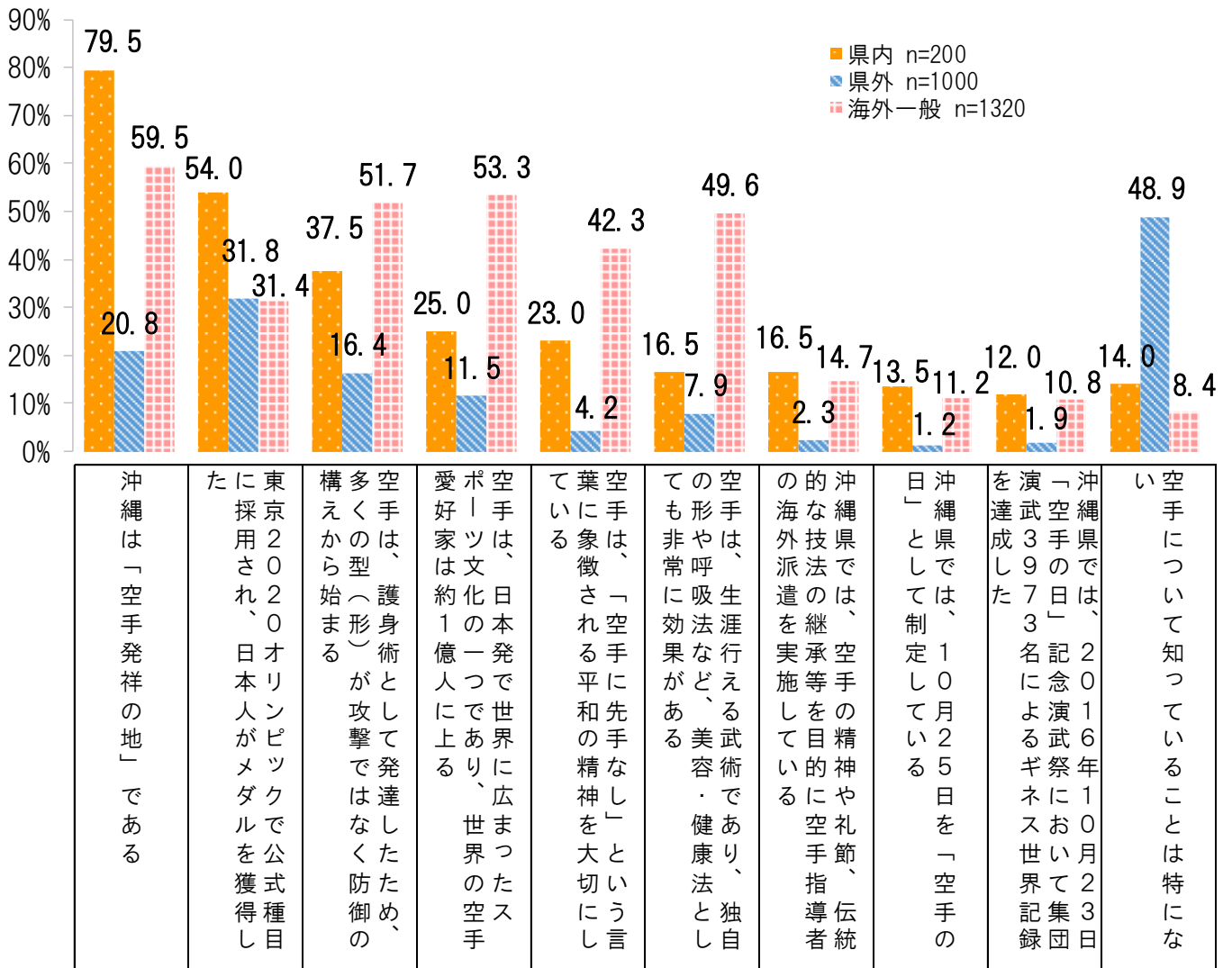


第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q3. あなたが「空手」についてご存じのものを全てご回答ください。(県内・県外・海外別比較)

- ・県内では「沖縄は『空手の発祥の地』である」との認知度が79.5%で最も高い。一方県外では、「東京2020オリンピックで公式種目に採用され、日本人がメダル獲得した」の認知度が31.8%で高い。
- ・海外では「沖縄は『空手の発祥の地』である」の認知度が59.5%で、県外(20.8%)より高い認知度となっている。

| 県内別・県外別・海外別比較



第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q3. あなたが「空手」についてご存じのものを全てご回答ください。(県内一般・県外一般・海外一般)

・ 県内の年代別では、「沖縄は『空手の発祥の地』である」の認知度が50代で85.0%と最も高く、次いで60代以上が82.5%と続く。一方県外では、「東京2020オリンピックで公式種目に採用され、日本人がメダルを獲得した」の認知度が高く、60代以上が43.5%で最も高い。次いで10代が35.6%となっている

・ 海外の国別では、「沖縄は『空手の発祥の地』である」の認知度が米国で70.0%と高く、年代別では60代以上が65.8%と最も高い。

		(N=)	沖縄は「空手の発祥の地」である	愛媛県は約1億人上る	空手は、日本発で世界に広まった	構えから始める	多様な型(形)が攻撃ではなく防衛のため	空手は、護身術として発達したため	葉に象徴される平和の精神を大切に	空手は、「空手に先手なし」という	ても非常に効果がある	の形や呼ばれ方など、美容・健康法として	空手は、生涯行える武術であり、独自の	日沖縄県では、10月25日を「空手の	演武成した	沖縄県では、2016年10月23日	的沖縄県では、空手の精神や礼節、伝統	に東京2020	空手について知っていることは特に	
県内一般	全体	200	79.5	25.0	37.5	23.0	16.5	13.5	12.0	16.5	54.0	14.0								
	性別																			
	男性	100	76.0	20.0	24.0	19.0	10.0	9.0	8.0	11.0	49.0	17.0								
	女性	100	83.0	30.0	51.0	27.0	23.0	18.0	16.0	22.0	59.0	11.0								
	年代別																			
	10代	9	77.8	44.4	44.4	22.2	11.1	22.2	11.1	-	44.4	11.1								
	20代	31	80.6	19.4	22.6	12.9	9.7	12.9	12.9	12.9	35.5	19.4								
	30代	40	70.0	17.5	27.5	15.0	12.5	17.5	17.5	12.5	47.5	20.0								
40代	40	80.0	30.0	27.5	20.0	15.0	17.5	7.5	15.0	57.5	12.5									
50代	40	85.0	20.0	50.0	32.5	22.5	12.5	17.5	17.5	67.5	10.0									
60代以上	40	82.5	32.5	55.0	32.5	22.5	5.0	5.0	27.5	60.0	10.0									
県外一般	全体	1000	20.8	11.5	16.4	4.2	7.9	1.2	1.9	2.3	31.8	48.9								
	性別																			
	男性	488	25.0	12.7	15.8	5.9	7.8	1.2	1.8	2.7	32.2	46.1								
	女性	512	16.8	10.4	17.0	2.5	8.0	1.2	2.0	2.0	31.4	51.6								
	年代別																			
	10代	90	12.2	14.4	17.8	6.7	10.0	2.2	6.7	4.4	35.6	45.6								
	20代	170	17.6	4.7	12.4	4.1	6.5	2.9	2.9	2.4	25.3	54.7								
	30代	190	19.5	7.4	14.2	4.7	5.8	1.6	1.6	2.6	27.9	54.2								
	40代	190	16.3	11.1	12.1	1.6	7.9	-	2.1	2.6	27.9	52.1								
	50代	190	25.3	16.8	16.3	3.7	7.4	1.1	0.5	1.6	33.2	47.9								
60代以上	170	30.0	15.9	27.1	5.9	11.2	-	-	1.2	43.5	36.5									
地域別																				
北海道	51	21.6	7.8	17.6	-	3.9	-	-	-	33.3	51.0									
東北地方	60	13.3	10.0	16.7	-	1.7	-	-	1.7	18.3	63.3									
関東地方	355	19.7	10.4	15.8	2.5	5.4	1.4	2.0	3.1	31.5	50.7									
中部地方	160	22.5	10.0	19.4	8.1	11.9	1.3	1.9	0.6	31.9	46.3									
近畿地方	196	19.4	11.7	15.8	5.6	7.7	0.5	1.0	1.5	33.2	51.0									
中国地方	55	20.0	10.9	18.2	1.8	12.7	3.6	5.5	3.6	32.7	43.6									
四国地方	31	29.0	16.1	12.9	6.5	12.9	-	3.2	6.5	38.7	32.3									
九州地方	92	27.2	19.6	14.1	6.5	13.0	2.2	3.3	3.3	34.8	40.2									
海外一般	全体	1320	59.5	53.3	51.7	42.3	49.6	11.2	10.8	14.7	31.4	8.4								
	性別																			
	男性	660	60.2	56.5	53.3	43.0	51.2	10.9	11.7	16.1	32.9	6.8								
	女性	660	58.8	50.0	50.0	41.7	48.0	11.5	10.0	13.3	29.8	10.0								
	年代別																			
	10代	33	57.6	54.5	42.4	36.4	36.4	9.1	15.2	9.1	36.4	-								
	20代	250	60.4	48.0	48.8	35.6	42.8	12.0	12.8	12.8	27.6	9.2								
	30代	377	55.7	52.3	48.3	37.9	44.0	10.1	9.5	13.3	29.2	9.0								
	40代	278	59.4	54.7	59.7	50.7	58.6	14.0	10.8	19.1	32.4	5.8								
	50代	198	60.1	54.0	57.1	46.0	54.5	9.1	11.1	13.6	34.8	10.6								
60代以上	184	65.8	59.2	46.2	45.1	53.8	10.9	9.8	15.8	34.8	9.2									
国別																				
米国	220	70.0	50.0	52.3	46.4	55.5	8.2	10.0	12.3	30.0	5.9									
オーストラリア	220	55.0	46.8	42.7	34.5	39.1	10.0	12.3	12.3	25.9	15.9									
フランス	220	45.0	47.7	36.4	39.5	41.4	8.6	5.9	10.9	34.1	10.9									
ドイツ	220	60.9	52.7	45.5	35.0	37.3	4.5	4.5	12.7	23.6	8.2									
インド	220	68.6	63.2	70.0	50.0	61.4	27.3	25.0	25.0	38.6	3.6									
アルゼンチン	220	57.3	59.1	63.2	48.6	63.2	8.6	7.3	15.0	35.9	5.9									

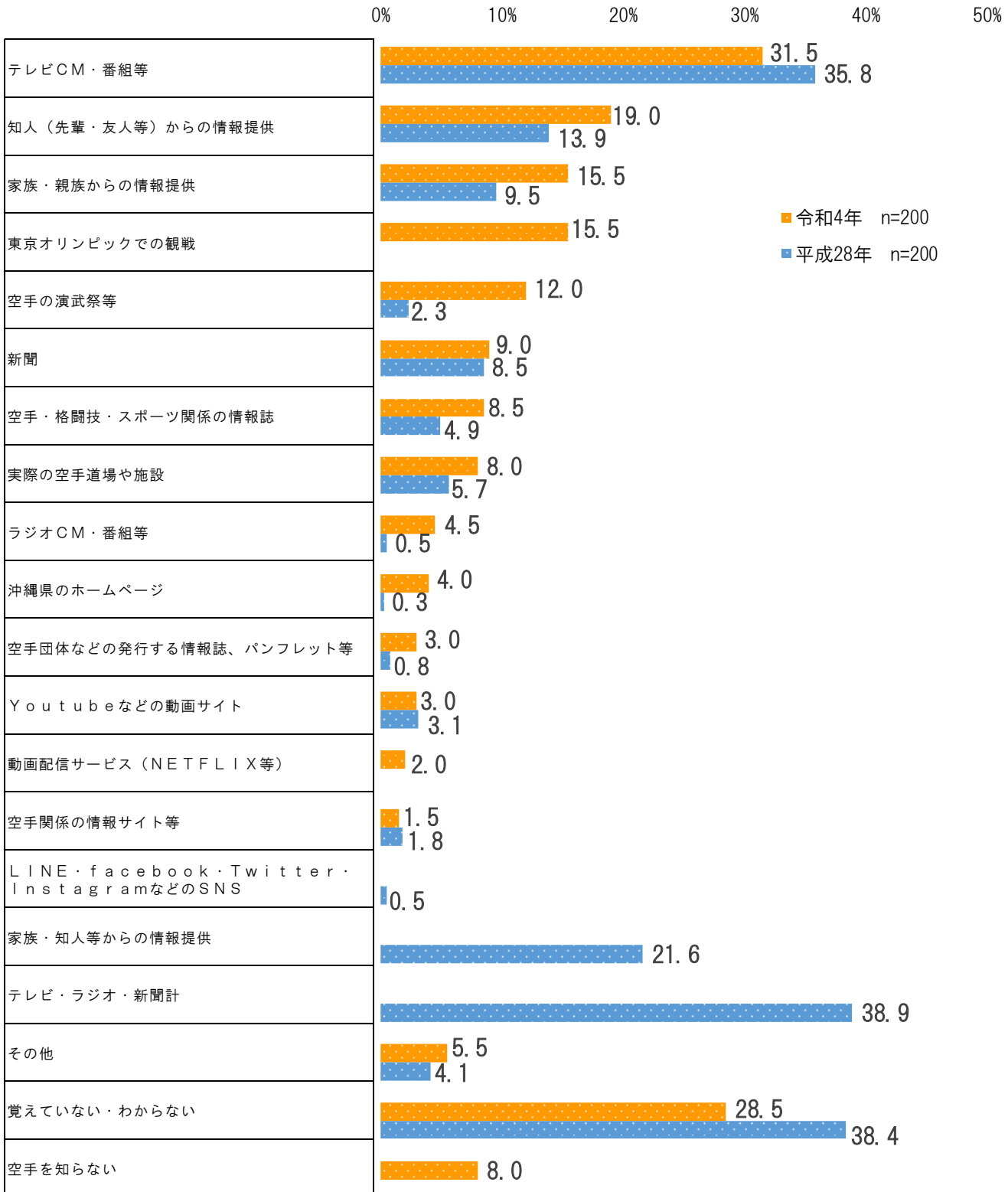
※「全体」比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(4) 「空手」を知るきっかけ

Q4. あなたが「空手」を知るきっかけとなったものを全てご回答ください。(県内年度別比較)

・県内における「空手」を知るきっかけは、「テレビCM・番組等」が最も高く、令和4年度が31.5%で、平成28年度の35.8%より4.3ポイント低くなっている。次いで、令和4年度は「知人(先輩・友人等)からの情報提供」が19.0%と続く。

| 県内年度別比較

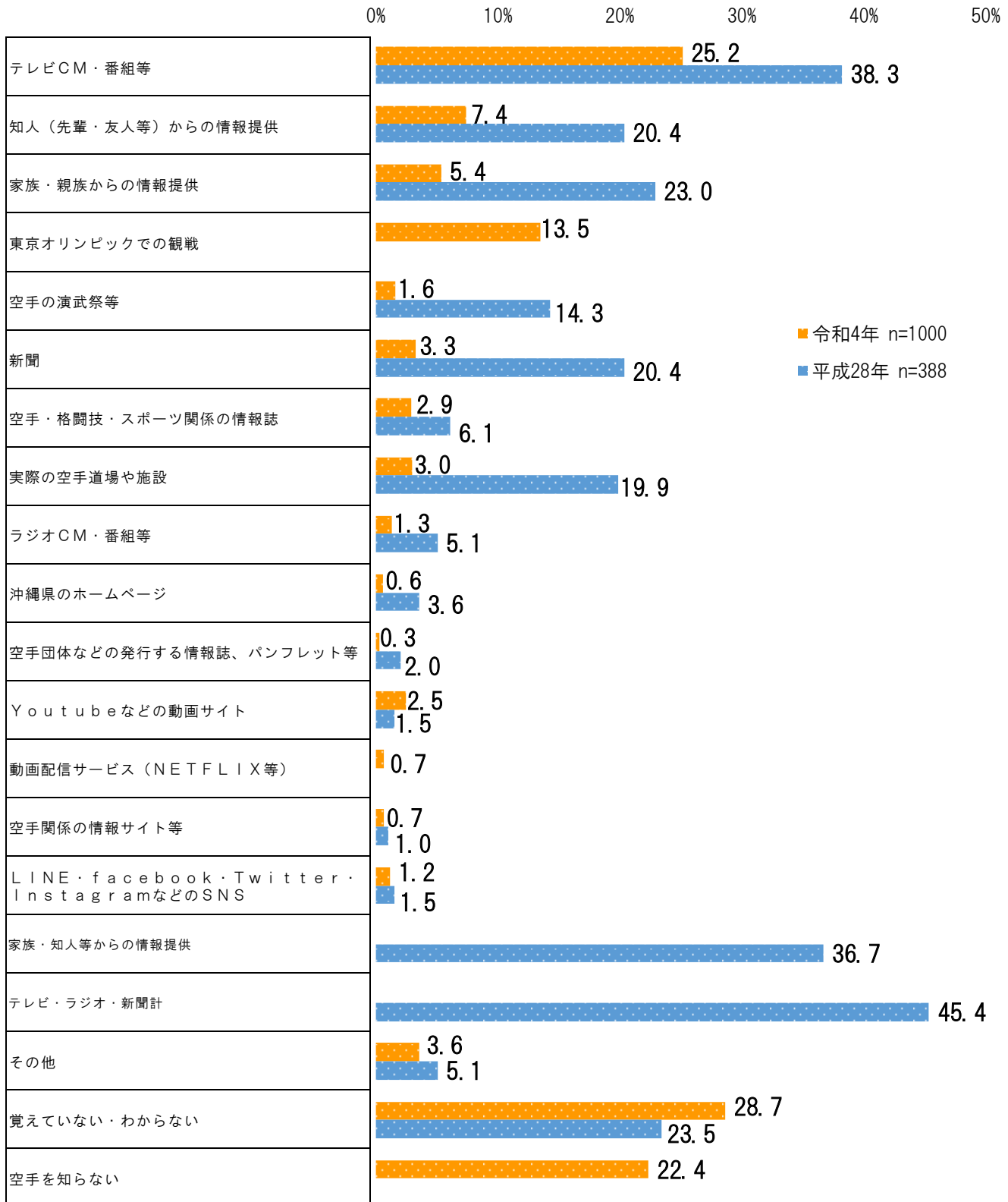


第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q4. あなたが「空手」を知るきっかけとなったものを全てご回答ください。(県外年度別比較)

- ・県外では、空手が東京オリンピックの正式種目になったことにより「東京オリンピックでの観戦」が13.5%となっている。
- ・「テレビCM・番組等」は、令和4年度が25.2%で、平成28年度の38.3%よりも13.1ポイント低くなっている。

| 県外年度別比較

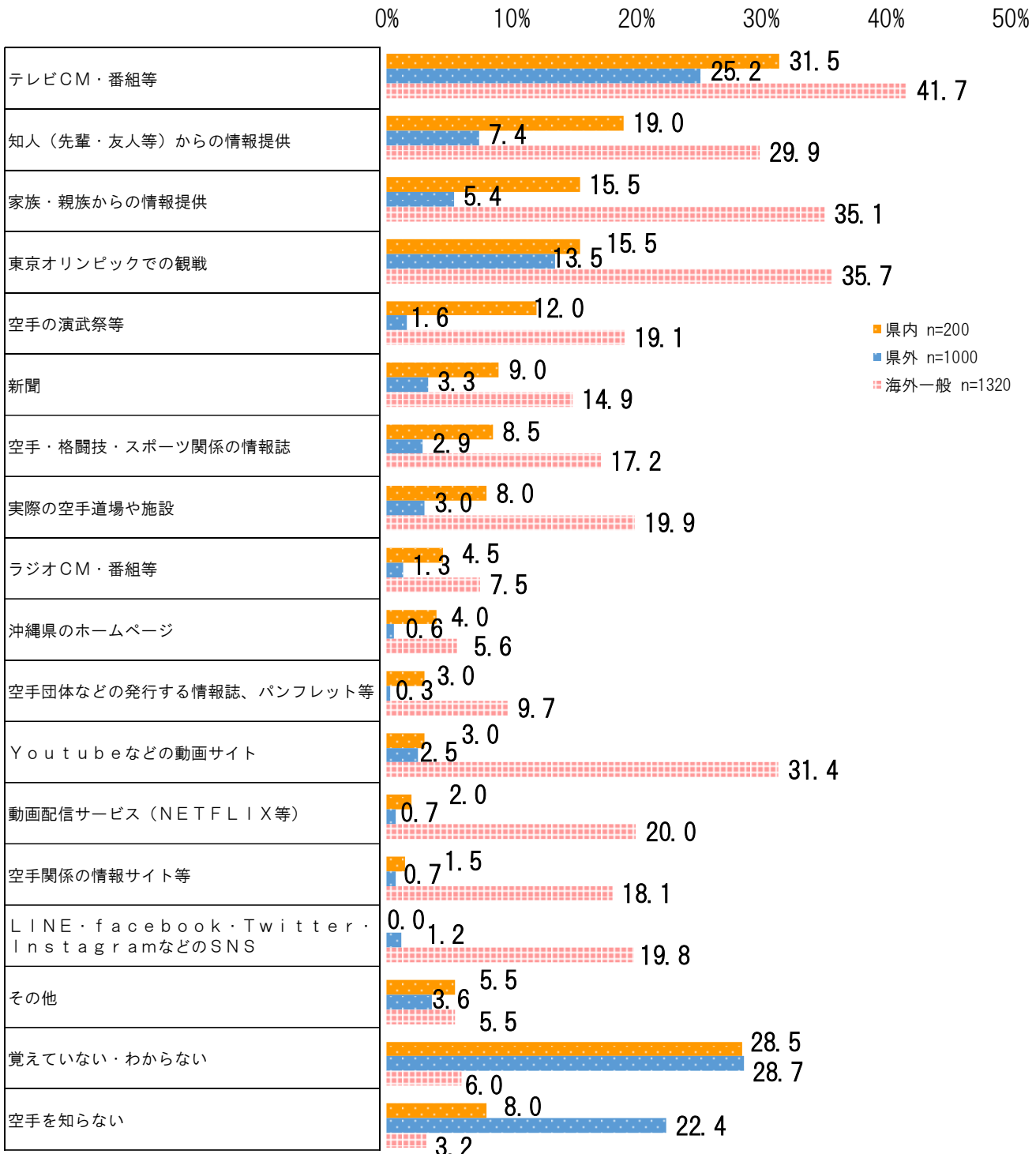


第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q4. あなたが「空手」を知るきっかけとなったものを全てご回答ください。(県内・県外・海外別比較)

・県内・県外・海外別では、海外が「テレビCM・番組等」の割合が41.7%と日本国内より高い結果となる。また、「東京オリンピックでの観戦」の割合が35.7%で、県内（15.5%）県外（13.5%）と比較して2倍以上の認知経路となっている。

| 県内・県外・海外別比較



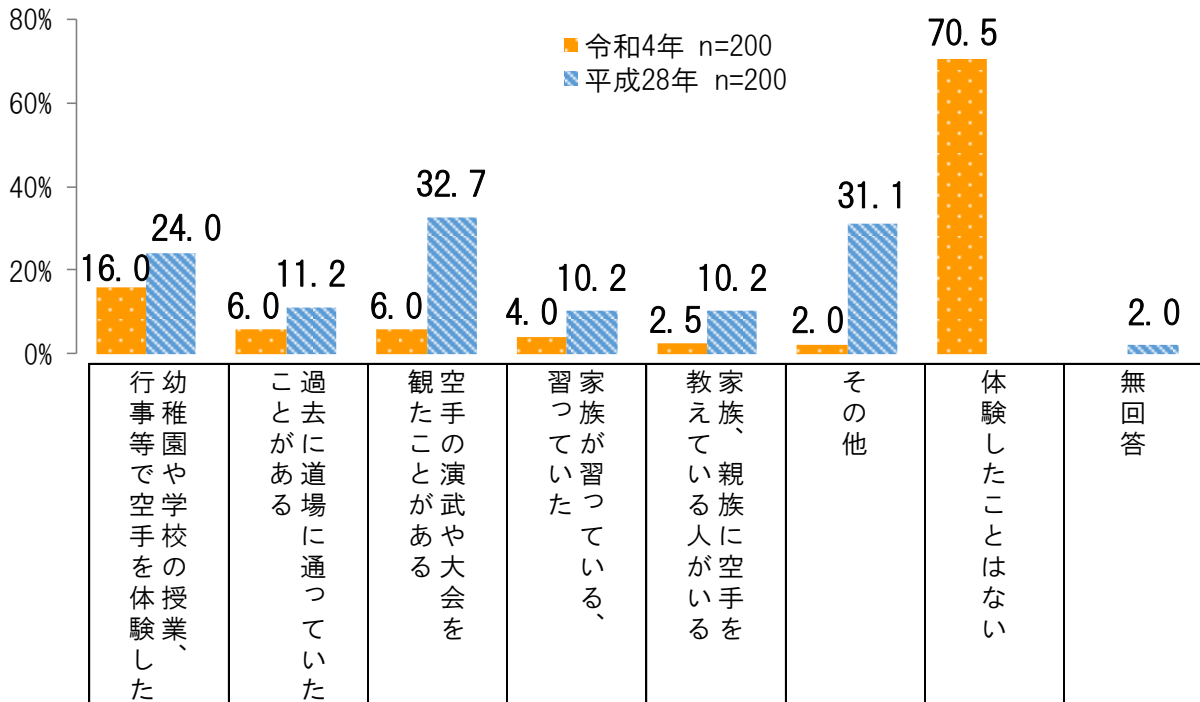
(5) 「空手」への接触経験

Q5. これまでのあなたの生活を振り返り、「空手」を習った（体験した）ことはありますか。

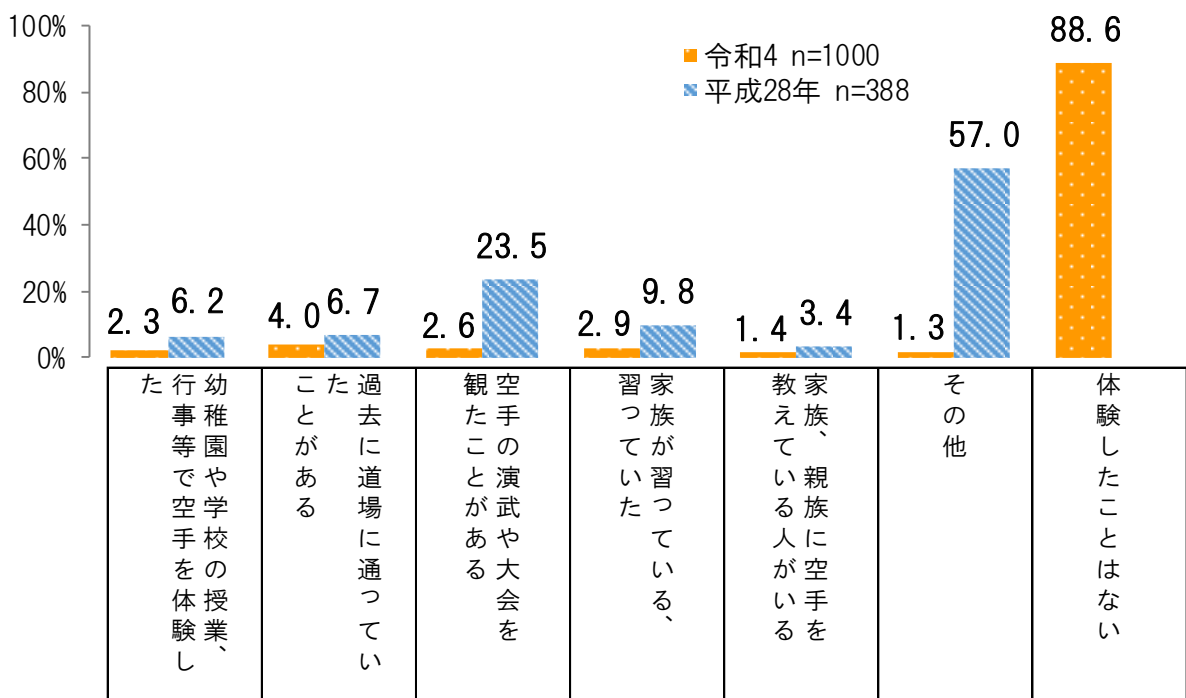
(県内・県外年度別比較)

・県内・県外別の経年比較では、「体験したことはない」の割合が県内で70.5%、県外では88.6%と最も高い。

| 県内年度別比較



| 県外年度別比較



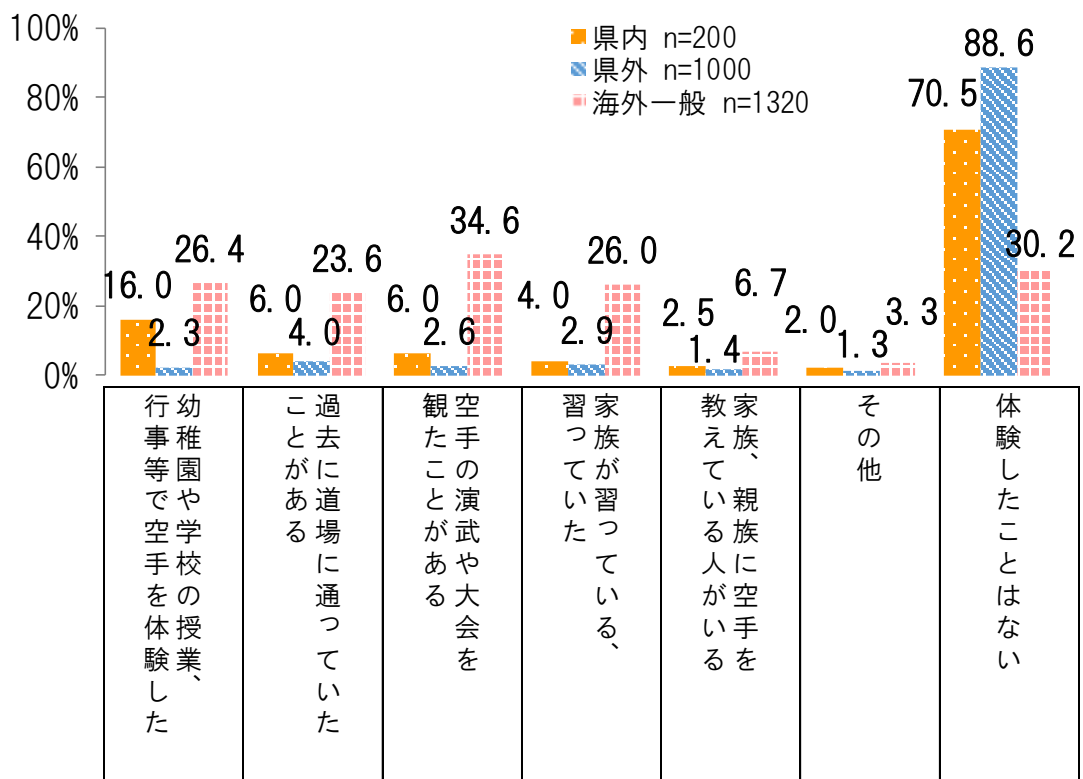
第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q5. これまでのあなたの生活を振り返り、「空手」を習った（体験した）ことはありますか。

（県内・県外・海外別比較）

- ・ 県内・県外・海外別における空手の体験割合について、全体的に国内よりも海外の方が高い傾向である。
- ・ 「体験したことはない」の割合は海外では30.2%で、県内（70.5%）や県外（88.6%）よりも低い。

| 県内・県外・海外別比較



第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q5. これまでのあなたの生活を振り返り、「空手」を習った（体験した）ことはありますか。

（県内一般・県外一般・海外一般）

- ・ 県内の年代別でみると、20代から60代以上においては20代の「幼稚園や学校の授業、行事等で空手を体験した」の割合が29.0%と最も高く、次いで40代が17.5%、30代が15.0%である。
- ・ 海外の国別では、インドで「幼稚園や学校の授業、行事等で空手を体験した」が54.1%で他国より高い。

		(N=/%)	行事等 幼稚園や 学校の授 業、体験 した	過去に 道場に 通って いた	家族が 習って いる、	空手の 演武や 大会を 観たこ とがあ る	家族、 親族に 空手を 教えて いる人 が空手 を	その他	体験 したこ とはな い
県内一般	全体	200	16.0	6.0	4.0	6.0	2.5	2.0	70.5
	性別								
	男性	100	17.0	7.0	3.0	5.0	-	2.0	73.0
	女性	100	15.0	5.0	5.0	7.0	5.0	2.0	68.0
	年代別								
	10代	9	55.6	-	-	-	-	-	44.4
	20代	31	29.0	6.5	3.2	-	-	-	61.3
30代	40	15.0	7.5	7.5	5.0	5.0	2.5	72.5	
40代	40	17.5	2.5	-	5.0	-	2.5	80.0	
50代	40	7.5	7.5	5.0	7.5	2.5	5.0	67.5	
60代以上	40	5.0	7.5	5.0	12.5	5.0	-	75.0	
県外一般	全体	1000	2.3	4.0	2.9	2.6	1.4	1.3	88.6
	性別								
	男性	488	2.9	4.5	2.7	2.9	1.4	1.4	86.7
	女性	512	1.8	3.5	3.1	2.3	1.4	1.2	90.4
	年代別								
	10代	90	5.6	3.3	5.6	3.3	1.1	1.1	83.3
	20代	170	2.9	4.1	0.6	1.8	1.8	2.9	88.2
	30代	190	4.7	5.3	3.2	5.3	2.1	1.6	84.2
	40代	190	1.6	4.2	2.6	2.1	2.1	-	91.6
	50代	190	0.5	2.6	2.6	1.6	0.5	-	92.6
	60代以上	170	-	4.1	4.1	1.8	0.6	2.4	88.8
	地域別								
	北海道	51	2.0	3.9	-	2.0	-	-	92.2
東北地方	60	1.7	-	-	1.7	-	-	96.7	
関東地方	355	2.5	4.2	2.3	2.0	1.7	1.7	89.0	
中部地方	160	1.9	6.3	4.4	3.1	2.5	1.9	83.8	
近畿地方	196	1.5	1.5	3.6	2.0	0.5	1.5	90.3	
中国地方	55	1.8	7.3	3.6	-	3.6	-	85.5	
四国地方	31	3.2	3.2	6.5	9.7	-	3.2	83.9	
九州地方	92	4.3	5.4	3.3	5.4	1.1	-	88.0	
海外一般	全体	1320	26.4	23.6	26.0	34.6	6.7	3.3	30.2
	性別								
	男性	660	27.9	29.2	21.2	37.0	6.7	3.2	29.1
	女性	660	24.8	17.9	30.8	32.3	6.8	3.3	31.4
	年代別								
	10代	33	30.3	24.2	21.2	33.3	18.2	-	21.2
	20代	250	33.2	22.0	23.2	34.0	7.2	1.6	24.0
	30代	377	28.4	29.7	27.3	30.0	6.4	2.4	28.9
	40代	278	28.4	27.0	32.0	43.5	8.3	4.7	22.3
	50代	198	24.7	18.7	22.2	33.8	6.1	3.5	38.4
	60代以上	184	10.9	13.0	22.8	32.6	3.3	5.4	46.2
	国別								
	米国	220	25.0	26.8	29.5	49.5	5.9	5.9	20.5
オーストラリア	220	23.2	15.9	23.6	26.4	4.1	2.7	39.1	
フランス	220	18.2	29.1	20.0	25.5	3.2	2.3	35.0	
ドイツ	220	11.8	20.5	16.4	12.7	5.5	2.7	52.3	
インド	220	54.1	21.4	38.2	49.1	15.9	1.8	11.8	
アルゼンチン	220	25.9	27.7	28.2	44.5	5.9	4.1	22.7	

※「全体」比比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(6) 「空手」の体験意向

Q6. あなたは空手を習いたい、体験したいと思いますか。(県内一般・県外一般)

- ・「空手」と触れ合いについては、「思わない」の割合が県内で33.0%、県外で52.4%とどちらも高い。
- ・県内の年代別で、20代の「とても思う」と「思う」の割合を合わせると29.0%で最も高く、体験意向が高い。

		N=	とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	習いたいと思う計	習いたくない計
全体		200	6.0	13.0	28.0	20.0	33.0	19.0	53.0
性別	男性	100	6.0	9.0	28.0	21.0	36.0	15.0	57.0
	女性	100	6.0	17.0	28.0	19.0	30.0	23.0	49.0
年代別	10代	90	0.0	22.2	33.3	11.1	33.3	22.2	44.4
	20代	31	16.1	12.9	19.4	25.8	25.8	29.0	51.6
	30代	40	2.5	15.0	42.5	12.5	27.5	17.5	40.0
	40代	40	2.5	12.5	22.5	20.0	42.5	15.0	62.5
	50代	40	10.0	12.5	22.5	22.5	32.5	22.5	55.0
	60代以上	40	2.5	10.0	30.0	22.5	35.0	12.5	57.5

		N=	とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	習いたいと思う計	習いたくない計
全体		1000	1.9	9.7	18.7	17.3	52.4	11.6	69.7
性別	男性	488	1.8	9.2	19.1	17.6	52.3	11.1	69.9
	女性	512	2.0	10.2	18.4	17.0	52.5	12.1	69.5
年代別	10代	90	2.2	13.3	21.1	22.2	41.1	15.6	63.3
	20代	170	1.8	12.4	21.8	13.5	50.6	14.1	64.1
	30代	190	3.2	10.5	13.2	16.3	56.8	13.7	73.2
	40代	190	1.1	11.1	20.5	17.4	50.0	12.1	67.4
	50代	190	2.1	6.3	23.2	15.8	52.6	8.4	68.4
	60代以上	170	1.2	6.5	13.5	21.2	57.6	7.6	78.8
地域別	北海道	51	0.0	15.7	11.8	21.6	51.0	15.7	72.5
	東北地方	60	1.7	8.3	21.7	16.7	51.7	10.0	68.3
	関東地方	355	1.4	10.1	17.5	16.3	54.6	11.5	71.0
	中部地方	160	0.6	12.5	18.1	15.6	53.1	13.1	68.8
	近畿地方	196	3.1	8.7	16.8	16.8	54.6	11.7	71.4
	中国地方	55	0.0	12.7	18.2	14.5	54.5	12.7	69.1
	四国地方	31	0.0	9.7	32.3	29.0	29.0	9.7	58.1
	九州地方	92	6.5	1.4	26.1	20.7	45.7	7.6	66.3

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q6. あなたは空手を習いたい、体験したいと思いますか。(海外一般)

- ・海外では、「とても思う」「思う」を合わせた割合が66.1%と国内よりも高くなっている。
- ・年代別では、「とても思う」と「思う」を合わせると10代が78.8%と最も高く、次いで20代が77.6%、40代が73.0%となっている。
- ・国別では、インドの「とても思う」と「思う」を合わせると89.1%と体験意向が高い。

海外一般								(%)	
			とても思う	思う	どちらでもない	あまり 思わない	思わない	習いたいと 思う計	習いたいと 思わない計
N=									
全体			25.4	40.8	16.7	10.5	6.7	66.1	17.1
性別	男性	660	26.8	42.4	15.9	8.9	5.9	69.2	14.8
	女性	660	23.9	39.1	17.6	12.0	7.4	63.0	19.4
年代別	10代	33	39.4	39.4	12.1	9.1	10.0	78.8	9.1
	20代	250	30.4	47.2	12.4	6.0	4.0	77.6	10.0
	30代	377	26.3	43.2	17.0	8.8	4.8	69.5	13.5
	40代	278	31.7	41.4	14.4	7.2	5.4	73.0	12.6
	50代	198	20.7	33.3	23.7	11.1	11.1	54.0	22.2
	60代以上	184	9.8	34.2	19.0	24.5	12.5	44.0	37.0
国別	米国	220	28.2	47.3	12.3	10.9	1.4	75.5	12.3
	オーストラリア	220	13.6	39.5	19.1	15.5	12.3	53.2	27.7
	フランス	220	20.5	43.2	22.3	8.2	5.9	63.6	14.1
	ドイツ	220	10.5	31.4	27.3	18.2	12.7	41.8	30.9
	インド	220	53.6	35.5	4.1	3.2	3.6	89.1	6.8
	アルゼンチン	220	25.9	47.7	15.5	6.8	4.1	73.6	10.9

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

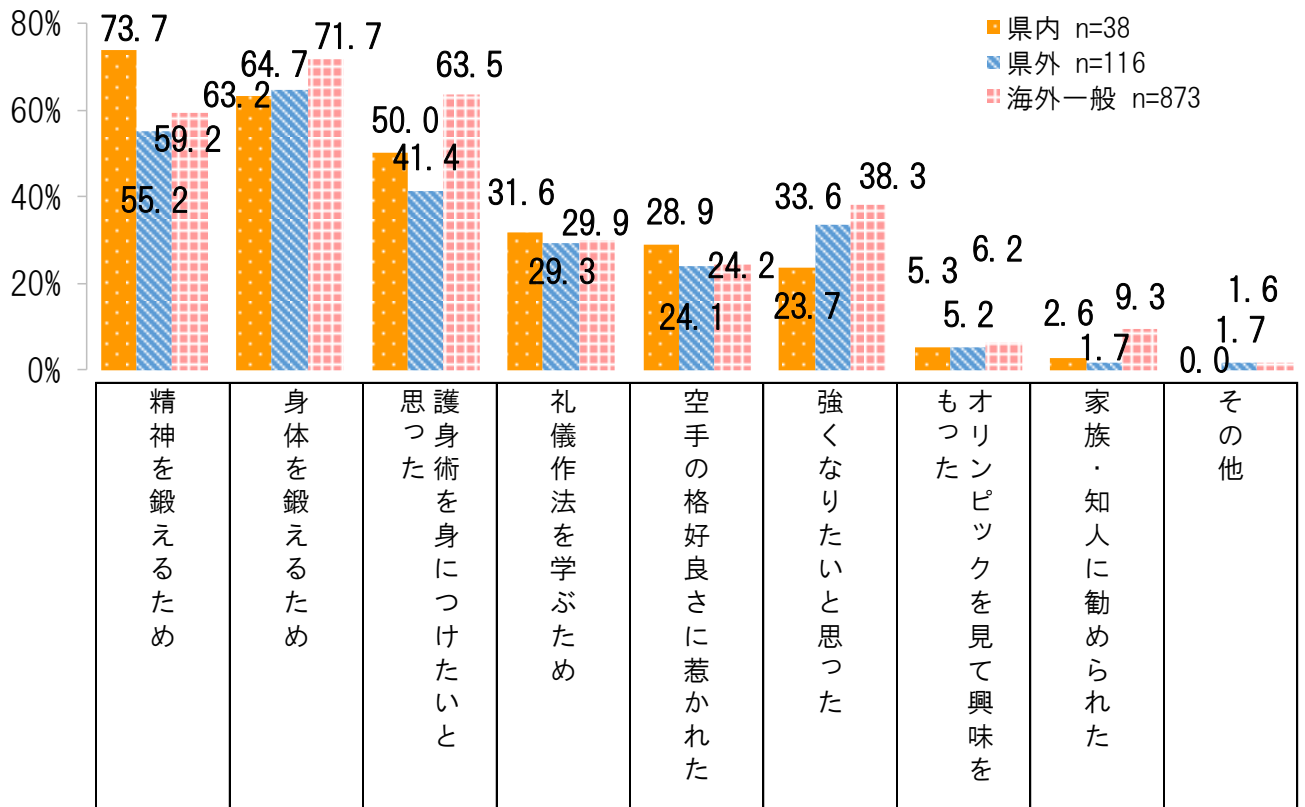
(7) 「空手」を体験したい理由

Q7. Q6の質問で「とても思う」「思う」と回答した方へ、その理由をお答えください。

(県内・県外・海外別比較)

- ・ 県内では、「精神を鍛えるため」の割合が73.7%と最も高く、次いで「身体を鍛えるため」が63.2%となっている。
- ・ 県外・海外別では、「身体を鍛えるため」の割合が県外で64.7%、海外で71.7%と最も高い。

| 県内・県外・海外別比較



Q7. Q6の質問で「とても思う」「思う」と回答した方へ、その理由をお答えください。

(県内一般・県外一般・海外一般)

- ・海外の年代別では、「身体を鍛えるため」の割合が40代で76.8%と最も高く、次いで50代が72.0%、20代が71.1%となっている
- ・国別では、「身体を鍛えるため」が米国で86.7%と最も高く、次いでアルゼンチンが81.5%となっている。

		(N=%)	礼儀作法を学ぶため	身体を鍛えるため	精神を鍛えるため	空手の格好良さに惹かれた	強くなりたいと思った	護身術を身につけたいと思った	家族・知人に勧められた	もったいないを見て興味を	その他
県内一般	全体	38	31.6	63.2	73.7	28.9	23.7	50.0	2.6	5.3	-
	性別										
	男性	15	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	46.7	-	6.7	-
	女性	23	30.4	60.9	78.3	26.1	17.4	52.2	4.3	4.3	-
	年代別										
	10代	2	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-
	20代	9	22.2	77.8	66.7	22.2	22.2	33.3	-	11.1	-
30代	7	42.9	57.1	71.4	14.3	28.6	71.4	-	-	-	
40代	6	33.3	66.7	100.0	33.3	33.3	50.0	-	-	-	
50代	9	33.3	88.9	66.7	22.2	33.3	44.4	11.1	11.1	-	
60代以上	5	40.0	20.0	100.0	40.0	-	40.0	-	-	-	
県外一般	全体	116	29.3	64.7	55.2	24.1	33.6	41.4	1.7	5.2	1.7
	性別										
	男性	54	27.8	64.8	57.4	18.5	33.3	38.9	3.7	3.7	-
	女性	62	30.6	64.5	53.2	29.0	33.9	43.5	-	6.5	3.2
	年代別										
	10代	14	28.6	50.0	21.4	21.4	35.7	42.9	-	14.3	-
	20代	24	41.7	58.3	50.0	37.5	41.7	62.5	4.2	8.3	-
	30代	26	26.9	73.1	73.1	19.2	30.8	42.3	-	-	3.8
	40代	23	21.7	65.2	47.8	21.7	30.4	21.7	-	-	4.3
	50代	16	18.8	56.3	56.3	31.3	50.0	50.0	6.3	12.5	-
	60代以上	13	38.5	84.6	76.9	7.7	7.7	23.1	-	-	-
	地域別										
	北海道	8	-	25.0	25.0	-	12.5	37.5	-	12.5	12.5
東北地方	6	50.0	33.3	33.3	33.3	-	50.0	-	16.7	-	
関東地方	41	34.1	63.4	56.1	19.5	31.7	41.5	2.4	4.9	-	
中部地方	21	23.8	66.7	66.7	38.1	42.9	47.6	4.8	4.8	-	
近畿地方	23	26.1	78.3	52.2	17.4	39.1	43.5	-	4.3	-	
中国地方	7	28.6	71.4	42.9	42.9	42.9	14.3	-	-	14.3	
四国地方	3	-	100.0	66.7	66.7	-	33.3	-	-	-	
九州地方	7	57.1	71.4	85.7	14.3	57.1	42.9	-	-	-	
海外一般	全体	873	29.9	71.7	59.2	24.2	38.3	63.5	9.3	6.2	1.6
	性別										
	男性	457	31.9	74.2	58.6	26.3	35.0	62.4	9.0	6.3	2.2
	女性	416	27.6	69.0	59.9	21.9	41.8	64.7	9.6	6.0	1.0
	年代別										
	10代	26	34.6	69.2	53.8	23.1	53.8	65.4	7.7	7.7	-
	20代	194	34.0	71.1	50.5	25.8	42.8	67.0	10.8	6.7	0.5
	30代	262	28.6	69.8	56.1	25.6	34.0	59.5	6.9	3.8	0.8
	40代	203	28.6	76.8	66.0	25.1	43.3	64.5	10.8	6.9	1.0
	50代	107	25.2	72.0	65.4	16.8	33.6	65.4	8.4	8.4	3.7
	60代以上	81	32.1	66.7	66.7	23.5	29.6	61.7	11.1	7.4	6.2
	国別										
	米国	166	32.5	86.7	68.1	24.1	43.4	65.7	9.6	7.8	3.6
オーストラリア	117	28.2	69.2	49.6	17.9	36.8	59.0	6.8	3.4	0.9	
フランス	140	19.3	53.6	62.1	18.6	20.0	41.4	7.9	4.3	2.1	
ドイツ	92	28.3	68.5	58.7	30.4	33.7	51.1	7.6	4.3	-	
インド	196	43.9	66.8	50.5	28.1	65.3	80.6	13.3	8.7	-	
アルゼンチン	162	21.6	81.5	65.4	25.3	19.8	69.8	8.0	6.2	2.5	

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

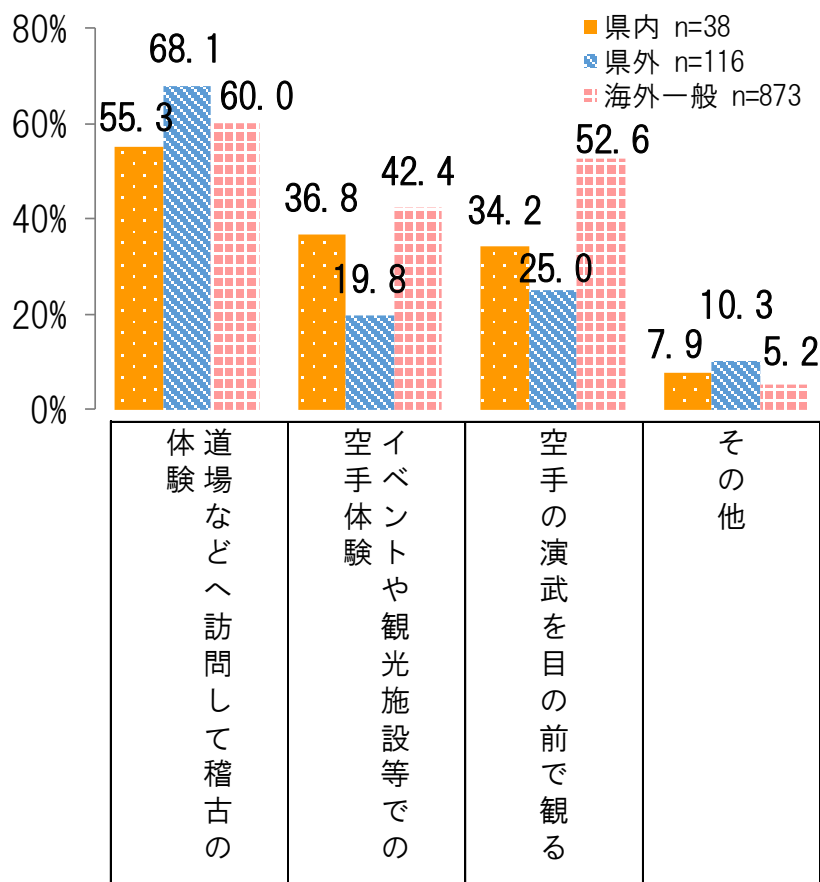
(8) 「空手」体験したい内容

Q8 Q6の質問で「とても思う」「思う」と回答した方へ、どのような体験をしたいと思えますか。

(県内・県外・海外別比較)

- ・ 県内・県外・海外ともに「道場などへ訪問して稽古の体験」が5割以上と高くなっている。
- ・ 海外では、「空手の演武を目の前で観る」が52.6%、「イベントや観光施設等での空手体験」が42.4%と国内よりも割合が高い。

| 県内・県外・海外別比較



第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q8 Q6の質問で「とても思う」「思う」と回答した方へ、どのような体験をしたいと思えますか。

(県内一般・県外一般・海外一般)

- ・ 県外の性別では、「道場などへ訪問して稽古の体験」の割合が男性で74.1%と最も高い。
- ・ 海外の国別では、「道場などへ訪問して稽古の体験」の割合が米国で69.9%と最も高く、次いでドイツが64.1%と続く。
- ・ 海外の年代別で見ると、「空手の演武を目の前で観る」の割合が60代以上で65.4%と最も高く、国別で見るとインドが63.8%で最も高い。

		(N=%)	体道場 験など へ訪問 して稽 古の	空手 イベン トや観 光施設 等での 体験	空手 の演武 を目の 前で観 る	その他
県内 一般	全体	38	55.3	36.8	34.2	7.9
	性別					
	男性	15	60.0	40.0	26.7	-
	女性	23	52.2	34.8	39.1	13.0
	年代別					
	10代	2	-	100.0	50.0	-
	20代	9	33.3	66.7	22.2	11.1
30代	7	42.9	28.6	57.1	14.3	
40代	6	83.3	-	16.7	16.7	
50代	9	88.9	33.3	22.2	-	
60代以上	5	40.0	20.0	60.0	-	
県外 一般	全体	116	68.1	19.8	25.0	10.3
	性別					
	男性	54	74.1	16.7	16.7	14.8
	女性	62	62.9	22.6	32.3	6.5
	年代別					
	10代	14	57.1	21.4	28.6	7.1
	20代	24	58.3	29.2	20.8	16.7
	30代	26	69.2	23.1	34.6	7.7
	40代	23	69.6	21.7	17.4	17.4
	50代	16	75.0	12.5	31.3	6.3
	60代以上	13	84.6	-	15.4	-
	地域別					
	北海道	8	62.5	25.0	25.0	12.5
東北地方	6	50.0	16.7	33.3	16.7	
関東地方	41	63.4	24.4	29.3	12.2	
中部地方	21	81.0	9.5	14.3	9.5	
近畿地方	23	69.6	17.4	26.1	8.7	
中国地方	7	42.9	28.6	14.3	14.3	
四国地方	3	66.7	33.3	66.7	-	
九州地方	7	100.0	14.3	14.3	-	
海外 一般	全体	873	60.0	42.4	52.6	5.2
	性別					
	男性	457	61.7	44.4	51.0	6.1
	女性	416	58.2	40.1	54.3	4.1
	年代別					
	10代	26	50.0	23.1	50.0	11.5
	20代	194	63.4	44.3	50.0	3.1
	30代	262	63.0	46.2	48.9	2.3
	40代	203	61.6	42.9	53.2	6.9
	50代	107	59.8	41.1	56.1	7.5
	60代以上	81	42.0	32.1	65.4	9.9
	国別					
	米国	166	69.9	44.0	57.8	6.0
オーストラリア	117	50.4	39.3	46.2	8.5	
フランス	140	52.1	45.0	48.6	2.1	
ドイツ	92	64.1	33.7	35.9	5.4	
インド	196	58.7	41.8	63.8	4.1	
アルゼンチン	162	63.0	46.3	51.2	5.6	

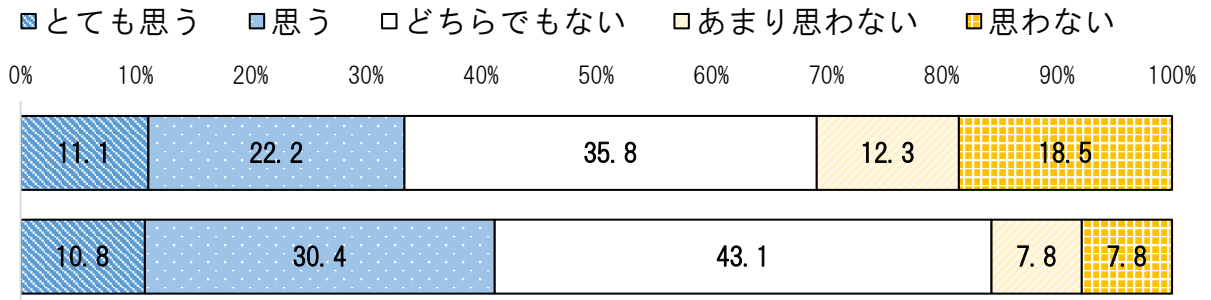
※「全体比比べて」 +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(9) 子ども等への推奨について

Q9. 子ども、孫へ空手を習わせたいと思いますか。(県内一般)

- ・県内の経年比較では、空手を習わせたいと「とても思う」「思う」の割合を合わせると令和4年度は33.3%で、平成28年度の41.2%より7.9ポイント低くなっている。
- ・性別では、女性の「とても思う」「思う」の割合が36.7%で、男性の28.1%よりも高い。

県内年度別比較



県内一般		N=	とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	習わせたい計 (%)	習わせない計 (%)
全体		81	11.1	22.2	35.8	12.3	18.5	33.3	30.9
性別	男性	32	12.5	15.6	34.4	15.6	21.9	28.1	37.5
	女性	49	10.2	26.5	36.7	10.2	16.3	36.7	26.5
年代別	10代	1	0.0		100.0		0.0	-	100.0
	20代	5	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0
	30代	12	0.0	41.7	33.3	8.3	16.7	41.7	25.0
	40代	14	7.1	14.3	28.6	21.4	28.6	21.4	50.0
	50代	20	25.0	10.0	45.0	10.0	10.0	35.0	20.0
	60代以上	29	6.9	31.0	34.5	6.9	20.7	37.9	27.6

※「全体」比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q9. 子ども、孫へ空手を習わせたいと思いますか。(県外一般)

- ・ 県外の全体では、「思わない」の割合が43.4%と最も高い。
- ・ 性別では、「思わない」の割合が男性、女性どちらも4割以上となっている。
- ・ 年代別では、「思わない」の割合で30代が58.0%で最も高く、次いで20代が47.8%である。

県外一般		N=	とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	習わせたい計	習わせたくない計
全体		396	2.0 8.8	33.3	12.4		43.4	10.9	55.8
性別	男性	193	2.1 9.8	30.6	14.0		43.5	11.9	57.5
	女性	203	2.0 7.9	36.0	10.8		43.3	9.9	54.2
年代別	10代	1	0.0		100.0			-	100.0
	20代	23	0.0 4.3	43.5	4.3		47.8	4.3	52.2
	30代	69	2.9 7.2	24.6	7.2		58.0	10.1	65.2
	40代	81	4.9 11.1	34.6	9.9		39.5	16.0	49.4
	50代	101	1.0 4.0	35.6	15.8		43.6	5.0	59.4
	60代以上	121	0.8 13.2	33.9	15.7		36.4	14.0	52.1
地域別	北海道	16	0.0	56.3		18.8	25.0	-	43.8
	東北地方	23	0.0 13.0	34.8	21.7		30.4	13.0	52.2
	関東地方	124	4.8 6.5	28.2	10.5		50.0	11.3	60.5
	中部地方	74	0.0 1.4	36.5	10.8		51.4	1.4	62.2
	近畿地方	87	1.1 16.1	31.0	9.2		42.5	17.2	51.7
	中国地方	20	0.0 10.0	35.0	15.0		40.0	10.0	55.0
	四国地方	17	0.0 11.8	41.2		29.4	17.6	11.8	47.1
	九州地方	35	2.9 14.3	34.3	11.4		37.1	17.1	48.6

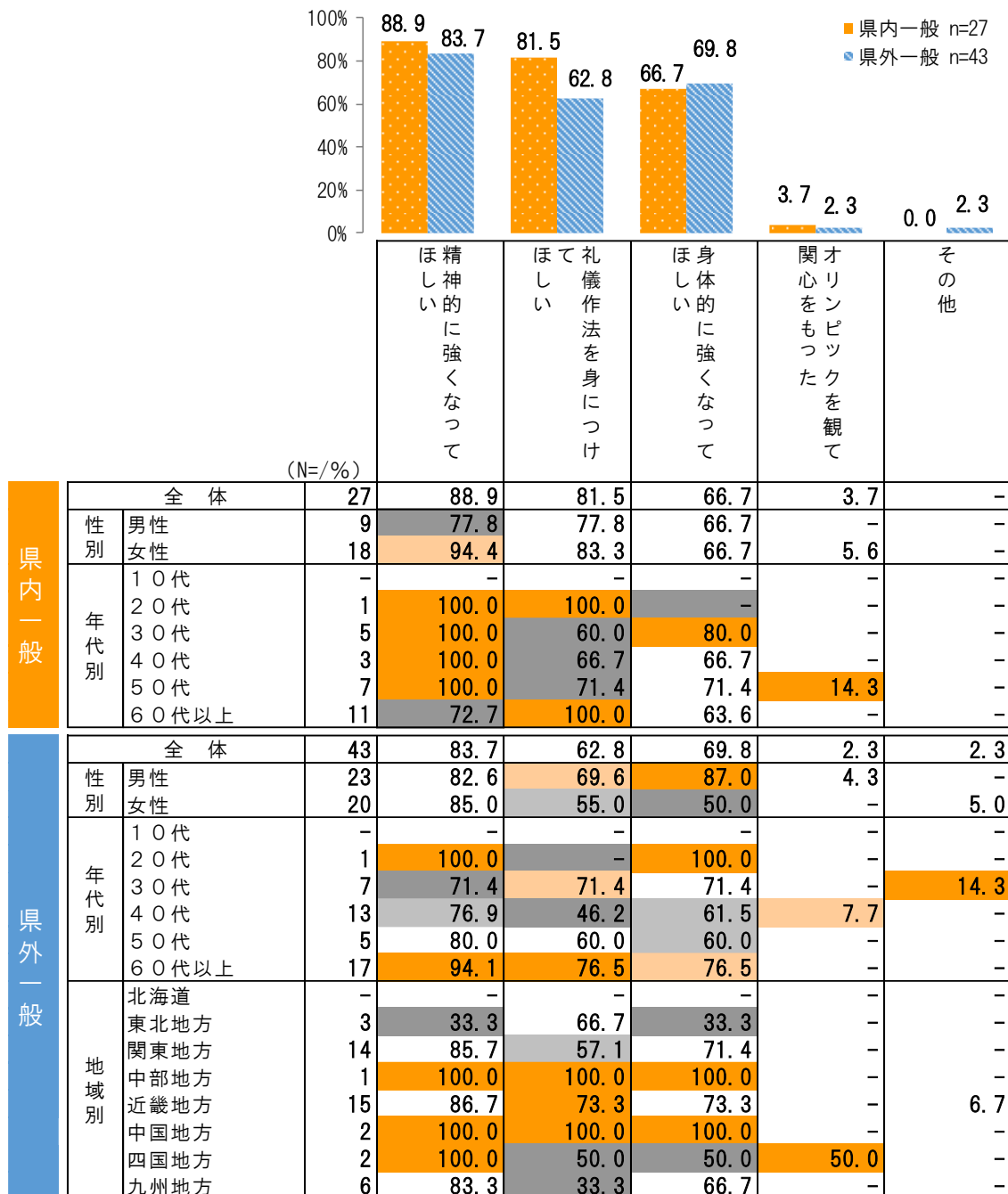
※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(10) 子ども等への推奨理由

Q10. Q9の質問で「とても思う」「思う」と回答した方へ、その理由をお答えください。(県内・県外別比較)

- ・ 県内・県外別では、「精神的に強くなってほしい」の割合が県内で88.9%、県外で83.7%と最も高い。
- ・ 「礼儀作法を身につけてほしい」では、県内で81.5%に対して県外は62.8%と18.7ポイントの開きがある。
- ・ 県内の性別では、女性の「精神的に強くなってほしい」の割合は94.4%で、男性の77.8%より16.6ポイント高い。
- ・ 県外の性別では、男性の「身体的に強くなって欲しい」の割合が87.0%で、県内の男性の66.7%より20.3ポイント高い。

県内・県外別比較



※「全体」比と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(11) ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組推進の認知

Q11. 沖縄県では沖縄空手のユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取組を推進していることをご存じでしたか。

(県内一般・県外一般)

- ・ 県内・県外別では、「知らない」の割合が県内で66.5%、県外で90.9%となっている。
- ・ 県内の性別では、女性の「知っている」「なんとなく知っている」の割合を合わせると41.0%となり、県内全体の認知度より7.5ポイント高い。
- ・ 県内の年代別で20代から60代以上においては、「知っている」で20代が19.4%と最も高く、30代から60代以上では1割以下となっている。

県内一般			N=			(%)			認知計
			知っている	なんとなく知っている	知らない				
全体		200	12.0	21.5	66.5				33.5
性別	男性	100	12.0	14.0	74.0				26.0
	女性	100	12.0	29.0	59.0				41.0
年代別	10代	9	33.3	11.1	55.6				44.4
	20代	31	19.4	22.6	58.1				41.9
	30代	40	10.0	22.5	67.5				32.5
	40代	40	7.5	15.0	77.5				22.5
	50代	40	10.0	20.0	70.0				30.0
	60代以上	40	10.0	30.0	60.0				40.0

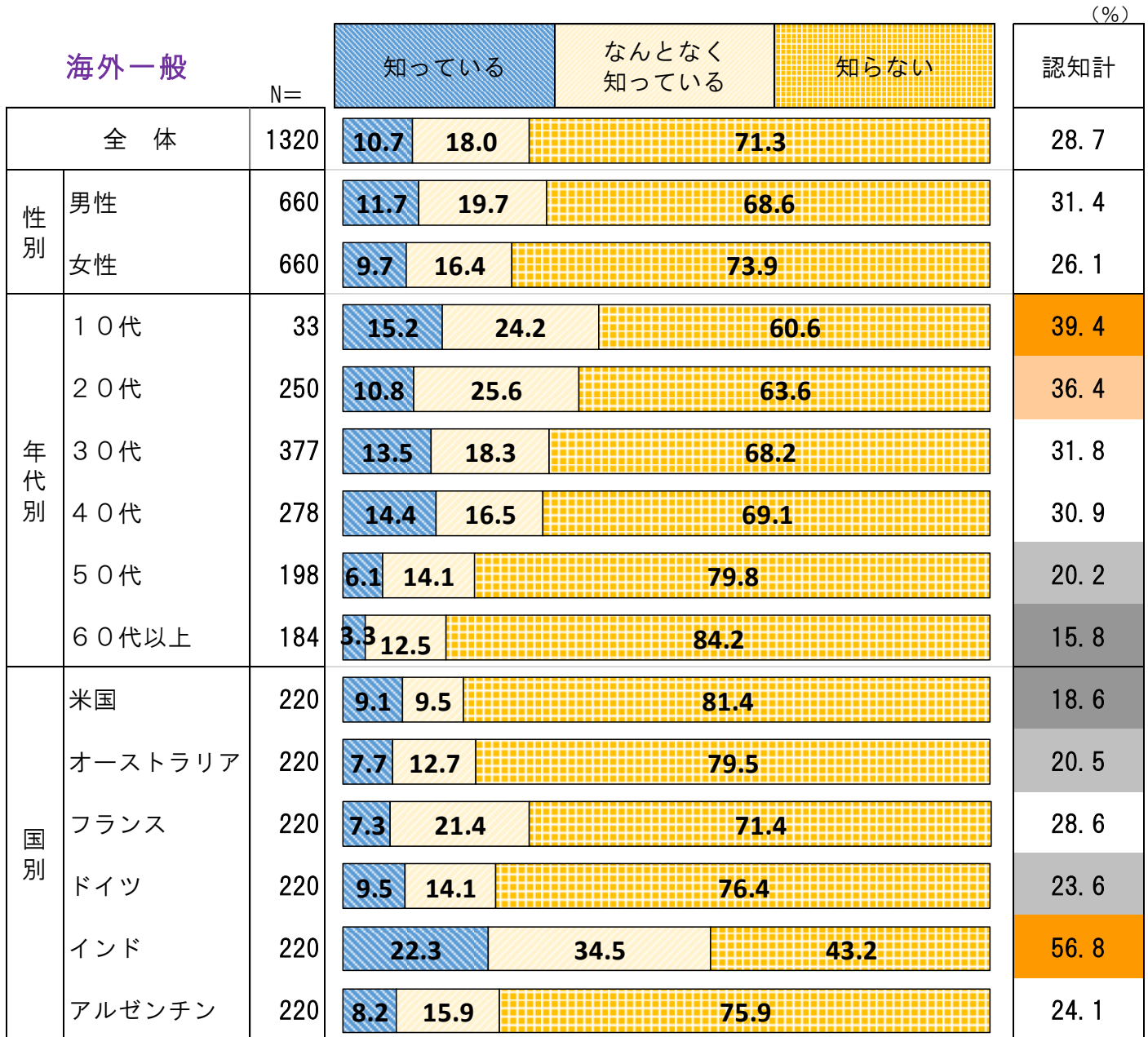
県外一般			N=			(%)			認知計
			知っている	なんとなく知っている	知らない				
全体		1000	1.7	7.4	90.9				9.1
性別	男性	488	2.0	8.4	89.5				10.5
	女性	512	1.4	6.4	92.2				7.8
年代別	10代	90	2.2	12.2	85.6				14.4
	20代	170	1.8	12.4	85.9				14.1
	30代	190	2.1	4.7	93.2				6.8
	40代	190	2.6	7.9	89.5				10.5
	50代	190	1.1	5.8	93.2				6.8
	60代以上	170	0.6	4.1	95.3				4.7
地域別	北海道	51	0.0	5.9	94.1				5.9
	東北地方	60	0.0	3.3	96.7				3.3
	関東地方	355	1.4	7.0	91.5				8.5
	中部地方	160	1.3	6.9	91.9				8.1
	近畿地方	196	1.0	7.1	91.8				8.2
	中国地方	55	5.5	9.1	85.5				14.5
	四国地方	31	3.2	19.4	77.4				22.6
	九州地方	92	4.3	8.7	87.0				13.0

※「全体」と比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q11. 沖縄県では沖縄空手のユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取組を推進していることをご存じでしたか。(海外一般)

- ・ 海外では、10代の「知っている」の割合が15.2%と最も高く、40代の14.4%、30代の13.5%と続く。
- ・ 国別では、インドの「知っている」の割合が22.3%と最も高い。



※「全体」と比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

(12) ユネスコ無形文化遺産登録後の交流意向

Q12. 沖縄空手がユネスコ無形文化遺産に登録されたら、空手に触れたり、関わりたいと思いますか。

(県内一般・県外一般)

- ・県内・県外別では、「思わない」が県内で28.5%、県外では46.0%と最も高い。
- ・県内の性別では、女性の「とても思う」「思う」の割合を合わせると35.0%と関わりたい意向が高い。
- ・県内の年代別で20代から60代以上においては、20代の「とても思う」が16.1%と最も高い。反対に40代の「思わない」が40.0%と他の年代よりも高い傾向にある。

県内一般									
			とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	関わりたいと思う計	関わりたいと思わない計
全体			5.5	20.0	31.0	15.0	28.5	25.5	43.5
性別	男性	100	5.0	11.0	35.0	15.0	34.0	16.0	49.0
	女性	100	6.0	29.0	27.0	15.0	23.0	35.0	38.0
年代別	10代	9	22.2	44.4	11.1	11.1	11.1	66.7	22.2
	20代	31	16.1	22.6	22.6	12.9	25.8	38.7	38.7
	30代	40	2.5	22.5	35.0	15.0	25.0	25.0	40.0
	40代	40	0.0	20.0	27.5	12.5	40.0	20.0	52.5
	50代	40	5.0	12.5	37.5	17.5	27.5	17.5	45.0
	60代以上	40	2.5	17.5	35.0	17.5	27.5	20.0	45.0

県外一般									
			とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	関わりたいと思う計	関わりたいと思わない計
全体			2.2	7.9	26.3	17.6	46.0	10.1	63.6
性別	男性	488	1.6	7.0	26.8	17.6	46.9	8.6	64.5
	女性	512	2.7	8.8	25.8	17.6	45.1	11.5	62.7
年代別	10代	90	3.3	11.1	26.7	23.3	35.6	14.4	58.9
	20代	170	2.9	10.0	26.5	16.5	44.1	12.9	60.6
	30代	190	2.1	7.4	22.1	11.6	56.8	9.5	68.4
	40代	190	2.1	5.8	28.4	18.4	45.3	7.9	63.7
	50代	190	2.6	6.3	30.0	16.3	44.7	8.9	61.1
	60代以上	170	0.6	8.8	24.1	22.9	43.5	9.4	66.5
地域別	北海道	51	0.0	11.8	27.5	17.6	43.1	11.8	60.8
	東北地方	60	1.7	6.7	33.3	16.7	41.7	8.3	58.3
	関東地方	355	2.0	8.5	24.5	16.1	49.0	10.4	65.1
	中部地方	160	1.3	8.1	28.8	18.8	43.1	9.4	61.9
	近畿地方	196	2.6	7.1	23.0	18.4	49.0	9.7	67.3
	中国地方	55	0.0	10.9	20.0	20.0	49.1	10.9	69.1
	四国地方	31	3.2	9.7	35.5	16.1	35.5	12.9	51.6
	九州地方	92	6.5	3.3	31.5	19.6	39.1	9.8	58.7

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q12. 沖縄空手がユネスコ無形文化遺産に登録されたら、空手に触れたり、関わりたいと思いますか。

(海外一般)

- ・ 海外の全体では、「とても思う」が23.2%で日本国内より割合が高く、登録された場合関わりたい意向が高い。
- ・ 国別では、「とても思う」「思う」の割合がインドやアルゼンチンで約8割と高くなっている。
- ・ 年代別では、「とても思う」の割合が40代で30.9%と最も高く、次いで10代が27.3%である。

海外一般		N=	回答割合 (%)					関わりたいと思う計 (%)	
			とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	関わりたいと思う計	関わりたいと思わない計
全体		1320	23.2	40.6	21.3	9.5	5.4	63.8	14.9
性別	男性	660	25.9	39.5	21.8	8.2	4.5	65.5	12.7
	女性	660	20.5	41.7	20.8	10.9	6.2	62.1	17.1
年代別	10代	33	27.3	48.5	12.1	9.1	3.0	75.8	12.1
	20代	250	24.8	47.2	17.2	7.2	3.6	72.0	10.8
	30代	377	22.3	42.4	24.4	5.8	5.0	64.7	10.9
	40代	278	30.9	36.3	18.3	9.4	5.0	67.3	14.4
	50代	198	21.2	35.9	21.7	13.6	7.6	57.1	21.2
	60代以上	184	12.5	38.0	26.1	16.3	7.1	50.5	23.4
国別	米国	220	23.2	42.7	18.2	11.4	4.5	65.9	15.9
	オーストラリア	220	11.4	33.2	31.4	14.1	10.0	44.5	24.1
	フランス	220	19.1	43.6	29.1	5.5	2.7	62.7	8.2
	ドイツ	220	11.4	36.8	27.3	15.9	8.6	48.2	24.5
	インド	220	39.5	42.7	9.5	6.4	1.8	82.3	8.2
	アルゼンチン	220	34.5	44.5	12.3	4.1	4.5	79.1	8.6

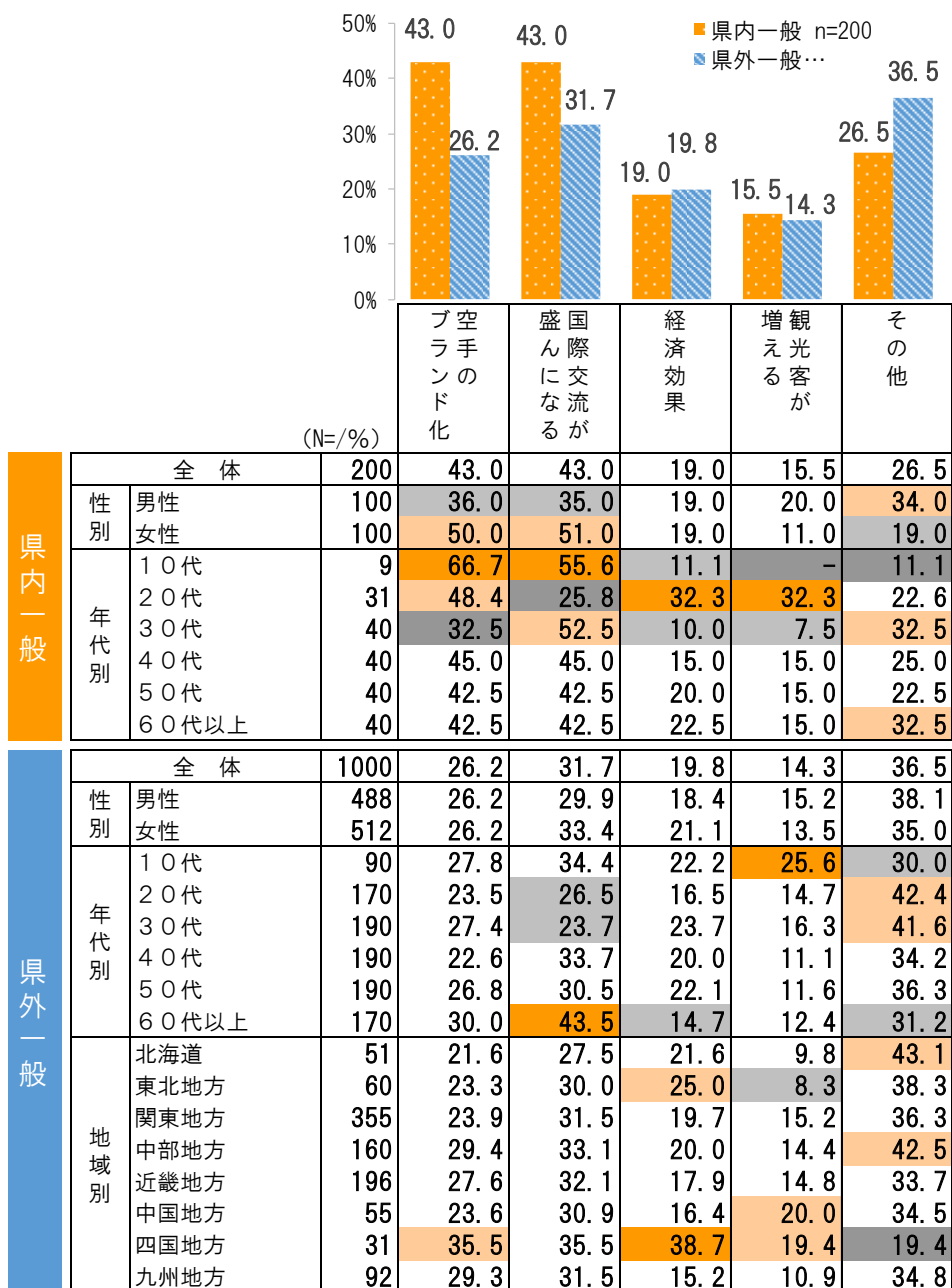
※「全体」に比べて ■ +10 pt以上 ■ +5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(13) ユネスコ無形文化遺産に登録された場合の期待

Q13. 沖縄空手がユネスコ無形文化遺産に登録されることにより期待することは何ですか。

- ・ 県内の全体では、「空手のブランド化」「国際交流が盛んになる」がどちらも43.0%と最も高い。
- ・ 県内の性別で見ると、女性は「空手のブランド化」「国際交流が盛んになる」の回答が5割以上と期待が高い。また、年代別で20代から60代以上においては、「空手のブランド化」で20代が48.4%と最も高い。「国際交流が盛んになる」では30代が52.5%と最も高い。
- ・ 県外の全体では、「国際交流が盛んになる」が31.7%と最も高い。性別で見ると女性が33.4%となっている。年代別では60代以上の「国際交流が盛んになる」が43.5%と最も高い。また「観光客が増える」では10代が25.6%で最も高い。

| 県内・県外別比較



※「全体」比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(14) 「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信する重要度

Q14. 「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信し、世界中の空手愛好家が沖縄を訪れることは重要だと思いますか。

- ・県内では「ある程度重要」が40.0%と最も高くなっている。
- ・年代別の20代から60代以上においては、「ある程度重要」が50代と60代以上で45.0%と最も高くなっている。また、50代の「非常に重要」と「ある程度重要」を合わせると72.5%と重要度が高い。

県内一般		N=	非常に重要	ある程度重要	どちらとも いえない	あまり重要 ではない	全く重要 ではない	重要だと思 う計	重要だと思 わない計
全体		200	20.5	40.0	24.5	3.5	11.5	60.5	15.0
性別	男性	100	22.0	34.0	26.0	3.0	15.0	56.0	18.0
	女性	100	19.0	46.0	23.0	4.0	8.0	65.0	12.0
年代別	10代	9	33.3	55.6	0.0	11.1	88.9	11.1	
	20代	31	29.0	38.7	22.6	3.2	6.5	67.7	9.7
	30代	40	17.5	25.0	35.0	10.0	12.5	42.5	22.5
	40代	40	15.0	42.5	25.0	2.5	15.0	57.5	17.5
	50代	40	27.5	45.0	17.5	0.0	10.0	72.5	10.0
	60代以上	40	12.5	45.0	27.5	2.5	12.5	57.5	15.0

(15) 世界中の空手愛好家が沖縄を訪れる達成度

Q15. 「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信することにより、世界中の空手愛好家が沖縄を訪れることについて、達成していると思いますか。

- ・県内において「ある程度達成できている」の割合が29.0%と最も高い。性別で見ると、女性が34.0%と男性の24.0%より10ポイント高い。
- ・年代別の20代から60代以上では「ある程度達成できている」が50代で42.5%最も高く、次いで60代以上が30.0%となっている。

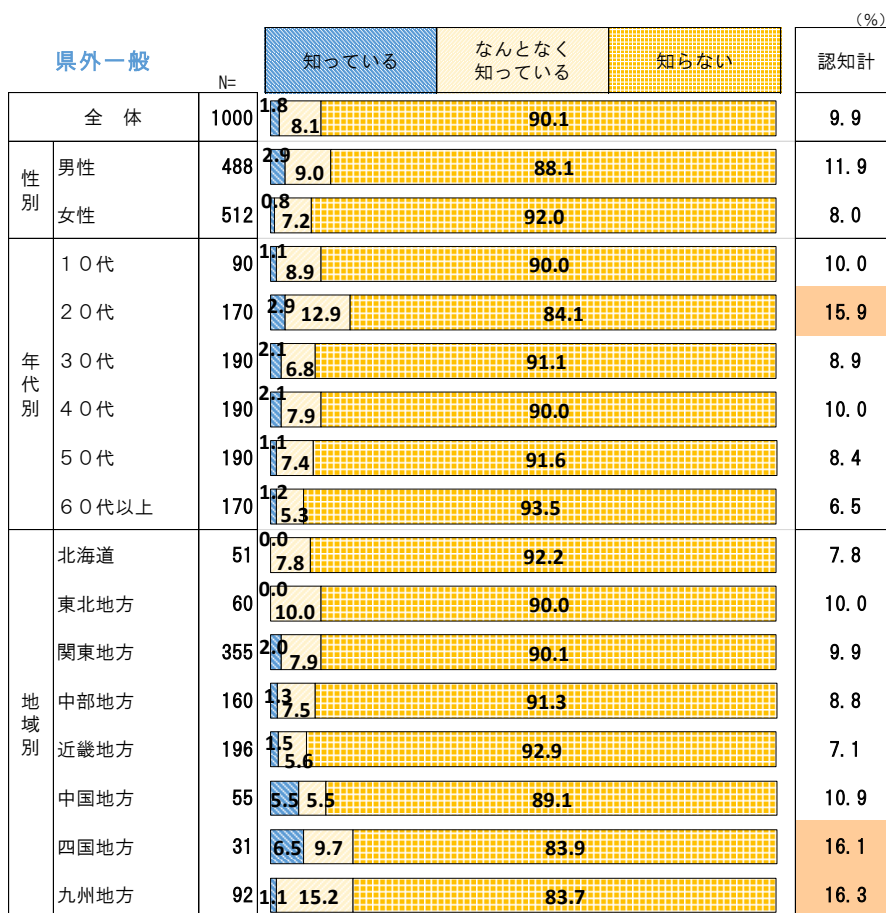
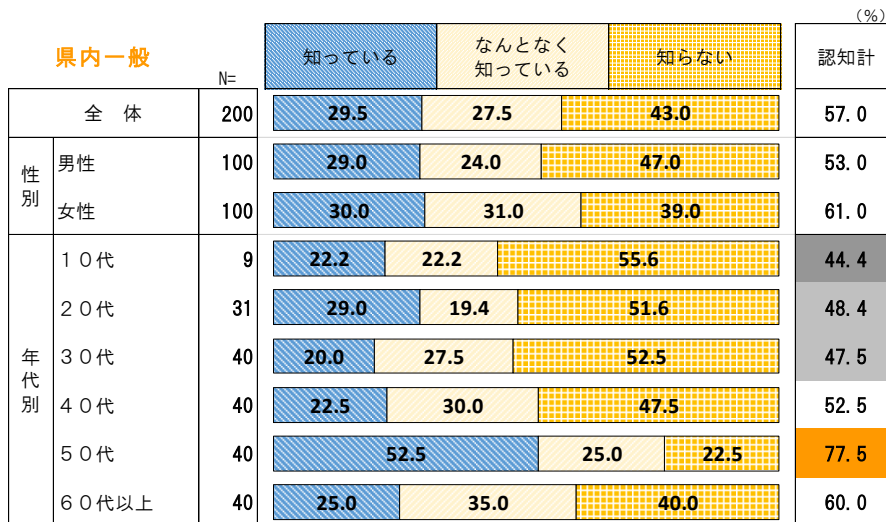
県内一般		N=	非常に達成 できている	ある程度達成 できている	どちらとも いえない	あまり達成 できていない	全く達成 できていない	達成だと思 う計	達成だと思 わない計
全体		200	7.5	29.0	46.0	9.5	8.0	36.5	17.5
性別	男性	100	7.0	24.0	51.0	8.0	10.0	31.0	18.0
	女性	100	8.0	34.0	41.0	11.0	6.0	42.0	17.0
年代別	10代	9	11.1	44.4	22.2	11.1	11.1	55.6	22.2
	20代	31	25.8	22.6	41.9	3.2	6.5	48.4	9.7
	30代	40	2.5	17.5	57.5	15.0	7.5	20.0	22.5
	40代	40	2.5	27.5	57.5	5.0	7.5	30.0	12.5
	50代	40	7.5	42.5	30.0	12.5	7.5	50.0	20.0
	60代以上	40	2.5	30.0	47.5	10.0	10.0	32.5	20.0

※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

(16) 沖縄空手会館に対する認知度

Q16. 沖縄県では、「空手発祥の地・沖縄」を発信する拠点として、沖縄空手会館を2017年3月に開館しました。沖縄空手会館があることをご存じでしたか。(県内一般・県外一般)

- ・ 県内では「知っている」の割合が29.5%、「なんとなく知っている」が27.5%と認知度は高い。性別では「知っている」と「なんとなく知っている」を合わせると、男性、女性と共に5割以上と認知度が高い。
- ・ 県内の年代別では、50代の「知っている」の割合が52.5%で最も高い。
- ・ 県外では「知らない」が90.1%と認知度が低い。



※「全体」に比べて +10 pt以上 +5 pt以上 -10 pt以下 -5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

Q16. 沖縄県では、「空手発祥の地・沖縄」を発信する拠点として、沖縄空手会館を2017年3月に開館しました。沖縄空手会館があることをご存じでしたか。(海外一般)

- ・ 海外の年代別では、「知っている」の割合が10代で27.3%と最も高く、次いで20代が16.0%と続く。
- ・ 国別では、「知っている」の割合がインドで25.0%と最も高い。

海外一般			N=						(%)
			知っている	なんとなく知っている	知らない	認知計			
全体		1320	10.2	19.2	70.7	29.3			
性別	男性	660	10.2	21.1	68.8	31.2			
	女性	660	10.2	17.3	72.6	27.4			
年代別	10代	33	27.3	24.2	48.5	51.5			
	20代	250	16.0	22.0	62.0	38.0			
	30代	377	11.9	22.3	65.8	34.2			
	40代	278	10.1	18.3	71.6	28.4			
	50代	198	5.1	15.7	79.3	20.7			
	60代以上	184	1.1	13.0	85.9	14.1			
国別	米国	220	9.5	10.9	79.5	20.5			
	オーストラリア	220	4.5	15.9	79.5	20.5			
	フランス	220	6.8	22.7	70.5	29.5			
	ドイツ	220	6.4	12.7	80.9	19.1			
	インド	220	25.0	35.9	39.1	60.9			
	アルゼンチン	220	8.6	16.8	74.5	25.5			

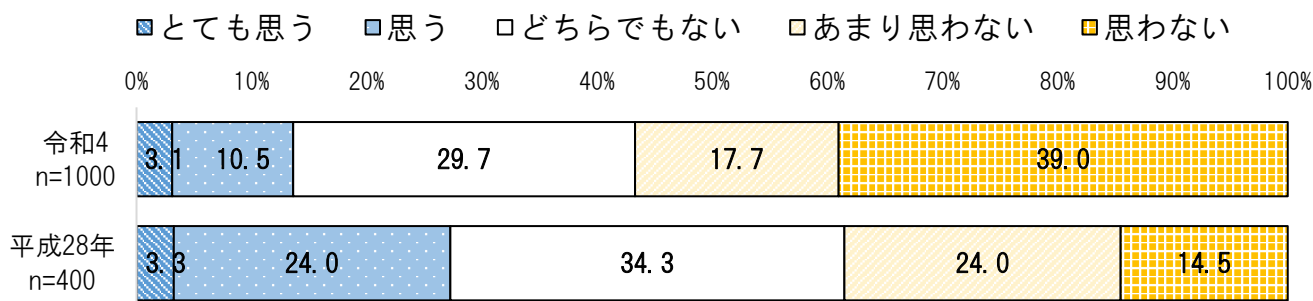
※「全体」に比べて ■ +10 pt以上 ■ + 5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

(17) 沖縄空手会館に訪問する意向

Q17. 沖縄空手会館の公式HPをみて、この施設を訪問したいと思いますか。

- ・ 県外の経年比較では、「とても思う」の割合が令和4年度は3.1%、平成28年度は3.3%とほぼ同じ割合である。「とても思う」と「思う」を合わせると、令和4年度が13.6%で、平成28年度の27.3%より13.6ポイント低い。
- ・ 県内の性別で見ると、「思う」の割合が女性で29.0%と男性の15.0%より14.0ポイント高い。
- ・ 県内の年代別で見ると、20代から60代以上においては、20代の「とても思う」が22.6%と最も高い。「思う」では40代と60代以上が25.0%と最も高い。
- ・ 海外では、「とても思う」の割合が23.2%と、日本の国内より訪問意向が高い。
- ・ 国別では、「とても思う」と「思う」を合わせた割合はインドで87.3%と最も高く、次いでアルゼンチンが80.5%となっている。

県外年度別比較



県内一般		N=	とても思う	思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	訪問したいと思う計	訪問したいと思わない計
全体		200	11.0	22.0	40.0	9.5	17.5	33.0	27.0
性別	男性	100	9.0	15.0	42.0	13.0	21.0	24.0	34.0
	女性	100	13.0	29.0	38.0	6.0	14.0	42.0	20.0
年代別	10代	9	11.1	33.3	22.2	11.1	22.2	44.4	33.3
	20代	31	22.6	22.6	32.3	12.9	9.7	45.2	22.6
	30代	40	12.5	12.5	45.0	12.5	17.5	25.0	30.0
	40代	40	5.0	25.0	35.0	2.5	32.5	30.0	35.0
	50代	40	12.5	22.5	45.0	7.5	12.5	35.0	20.0
	60代以上	40	5.0	25.0	45.0	12.5	12.5	30.0	25.0

※「全体」に比べて +10 pt以上 + 5 pt以上 -10 pt以下 - 5 pt以下 (n=30未満は除く)

第4章 県内・県外・海外一般向け調査結果

県外一般								(%)	
N=			とても思う	思う	どちらでもない	あまり 思わない	思わない	訪問したいと 思う計	訪問したいと 思わない計
全体		1000	3.1	10.5	29.7	17.7	39.0	13.6	56.7
性別	男性	488	3.7	9.8	27.5	17.2	41.8	13.5	59.0
	女性	512	2.5	11.1	31.8	18.2	36.3	13.7	54.5
年代別	10代	90	4.4	15.6	26.7	20.0	33.3	20.0	53.3
	20代	170	2.9	9.4	30.0	20.0	37.6	12.4	57.6
	30代	190	4.7	8.9	21.6	15.3	49.5	13.7	64.7
	40代	190	3.2	10.5	32.1	17.4	36.8	13.7	54.2
	50代	190	2.1	8.4	34.7	14.2	40.5	10.5	54.7
	60代以上	170	1.8	12.9	31.8	21.2	32.4	14.7	53.5
地域別	北海道	51	0.0	11.8	37.3	13.7	37.3	11.8	51.0
	東北地方	60	0.0	20.0	31.7	11.7	36.7	20.0	48.3
	関東地方	355	2.5	10.7	29.9	16.3	40.6	13.2	56.9
	中部地方	160	4.4	8.1	25.6	20.0	41.9	12.5	61.9
	近畿地方	196	2.6	12.8	25.0	19.9	39.8	15.3	59.7
	中国地方	55	5.5	7.3	27.3	23.6	36.4	12.7	60.0
	四国地方	31	0.0	12.9	48.4	6.5	32.3	12.9	38.7
	九州地方	92	7.6	3.3	35.9	20.7	32.6	10.9	53.3

海外一般								(%)	
N=			とても思う	思う	どちらでもない	あまり 思わない	思わない	訪問したいと 思う計	訪問したいと 思わない計
全体		1320	23.2	40.6	21.3	9.5	5.4	67.5	13.7
性別	男性	660	25.9	39.5	21.8	8.2	4.5	69.2	12.6
	女性	660	20.5	41.7	20.8	10.9	6.2	65.8	14.8
年代別	10代	33	27.3	48.5	12.1	9.1	3.0	81.8	6.1
	20代	250	24.8	47.2	17.2	7.2	3.6	75.2	10.8
	30代	377	22.3	42.4	24.4	5.8	5.0	67.6	13.5
	40代	278	30.9	36.3	18.3	9.4	5.0	71.9	10.4
	50代	198	21.2	35.9	21.7	13.6	7.6	63.1	18.7
	60代以上	184	12.5	38.0	26.1	16.3	7.1	52.2	19.0
国別	米国	220	23.2	42.7	18.2	11.4	4.5	71.8	12.3
	オーストラリア	220	11.4	33.2	31.4	14.1	10.0	53.6	19.5
	フランス	220	19.1	43.6	29.1	5.5	2.7	64.5	10.5
	ドイツ	220	11.4	36.8	27.3	15.9	8.6	47.3	26.8
	インド	220	39.5	42.7	9.5	6.4	1.8	87.3	5.9
	アルゼンチン	220	34.5	44.5	12.3	4.1	4.5	80.5	7.3

※「全体」に比べて ■ +10 pt以上 ■ + 5 pt以上 ■ -10 pt以下 ■ - 5 pt以下 (n=30未満は除く)